

SONY®

TAPE DIGITIZE STATION

PWS-100TD1



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオペレーションマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**このオペレーションマニュアルをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HDMI

OPERATION MANUAL

Japanese/English/French/German/Italian/Spanish/Chinese/Korean

1st Edition (Revised 5)



目次

概要	3
システム構成例	4
対応機器	9
対応 VTR	9
対応 ODS ドライブ	9
各部の名称と働き	10
前面	10
前面（パネルを外した場合）	10
背面	11
準備	12
初期設定	12
Web メニューの表示	14
システム設定	14
証明書をインストールする	15
ライブラリ等のライセンスについて	15
メンテナンスアプリケーションの操作	15
使用上のご注意	16
仕様	17

安全のためのご注意が PWS-100 オペレーションガイド（付属）に記載されていますので、ご使用前にお読みください。

概要

本機は、VTR の素材をデジタイズしてクリップを作成し、オプティカルディスクアーカイブシステムのカートリッジなどに保存するまでの作業を行うシステムです。本機の機能を次に示します。

インジェスト

VTR から入力した SDI 信号から高解像度画像とプロキシ画像のファイルを作成し、内蔵 HDD に保存します。RS422 を使用して、VTR 機器をリモート制御できます。

映像の確認

インジェストしたクリップの画質チェックを自動的に行うことができます。また、本機の Web GUI や外部モニターを使用して、ユーザーの目で確認することもできます。

クリップの保存

作成した高解像度画像をカートリッジやネットワーク上のサーバーに転送します。

ワークフロー

インジェストから転送までの一連の作業を一括して実行することができます。また、マネージャーが、実行するタスクの流れや担当者などをワークオーダーとして定義し、オペレーターにワークオーダーに従って作業をさせることができます。

Web GUI

本機の操作や設定は、クライアント PC の Web ブラウザーに表示される GUI で実行できます。

他ソフトウェアとの連携

カートリッジに保存したクリップのプロパティーやプロキシ映像などをエクスポートして、他ソフトウェアで管理することができます。

システム構成例

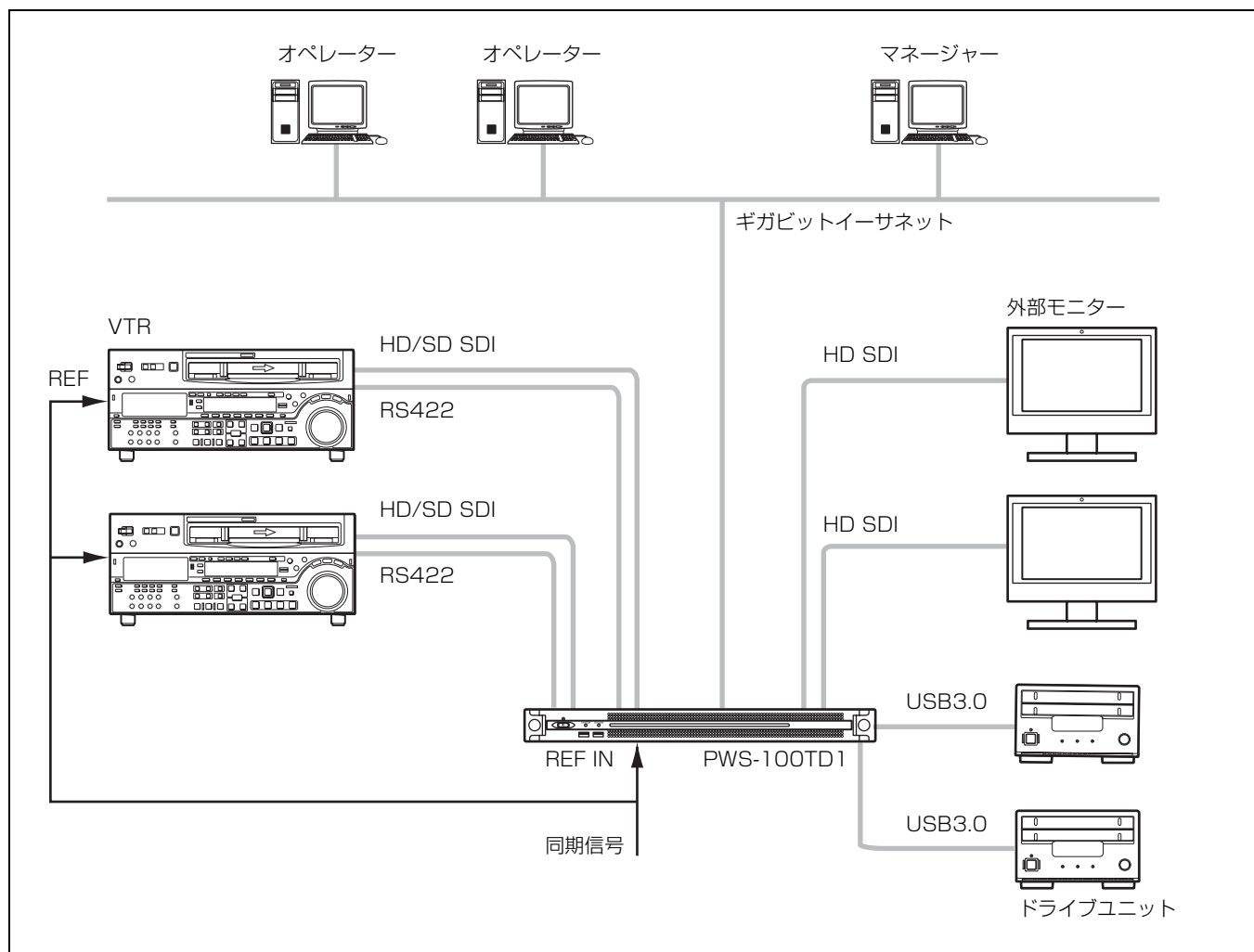
本機の SDI 端子に VTR と外部モニター、背面の USB 端子にドライブユニットを接続します。Web メニューで SDI の設定をすることで、2 入力 / 2 出力、3 入力 / 1 出力、4 入力のいずれかのシステム構成を選択することができます。

ご注意

- 複数の VTR 機器を接続する場合、VTR 機器はすべて同期 (± 1H) させてください。
- VTR の EE/PB 設定を PB に設定してください。

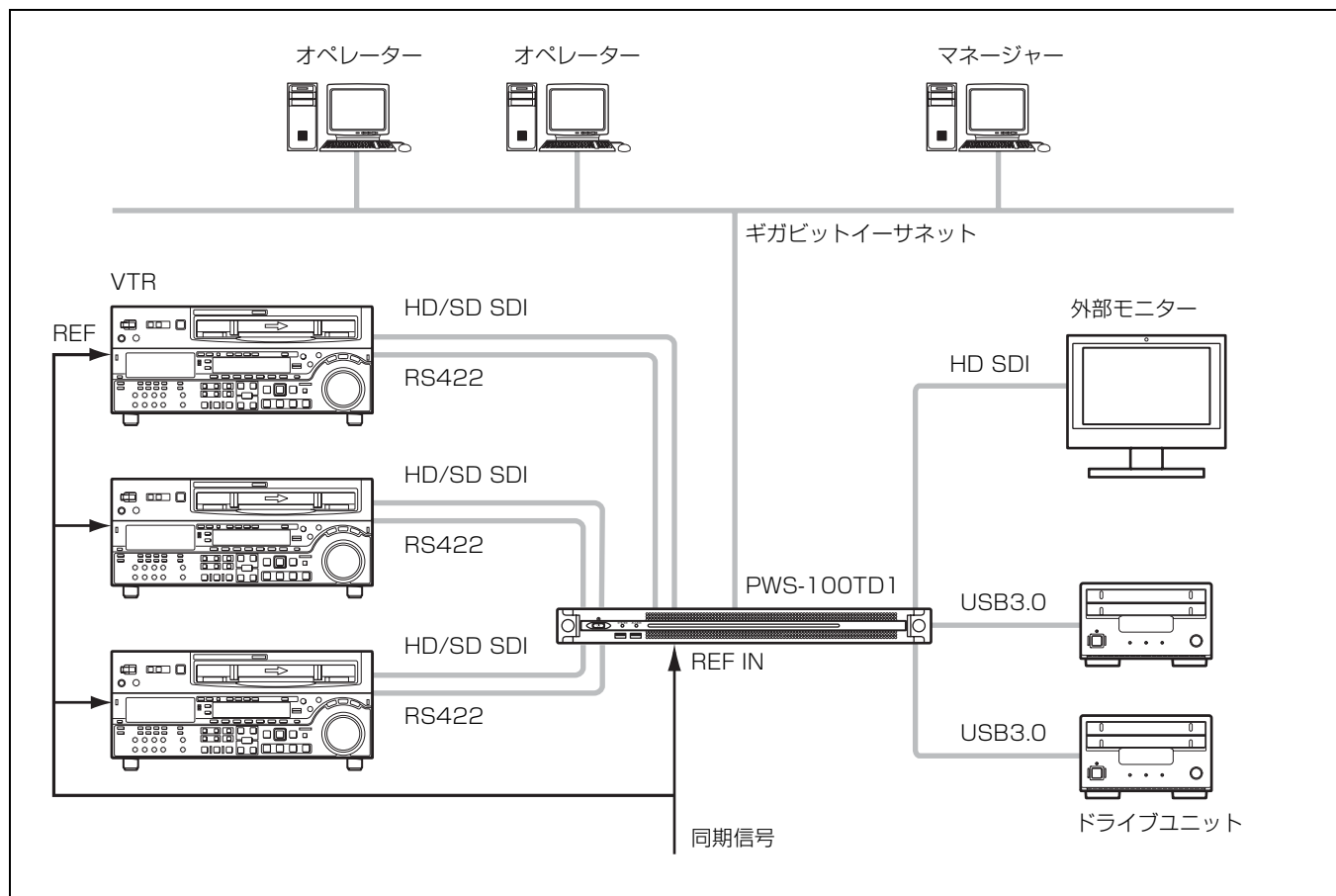
2 入力 / 2 出力

SDI 1 端子と SDI 2 端子に VTR を、SDI 3 端子と SDI 4 端子に外部モニターを接続します。2 台の VTR のデジタイズを並行して行うことができます。



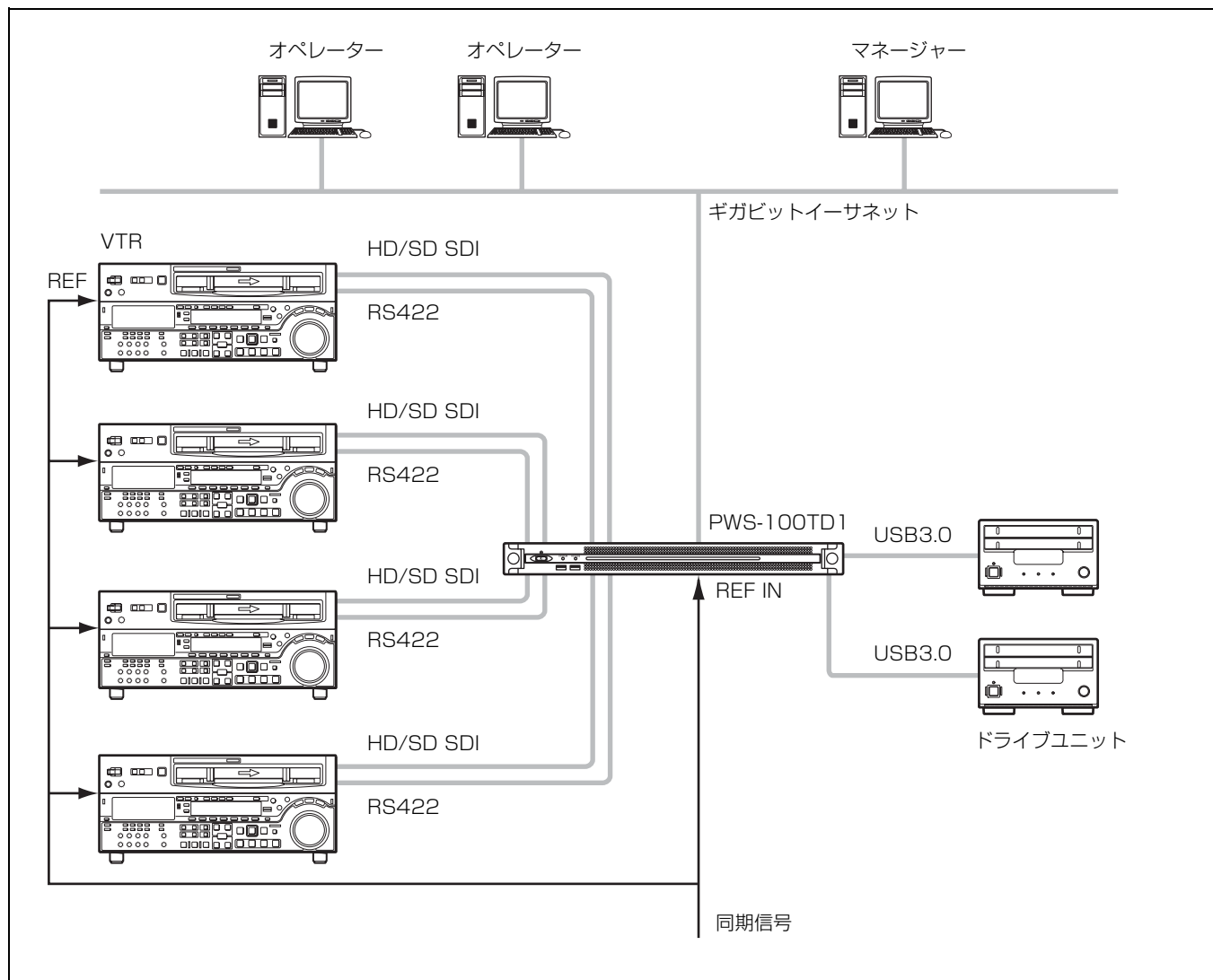
3入力/1出力

SDI 1～3端子にVTRを、SDI 4端子に外部モニターを接続します。クリップの高解像度画像の確認は、SDI 4端子に接続した外部モニターを共用します。



4 入力

SDI 1～4 端子に VTR を接続します。SDI4 を Ingest として使用していないときに、GUI 上でクリップの高解像度画像を確認することができます。



RAID 構成の選択

システム構成を設定したあと、選択したシステム構成の SDI 入力と論理ドライブの数が同じになるように、RAID の構成を設定します。

RAID 構成の設定は、PWS-100 メンテナンス Web アプリケーションで行います。選択したシステム構成に従って、次に示す RAID 構成を設定してください。下記の設定以外では、動作しません。

設定方法について詳しくは、PWS-100 メンテナンス Web アプリケーションのオペレーションマニュアルをご覧ください。

- 2 入力 /2 出力の場合：(5D+1P) × 2
- 3 入力 /1 出力の場合：(3D+1P) × 3
- 4 入力の場合：(2D+1P) × 4

で注意

RAID 構成の変更を行うと、内蔵ストレージに書き込まれたフルレゾリューションファイル、プロキシファイル、各種レポートファイル、およびワークオーダーはすべて消去されます。

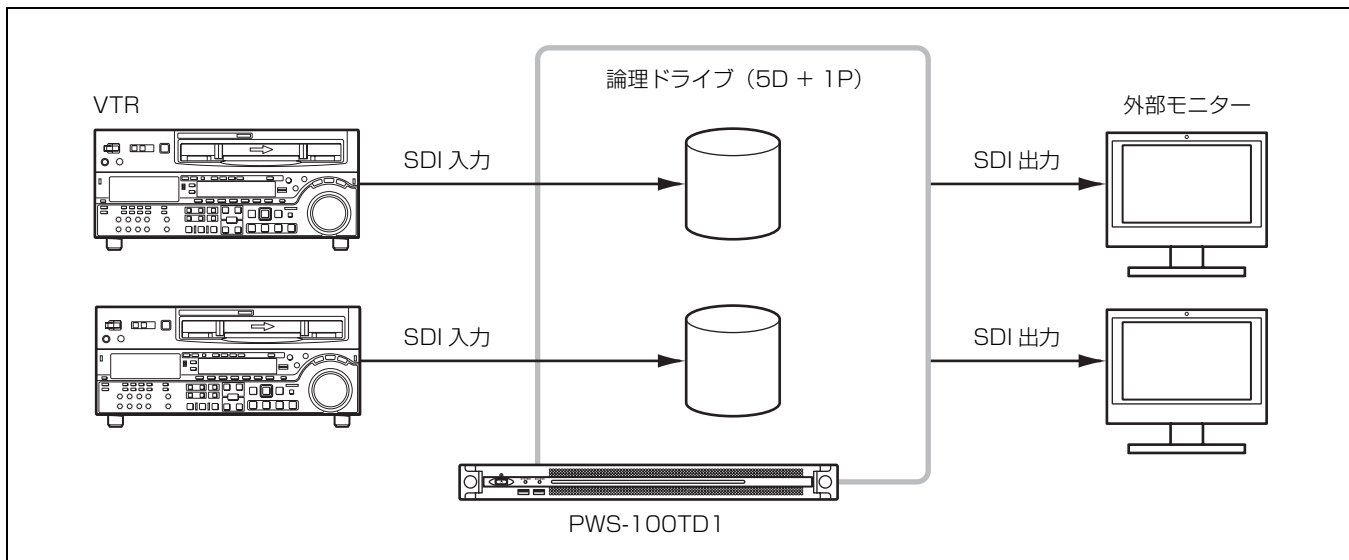
RAID 構成の変更の前に、必ずすべてのデータを転送またはダウンロードし、退避させてください。

RAID 構成について

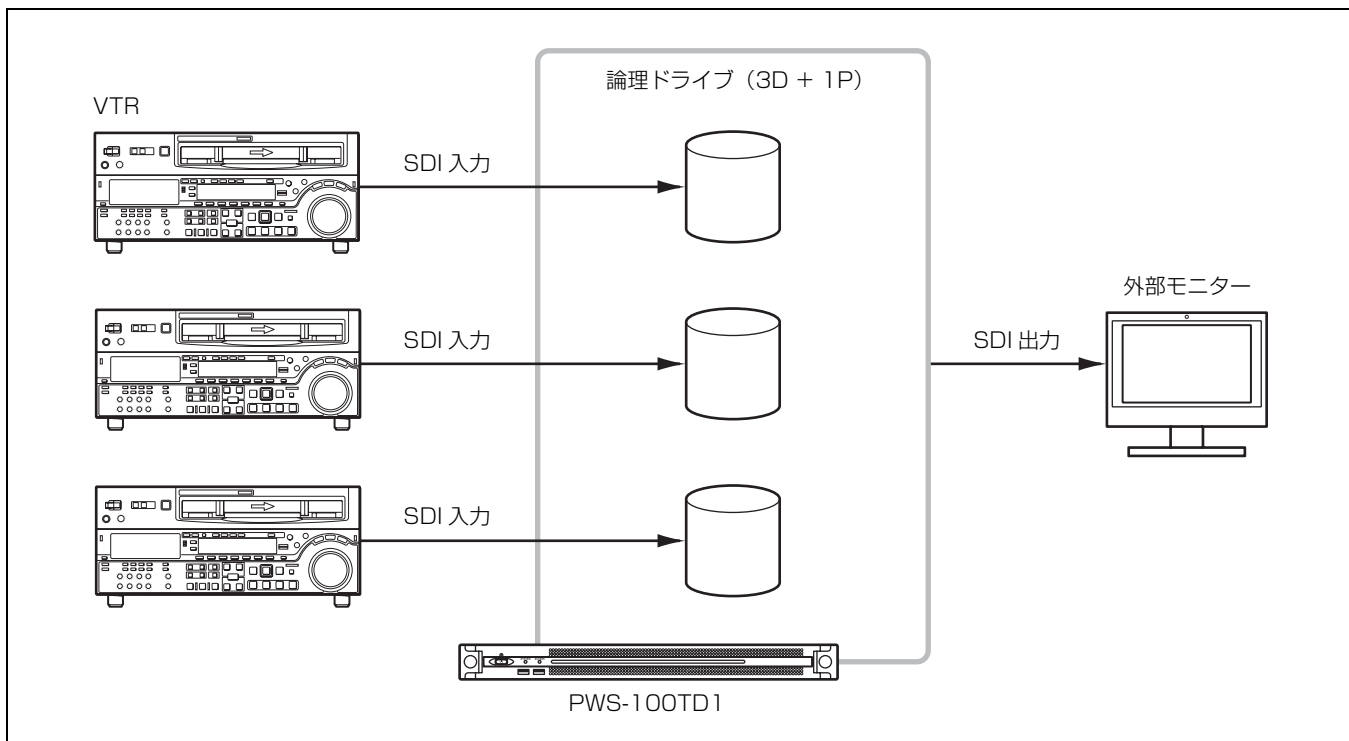
PWS-100TD1 は、全部で 12 台の HDD を搭載しており、以下の RAID 構成が可能です。

- 2D+1P: データ用 HDD2 台、パリティ用 HDD1 台の合計 3 台の HDD で一つの論理ドライブを構成し、合計 4 個の論理ドライブを持ちます。
- 3D+1P: データ用 HDD3 台、パリティ用 HDD1 台の合計 4 台の HDD で一つの論理ドライブを構成し、合計 3 個の論理ドライブを持ちます。
- 5D+1P: データ用 HDD5 台、パリティ用 HDD1 台の合計 6 台の HDD で一つの論理ドライブを構成し、合計 2 個の論理ドライブを持ちます。

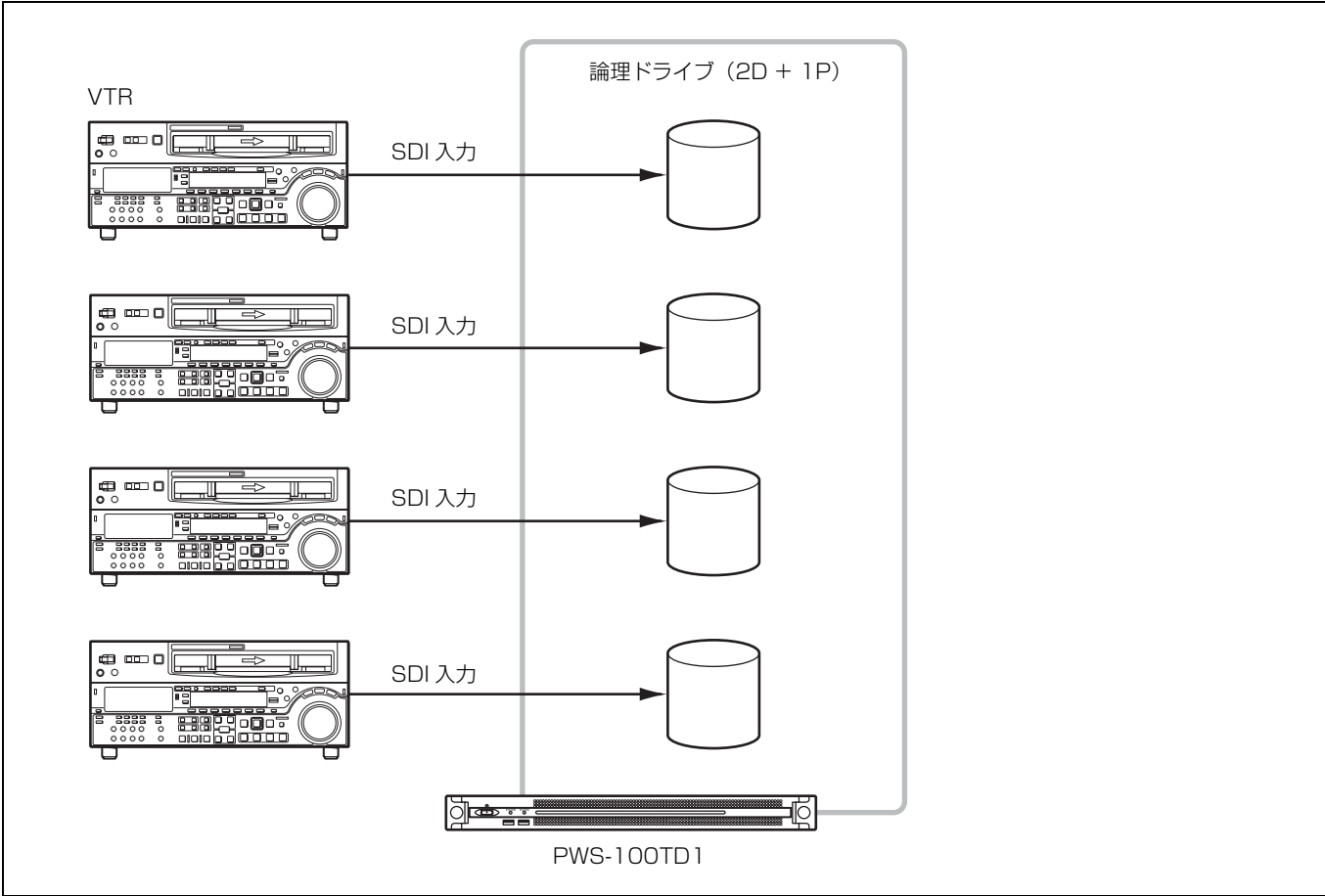
2 入力 / 2 出力の場合



3 入力 / 1 出力の場合



4 入力の場合



対応機器

本機が動作を確認している機器を次に示します。

対応 VTR

下記の VTR の動作を確認しています。

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

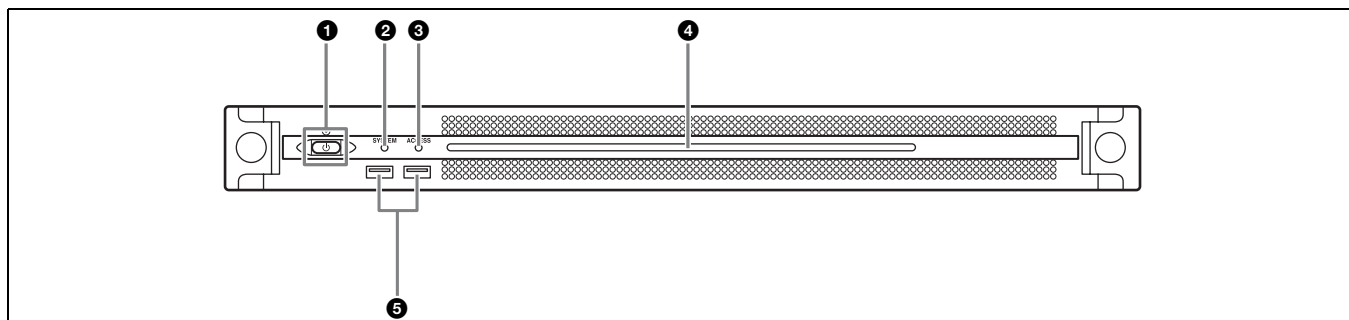
対応 ODS ドライブ

下記の ODS ドライブとの動作を確認しています。

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

各部の名称と働き

前面



① オン／スタンバイボタンおよびインジケータ

本機のオン／スタンバイを切り換えます。電源コードを接続するとスタンバイ状態になり、インジケータが赤色に点灯します。スタンバイ状態のときにオン／スタンバイボタンを押すと、本機が起動してオン状態になり、インジケータが緑色に点灯します。オン状態のときにオン／スタンバイボタンを2秒以上長押しすると、スタンバイ状態への移行を開始し、スタンバイ状態になるとインジケータが赤色に点灯します。オン状態からスタンバイ状態にした後、再度オンにする場合は、インジケータが赤色に点灯した後3秒以上たってからボタンを押してください。電源コードが接続されていないときは、インジケータが消灯します。

② SYSTEM インジケータ

本機の状態を示します。

緑色点灯：正常動作中

緑色点滅（1 秒周期）：システム起動中またはスタンバイ移行中

オレンジ色点滅（1 秒周期）：ワーニング発生

赤色高速点滅（1/4 秒周期）：エラー発生

③ ACCESS インジケータ

ストレージへのアクセス状態を示します。

消灯：アクセスなし

青色点灯：アクセス中

④ フロントパネル LED

Web メニューでの設定によって、点灯／消灯します。設定は、メンテナンス画面の [Settings] ページ [001: LINE LED] で行います。

⑤ USB 端子（前面）

本機の初期設定をする際に、キーボードやマウスを接続できます。

本書で説明されていない USB 機器については対応していません。

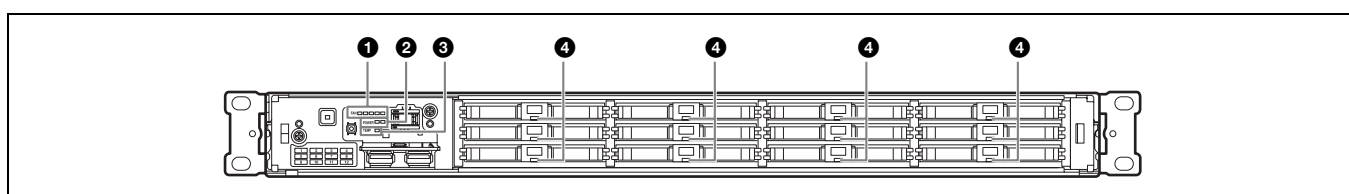
ご注意

前面の USB 端子は、両ポートとも給電に対応しています（900 mA）。

前面（パネルを外した場合）

SYSTEM インジケータや Web メニューの表示でエラーが通知された場合に、パネルを外してハードウェア各部のステータスを確認することができます。

パネルを外すには、前面パネル左右のネジをゆるめ、手前に引きます。



① FAN インジケーター

ファンのいずれかに障害が発生した場合に、対応するインジケーターが赤く点灯します。

② POWER インジケーター

AC 電源ユニットのどちらかに故障が検出された場合に、対応するインジケーターが赤く点灯します。

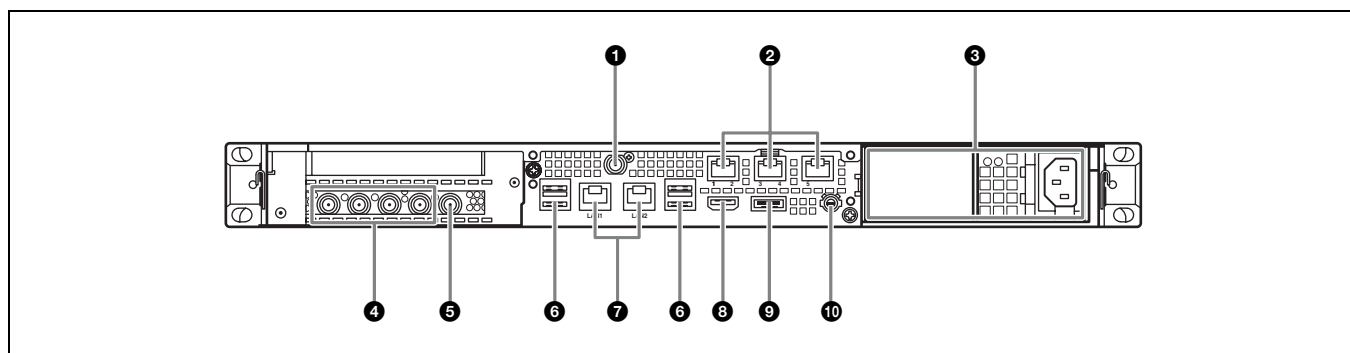
③ TEMP インジケーター

本機内部温度の異常上昇を検出した場合に赤く点灯します。

④ HDD ステータスインジケーター

HDD にワーニングが発生した場合に赤く点灯します。該当の HDD の故障を検出した場合、HDD がスリープ状態の場合、HDD が存在しない場合は消灯します。

背面



① SYSTEM TC 端子

本システムでは使用しません。

② Remote 端子 (1/2、3/4、5)

Remote 1/2、Remote 3/4 端子は、RJ-45 - D-sub 変換ケーブル (同梱) と市販の 9 ピンリモートケーブルを使用して VTR 機器と接続し、VTR 機器のリモート操作を行います。RJ-45 - D-sub 変換ケーブル 1 本と 9 ピンリモートケーブル 2 本を使用して、2 台の VTR と接続することができます。Remote 5 端子は、本システムでは使用しません。

③ AC 電源ユニット

電源コードを挿入して、電源コンセントに接続します。工場出荷時は、AC 電源ユニットが 1 つ装着されています。別売の電源ユニットを追加装着することによって、電源を二重化することができます。信頼性が要求されるシステムで本機を使用するとき、一方の電源ユニットが故障しても運用の継続が可能です。

◆ 電源ユニットの追加または交換については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

④ SDI (1 ~ 4) 端子

左から SDI 1 端子 ~ SDI 4 端子の順になります。SDI ケーブルで VTR 機器または外部モニターに接続し、SDI 信号の入出力を行います。

⑤ REF IN 端子

同期基準信号を入力します。

⑥ USB 端子 (背面)

USB ケーブルでドライブユニットに接続します。本書で説明されていない USB 機器については対応していません。

ご注意

- 背面の 4 つの USB 端子のうち、右下のポートのみ給電に対応しています (900 mA)。他の 3 ポートは給電非対応ですので、USB 端子からの電力供給が不要な USB 機器を接続してください。
- ケーブルは、SuperSpeed USB ケーブルをご使用ください。

⑦ LAN 端子

ギガビットイーサネットに接続します。

⑧ HDMI 端子

HDMI ケーブルでディスプレイに接続します。HDMI ケーブルは、下記の規格に適合したケーブルをご使用ください。

- High Speed HDMI Cable (Premium High Speed HDMI Cable)

⑨ DisplayPort 端子

DisplayPort - DVI 変換ケーブルまたは DisplayPort - HDMI 変換ケーブルでディスプレイに接続します。変換ケーブルは、アクティブタイプのケーブルを使用してください。

ご注意

DisplayPort ケーブルは、下記の規格に適合したケーブルをご使用ください。

- DP v1.2a（準拠）

⑩ アース端子

アースを接続します。

準備

初期設定

本機を使用する前に、本機内の Windows の設定を行います。設定方法については、標準的な Windows 8 の操作方法に準じます。

ご注意

本機を再起動する場合は、Windows の再起動ではなく、いったんシャットダウンさせてから、前面のオン / スタンバイボタンを再度オンにしてください。

- 1 前面の USB 端子にキーボードとマウスを接続し、背面の DisplayPort 端子または HDMI 端子にディスプレイを接続する。
- 2 本体のオン / スタンバイボタンをオンにする。
- 3 Windows のログイン画面が表示されたら、ユーザー名「tds」、パスワード「tds」でログインする。

Windows の表示言語を設定する

- 1 Windows ボタンを押しながら X キーを押し、表示されるメニューから [Control Panel] を選択する。
- 2 [Clock, Language, and Region] の [Language] を選択する。
- 3 言語を追加する場合は、[Add language] を選択する。
- 4 追加する言語を選択し、[Add] をクリックする。
- 5 使用する言語を選択して [Move up] をクリックし、その言語がいちばん上に表示されるようにする。
- 6 いったんサインアウトしてからサインインする。

ネットワークを設定する

- 1 本機背面の LAN 端子に LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続する。
- 2 コントロールパネルの [Network and Internet] - [View network status and tasks] をクリックする。
- 3 [Connections] の [LAN 1/2] をクリックする。
- 4 [Properties] ボタンをクリックする。

- 5 [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)] を選択して、[Properties] ボタンをクリックする。
- 6 IP アドレスなどの設定を変更する。
- 7 DNS、WINS などの設定を行う場合は、[Advanced] ボタンをクリックする。
- 8 設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックする。

日時を設定する

- 1 コントロールパネルの [Clock, Language, and Region] で [Date and Time] - [Set the time and date] を選択する。
- 2 [Date and Time] タブの [Change time zone] をクリックして、タイムゾーンを選択する。
- 3 [Date and Time] タブの [Change date and time] をクリックして、日付と時刻を設定する。
- 4 [Internet Time] タブの [Change settings] ボタンをクリックする。
- 5 NTP サーバーを設定し、[Update Now] ボタンをクリックする。
- 6 定期的に NTP サーバーで時刻を補正する場合は、[Synchronize with an Internet time server] をチェックする。

ユーザーのパスワードを設定する

本機内蔵の Windows には、工場出荷時にユーザー「tds」が設定されています。セキュリティのため、このユーザーのパスワードを設定してください。

- 1 コントロールパネルの [User Accounts and Family Safety] をクリックする。
- 2 [User Account] の [Change account type] をクリックする。
- 3 ユーザー「tds」を選択する。
- 4 [Change the password] をクリックする。
- 5 新しいパスワードとヒントを入力し、[Change Password] ボタンをクリックする。

サービスのパスワードを設定する

ユーザー「tds」のパスワードを設定 / 変更したときは以下のとおりサービスのパスワードを設定してください。

- 1 コントロールパネルから [System and Security] - [Administrative tools] - [Services] を選択する。
- 2 サービスのリストで「Apache Tomcat 7.0 Tomcat7」を右クリックし、[Properties] を選択する。
- 3 [Log On] タブを開く。
- 4 [This Account] をクリックして「.¥tds」を入力し、[Password] にユーザー「tds」のパスワードを入力する。
- 5 [Apply] ボタンをクリックし、[OK] をクリックしてダイアログを閉じる。
- 6 サービスのリストで「Sony Ingest Service」を選択し、手順 2 ～ 5 の操作を行う。

ユーザーを追加する

Windows に新規ユーザーを追加します。

- 1 コントロールパネルの [User Accounts and Family Safety] をクリックする。
- 2 [User Accounts] の [Change account type] をクリックする。
- 3 [Add a new user in PC settings] をクリックする。
- 4 [Add a user] をクリックする。
- 5 ユーザー名、パスワード、ヒントを入力し、[Next] をクリックする。
- 6 [Finish] をクリックする。
続けてアカウントタイプを変更します。
- 7 コントロールパネル - [User Accounts and Family Safety] - [Change account type] をクリックする。
- 8 アカウントタイプを変更したいユーザーを選択する。
- 9 [Change the account type] をクリックする。
- 10 [Standard] または [Administrator] を選択して、[Change account type] ボタンをクリックする。

コンピューター名を変更する

PWS-100TD1 では、https 通信の認証の仕組みとしてコンピューター名を使用します。

コンピューター名を変更する場合は以下の手順で行ってください。新しい証明書が生成されます。

また、変更後はクライアント PC で新しい証明書を再取得してください。

- 1 コントロールパネルから [System and Security] - [System] を選択する。
- 2 [Computer name] の [Change Settings] をクリックする。
- 3 [System Properties] ダイアログの [Computer name] タブで [Change] ボタンをクリックする。
- 4 コンピューター名を変更して [OK] をクリックする。
- 5 再起動を要求されたら、コンピューターを再起動させる。
- 6 PWS-100TD1 本体に再度サインインする。
- 7 管理者権限のコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを入力する。

```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script  
> keystore.bat
```
- 8 システムを再起動する。
- 9 「証明書をインストールする」(15 ページ) の手順に従って、証明書を再取得する。

サインアウトする

設定が完了したら、Windows からサインアウトします。

- 1 マウ斯卡ーソルを画面の右上に移動してチャームを表示し、[Start] をクリックする。
- 2 画面右上のアカウント名をクリックし、[Sign out] をクリックする。

Web メニューの表示

本機の設定・操作は、クライアント PC からネットワークを介して本機に接続し、クライアント PC の Web ブラウザーに Web メニューを表示して行います。

クライアント PC の推奨環境

CPU : Core i5 3 GHz 以上

メモリー : 4 GB 以上

OS : Windows 7 Pro 32/64 ビット

Windows 8/8.1 Pro 32/64 ビット

Mac OS X 10.8/10.9

Web ブラウザー : Google Chrome 40 以上 (最新のバージョンにアップデートしてお使いください)

ディスプレイ : 1366 × 768 以上

上記推奨環境を備えたコンピューターを本機背面の LAN 端子 1 または 2 に接続します。コンピューターの Web ブラウザーのアドレス欄に「https:// (IP アドレス) :8443/tds または https://pws-100- <シリアル番号> :8443/tds」(「ネットワークを設定する」で設定した IP アドレス) と入力して、Web メニューを表示させます。

ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力してログインします。

工場出荷時は、下記のユーザー名とパスワードが設定されています。

ユーザー名 : admin

パスワード : tds

システム設定

Web メニューの設定画面で、本システムの設定を行います。

Web メニューにログインする際は、管理者権限のあるユーザーでログインしてください。

なお、Web メニューでの操作について詳しくは、Web メニューのヘルプをご覧ください。

表示言語の切り換え

Web メニューの表示言語を切り換えます。

設定は、設定画面の [個人設定] - [言語]で行います。

動作周波数の選択

本システムの動作周波数を選択します。設定は、設定画面の [インジェスト] ページ [インジェスト設定]で行います。

ユーザーの追加

デフォルトの admin 以外にオペレーターなどのアカウントを追加するには、設定画面の「ユーザー」ページで新規ユーザーを追加してください。

転送先の登録

作成したクリップを転送するカートリッジまたはネットワークサーバーは、設定画面の「転送」ページで登録します。

証明書を実インストールする

Web ブラウザーから https 接続で Web メニューを表示すると、「このサイトのセキュリティ証明書は信頼できません」などのエラーメッセージが出力されます。エラーなしで https 接続を行うためには、サーバー（PWS-100-＜シリアル番号＞）に対応したルート CA 証明書（クライアント証明書）を Web ブラウザーにインストールする必要があります。

Google Chrome で証明書をインストールする手順の例を以下に示します。

ルート CA 証明書のインストール手順

- 1 Web ブラウザーで Web メニューに https 接続する。
「このサイトのセキュリティ証明書は信頼できません」などのエラーメッセージが出力されます。
- 2 アドレスバーの左側にある鍵アイコンをクリックする。
- 3 ポップアップの「証明書情報」をクリックする。
「証明書」ダイアログが表示されます。発行元の「PWS-100-＜シリアル番号＞」をメモしておきます。
- 4 「詳細」タブをクリックし、「ファイルにコピー」ボタンをクリックする。
証明書をエクスポートするウィザードが表示されます。
- 5 「次へ」をクリックする。
- 6 「DER encoded binary X.509 (CER)」を選択し、「次へ」をクリックする。
- 7 「参照」ボタンをクリックして証明書を保存するフォルダーを設定し、「次へ」をクリックする。
証明書のエクスポートが始まります。
- 8 完了の画面が表示されたら、「完了」をクリックする。

- 9 メッセージが表示されたら、「OK」をクリックする。
- 10 Chrome の設定ボタンをクリックし、メニューから「設定」を選択する。
- 11 設定画面で「詳細設定を表示」をクリックし、「HTTP/SSL」の下に「証明書の管理」ボタンをクリックする。
「証明書」ダイアログが表示されます。
- 12 ダイアログの「信頼されたルート証明機関」タブをクリックし、「インポート」ボタンをクリックする。
証明書をインポートするウィザードが表示されます。
- 13 「次へ」をクリックする。
- 14 「参照」ボタンをクリックしてダウンロードしたファイルを選択し、「次へ」をクリックする。
- 15 「証明書をすべての次のストアに配置する」が選択されており、「証明書ストア」に「信頼されたルート証明機関」と表示されていることを確認して、「次へ」をクリックする。
証明書のインポートが始まります。
- 16 完了の画面が表示されたら、「完了」をクリックする。
ウィザードが終了します。
- 17 メッセージが表示されたら、「OK」をクリックする。
- 18 Chrome の設定ボタンをクリックして、メニューから「終了」を選択する。その後、Chrome を再起動する。
- 19 「ネットワークを設定する」（12 ページ）で設定した IP アドレスとメモした「PWS-100-＜シリアル番号＞」との名前解決を行い、https://pws-100-＜シリアル番号＞:8443/tds で接続してください。

ライブラリ等のライセンスについて

PWS-100TD1 が使用する各種ライブラリ等のライセンスについては、Web メニューの「ヘルプ」から確認できます。

メンテナンスアプリケーションの操作

システム管理者向けメンテナンスアプリケーション（Maintenance Web Application）の操作については、本機にログオンしてデスクトップ上にあるショートカットを開いてマニュアルを参照してください。

使用上のご注意

HDD 内蔵機器に対する注意事項

本機には、ハードディスクドライブ（以下 HDD と称する）が搭載されています。HDD は精密部品であり、衝撃・振動・静電気・温度・湿度が原因で故障したり、HDD 内のデータが破損する恐れがあります。本機を設置・使用するときは、以下の注意事項をよくお読みのうえ、慎重に取り扱ってください。

衝撃・振動を与えない

衝撃・振動が加わると HDD が故障あるいは HDD 内のデータが破損される恐れがあります。

- 本機を輸送する場合は、指定の梱包材料で梱包してください。台車などで搬送する場合は、振動の少ない台車を使用してください。過度な衝撃・振動が加わると HDD が故障するおそれがあります。
- 通電中は本機を移動しないでください。
- 本機の外装を取り外さないでください。
- 本機を床などに置くときは、水平で安定した場所に置いてください。
- 振動を発生する機器の近くには置かないでください。
- 本機を車載する場合、走行中は電源をオフにしてください。

電源オフ後 30 秒間は作業しない

電源をオフにした後もしばらくの間は、HDD 内のディスクは慣性で回転しており、ヘッドは不安定な状態にあります。この期間は、通電中以上に衝撃・振動に弱い状態です。電源オフ後、最低 30 秒間は軽い衝撃も与えないようご注意ください。30 秒以上経過すれば、（ディスクが静止するので）作業を開始できます。

温度・湿度に関するご注意

適正範囲内の温度・湿度のある場所で、保管・使用してください。（仕様を守ってお使いください。）

HDD に不良症状が現れた場合

万一、本機の HDD が故障した（不良症状が現れた）と思われる場合でも、本機の取り扱いは、上記と同様に行ってください。不良内容の確認や不良解析を行うまでの損傷の拡大を防ぎます。

HDD を含む有寿命部品の交換

HDD、バッテリーは有寿命部品として定期的な交換が必要です。常温でのご使用の場合、2～5 年を目安に交換することを推奨します。ただし、交換時間は目安であり、部品

の寿命を保証するものではありません。交換の際は買い上げ店にご相談ください。

交換時期については、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご確認ください。

電源に関する注意事項

本機が動作中に突然電源が切れた場合、データが壊れる可能性があります。データ保護のため、UPS（無停電電源装置）のご使用をお勧めします。

また、電源コードを抜く場合やブレーカーを落とす場合は、必ず事前に本機のオン/スタンバイボタンを押して本機の動作を停止させてください。

USB デバイスに関する注意事項

自給電タイプの USB デバイス（ODS-D77U など）を接続して使用する場合、デバイスの電源がオンになるタイミングによっては、そのデバイスを認識できない場合があります。その場合は USB デバイスの電源を入れ直すか、USB ケーブルを抜いて接続し直してください。

ネットワークに関する注意事項

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性があります。

セキュリティの面からすべてのパスワードを設定することを強く推奨します。

13 ページ の手順に従って、すべてのパスワードを設定してください。

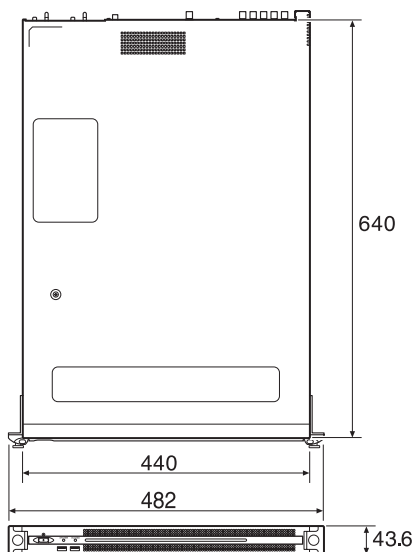
セキュリティの面から、製品をネットワークに接続してご使用になる際は、ブラウザでコントロール画面にアクセスし、アクセス制限設定を工場出荷時の設定値から変更して設定することを強く推奨します。（14 ページ）
また、定期的にパスワードを変更することを推奨します。

設定作業中または設定作業後のブラウザで他のサイトを閲覧しないでください。ブラウザにログインした状態が残りますので、意図しない第三者の使用や悪意のあるプログラムの実行を防ぐために、設定作業が完了したら必ずブラウザを終了してください。

仕様

一般

電源	AC 100 V ~ 240 V 50/60 Hz
消費電力	235 W
待機電力	3 W 以下
使用温度	5 °C ~ 35 °C
保存温度	-20 °C ~ +60 °C
使用湿度	20% ~ 90% (相対湿度)
保存湿度	5% ~ 80%
質量	14 kg
外形寸法	440 × 436 × 640 mm (幅/高さ/奥行き)



CPU

プロセッサ	Intel Core i7 6700TE (2.4 GHz)
メモリ	8 GBytes SO-DIMM (DDR4) (2)
ドライブ (M.2)	120 GBytes
ドライブ (HDD)	2.5 インチ、500 GBytes、12 台
拡張バス	PCIe Gen2 8Lane (30W) (2)

入出力

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB (前面 / 背面)	Super Speed USB (USB 3.0) Type A (6、うち前面 2、背面 4) 前面：給電対応 (各 900 mA)

	背面：右下のポートのみ給電対応 (900 mA)、他 3 ポートは給電非対応
HDMI	Type A (1) HDMI Ver. 1.4a、 最大解像度 1920 × 1200、60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort Ver. 1.1a、 最大解像度 2560 × 1600、60 Hz
Remote	RJ-45 (3) Sony VTR Protocol (9pin) 対応、 RJ-45 - D-sub 変換ケーブル (同梱) が必要です
REF IN	BNC (1) SMPTE ST 318 準拠 HD 3 値シンク (0.6 V _{p-p} 、75 Ω、同期正負) または SD ブラックバースト / コンポジット シンク (NTSC : 0.286 V _{p-p} 、75 Ω、 同期負 PAL : 0.3 V _{p-p} 、75 Ω、同期負)
SDI 1 ~ 4	BNC (4) HD : SMPTE ST 292-1 準拠 SD : SMPTE ST 259 準拠

対応フォーマット

コーデック	動作周波数	解像度量子化 ビット数	オーディオ チャンネル
IMX 30M, 40M, 50M UNCOMPRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8bit	8ch (16bit) 4ch (24bit)
	50i	720 × 480 422 8bit	8ch (16bit) 4ch (24bit)
MPEG HD 50M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 8bit	8ch (24bit)
MPEG HD 35M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 420 8bit 1440 × 1080 420 8bit	4ch (16bit)
XAVC-I 100M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 10bit	8ch (24bit)

RAID 構成ごとの記録可能時間

RAID 構成およびビデオコーデックごとに記録できる時間は次の通りです。

RAID 構成			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
論理ドライブ数			4	3	2
ドライブ容量 ^{a)} (1 論理ドライブあたり)			838 GB	1230 GB	2050 GB
SD	IMX 30 Mbps	1 ドライブ	約 50 時間	約 75 時間	約 125 時間
		全ドライブ計	約 200 時間	約 225 時間	約 250 時間
	IMX 40 Mbps	1 ドライブ	約 35 時間	約 55 時間	約 95 時間
		全ドライブ計	約 140 時間	約 165 時間	約 190 時間
	IMX 50 Mbps	1 ドライブ	約 30 時間	約 45 時間	約 70 時間
		全ドライブ計	約 120 時間	約 135 時間	約 140 時間
	UNCOM PRESS 220 Mbps	1 ドライブ	約 7 時間	約 10 時間	約 18 時間
		全ドライブ計	約 28 時間	約 30 時間	約 36 時間
	MPEG 35 Mbps	1 ドライブ	約 45 時間	約 70 時間	約 120 時間
		全ドライブ計	約 180 時間	約 210 時間	約 240 時間
HD	MPEG 50 Mbps	1 ドライブ	約 30 時間	約 45 時間	約 75 時間
		全ドライブ計	約 120 時間	約 135 時間	約 150 時間
	XAVC 100 Mbps	1 ドライブ	約 15 時間	約 25 時間	約 40 時間
		全ドライブ計	約 60 時間	約 75 時間	約 80 時間

a) GUI 上に表示される容量です。

ご注意

記録素材の条件等により、記録時間が上記の記載と異なることがあります。

付属品

RJ-45 – D-sub 変換ケーブル部品番号
1-848-424-12 (SONY) (2)

別売アクセサリ

オプションナルパワーサプライ PWSK-101

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

通信を行う機器でセキュリティ対策を行わなかった結果、または、通信仕様上の、やむを得ない事情により、データ漏洩等、セキュリティ上の問題が発生した場合、弊社ではそれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本機内、記録メディア、外部のストレージ等に記録されたデータの損失、修復、複製の責任は負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Google Chrome は Google Inc. の商標または登録商標です。その他、本書に記載されているシステム名、製品名、会社名は一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

本製品は、T-Engine フォーラム (www.t-engine.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel2.0 ソースコードを利用しています。

Table of Contents

Overview 20
 System Configuration Examples 21

Supported Devices 26
 Supported VTRs 26
 Supported ODS Drives 26

Name and Function of Parts..... 27
 Front View 27
 Front View (Panel Removed)..... 27
 Rear View 28

Setting Up 29
 Initial Settings..... 29
 Displaying the Web Application 30
 System Settings 31
 Installing Certificates 31
 Library Licenses 32
 Maintenance Web Application Operation 32

Usage Precautions 32

Specifications 33

For safety, please read the precautions described in the PWS-100 Operation Guide (supplied).

Overview

The PWS-100TD1 is a system for digitizing VTR material to create clips and for storing clips on cartridges in an Optical Disc Archive System. It features the following functions.

Ingest

The unit creates high-resolution video and proxy video files from input SDI signals from one or more VTRs and stores the ingested clips on internal HDDs. It can also control VTR devices remotely using an RS-422 interface.

Video quality checking

The video quality of ingested clips can be checked automatically. The video can also be checked visually by an operator in the web application screen or on an external monitor.

Clip storage

High-resolution clips can be transferred and stored on cartridges or on a network server.

Workflows

A series of tasks, from ingesting through to transfer of clips, can be executed in a single operation using workflows. A manager can define the workflow tasks to execute and assign an operator to execute the tasks in a work order, and the operator then executes the tasks according to the work order.

Web application

Control and configuration of the unit is performed using a graphical interface displayed in a web browser on a client PC.

Integration with management software

The properties of clips stored on cartridges and proxy video files can be exported and managed using other software.

System Configuration Examples

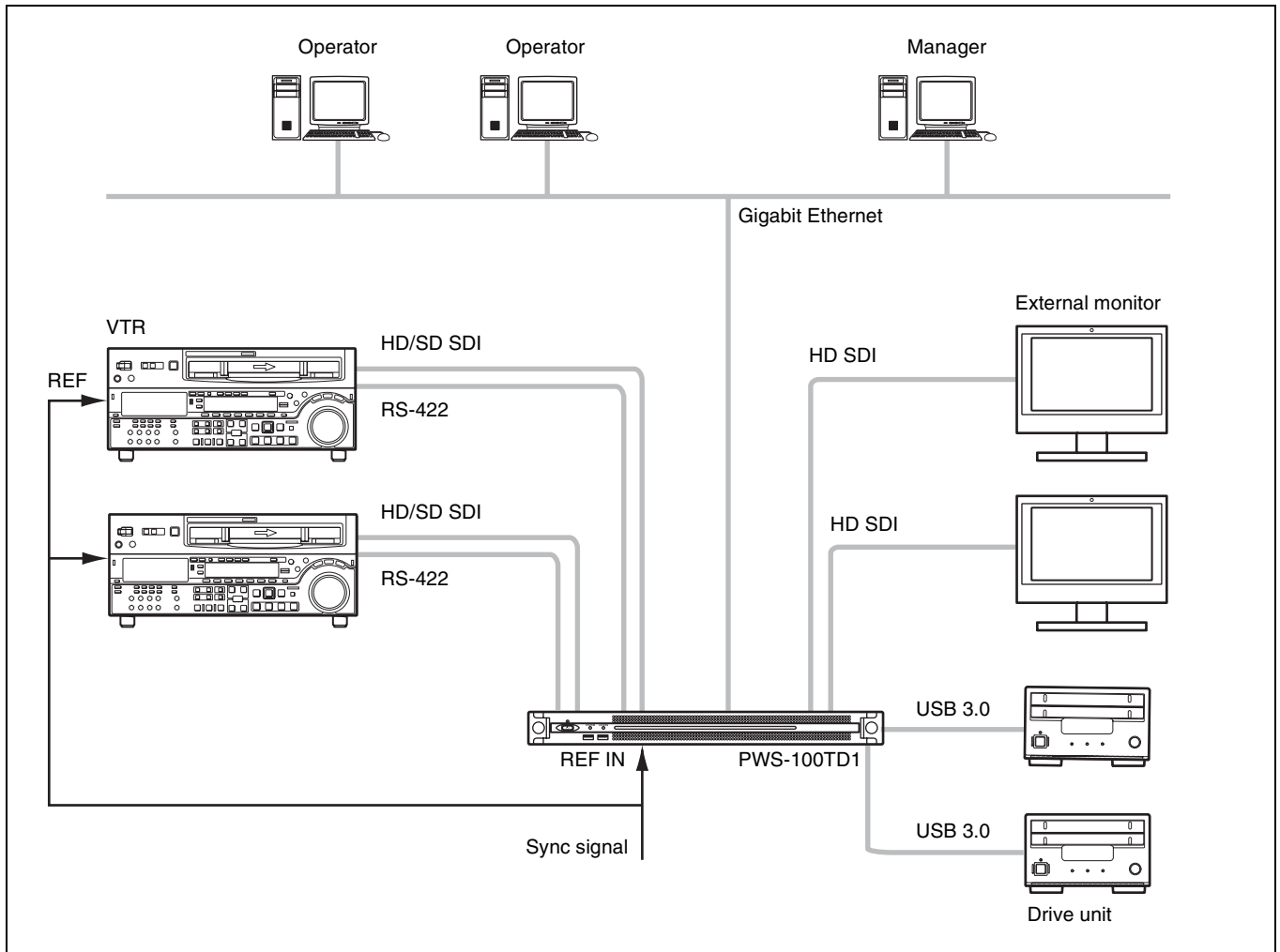
Connect VTRs and external monitors to the SDI connectors of the unit, and drive units to the USB connectors on the rear panel. You can select a 2-input/2-output, 3-input/1-output, or 4-input system configuration by configuring SDI settings in the web application.

2 inputs/2 outputs

Connect VTRs to the SDI 1 and SDI 2 connectors, and external monitors to the SDI 3 and SDI 4 connectors. You can use this configuration to digitize video from two VTRs in parallel.

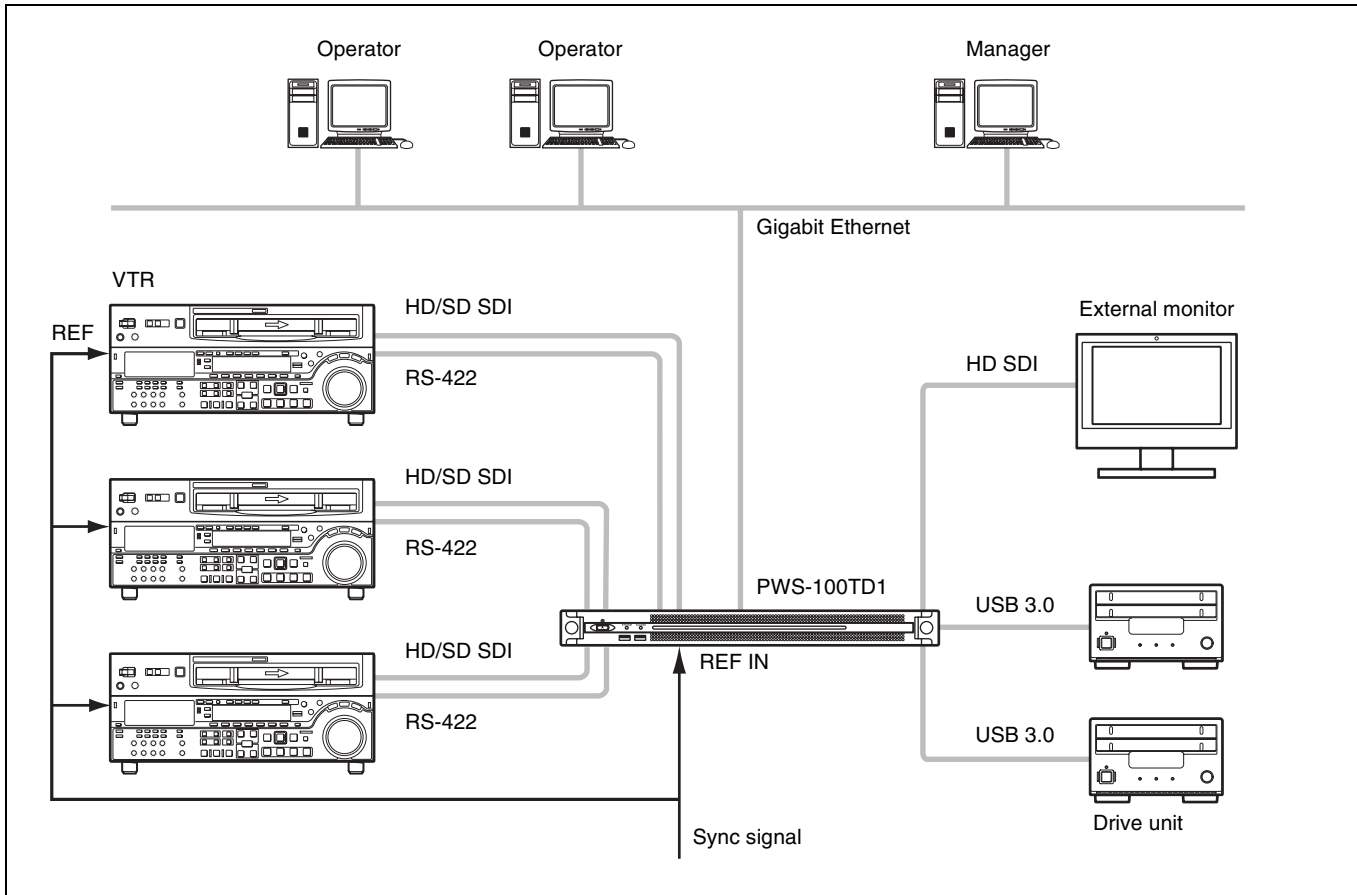
Notes

- If multiple VTRs are connected, make sure that all VTRs are synchronized ($\pm 1H$).
- Set the EE/PB setting of the VTR to PB.



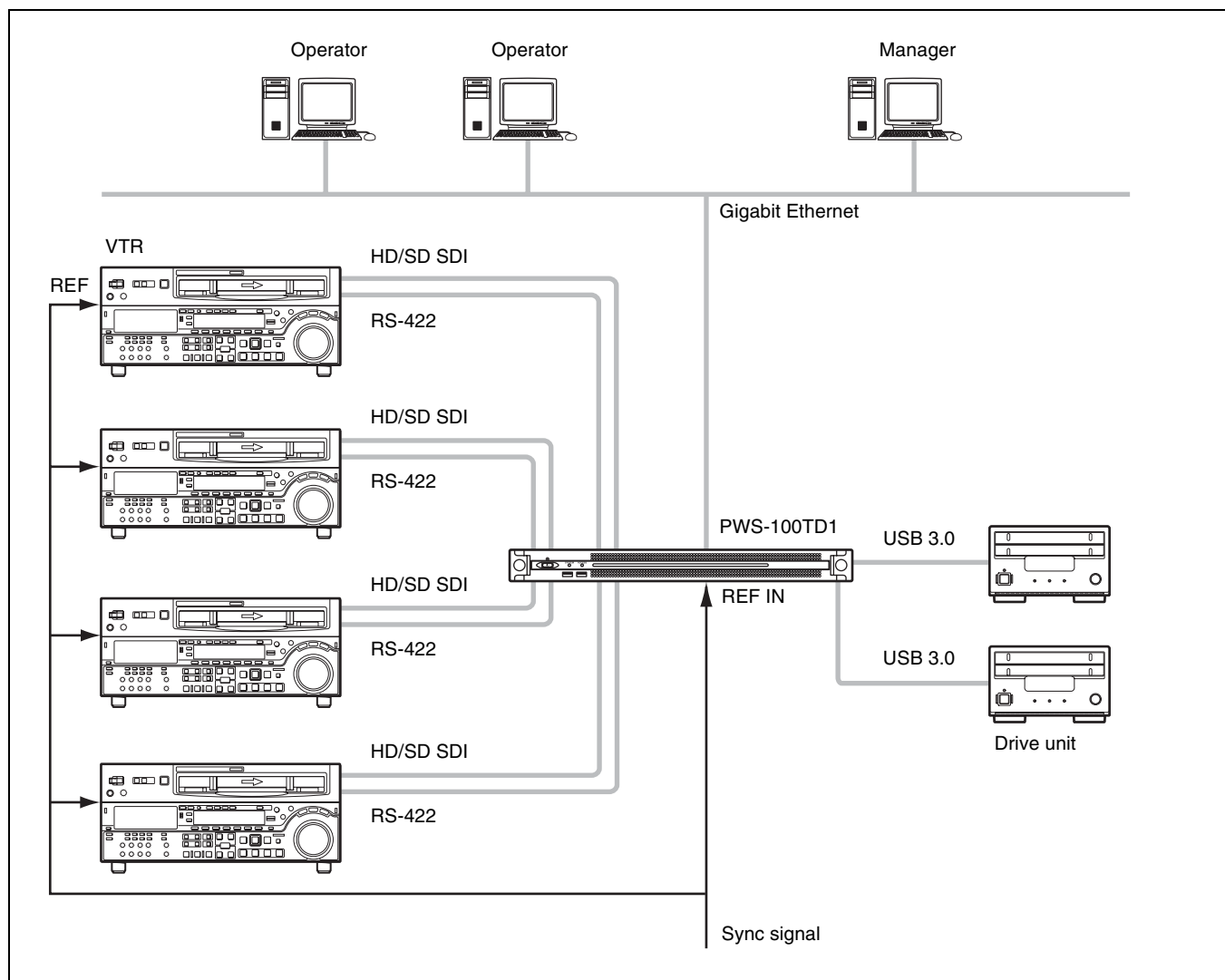
3 inputs/1 output

Connect VTRs to the SDI 1 to 3 connectors, and an external monitor to the SDI 4 connector. The external monitor connected to the SDI 4 connector is used to monitor the high-resolution images of clips.



4 inputs

Connect VTRs to the SDI 1 to 4 connectors. When SDI4 is not used for ingesting, you can monitor the high-resolution images of clips in the GUI.



RAID configuration selection

After setting the system configuration, set the RAID configuration so that it has the same number SDI inputs and logical drives as the selected system configuration.

You set the RAID configuration using the PWS-100 maintenance web application. Set up the RAID configuration shown below, according to the selected system configuration. Configurations other than the following are not supported. For details about configuration, refer to the operation manual of the PWS-100 maintenance web application.

- For 2 inputs/2 outputs: $(5D + 1P) \times 2$
- For 3 inputs/1 output: $(3D + 1P) \times 3$
- For 4 inputs: $(2D + 1P) \times 4$

Note

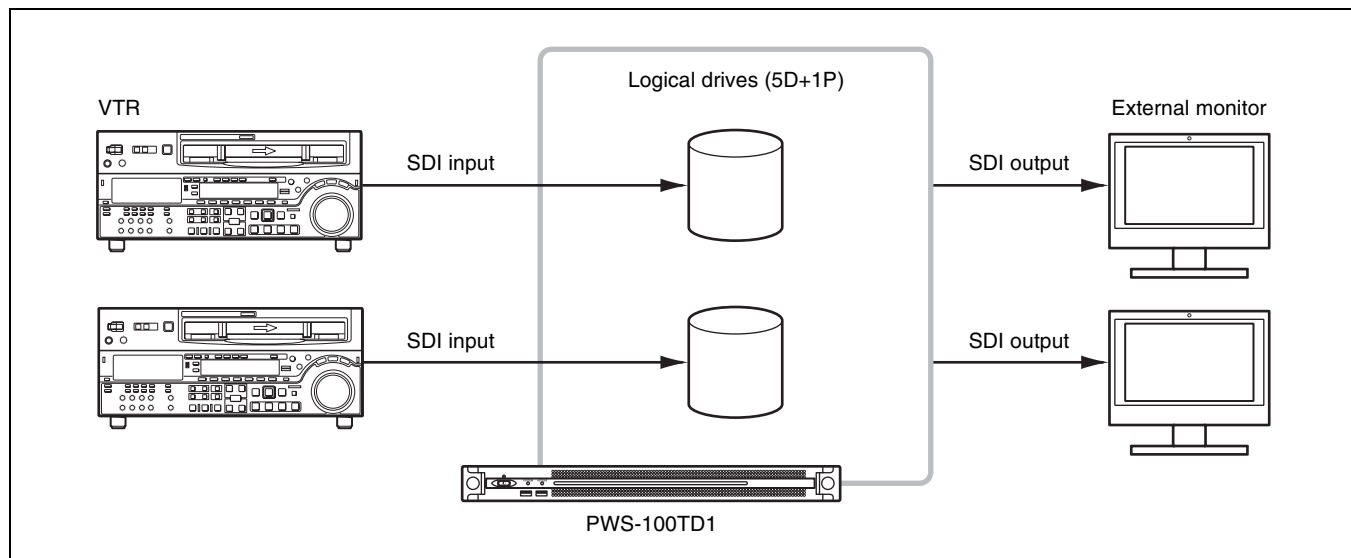
If the RAID configuration is changed, all full-resolution files, proxy files, report files, and work orders written in internal storage are deleted. Before changing the RAID configuration, always transfer or download all data to prevent data loss.

About RAID configuration

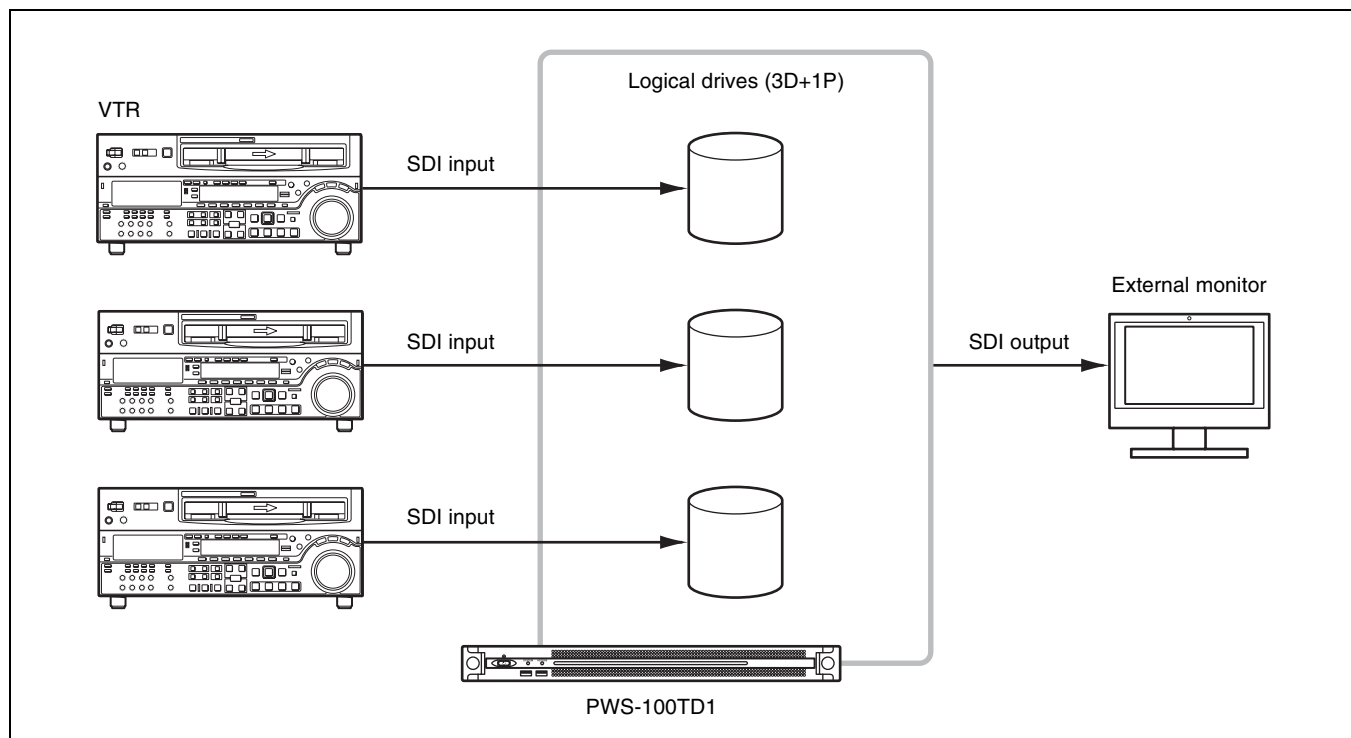
The PWS-100TD1 supports the following RAID configurations when a total of 12 HDDs are installed.

- 2D + 1P: Contains a total of four logical drives, where each logical drive contains two data HDDs and one parity HDD.
- 3D + 1P: Contains a total of three logical drives, where each logical drive contains three data HDDs and one parity HDD.
- 5D + 1P: Contains a total of two logical drives, where each logical drive contains five data HDDs and one parity HDD.

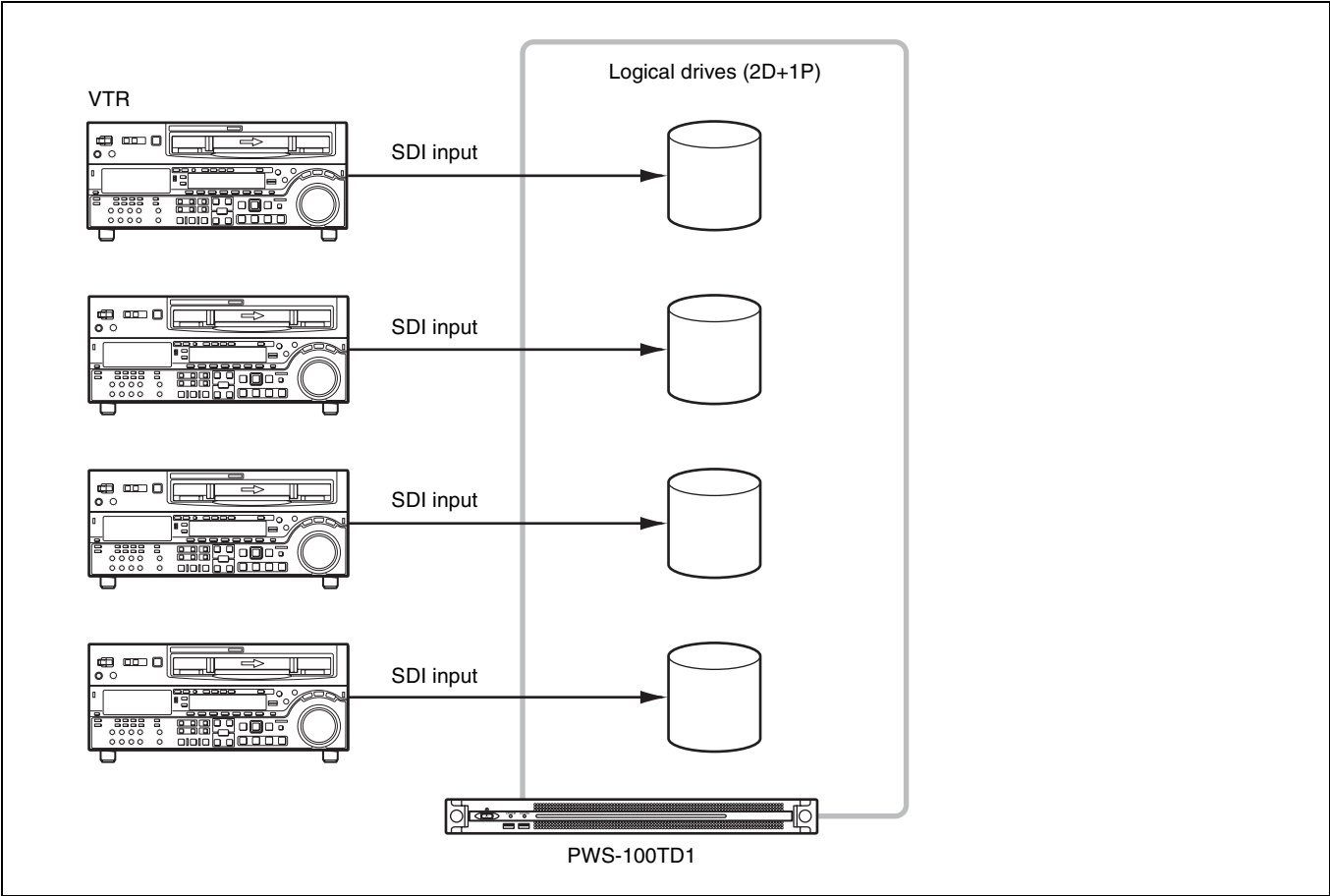
For 2 inputs/2 outputs



For 3 inputs/1 output



For 4 inputs



Supported Devices

Operation with the following devices has been certified.

Supported VTRs

Operation with the following VTRs has been certified.

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

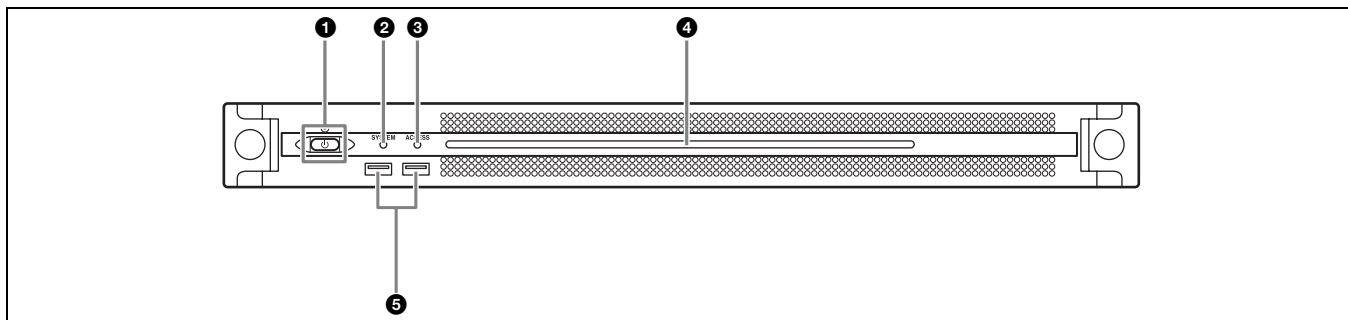
Supported ODS Drives

Operation with the following ODS drives has been certified.

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

Name and Function of Parts

Front View



① On/Standby button and indicator

Switches the unit on/off (standby state). Connecting the power cord places the unit in standby state, and the indicator turns on red. Pressing the On/Standby button while in standby state turns on the unit and the indicator turns on green. Pressing and holding the On/Standby button for two seconds switches the unit to standby state, and the indicator changes to red. To turn the unit on again after switching from On state to standby state, when the indicator is red, press and hold the On/Standby button for three seconds or longer. The indicator goes out when the power cord is disconnected.

② SYSTEM indicator

Indicates the status of the unit.

Green: Operating normally

Flashing green (once per second): System is booting or transitioning to standby state.

Flashing orange (once per second): A warning has been generated.

High-speed flashing red (four times per second): An error has occurred.

③ ACCESS indicator

Indicates the access status to storage.

Off: Not accessing storage

Blue: Accessing storage

④ Front panel LED

Turns on according to settings in the web application. The LED is configured using [001: LINE LED] in the [Settings] page on the Maintenance screen.

⑤ USB connectors (front panel)

Connects to a keyboard and mouse for initializing the unit. USB devices not described in this document are not supported.

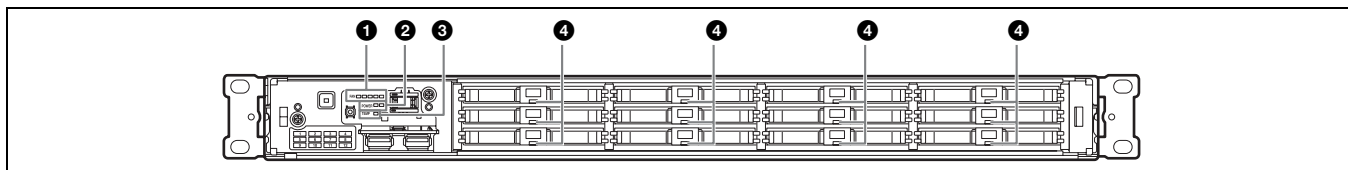
Note

Both USB ports on the front panel support power delivery (900 mA).

Front View (Panel Removed)

When the SYSTEM indicator or web application indicates an error, you can remove the front panel to check the status of the hardware components.

To remove the front panel, loosen the screws on the left and right sides and pull the panel towards you.



① FAN indicators

If any of the fans fail, the corresponding fan indicator turns on red.

② POWER indicators

If either of the AC power supply units fail, the corresponding indicator turns on red.

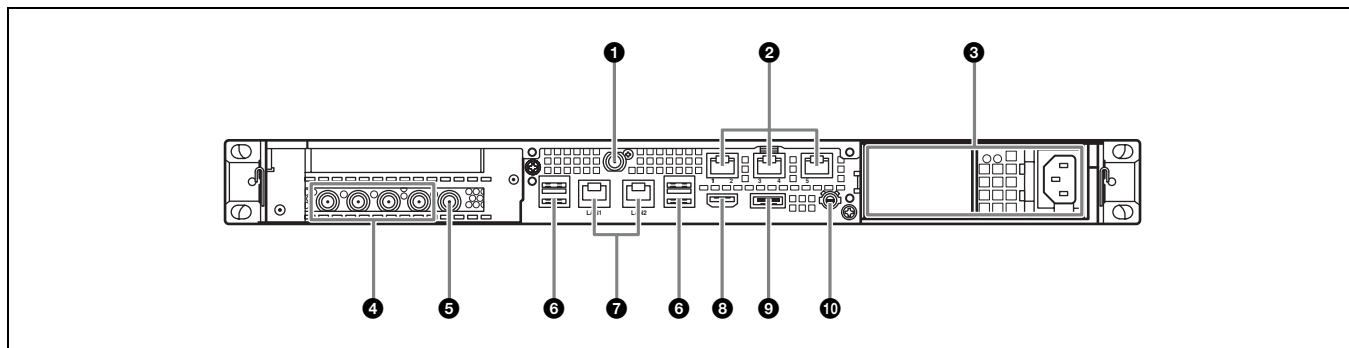
③ TEMP indicator

If an abnormally high temperature is detected within the unit, the indicator turns on red.

④ HDD status indicators

If a warning is generated for an HDD, the corresponding indicator turns on red. The indicator turns off if the corresponding HDD fails, is in sleep state, or has been removed.

Rear View



① SYSTEM TC connector

Not used by this system.

② Remote connectors (1/2, 3/4, 5)

Connect VTR devices to the Remote 1/2 and Remote 3/4 connectors, using the RJ-45 D-sub conversion cable (supplied) and commercially-available 9-pin remote cables, for VTR remote control operation. You can connect two VTRs using a single RJ-45 D-sub conversion cable and two 9-pin remote cables.

The Remote 5 connector is not used by this system.

③ AC power supply units

Insert the power cords and connect to power outlets. Only one AC power supply unit is installed at the factory. A second optional power supply unit can be installed to provide power supply redundancy. When used in systems that require reliability, power supply redundancy allows the unit to continue operating even if a power supply unit fails.

For details about installing or replacing a power supply unit, consult your Sony sales or service representative.

④ SDI (1 to 4) connectors

SDI1 to SDI4 connectors are numbered from left to right. Connect to a VTR device or external monitor, using an SDI cable, to input/output SDI signals.

⑤ REF IN connector

Input a sync reference signal.

⑥ USB connectors (rear panel)

Connect to drive units using USB cables.

USB devices not described in this document are not supported.

Notes

- Of the four USB connectors on the rear panel, only the bottom right port supports power delivery (900 mA). The other three ports do not support power delivery, and should be used to connect USB devices that do not require power supplied from the USB connector.
- Use SuperSpeed USB cables.

⑦ LAN connectors

Connect to a Gigabit Ethernet network.

⑧ HDMI connector

Connect to a monitor using an HDMI cable.

Use an HDMI cable that conforms to the following standard.

- High Speed HDMI Cable (Premium High Speed HDMI Cable)

⑨ DisplayPort connector

Connect to a monitor using a DisplayPort-to-DVI

converter cable or DisplayPort-to-HDMI converter cable.

Use an active-type converter cable.

Note

Use a DisplayPort cable that conforms to the following standard.

- DP v1.2a (compliant)

⑩ Ground terminal

Connect to ground.

Setting Up

Initial Settings

Before using the unit, configure the Windows settings within the unit. The description below describes the standard settings in Windows 8.

Note

To reboot the unit, first shut down the unit and then turn the On/Standby button on the front panel on again, without rebooting Windows.

- 1 Connect a keyboard and mouse to the USB connectors on the front panel, and connect a monitor to the DisplayPort connector or HDMI connector on the rear panel.
- 2 Set the On/Standby button to the On position.
- 3 When the Windows login screen appears, enter “tds” as the user name, enter “tds” as the password, and log in.

Setting the Windows interface language

- 1 Hold down the Windows key and press the X key, then select [Control Panel] from the displayed menu.
- 2 Select [Clock, Language, and Region] > [Language].
- 3 Select [Add language] to add a language.
- 4 Select the language to add, then click [Add].
- 5 Select the language to use and click [Move up] until the language is displayed at the top.
- 6 Sign out and then sign in again.

Configuring the network

- 1 Connect a LAN cable to the LAN connector on the rear panel of the unit, and connect the other end to the network.
- 2 Click [View network status and tasks] under [Network and Internet] in the control panel.
- 3 Click [Connections] > [LAN 1/2].
- 4 Click the [Properties] button.

- 5 Select [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)], then click the [Properties] button.
- 6 Change the IP address and other settings.
- 7 Click the [Advanced] button to configure DNS, WINS, and other settings.
- 8 When finished, click the [OK] button.

Setting the date and time

- 1 Select [Set the time and date] under [Date and Time] in the [Clock, Language, and Region] control panel.
- 2 Click [Change time zone] on the [Date and Time] tab, and select the time zone.
- 3 Click [Change date and time] on the [Date and Time] tab, and set the date and time.
- 4 Click the [Change settings] button on the [Internet Time] tab.
- 5 Specify an NTP server, then click the [Update Now] button.
- 6 Place a check mark in [Synchronize with an Internet time server] to periodically correct the clock using the NTP server.

Setting user passwords

The default user “tds” is configured for Windows within the unit. Set the password for the user to provide security.

- 1 Click [User Accounts and Family Safety] in the control panel.
- 2 Click [User Account] > [Change account type].
- 3 Select the “tds” user.
- 4 Click [Change the password].
- 5 Enter a new password and a password hint, then click the [Change Password] button.

Setting the service password

When setting/modifying the “tds” user password, set the service password as follows.

- 1 Double-click [Services] under [Administrative tools] in the [System and Security] control panel.

- 2 Right-click “Apache Tomcat 7.0 Tomcat7” in the Services list and select [Properties].
- 3 Open the [Log On] tab.
- 4 Click [This account], enter “.tds” and then enter a password for user “tds” under [Password].
- 5 Click the [Apply] button, then click [OK] to close the dialog.
- 6 Select “Sony Ingest Service” in the Services list, and repeats steps 2 to 5.

Adding a user

You can add new users to Windows.

- 1 Click [User Accounts and Family Safety] in the control panel.
 - 2 Click [User Accounts] > [Change account type].
 - 3 Click [Add a new user in PC settings].
 - 4 Click [Add a user].
 - 5 Enter a user name, password, and password hint, then click [Next].
 - 6 Click [Finish].
- Next, change the account type.
- 7 Click [Change account type] under [User Accounts and Family Safety] in the control panel.
 - 8 Select the user whose account type you want to change.
 - 9 Click [Change the account type].
 - 10 Select [Standard] or [Administrator], then click the [Change account type] button.

Changing the computer name

The PWS-100TD1 uses the computer name as part of the https communications authentication. To change the computer name, use the following procedure. A new certificate will be generated. After the computer name is changed, re-import the new certificate on the client PC.

- 1 Select [System and Security] > [System] in [Control Panel].

- 2 Click [Computer name] > [Change Settings].
- 3 Click the [Change] button on the [Computer name] tab of the [System Properties] dialog.
- 4 Change the computer name, then click [OK].
- 5 Restart the computer when prompted to restart.
- 6 Sign in to the PWS-100TD1 unit again.
- 7 Open Command Prompt as an administrator, and enter the following commands.


```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script
> keystore.bat
```
- 8 Restart the system.
- 9 Re-import the certificate as described in “*Installing Certificates*” (page 31).

Signing out

When finished, sign out from Windows.

- 1 Move the mouse cursor to the top right corner of the screen to display the Charms bar, then click [Start].
- 2 Click the account name on the top right of the screen, then click [Sign out].

Displaying the Web Application

You connect to the unit via the network from a client PC and use the web application in a web browser on the client PC to control and configure the unit.

Recommended client PC environment

CPU: Core i5 3 GHz or higher

Memory: 4 GB or higher

OS: Windows 7 Pro 32/64-bit

Windows 8/8.1 Pro 32/64-bit

Mac OS X 10.8/10.9

Web browser: Google Chrome 40 or later (update to the latest version)

Display resolution: 1366 × 768 pixels or higher

Connect a computer satisfying the above conditions to the LAN 1 or LAN 2 connector on the rear panel of the unit. Enter “https://(IP_address):8443/tds or https://pws-100-
<serial_number>:8443/tds” in the address bar of a web browser on the computer (where IP_address is the address specified in “*Configuring the network*”) to display the web application.

Enter the user name and password when the login screen appears.
The following user name and password are configured by default.

User name: admin

Password: tds

System Settings

Configure the system on the Setting screen in the web application.
Log in as a user with administrator privileges when logging in to the web application.
For details about operating the web application, refer to the Help of the application.

Changing the interface language

You can change the interface language of the web application.
Select the language in [Language] on the [My Settings] page of the Setting screen.

Operation frequency selection

Select the operation frequency of the system. You select the frequency under [Ingest Settings] on the [Ingest] page of the Setting screen.

Adding users

To add user accounts in addition to the default admin account, add new users on the [Users] page of the Setting screen.

Registering a transfer destination

To transfer ingested clips to a cartridge or network server, register the transfer destination on the [Transfer] page of the Setting screen.

Installing Certificates

Displaying the web application using an https connection from a web browser may display an error message, such as “The site’s security certificate is not trusted!”. To connect successfully via https without an error, a root CA certificate (client certificate) corresponding to the server (PWS-100-<serial_number>) must be installed in the web browser.

The following describes the procedure for installing a certificate using Google Chrome.

Root CA certificate installation procedure

- 1** Access the web application using https in a web browser.

An error message, such as “The site’s security certificate is not trusted!” appears.
- 2** Click the lock icon on the left hand end of the address bar.
- 3** Click [Certificate information] in the popup window.

The [Certificate] dialog appears. Make a note of the certificate issuer “PWS-100-<serial_number>” in the dialog.
- 4** Click the [Details] tab, then click the [Copy to File] button.

The Certificate Export Wizard appears.
- 5** Click [Next].
- 6** Select “DER encoded binary X.509 (.CER),” then click [Next].
- 7** Click the [Browse] button and specify a folder in which to store the certificate, then click [Next].

Exporting of the certificate commences.
- 8** When the export wizard completion window appears, click [Finish].
- 9** When the message window appears, click [OK].
- 10** Click the Chrome menu button, then select [Settings] from the menu.
- 11** Click [Show advanced settings] on the Settings screen, then click the [Manage certificates] button under [HTTP/SSL].

The [Certificate] dialog appears.
- 12** Click the [Trusted Root Certification Authorities] tab of the dialog, then click the [Import] button.

The Certificate Import Wizard appears.
- 13** Click [Next].
- 14** Click the [Browse] button and select the downloaded file, then click [Next].

- 15** Check that [Place all certificates in the following store] is selected and that “Trusted Root Certification Authorities” is displayed in [Certificate store:], then click [Next].

Importing of the certificate commences.

- 16** When the import wizard completion window appears, click [Finish].

The wizard exits.

- 17** When the message window appears, click [OK].

- 18** Click the Chrome menu button and select [Exit] from the menu. Then, relaunch Chrome.

- 19** Configure name resolution settings so that the issuer “PWS-100-<serial-number>” noted earlier resolves to the IP address set in “*Configuring the network*” (page 29), then connect to https://pws-100-<serial_number>:8443/tds.

Library Licenses

Refer to the [Help] menu in the web application for the licenses of each type of library used by the PWS-100TD1.

Maintenance Web Application Operation

For details about the operation of the Maintenance Web Application for system administrators, log in to the unit and click the shortcut icon on the desktop to refer to the Operation Manual.

Usage Precautions

Precautions for products with built-in HDD

This unit has a built-in hard disk drive (HDD). The HDD is a precision device. If subject to shock, vibration, static electricity, high temperature or humidity, data loss can occur. When installing and using the unit, closely observe the following precautions.

Protect from shocks and vibrations

When subject to shocks or vibrations, the HDD can be damaged and loss of data on the HDD can occur.

- When transporting the unit, use the specified packing material. When transporting on a dolly or similar, use a type which does not transmit excessive vibrations. Excessive shocks and vibrations can damage the HDD.
- Never move the unit while it is powered.
- Do not remove panels or outer parts of the unit.
- When placing the unit on a floor or other surface, place on a level, stable surface.
- Do not place the unit near other devices that may become a source of vibrations.
- When moving the unit, always turn the power supply off.

Wait for 30 seconds after turning power off

For a brief interval after the power is turned off, the platters inside the HDD will still keep spinning and the heads will be in an insecure position. During this interval, the unit is more susceptible to shocks and vibrations than during normal operation. For a period of at least 30 seconds after turning power off, avoid subjecting the unit even to very light shocks. After this period, the hard disk will be fully stopped and the unit can be manipulated.

Temperature and humidity related precautions

Use and store the unit only in locations where the specified temperature and humidity ranges are not exceeded. (Be sure to use the unit that conforms fully to the specifications of this unit.)

When HDD seems to be faulty

Even if the HDD is showing signs of malfunction, be sure to observe all the above precautions. This will prevent further damage from occurring until the problem can be diagnosed and corrected.

Replacement of the HDD and other consumable parts

The HDD and battery are consumable parts that will need periodic replacement.

When operating at room temperature, a normal replacement cycle will be about 2 to 5 years.

However, this replacement cycle represents only a general guideline and does not imply that the life expectancy of these parts is guaranteed. For details on parts replacement, contact your dealer.

For details about the replacement cycle, contact your Sony sales or service representative.

Power supply precautions

If the unit is suddenly turned off during operation, data loss may occur. To maintain data integrity, the use of an uninterruptible power supply (UPS) is recommended. To disconnect the power cord or turn off the breaker, always press the On/Standby button on the unit to stop the unit before proceeding.

USB device precautions

When using the unit when connected to a self-powered USB device (such as the ODS-D77U), the device may not be recognized, depending on the timing of when the device is turned on. If this occurs, turn the USB device off and on again, or disconnect and reconnect the USB cable.

Network precautions

Depending on the operating environment, unauthorized third parties on the network may be able to access the system. We strongly recommend configuring all of the passwords for security purposes. Configure all the passwords following the procedure on *page 29*.

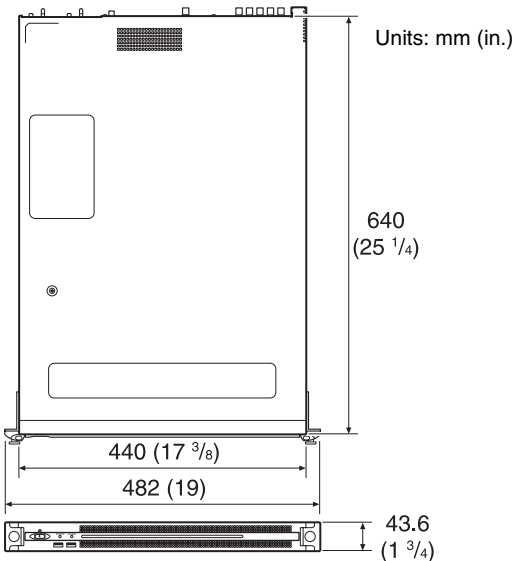
From a safety standpoint, when using the unit connected with the network, it is strongly recommended to access the Control window via a Web browser and change the access limitation settings from the factory preset values (*page 30*). Changing the password regularly is also recommended.

Do not browse any other website in the Web browser while making settings or after making settings. Since the login status remains in the Web browser, close the Web browser when you complete the settings to prevent unauthorized third parties from using the unit or harmful programs from running.

Specifications

General

Power requirement	100 V to 240 V AC 50/60 Hz
Power consumption	235 W
Standby power consumption	3 W or lower
Operating temperature	5 °C to 35 °C (41 °F to 95 °F)
Storage temperature	-20 °C to +60 °C (-4 °F to +140 °F)
Operating humidity	20% to 90% (relative humidity)
Storage humidity	5% to 80%
Mass	14 kg (30 lb. 14 oz.)
Dimensions	440 × 43.6 × 640 mm (17 ³ / ₈ × 1 ³ / ₄ × 25 ¹ / ₄ in.) (width / height / depth)



CPU

Processor	Intel Core i7 6700TE (2.4 GHz)
Memory	8 GBytes SO-DIMM (DDR4) (2)
Drive (M.2)	120 GBytes
Drives (HDD)	2.5-inch, 500 GBytes (12)
Expansion bus	PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

Inputs/outputs

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB (front panel/rear panel)	Super Speed USB (USB 3.0) Type A (6, 2 on front and 4 on rear) Front: Power delivery support (900 mA/ port) Rear: Power delivery support on bottom right port (900 mA), not supported on other three ports
HDMI	Type A (1) HDMI Ver. 1.4a, 1920 × 1200 maximum resolution, 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort Ver. 1.1a, 2560 × 1600 maximum resolution, 60 Hz
Remote	RJ-45 (3) Sony VTR Protocol (9-pin) compatible, requires RJ-45 to D-sub conversion cable (supplied)
REF IN	BNC (1) SMPTE ST 318 compliant, HD tri-level sync (0.6 Vp-p, 75 Ω, sync positive/ negative) or SD black burst/composite sync (NTSC: 0.286 Vp-p, 75 Ω, sync negative PAL: 0.3 Vp-p, 75 Ω, sync negative)
SDI 1 to 4	BNC (4) HD: SMPTE ST 292-1 compliant SD: SMPTE ST 259 compliant

Supported formats

Codec	Operation frequency	Resolution No. of quantization bits	Audio channels
IMX 30M, 40M, 50M UNCOMPRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8-bit	8ch (16-bit) 4ch (24-bit)
	50i	720 × 480 422 8-bit	8ch (16-bit) 4ch (24-bit)
MPEG HD 50M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 8-bit	8ch (24-bit)
MPEG HD 35M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 420 8-bit	4ch (16-bit)
		1440 × 1080 420 8-bit	
XAVC-I 100M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 10-bit	8ch (24-bit)

Recording Time for Each RAID Configuration

The available recording time for each RAID configuration and video codec is given below.

RAID configuration			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
Number of logical drives			4	3	2
Drive capacity ^{a)} (per logical drive)			838 GB	1,230 GB	2,050 GB
SD	IMX 30 Mbps	Per drive	Approx. 50 hours	Approx. 75 hours	Approx. 125 hours
		Total for all drives	Approx. 200 hours	Approx. 225 hours	Approx. 250 hours
	IMX 40 Mbps	Per drive	Approx. 35 hours	Approx. 55 hours	Approx. 95 hours
		Total for all drives	Approx. 140 hours	Approx. 165 hours	Approx. 190 hours
	IMX 50 Mbps	Per drive	Approx. 30 hours	Approx. 45 hours	Approx. 70 hours
		Total for all drives	Approx. 120 hours	Approx. 135 hours	Approx. 140 hours
	UNCOM-PRESS 220 Mbps	Per drive	Approx. 7 hours	Approx. 10 hours	Approx. 18 hours
		Total for all drives	Approx. 28 hours	Approx. 30 hours	Approx. 36 hours
	MPEG 35 Mbps	Per drive	Approx. 45 hours	Approx. 70 hours	Approx. 120 hours
		Total for all drives	Approx. 180 hours	Approx. 210 hours	Approx. 240 hours
HD	MPEG 50 Mbps	Per drive	Approx. 30 hours	Approx. 45 hours	Approx. 75 hours
		Total for all drives	Approx. 120 hours	Approx. 135 hours	Approx. 150 hours
	XAVC 100 Mbps	Per drive	Approx. 15 hours	Approx. 25 hours	Approx. 40 hours
		Total for all drives	Approx. 60 hours	Approx. 75 hours	Approx. 80 hours

a) Capacity displayed in the GUI.

Note

The achievable recording time may differ from the values above, depending on the recording media and other conditions.

Supplied accessories

RJ-45 to D-sub conversion cable

Part No. 1-848-424-12 (SONY) (2)

Optional accessories

PWSK-101 Optional Power Supply

Design and specifications are subject to change without notice.

SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND RESULTING FROM A FAILURE TO IMPLEMENT PROPER SECURITY MEASURES ON TRANSMISSION DEVICES, UNAVOIDABLE DATA LEAKS RESULTING FROM TRANSMISSION SPECIFICATIONS, OR SECURITY PROBLEMS OF ANY KIND.

Notes

- Always make a test recording, and verify that it was recorded successfully.
SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, COMPENSATION OR REIMBURSEMENT ON ACCOUNT OF FAILURE OF THIS UNIT OR ITS RECORDING MEDIA, EXTERNAL STORAGE SYSTEMS OR ANY OTHER MEDIA OR STORAGE SYSTEMS TO RECORD CONTENT OF ANY TYPE.
- Always verify that the unit is operating properly before use. SONY WILL NOT BE LIABLE FOR DAMAGES OF ANY KIND INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, COMPENSATION OR REIMBURSEMENT ON ACCOUNT OF THE LOSS OF PRESENT OR PROSPECTIVE PROFITS DUE TO FAILURE OF THIS UNIT, EITHER DURING THE WARRANTY PERIOD OR AFTER EXPIRATION OF THE WARRANTY, OR FOR ANY OTHER REASON WHATSOEVER.

- SONY WILL NOT BE LIABLE FOR CLAIMS OF ANY KIND MADE BY USERS OF THIS UNIT OR MADE BY THIRD PARTIES.
- SONY WILL NOT BE LIABLE FOR THE LOSS, REPAIR, OR REPRODUCTION OF ANY DATA RECORDED ON THE INTERNAL STORAGE SYSTEM, RECORDING MEDIA, EXTERNAL STORAGE SYSTEMS OR ANY OTHER MEDIA OR STORAGE SYSTEMS.
- SONY WILL NOT BE LIABLE FOR THE TERMINATION OR DISCONTINUATION OF ANY SERVICES RELATED TO THIS UNIT THAT MAY RESULT DUE TO CIRCUMSTANCES OF ANY KIND.

- Windows is a registered trademark of Microsoft Corporation in the United States and other countries.
- Google Chrome is a trademark or registered trademark of Google Inc.

Other products or system names appearing in this document are trademarks or registered trademarks of their respective owners. Further, the ®, or ™ symbols are not used in the text.

This product uses the T-Kernel 2.0 source code based on the T-License 2.0 from the T-Engine Forum (www.t-engine.org).

For the customers in Taiwan

警告使用者：

此為甲類資訊技術設備，於居住環境中使用時，可能會造成射頻擾動，在此種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

設備名稱：專業製作流程工作站						
單元	限用物質及其化學符號					
	鉛 (Pb)	汞 (Hg)	鎘 (Cd)	六價鉻 (Cr ⁺⁶)	多溴聯苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
印刷電路板	—	○	○	○	○	○
外殼	—	○	○	○	○	○
驅動單元	—	○	○	○	○	○
電源供應單元	—	○	○	○	○	○
附配件	—	○	○	○	○	○
備考 1. “○” 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值。						
備考 2. “—” 係指該項限用物質為排除項目。						

Table des matières

Présentation	37
Exemples de configuration système	38
Périphériques pris en charge	43
Magnétoscopes pris en charge	43
Lecteurs ODS pris en charge.....	43
Nomenclature.....	44
Vue de face.....	44
Vue de face (panneau retiré)	44
Vue arrière.....	45
Mise en service	46
Configuration initiale	46
Affichage de l'application web	48
Paramètres du système	48
Installation de certificats	49
Licences de bibliothèque.....	50
Fonctionnement de l'application Maintenance Web.....	50
Précautions d'utilisation	50
Spécifications	52

Afin de garantir votre sécurité, veuillez lire les précautions décrites dans le guide d'utilisation du PWS-100 (fourni).

Présentation

Le PWS-100TD1 est un système conçu pour numériser les signaux vidéo d'un magnétoscope sous forme de plans et pour stocker ceux-ci sur les cartouches d'un système d'archivage sur disque optique (ODA). Cet appareil dispose des fonctions suivantes.

Acquisition

L'appareil crée des fichiers vidéo haute résolution et vidéo proxy à partir des signaux d'entrée SDI en provenance d'un ou de plusieurs magnétoscopes, puis stocke les plans numérisés sur des disques durs internes. Il peut également piloter des magnétoscopes à distance via une interface RS-422.

Contrôle qualité de la vidéo

La qualité vidéo des plans numérisés peut être contrôlée automatiquement. La vidéo peut être également contrôlée visuellement par un opérateur sur l'écran de l'application web ou sur un moniteur externe.

Stockage des plans

Les plans haute résolution peuvent être transférés et stockés sur des cartouches ou sur un serveur réseau.

Flux de travail

Une série de tâches, depuis l'acquisition jusqu'au transfert des plans, peut être exécutée en une seule opération en utilisant des flux de travail. Un responsable peut définir les tâches d'un flux de travail et les attribuer pour exécution à un opérateur sous la forme d'un ordre de travail : l'opérateur exécute ensuite ces tâches conformément à l'ordre de travail.

Application web

Le contrôle et la configuration de l'appareil s'effectuent via une interface graphique qui s'affiche dans le navigateur web d'un PC client.

Intégration avec des logiciels de gestion

Les propriétés des plans stockés sur des cartouches et des fichiers vidéo proxy peuvent être exportées et gérées à l'aide d'autres logiciels.

Exemples de configuration système

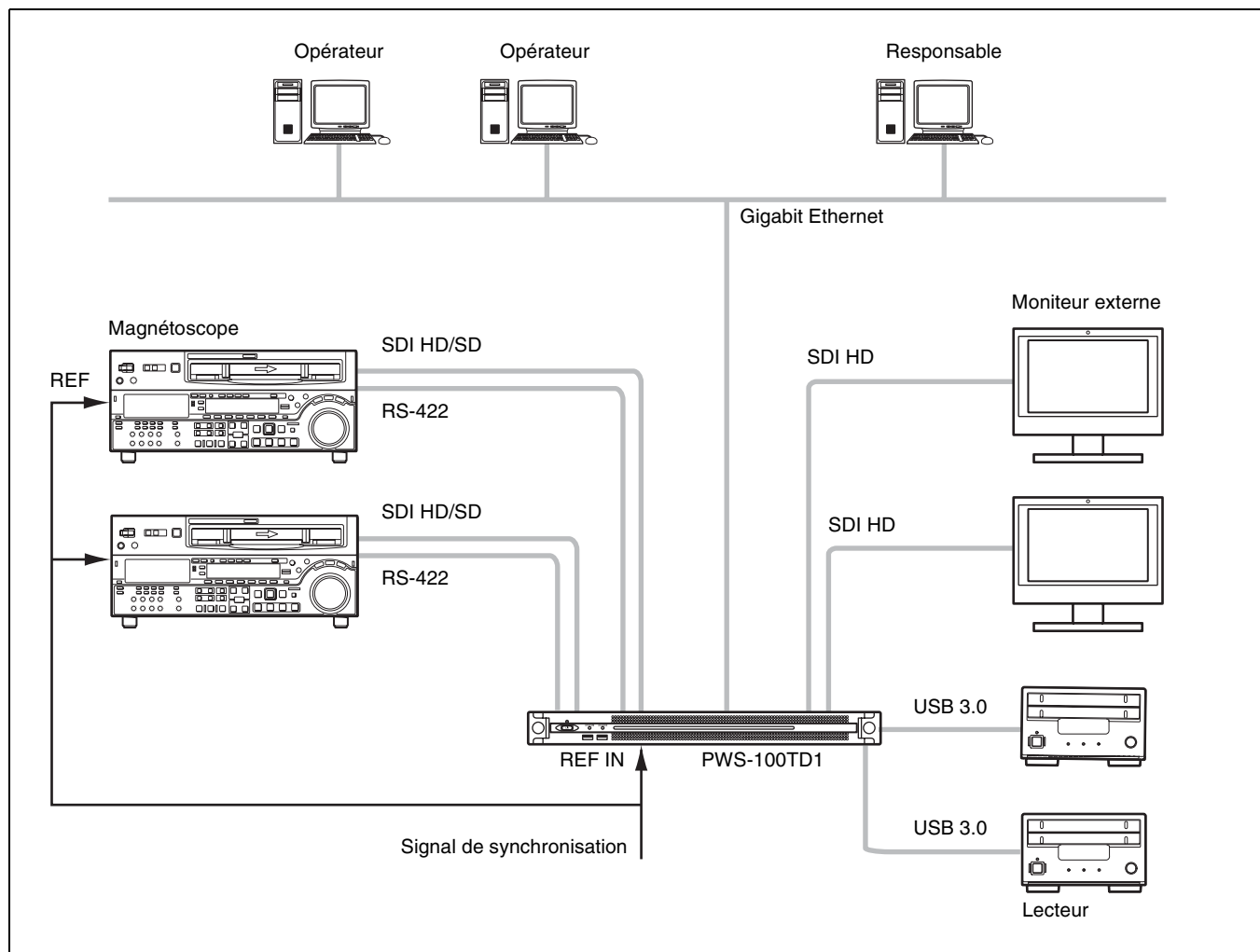
Raccordez les magnétoscopes et les moniteurs externes aux connecteurs SDI de l'unité, et les unités de lecture aux connecteurs USB du panneau arrière. Vous pouvez sélectionner une configuration de système 2-Entrée/2-Sortie, 3-Entrée/1-Sortie ou 4-Entrée en configurant les réglages SDI dans l'application Web.

Remarques

- Si plusieurs magnétoscopes sont raccordés à l'appareil, veillez à ce que tous les magnétoscopes soient synchronisés ($\pm 1H$).
- Réglez le paramètre EE/PB du magnétoscope sur PB.

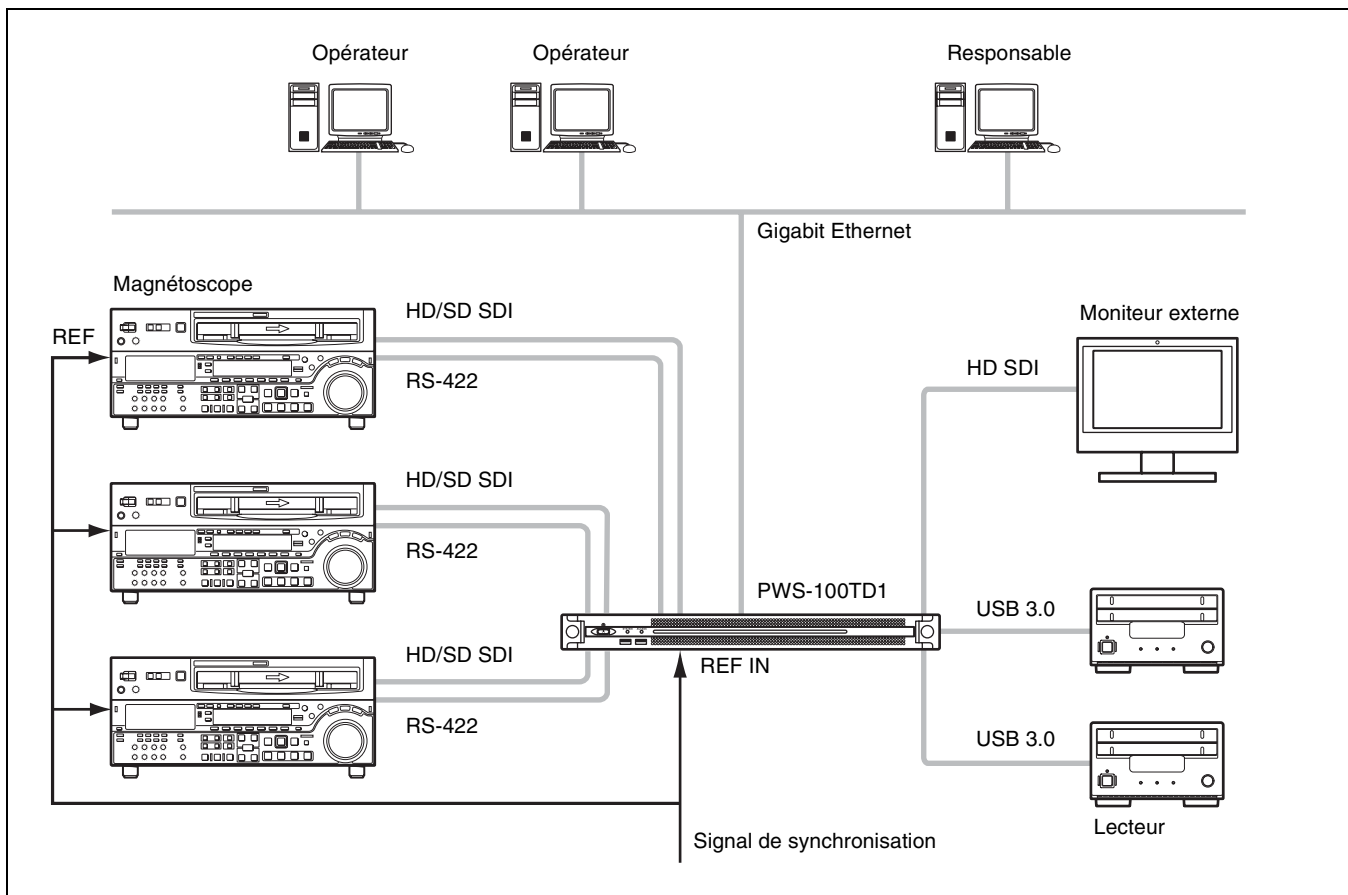
2 entrées/2 sorties

Raccordez les magnétoscopes aux connecteurs SDI 1 et 2 et les moniteurs externes aux connecteurs SDI 3 et 4. Vous pouvez utiliser cette configuration pour numériser des vidéos en provenance de deux magnétoscopes en parallèle.



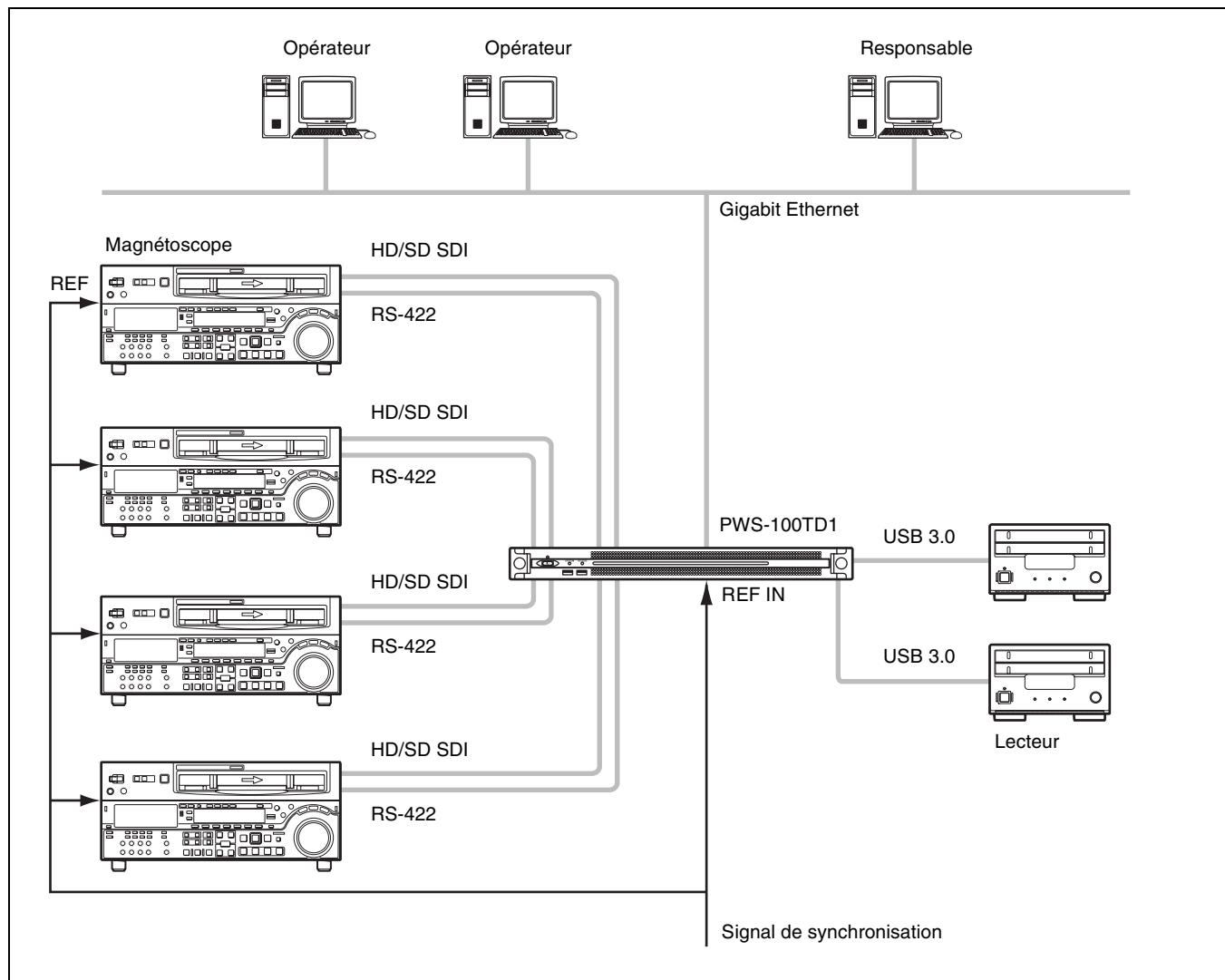
3 entrées/1 sortie

Raccordez les magnétoscopes aux connecteurs SDI 1 à 3, et un moniteur externe au connecteur SDI 4. Le moniteur externe raccordé au connecteur SDI 4 est utilisé pour surveiller les images à haute résolution des clips.



4 entrées

Raccordez les magnétoscopes aux connecteurs SDI 1 à 4.
Lorsque SDI4 n'est pas utilisé pour l'acquisition, vous pouvez surveiller les images à haute résolution des clips dans l'interface utilisateur.



Sélection de configuration RAID

Après avoir réglé la configuration du système, réglez la configuration RAID de manière à ce qu'elle dispose du même nombre d'entrées SDI et de lecteurs logiques que la configuration de système sélectionnée.

Réglez la configuration RAID en utilisant l'application de maintenance web du PWS-100. Réglez la configuration RAID indiquée ci-dessous, en fonction de la configuration de système sélectionnée. Les configurations différentes des suivantes ne sont pas prises en charge.

Pour les détails sur la configuration, consultez le mode d'emploi de l'application de maintenance web du PWS-100.

- Pour 2 entrées/2 sorties : $(5D + 1P) \times 2$
- Pour 3 entrées/1 sortie : $(3D + 1P) \times 3$
- Pour 4 entrées : $(2D + 1P) \times 4$

Remarque

Si la configuration RAID est modifiée, tous les fichiers haute résolution, les fichiers proxy, les fichiers de rapport et les ordres d'exécution inscrits dans le stockage interne sont supprimés.

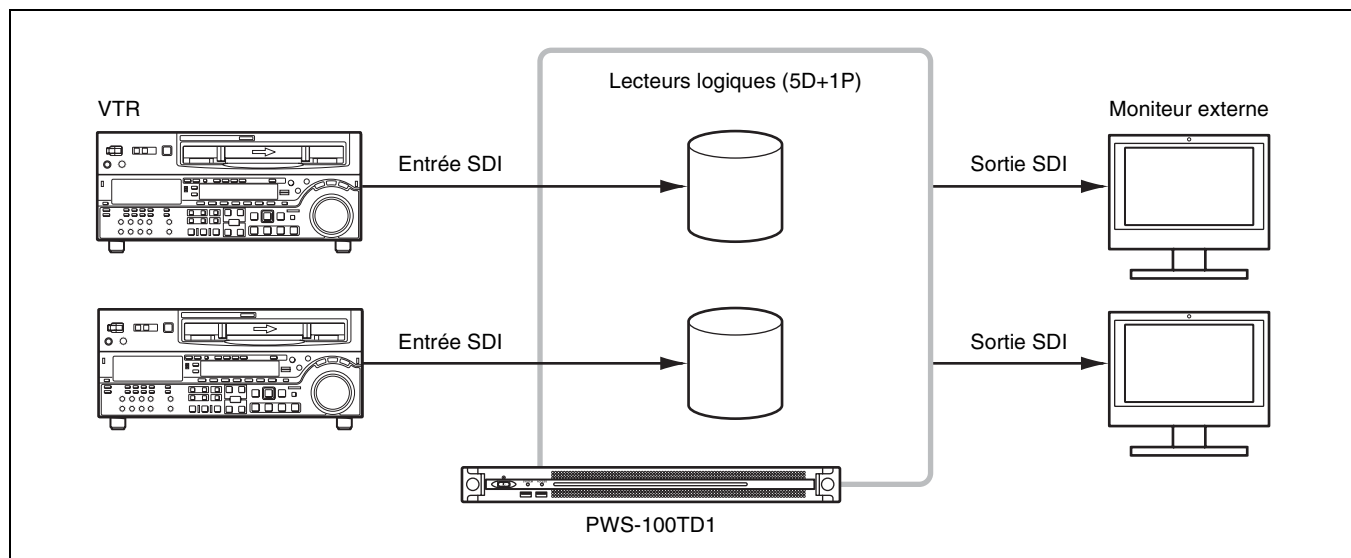
Avant de modifier la configuration RAID, transférez ou téléchargez toujours toutes les données pour éviter de les perdre.

À propos de la configuration RAID

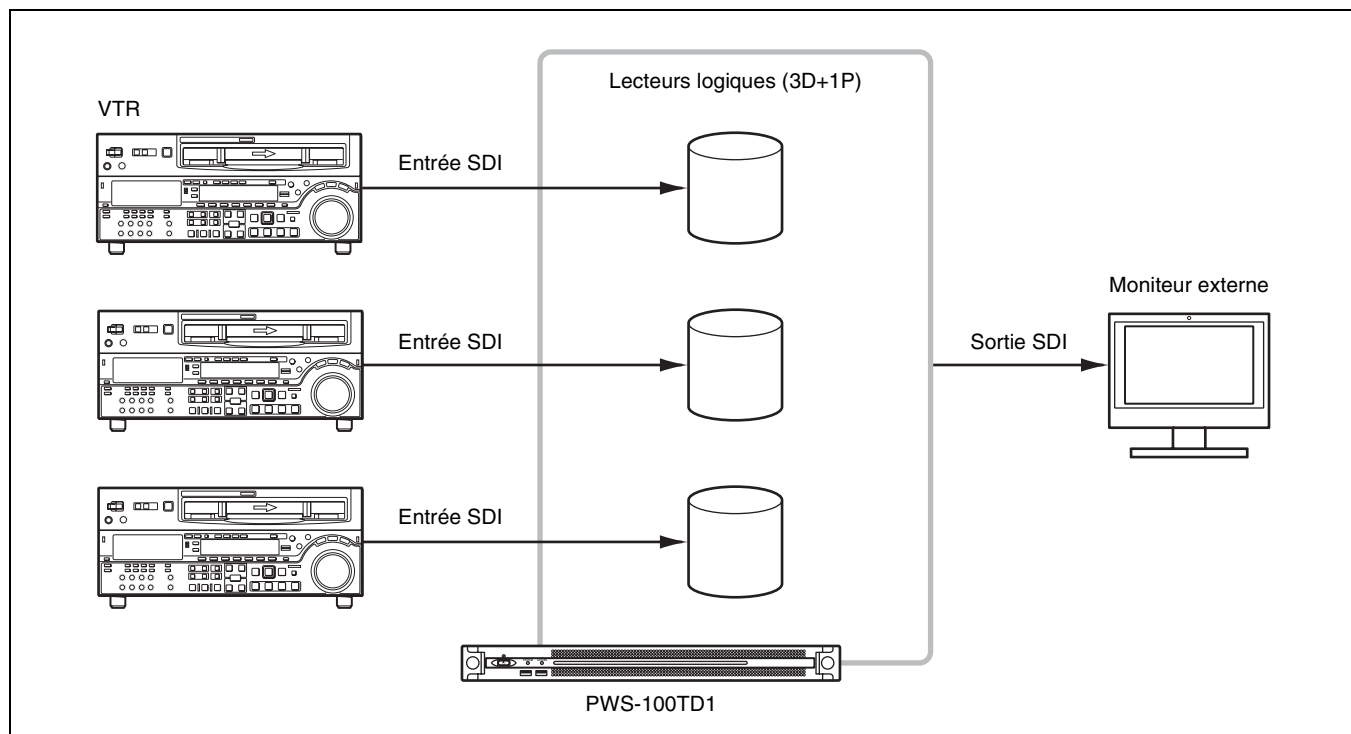
Le PWS-100TD1 prend en charge les configurations RAID suivantes lorsque 12 disques durs au total sont installés.

- 2D + 1P : Contient un total de quatre lecteurs logiques, chaque lecteur logique contenant deux disques durs de données et un disque dur de parité.
- 3D + 1P : Contient un total de trois lecteurs logiques, chaque lecteur logique contenant trois disques durs de données et un disque dur de parité.
- 5D + 1P : Contient un total de deux lecteurs logiques, chaque lecteur logique contenant cinq disques durs de données et un disque dur de parité.

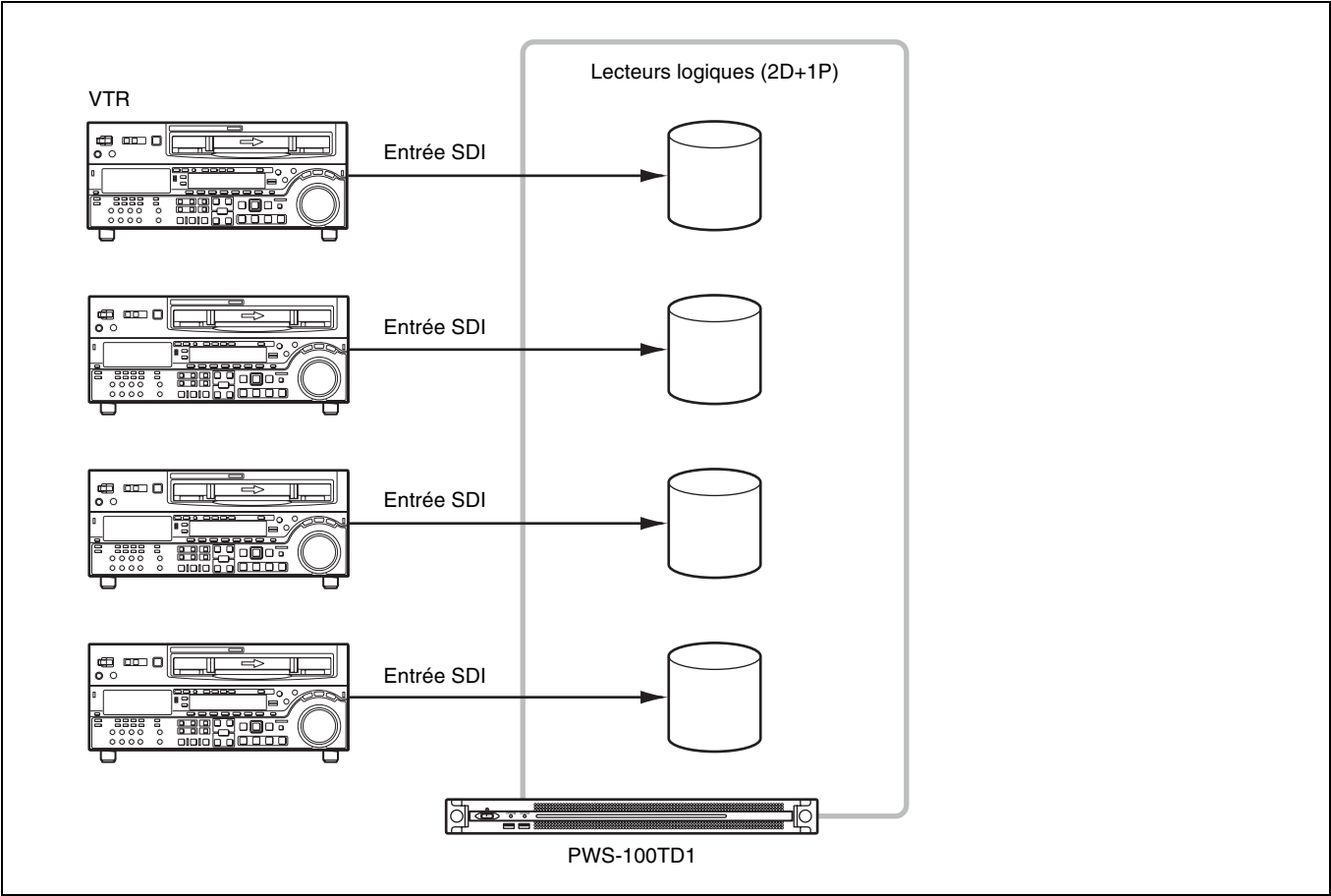
Pour 2 entrées/2 sorties



Pour 3 entrées/1 sortie



Pour 4 entrées



Périphériques pris en charge

L'utilisation des périphériques suivants a été certifiée.

Magnétoscopes pris en charge

L'utilisation des magnétoscopes suivants a été certifiée.

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

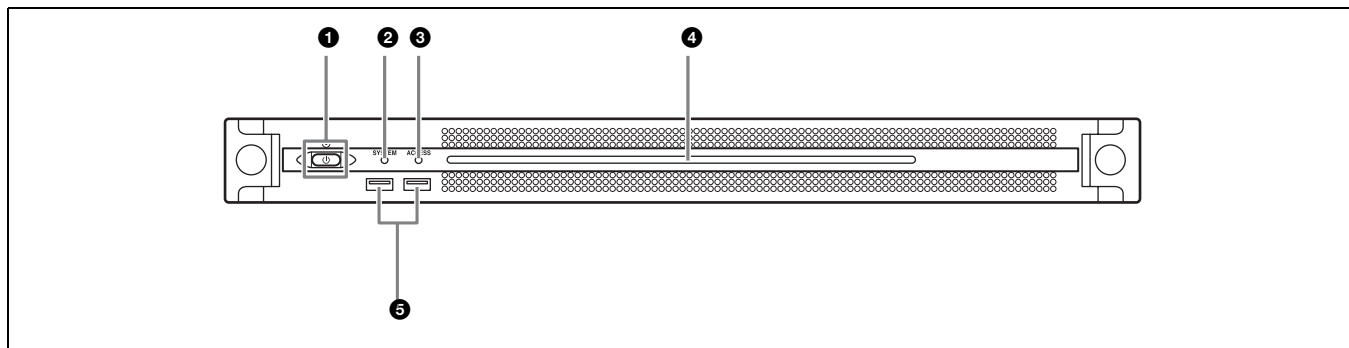
Lecteurs ODS pris en charge

L'utilisation des lecteurs ODS suivants a été certifiée.

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

Nomenclature

Vue de face



❶ Touche et indicateur marche/attente

Met l'appareil sous/hors tension (mode d'attente). La connexion du cordon d'alimentation met l'appareil en attente et l'indicateur s'allume en rouge. Appuyez sur la touche marche/attente en mode d'attente pour mettre l'appareil en marche et l'indicateur s'allume en vert. Appuyez et maintenez la touche marche/attente enfoncée pendant deux secondes pour mettre l'appareil en mode d'attente et l'indicateur s'allume en rouge. Pour remettre l'appareil sous tension après l'avoir fait passer du mode marche au mode d'attente, lorsque l'indicateur est allumé en rouge, appuyez et maintenez la touche marche/attente enfoncée pendant trois secondes ou plus. L'indicateur s'éteint lorsque le cordon d'alimentation est débranché.

❷ Indicateur SYSTEM

Indique l'état de l'appareil.

Vert : Fonctionnement normal

Clignotant en vert (une fois par seconde) : Le système est en cours de démarrage ou en train de passer en mode d'attente.

Clignotant en orange (une fois par seconde) : Un avertissement a été généré.

Clignotant rapidement en rouge (quatre fois par seconde) : Une erreur s'est produite.

❸ Indicateur ACCESS

Indique l'état d'accès au stockage.

Éteint : Pas d'accès au stockage

Bleu : Accès au stockage

❹ DEL du panneau avant

S'allume en fonction des réglages de l'application web. La DEL est configurée à l'aide de [001: LINE LED] sur la page [Settings] de l'écran Maintenance.

❺ Connecteurs USB (panneau avant)

Permettent de raccorder un clavier et une souris pour l'initialisation de l'appareil.

Les périphériques USB qui ne sont pas mentionnés dans ce document ne sont pas pris en charge.

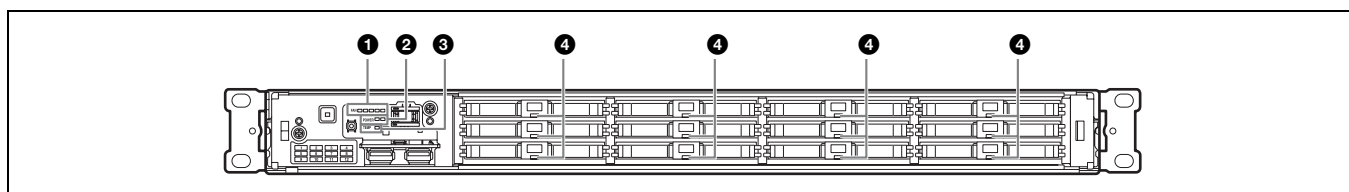
Remarque

Les deux ports USB sur le panneau avant prennent en charge l'alimentation fournie (900 mA).

Vue de face (panneau retiré)

Lorsque l'indicateur SYSTEM ou l'application web indique une erreur, vous pouvez retirer le panneau avant pour vérifier l'état des composants matériels.

Pour retirer le panneau avant, dévissez les vis des côtés gauche et droit, puis tirez le panneau vers vous.



❶ Indicateurs FAN

Si l'un des ventilateurs tombe en panne, l'indicateur du ventilateur correspondant s'allume en rouge.

❷ Indicateurs POWER

Si l'une des alimentations CA tombe en panne, l'indicateur correspondant s'allume en rouge.

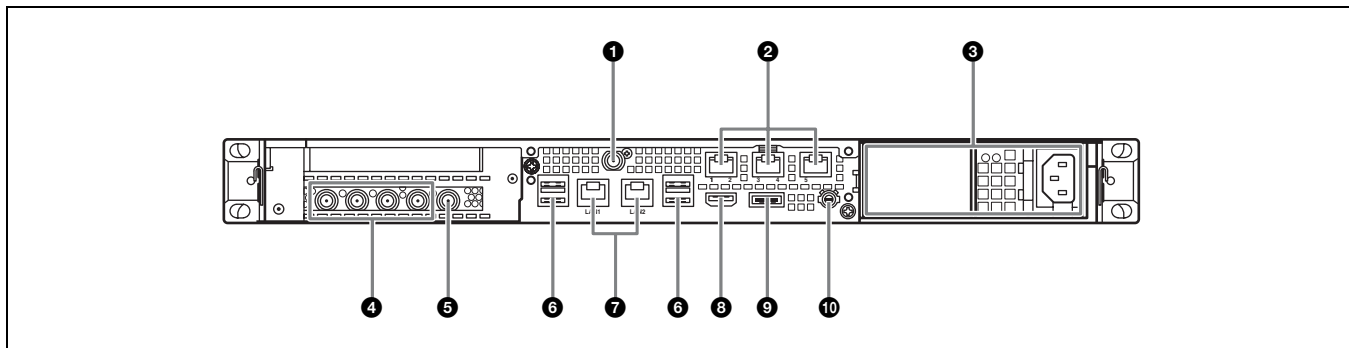
❸ Indicateur TEMP

Si une température anormale est détectée dans l'appareil, cet indicateur s'allume en rouge.

❹ Indicateurs d'état des disques durs

Si un avertissement est généré pour un disque dur, l'indicateur correspondant s'allume en rouge. L'indicateur est éteint si le disque dur correspondant tombe en panne, passe en mode d'attente ou est retiré.

Vue arrière



❶ Connecteur SYSTEM TC

Non utilisé par ce système.

❷ Connecteurs Remote (1/2, 3/4, 5)

Raccordez les magnétoscopes aux connecteurs Remote 1/2 et 3/4 à l'aide du câble de conversion RJ-45 / D-sub (fourni) et des câbles distants à 9 broches disponibles dans le commerce afin de piloter les magnétoscopes à distance. Vous pouvez raccorder deux magnétoscopes à l'aide d'un seul câble de conversion RJ-45 / D-sub et de deux câbles distants à 9 broches.

Le connecteur Remote 5 n'est pas utilisé par ce système.

❸ Unités d'alimentation CA

Insérez les cordons d'alimentation et branchez-les dans les prises électriques.

Une seule unité d'alimentation CA est installée au départ d'usine.

Une deuxième unité d'alimentation optionnelle peut être installée pour fournir une redondance d'alimentation.

Utilisée dans des systèmes qui requièrent de la fiabilité, la redondance d'alimentation permet à l'appareil de continuer à fonctionner même lorsque l'unité d'alimentation principale tombe en panne.

Pour en savoir davantage sur l'installation ou le remplacement d'une unité d'alimentation, contactez le service après-vente ou votre concessionnaire Sony.

❹ Connecteurs SDI (1 à 4)

Les connecteurs SDI 1 à 4 sont numérotés de gauche à droite.

Raccordez un magnétoscope ou un moniteur externe, à l'aide d'un câble SDI, aux signaux d'entrée/sortie SDI.

❺ Connecteur REF IN

Entrez un signal de référence de synchronisation.

❻ Connecteurs USB (panneau arrière)

Raccordez-les aux lecteurs à l'aide de câbles USB.

Les périphériques USB qui ne sont pas mentionnés dans ce document ne sont pas pris en charge.

Remarques

- Sur les quatre connecteurs USB du panneau arrière, seul le port en bas à droite prend en charge l'alimentation fournie (900 mA). Les trois autres ports ne prennent pas en charge l'alimentation fournie et servent à connecter les périphériques USB qui ne nécessitent pas une alimentation fournie par le connecteur USB.
- Utilisez les câbles USB SuperSpeed.

❼ Connecteurs LAN

Raccordez-les à un réseau Gigabit Ethernet.

8 Connecteur HDMI

Raccordez-le à un moniteur à l'aide d'un câble HDMI. Utilisez un câble HDMI conforme au standard suivant.

- Câble HDMI haute vitesse (Câble HDMI haute vitesse Premium)

9 Connecteur DisplayPort

Raccordez à un moniteur en utilisant un câble de conversion DisplayPort-à-DVI ou DisplayPort-à-HDMI. Utilisez un câble de conversion de type actif.

Remarque

Utilisez un câble DisplayPort conforme au standard suivant.

- DP v1.2a (compatible)

10 Borne de mise à la terre

Connectez à la mise à la terre.

Mise en service

Configuration initiale

Avant d'utiliser l'appareil, configurez les paramètres Windows dans l'appareil. La procédure ci-dessous décrit les réglages standard dans Windows 8.

Remarque

Pour redémarrer l'appareil, éteignez d'abord l'appareil puis appuyez de nouveau sur la touche marche/attente sur le panneau avant, sans redémarrer Windows.

- 1 Raccordez un clavier et une souris aux connecteurs USB du panneau avant, puis raccordez un moniteur au connecteur DisplayPort ou au connecteur HDMI du panneau arrière.
- 2 Placez la touche marche/attente en position marche.
- 3 Lorsque l'écran d'ouverture de session Windows s'affiche, saisissez « tds » comme nom d'utilisateur et saisissez « tds » comme le mot de passe vide, puis connectez-vous.

Configuration de la langue de l'interface Windows

- 1 Maintenez la touche Windows enfoncée et appuyez sur la touche X, puis sélectionnez [Control Panel] dans le menu affiché.
- 2 Sélectionnez [Clock, Language, and Region] > [Language].
- 3 Sélectionnez [Add language] pour ajouter une langue.
- 4 Sélectionnez la langue à ajouter, puis cliquez sur [Add].
- 5 Sélectionnez la langue à utiliser et cliquez sur [Move up] jusqu'à ce que la langue s'affiche en haut.
- 6 Fermez votre session actuelle et rouvrez une nouvelle session Windows.

Configuration du réseau

- 1 Raccordez un câble LAN au connecteur LAN du panneau arrière de l'appareil, puis branchez l'autre extrémité au réseau.

- 2** Cliquez sur [View network status and tasks] sous [Network and Internet] dans le panneau de configuration.
- 3** Cliquez sur [Connections] > [LAN 1/2].
- 4** Cliquez sur le bouton [Properties].
- 5** Sélectionnez [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)], puis cliquez sur le bouton [Properties].
- 6** Modifiez l'adresse IP et les autres paramètres à votre convenance.
- 7** Cliquez sur le bouton [Advanced] pour configurer les paramètres DNS, WINS et les autres réglages.
- 8** Lorsque vous avez terminé, cliquez sur le bouton [OK].

Configuration de la date et de l'heure

- 1** Sélectionnez [Set the time and date] sous [Date and Time] dans le panneau de configuration [Clock, Language, and Region].
- 2** Cliquez sur [Change time zone] dans l'onglet [Date and Time], puis sélectionnez le fuseau horaire.
- 3** Cliquez sur [Change date and time] dans l'onglet [Date and Time], puis définissez la date et l'heure.
- 4** Cliquez sur le bouton [Change settings] dans l'onglet [Internet Time].
- 5** Indiquez un serveur NTP, puis cliquez sur le bouton [Update Now].
- 6** Cochez la case [Synchronize with an Internet time server] pour mettre à jour régulièrement l'horloge à l'aide du serveur NTP.

Configuration des mots de passe utilisateur

L'utilisateur par défaut « tds » est configuré pour Windows dans l'appareil. Attribuez un mot de passe à cet utilisateur pour renforcer la sécurité.

- 1** Cliquez sur [User Accounts and Family Safety] dans le panneau de configuration.
- 2** Cliquez sur [User Account] > [Change account type].
- 3** Sélectionnez l'utilisateur « tds ».

- 4** Cliquez sur [Change the password].
- 5** Saisissez un nouveau mot de passe et une question secrète, puis cliquez sur le bouton [Change Password].

Configuration du mot de passe du service

Lors de la configuration/modification du mot de passe utilisateur « tds », configurez le mot de passe du service de la manière suivante.

- 1** Double-cliquez sur [Services] sous [Administrative tools] dans le panneau de configuration [System and Security].
- 2** Faites un clic droit sur « Apache Tomcat 7.0 Tomcat7 » dans la liste des services, puis sélectionnez [Properties].
- 3** Ouvrez l'onglet [Log On].
- 4** Cliquez sur [This account], saisissez « .tds », puis saisissez un mot de passe pour l'utilisateur « tds » sous [Password].
- 5** Cliquez sur le bouton [Apply], puis cliquez sur [OK] pour fermer la boîte de dialogue.
- 6** Sélectionnez « Sony Ingest Service » dans la liste des services, et répétez les étapes **2** à **5**.

Ajout d'un utilisateur

Vous pouvez ajouter de nouveaux utilisateurs à Windows.

- 1** Cliquez sur [User Accounts and Family Safety] dans le panneau de configuration.
- 2** Cliquez sur [User Accounts] > [Change account type].
- 3** Cliquez sur [Add a new user in PC settings].
- 4** Cliquez sur [Add a user].
- 5** Saisissez un nom d'utilisateur, un mot de passe et une question secrète, puis cliquez sur [Next].
- 6** Cliquez sur [Finish].
Ensuite, modifiez le type de compte.
- 7** Cliquez sur [Change account type] sous [User Accounts and Family Safety] dans le panneau de configuration.
- 8** Sélectionnez l'utilisateur dont vous souhaitez modifier le type de compte.

9 Cliquez sur [Change the account type].

10 Sélectionnez [Standard] ou [Administrator], puis cliquez sur le bouton [Change account type].

Modification du nom de l'ordinateur

Le PWS-100TD1 utilise le nom de l'ordinateur pour l'authentification des communications https.

Pour modifier le nom de l'ordinateur, utilisez la procédure suivante. Un nouveau certificat sera généré.

Après avoir modifié le nom de l'ordinateur, ré-importez le nouveau certificat dans le PC client.

1 Sélectionnez [System and Security] > [System] dans [Control Panel].

2 Cliquez sur [Computer name] > [Change Settings].

3 Cliquez sur le bouton [Change] dans l'onglet [Computer name] de la boîte de dialogue [System Properties].

4 Modifiez le nom de l'ordinateur, puis cliquez sur [OK].

5 Redémarrez l'ordinateur lorsque vous êtes invité à le faire.

6 Connectez-vous à nouveau au PWS-100TD1.

7 Ouvrez l'invite de commandes en tant qu'administrateur, et saisissez les commandes suivantes.

```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script  
> keystore.bat
```

8 Redémarrez le système.

9 Ré-importez le certificat comme indiqué dans « *Installation de certificats (page 49)* ».

Fermeture de session

Lorsque vous avez terminé, fermez votre session Windows.

1 Déplacez le pointeur de la souris dans l'angle supérieur droit de l'écran pour afficher la barre des charmes, puis cliquez sur [Start].

2 Cliquez sur le nom du compte dans l'angle supérieur droit de l'écran, puis cliquez sur [Sign out].

Affichage de l'application web

Vous pouvez vous connecter à l'appareil via le réseau à l'aide d'un PC client, puis utiliser l'application web dans un navigateur du client PC pour piloter et configurer l'appareil.

Environnement recommandé du PC client

CPU : Core i5 3 GHz ou supérieur

Mémoire : 4 Go ou supérieur

Système d'exploitation :

Windows 7 Pro 32/64 bits

Windows 8/8.1 Pro 32/64 bits

Mac OS X 10.8/10.9

Navigateur web : Google Chrome 40 ou ultérieur (mise à jour de la dernière version)

Résolution d'affichage : 1366 × 768 pixels ou supérieur

Raccordez un ordinateur conforme aux exigences ci-dessus au connecteur LAN 1 ou LAN 2 du panneau arrière de l'appareil. Saisissez « [https://\(adresse_IP\):8443/tds](https://(adresse_IP):8443/tds) ou https://pws-100-<numéro_de_série>:8443/tds » dans la barre d'adresse du navigateur web de l'ordinateur (où adresse_IP est l'adresse indiquée dans « *Configuration du réseau* ») pour afficher l'application web.

Saisissez le nom d'utilisateur et le mot de passe lorsque l'écran d'identification s'affiche.

Le nom d'utilisateur suivant et son mot de passe sont configurés par défaut.

Nom d'utilisateur : admin

Mot de passe : tds

Paramètres du système

Configurez le système dans l'écran Réglages de l'application web.

Identifiez-vous comme un utilisateur avec des droits administrateur lors de l'ouverture de l'application web.

Pour en savoir davantage sur l'utilisation de l'application web, reportez-vous à l'aide de l'application.

Modification de la langue de l'interface

Vous pouvez modifier la langue de l'interface de l'application web.

Sélectionnez la langue dans [Langue] sur la page [Mes réglages] de l'écran Réglages.

Sélection de la fréquence de fonctionnement

Sélectionnez la fréquence de fonctionnement du système. La fréquence peut être sélectionnée dans [Réglage d'acquisition] sur la page [Acquérir] de l'écran Réglages.

Ajout d'utilisateurs

Pour ajouter des comptes utilisateur en plus du compte administrateur par défaut, ajoutez les nouveaux utilisateurs sur la page [Utilisateur] de l'écran Réglages.

Enregistrement d'une destination de transfert

Pour transférer les plans numérisés sur une cartouche ou un serveur réseau, enregistrez la destination de transfert sur la page [Transférer] de l'écran Réglages.

Installation de certificats

L'affichage de l'application Web grâce à une connexion https depuis un navigateur Web peut entraîner l'apparition d'un message d'erreur, tel que « Le certificat de sécurité du site n'est pas approuvé ! ». Pour vous connecter via https correctement et sans erreur, un certificat racine CA (certificat client) correspondant au serveur (PWS-100-`<numéro_de_série>`) doit être installé sur le navigateur Web.

La partie suivante décrit la procédure permettant d'installer un certificat avec Google Chrome.

Procédure d'installation d'un certificat racine CA

- 1 Accédez à l'application Web utilisant https depuis un navigateur Web.

Un message d'erreur, tel que « Le certificat de sécurité du site n'est pas approuvé ! », apparaît.

- 2 Cliquez sur l'icône de verrou située à l'extrémité gauche de la barre d'adresse.
- 3 Cliquez sur [Informations relatives au certificat] dans la fenêtre contextuelle.

La boîte de dialogue [Certificat] apparaît. Prenez note de l'émetteur du certificat « PWS-100-`<numéro_de_série>` » dans la boîte de dialogue.
- 4 Cliquez sur l'onglet [Détails], puis cliquez sur le bouton [Copier dans un fichier].

Le Certificat Export Wizard (assistant d'exportation de certificat) apparaît.
- 5 Cliquez sur [Suivant].
- 6 Sélectionnez « X.509 binaire encodé DER (.cer) », puis cliquez sur [Suivant].

- 7 Cliquez sur le bouton [Parcourir] et spécifiez le dossier dans lequel enregistrer le certificat, puis cliquez sur [Suivant].

L'exportation du certificat commence.

- 8 Lorsque la fenêtre de fin de l'assistant d'exportation apparaît, cliquez sur [Terminer].
- 9 Lorsque la fenêtre de message apparaît, cliquez sur [OK].
- 10 Cliquez sur le bouton de menu de Chrome, puis sélectionnez [Paramètres] dans le menu.
- 11 Cliquez sur [Afficher les paramètres avancés] dans l'écran Paramètres, puis cliquez sur le bouton [Gérer les certificats] sous [HTTP/SSL].

La boîte de dialogue [Certificats] apparaît.

- 12 Cliquez sur l'onglet [Autorités de certification racines de confiance] de la boîte de dialogue, puis cliquez sur le bouton [Importer].

Le Certificat Import Wizard (assistant d'importation de certificat) apparaît.

- 13 Cliquez sur [Suivant].
- 14 Cliquez sur le bouton [Parcourir] et sélectionnez le fichier téléchargé, puis cliquez sur [Suivant].
- 15 Vérifiez que la case [Placer tous les certificats dans le magasin suivant] est cochée et que « Autorités de certification racines de confiance » est affiché dans [Magasin de certificats :], puis cliquez sur [Suivant].

L'importation du certificat commence.
- 16 Lorsque la fenêtre de fin de l'assistant d'importation apparaît, cliquez sur [Terminer].

L'assistant se ferme.
- 17 Lorsque la fenêtre de message apparaît, cliquez sur [OK].
- 18 Cliquez sur le bouton de menu de Chrome, puis sélectionnez [Quitter] dans le menu. Relancez ensuite Chrome.
- 19 Configurez les réglages de résolution du nom pour que l'émetteur de « PWS-100-`<numéro_de_série>` » noté auparavant se traduise par l'adresse IP configurée dans la partie « *Configuration du réseau (page 46)* », puis connectez-vous à `https://pws-100-<numéro_de_série>:8443/tds`.

Licences de bibliothèque

Reportez-vous au menu [Aide] de l'application web pour les licences de chaque type de bibliothèque utilisée par le PWS-100TD1.

Fonctionnement de l'application Maintenance Web

Pour les détails sur le fonctionnement de l'application Maintenance Web pour les administrateurs système, connectez-vous à l'unité et cliquez sur l'icône de raccourci sur le bureau pour consulter le manuel d'utilisation.

Précautions d'utilisation

Precautions pour les appareils avec lecteur de disque dur integre

Cet appareil est équipé d'un lecteur de disque dur (HDD) interne. Il s'agit d'un appareil de précision. En cas de choc, de vibrations, d'électricité statique et de température ou d'humidité élevée, une perte de données risque de se produire. Observez attentivement les précautions suivantes lors de l'installation et de l'utilisation de l'appareil.

Protection contre les chocs et les vibrations

En cas de chocs ou de vibrations, le lecteur de disque dur risque d'être endommagé et une perte de données est susceptible de se produire.

- Lors du transport de l'appareil, utilisez le matériel d'emballage spécifié. Lors du transport sur un diable ou un autre appareil similaire, utilisez un type de dispositif amortissant les vibrations excessives. Les chocs et vibrations excessifs risquent d'endommager le lecteur de disque dur.
- Ne déplacez jamais l'appareil lorsque celui est sous tension.
- Ne retirez pas les panneaux ou les parties externes de l'appareil.
- Lors de l'installation de l'appareil sur le sol ou un autre endroit, placez-le sur une surface stable et de niveau.
- Ne placez pas l'appareil près d'autres appareils susceptibles de provoquer des vibrations.
- Lors du déplacement de l'appareil, mettez-le toujours hors tension.

Attendez 30 secondes après avoir mis l'appareil hors tension

Les plateaux à l'intérieur du lecteur de disque dur intégré continuent à tourner pendant un court instant après la mise hors tension et les têtes de lecture se trouvent en position dangereuse. Pendant ce court instant, l'appareil est plus sensible aux chocs et aux vibrations qu'en fonctionnement normal. Evitez de soumettre l'appareil à des chocs, même très légers, pendant au moins 30 secondes après la mise hors tension. Ensuite, le disque dur s'arrête complètement et l'appareil peut être déplacé.

Précautions relatives à la température et à l'humidité

Utilisez et rangez l'appareil uniquement dans des endroits respectant les plages de températures et d'humidité spécifiées. (Je suis les spécifications de cet appareil par tous les moyens et s'il vous plaît l'utilise.)

En cas de lecteur de disque dur défectueux

Même si le lecteur de disque dur intégré montre des signes de problème de fonctionnement, veuillez observer toutes les précautions ci-dessus. Cela évitera d'aggraver les

dommages jusqu'à ce que le problème puisse être diagnostiqué et corrigé.

Remplacement du disque dur et d'autres consommables

Le disque dur et la batterie sont des consommables qui doivent être régulièrement remplacés. Lorsque vous utilisez l'appareil à température ambiante, le cycle de remplacement est d'environ 2 à 5 ans. Mais ce cycle de remplacement ne représente qu'une indication et ne garantit pas la durée de vie de ces consommables. Pour plus de détails sur le remplacement de ces pièces, veuillez contacter votre revendeur.

Pour en savoir davantage sur le cycle de remplacement, contactez le service après-vente ou votre concessionnaire Sony.

Précautions relatives à l'alimentation électrique

Une mise hors tension soudaine de l'appareil lors de son fonctionnement peut entraîner une perte de données. Afin de préserver l'intégrité des données, l'utilisation d'un onduleur est recommandée.

Appuyez toujours sur la touche marche/attente de l'appareil avant de débrancher le cordon d'alimentation ou d'éteindre le disjoncteur.

Précautions concernant le périphérique USB

Lorsque vous utilisez l'appareil alors que vous êtes connecté à un périphérique USB auto-alimenté (tel que le ODS-D77U), il est possible que le périphérique ne soit pas reconnu, en fonction du moment auquel le périphérique est mis sous tension. Si cela se produit, mettez le périphérique USB hors tension, puis à nouveau sous tension ou débranchez et rebranchez le câble USB.

Précautions relatives au réseau

En fonction de l'environnement de fonctionnement, des tiers non autorisés sur le réseau peuvent accéder au système.

Nous vous recommandons de configurer tous les mots de passe pour des raisons de sécurité.

Configurez tous les mots de passe suivant la procédure *page 47*.

Pour des raisons de sécurité, lors de l'utilisation de cet appareil connecté au réseau, il est fortement recommandé d'accéder à la fenêtre de commande via un navigateur Web et de modifier la limitation d'accès des valeurs d'usine préétablies (*page 48*).

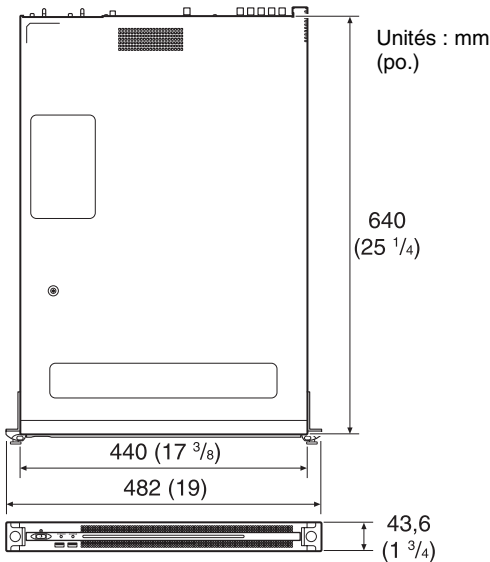
Il est par ailleurs recommandé de modifier régulièrement le mot de passe.

Ne consultez aucun autre site Web dans le navigateur Web pendant ou après la configuration. Étant donné que l'état de connexion est conservé dans le navigateur Web, fermez ce dernier lorsque la configuration est terminée pour empêcher tout tiers non autorisé d'utiliser l'appareil ou d'exécuter des programmes malveillants.

Spécifications

Généralités

- Condition d'alimentation
100 V à 240 V CA
50/60 Hz
- Consommation électrique
235 W
- Consommation électrique en mode d'attente
3 W ou moins
- Température de fonctionnement
5 °C à 35 °C (41 °F à 95 °F)
- Température de rangement
-20 °C à +60 °C (-4 °F à +140 °F)
- Humidité de fonctionnement
20% à 90% (humidité relative)
- Humidité de rangement
5% à 80%
- Poids
14 kg (30 li. 14 on.)
- Dimensions
440 × 43,6 × 640 mm (17 3/8 × 1 3/4 × 25 1/4 po.) (largeur / hauteur / profondeur)



CPU

- Processeur Intel Core i7 6700TE (2,4 GHz)
- Mémoire 8 Go
SO-DIMM (DDR4) (2)
- Lecteur (M.2) 120 Go
- Disques durs (HDD) 2,5 pouces, 500 Go (12)
- Bus d'extension
PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

Entrées/sorties

- LAN RJ-45 (2)
1000BASE-T
100BASE-TX
- USB (panneau avant / panneau arrière)
USB super rapide (USB 3.0) Type A
(6, 2 à l'avant et 4 à l'arrière)
Avant : prise en charge de l'alimentation fournie (900 mA/port)
Arrière : le port en bas à droite prend en charge l'alimentation fournie (900 mA). Alimentation non prise en charge par les trois autres ports.
- HDMI Type A (1)
HDMI Ver. 1.4a,
1920 × 1200 résolution maximale,
60 Hz
- DisplayPort DisplayPort (1)
DisplayPort Ver. 1.1a,
2560 × 1600 résolution maximale,
60 Hz
- Remote RJ-45 (3)
Compatible Sony VTR Protocol
(9 broches), nécessite un câble de conversion RJ-45 / D-sub (fourni)
- REF IN BNC (1)
Conforme SMPTE ST 318,
synchronisation HD à trois niveaux
(0,6 Vp-p, 75 Ω, synchronisation positive / négative) ou synchronisation SD composite / salve noire
(NTSC : 0,286 Vp-p, 75 Ω, synchronisation négative
PAL : 0,3 Vp-p, 75 Ω, synchronisation négative)
- SDI 1 à 4 BNC (4)
HD : Conforme SMPTE ST 292-1
SD : Conforme SMPTE ST 259

Formats pris en charge

Codec	Fréquence de fonctionnement	Résolution Nombre de bits de quantification	Canaux audio
IMX 30M, 40M, 50M UNCOM-PRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8 bits	8 canaux (16-bits) 4 canaux (24-bits)
	50i	720 × 480 422 8 bits	8 canaux (16-bits) 4 canaux (24-bits)
MPEG HD 50M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 8 bits	8 canaux (24-bits)

Codec	Fréquence de fonctionnement	Résolution Nombre de bits de quantification	Canaux audio
MPEG HD 35M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 420 8 bits	4 canaux (16-bits)
		1440 × 1080 420 8 bits	
XAVC-I 100M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 10 bits	8 canaux (24-bits)

Durée d'enregistrement pour chaque configuration RAID

La durée d'enregistrement disponible pour chaque configuration RAID et codec vidéo est indiquée ci-dessous.

Configuration RAID			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
Nombre de lecteurs logiques			4	3	2
Capacité du lecteur ^{a)} (par lecteur logique)			838 Go	1 230 Go	2 050 Go
SD	IMX 30 Mbits/s	Par lecteur	Environ 50 heures	Environ 75 heures	Environ 125 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 200 heures	Environ 225 heures	Environ 250 heures
	IMX 40 Mbits/s	Par lecteur	Environ 35 heures	Environ 55 heures	Environ 95 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 140 heures	Environ 165 heures	Environ 190 heures
	IMX 50 Mbits/s	Par lecteur	Environ 30 heures	Environ 45 heures	Environ 70 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 120 heures	Environ 135 heures	Environ 140 heures
	UNCOM-PRESS 220 Mbits/s	Par lecteur	Environ 7 heures	Environ 10 heures	Environ 18 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 28 heures	Environ 30 heures	Environ 36 heures

Configuration RAID			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
HD	MPEG 35 Mbits/s	Par lecteur	Environ 45 heures	Environ 70 heures	Environ 120 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 180 heures	Environ 210 heures	Environ 240 heures
	MPEG 50 Mbits/s	Par lecteur	Environ 30 heures	Environ 45 heures	Environ 75 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 120 heures	Environ 135 heures	Environ 150 heures
	XAVC 100 Mbits/s	Par lecteur	Environ 15 heures	Environ 25 heures	Environ 40 heures
		Total pour tous les lecteurs	Environ 60 heures	Environ 75 heures	Environ 80 heures

a) Capacité affichée sur l'interface utilisateur.

Remarque

La durée d'enregistrement pouvant être atteinte peut différer des valeurs ci-dessus, en fonction du support d'enregistrement et d'autres conditions.

Accessoires fournis

Câble de conversion RJ-45 / D-sub

Pièce N° 1-848-424-12 (SONY) (2)

Accessoires en option

Alimentation optionnelle PWSK-101

La conception et les spécifications sont sujettes à des modifications sans préavis.

Sony ne peut être tenue responsable de tout dommage, de quelque nature que ce soit, résultant d'une incapacité à mettre en place des mesures de sécurité adaptées pour les dispositifs de transmission, de fuites de données inévitables dues aux spécifications de transmission ou de tout autre problème de sécurité.

Remarques

- Effectuez toujours un essai d'enregistrement pour vérifier que l'enregistrement s'est fait correctement. **Sony n'assumera pas de responsabilité pour les dommages de quelque sorte qu'ils soient, incluant mais ne se limitant pas à la compensation ou au remboursement, suite au manquement de cet appareil ou de son support d'enregistrement, de systèmes de mémoire extérieurs ou de tout autre support ou système de mémoire à enregistrer un contenu de tout type.**
- Vérifiez toujours que l'appareil fonctionne correctement avant l'utilisation. **Sony n'assumera pas de responsabilité pour les dommages de quelque sorte qu'ils soient, incluant mais ne se limitant pas à la compensation ou au remboursement, à cause de la perte de profits actuels ou futurs suite à la défaillance de cet appareil, que ce soit pendant la période de garantie ou après son expiration, ou pour toute autre raison quelle qu'elle soit.**
- **Sony n'assumera pas de responsabilité pour les réclamations, quelle qu'elles soient, effectuées par les utilisateurs de cet appareil ou par des tierces parties.**
- **Sony n'assumera pas de responsabilité pour la perte, la réparation ou la reproduction de toutes données enregistrées sur le système de mémoire intérieur, le support d'enregistrement, les systèmes de mémoire extérieurs ou tout autre support ou système de mémoire.**
- **Sony n'assumera pas de responsabilité pour la cessation ou l'interruption de tout service lié à cet appareil, résultant de quelque circonstance que ce soit.**

- Windows est une marque déposée de Microsoft Corporation aux Etats-Unis et dans d'autres pays.
- Google Chrome est une marque de fabrique ou une marque déposée de Google Inc.

Avant d'utiliser cet appareil, assurez-vous de lire le Contrat de Licence Utilisateur Final dans le manuel d'installation (document séparé). Par conséquent, les symboles ® ou TM ne sont pas utilisés dans le texte.

Ce produit utilise le code source T-Kernel 2.0 basé sur la T-License 2.0 à partir de T-Engine Forum (www.t-engine.org).

Inhaltsverzeichnis

Überblick	56
Beispiele für Systemkonfigurationen	57
Unterstützte Geräte	62
Unterstützte MAZ.....	62
Unterstützte Archivlaufwerke für optische Speicher	62
Name und Funktion der Teile	63
Vorderansicht	63
Vorderansicht (mit abgenommener Blende)	63
Rückansicht	64
Einrichtung	65
Ersteinstellungen	65
Anzeigen der Web-Anwendung	67
Systemeinstellungen	67
Installieren von Zertifikaten	68
Bibliothekslizenzen	69
Bedienung der Webanwendung „Maintenance“	69
Vorsichtsmaßnahmen	69
Spezifikationen	71

Bitte lesen Sie die Sicherheitshinweise in der Bedienungsanleitung des PWS-100 (im Lieferumfang enthalten).

Überblick

Die PWS-100TD1 ist ein System zur Digitalisierung von MAZ-Material zur Erstellung von Clips und Aufbewahrung der Clips auf Kassetten in einem Archivsystem für optische Datenspeicher. Das System verfügt über die nachfolgenden Funktionen.

Einspeisung

Das Gerät erstellt hochauflösende und Proxy-Videodateien aus SDI-Eingangssignalen von einem oder mehreren MAZ und speichert die eingespeisten Clips auf internen Festplatten. Es kann die MAZ-Geräte über eine RS-422-Schnittstelle auch fernsteuern.

Video-Qualitätsüberprüfung

Die Videoqualität der eingelesenen Clips kann automatisch überprüft werden. Das Video kann auch von einem Bediener in der Web-Anwendung oder auf einem externen Monitor visuell überprüft werden.

Aufbewahren von Clips

Hochauflösende Clips können zur Aufbewahrung auf Kassetten oder einen Netzwerkserver übertragen werden.

Arbeitsabläufe

Eine Reihe von Aufgaben, von der Einspeisung bis hin zur Übertragung von Clips, kann mit Arbeitsabläufen als einzelner Prozess ausgeführt werden. Ein Manager definiert die im Arbeitsablauf auszuführenden Aufgaben und weist einen Bediener zu, der die Aufgaben aus einem Arbeitsauftrag ausführt. Der Bediener führt die Aufgaben dann entsprechend dem Arbeitsauftrag aus.

Web-Anwendung

Das Gerät wird über eine grafische Benutzeroberfläche gesteuert und konfiguriert, die in einem Webbrowser auf einem Client-PC angezeigt wird.

Integration mit Management-Software

Die Eigenschaften von auf Kassetten gespeicherten Clips und Proxy-Videodateien können exportiert und mit externer Software verwaltet werden.

Beispiele für Systemkonfigurationen

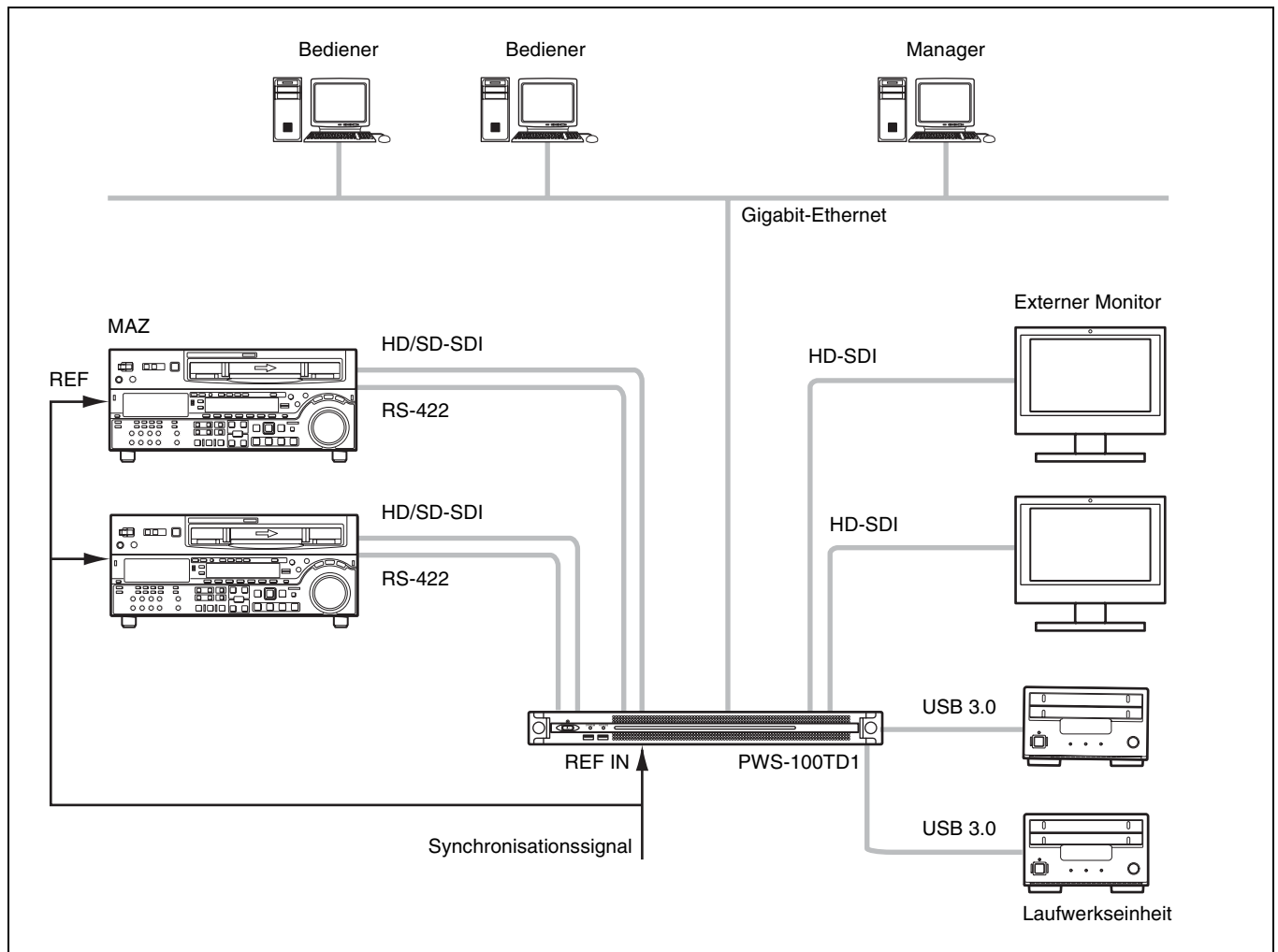
Schließen Sie MAZ und externe Monitore an die SDI-Anschlüsse des Geräts an sowie Laufwerkseinheiten an die USB-Anschlüsse auf der Rückseite an. Sie können eine 2 Eingang/2 Ausgang-, eine 3 Eingang/1 Ausgang oder eine 4 Eingang-Systemkonfiguration auswählen, indem Sie die SDI-Einstellungen in der Webanwendung konfigurieren.

Hinweise

- Wenn mehrere MAZ angeschlossen sind, müssen diese synchronisiert sein ($\pm 1H$).
- Stellen Sie die EE/PB-Einstellung des MAZ auf PB.

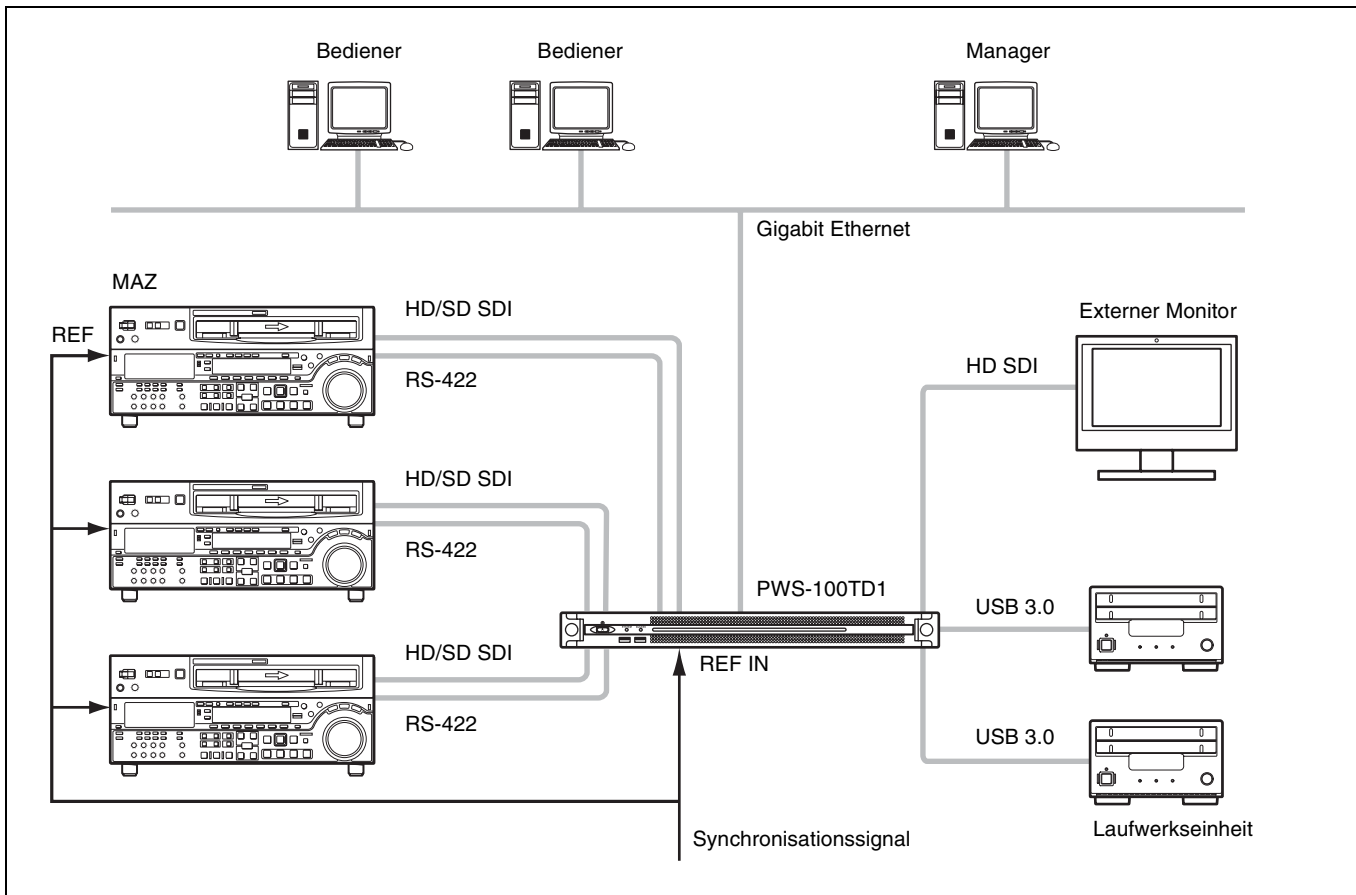
2 Eingänge/2 Ausgänge

Schließen Sie MAZ an den SDI 1- und SDI 2-Anschluss und externe Monitore an den SDI 3- und SDI 4-Anschluss an. Mit dieser Konfiguration können Sie Video von zwei MAZ parallel digitalisieren.



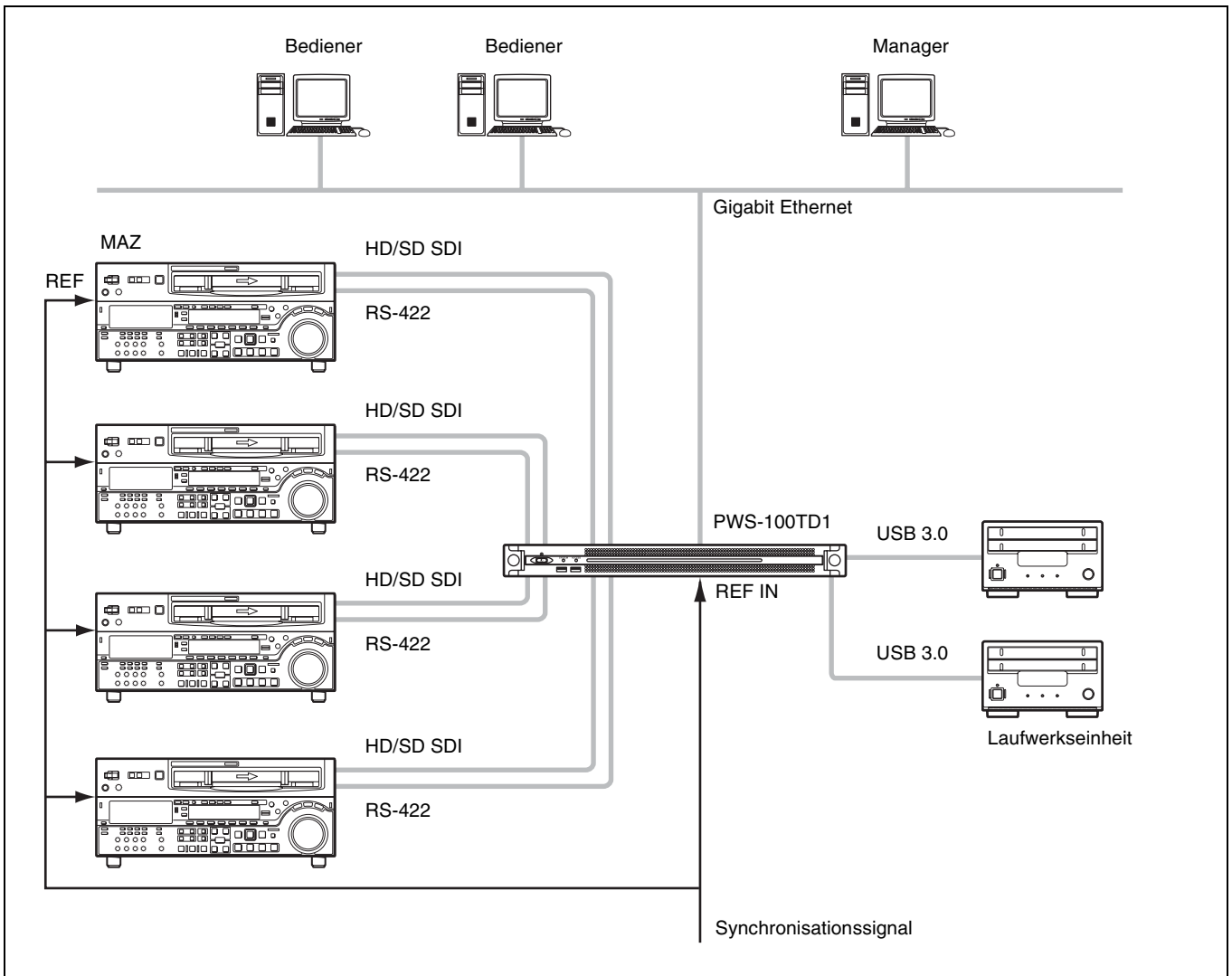
3 Eingänge/1 Ausgang

Schließen Sie MAZ an die Anschlüsse SDI 1 bis 3 an sowie einen externen Monitor an den Anschluss SDI 4 an. Der mit dem Anschluss SDI 4 verbundene externe Monitor dient zur Überwachung der hochauflösenden Bilder von Clips.



4 Eingänge

Schließen Sie MAZ an die Anschlüsse SDI 1 bis 4 an.
Wenn SDI 4 nicht zur Einspeisung verwendet wird,
können Sie die hochauflösenden Bilder von Clips auf der
Benutzeroberfläche überwachen.



Auswahl der RAID-Konfiguration

Legen Sie nach dem Einstellen der Systemkonfiguration die RAID-Konfiguration fest, sodass diese über die gleiche Anzahl SDI-Eingänge und logische Laufwerke verfügt wie die ausgewählte Systemkonfiguration.

Die RAID-Konfiguration legen Sie mithilfe der PWS-100 Maintenance Web Application fest. Legen Sie die RAID-Konfiguration wie nachfolgend aufgeführt entsprechend der ausgewählten Systemkonfiguration fest. Andere als die folgenden Konfigurationen werden nicht unterstützt.

Einzelheiten zur Konfiguration entnehmen Sie der Anleitung zur PWS-100 Maintenance Web Application.

- Für 2 Eingänge/2 Ausgänge: $(5D + 1P) \times 2$
- Für 3 Eingänge/1 Ausgang: $(3D + 1P) \times 3$
- Für 4 Eingänge: $(2D + 1P) \times 4$

Hinweis

Wenn die RAID-Konfiguration geändert wird, werden alle Dateien mit voller Auflösung, Proxy-Dateien, Berichtsdateien und in den internen Speicher geschriebenen Arbeitsaufträge gelöscht.

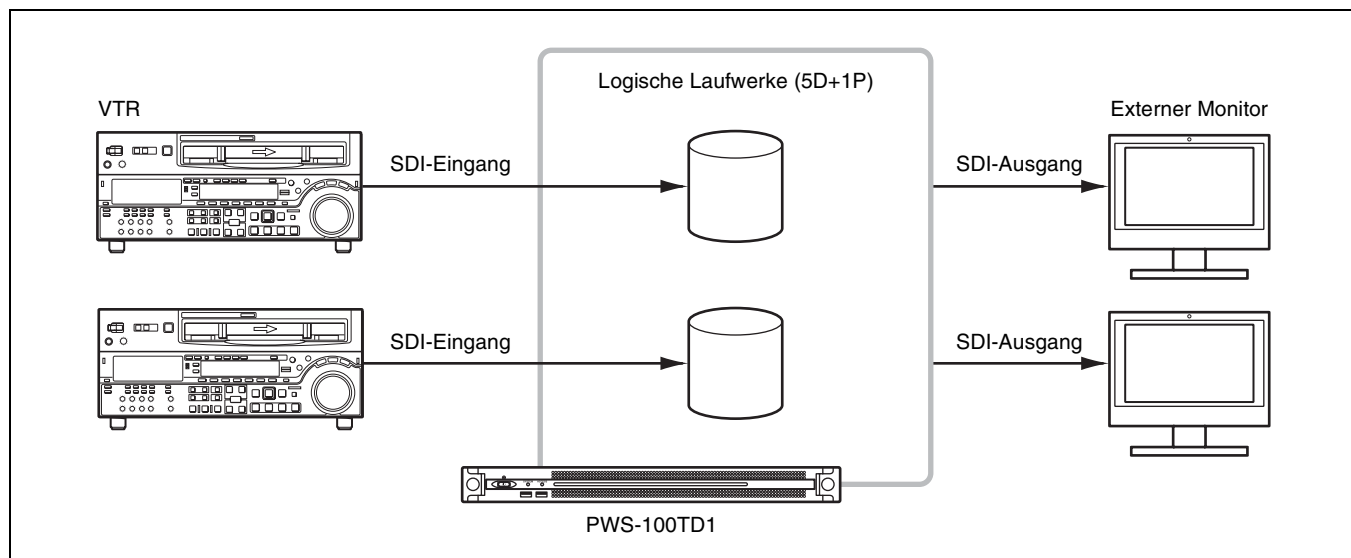
Um Datenverlust zu vermeiden, übertragen Sie alle Daten bzw. laden Sie sie herunter, bevor Sie die RAID-Konfiguration ändern.

Informationen zur RAID-Konfiguration

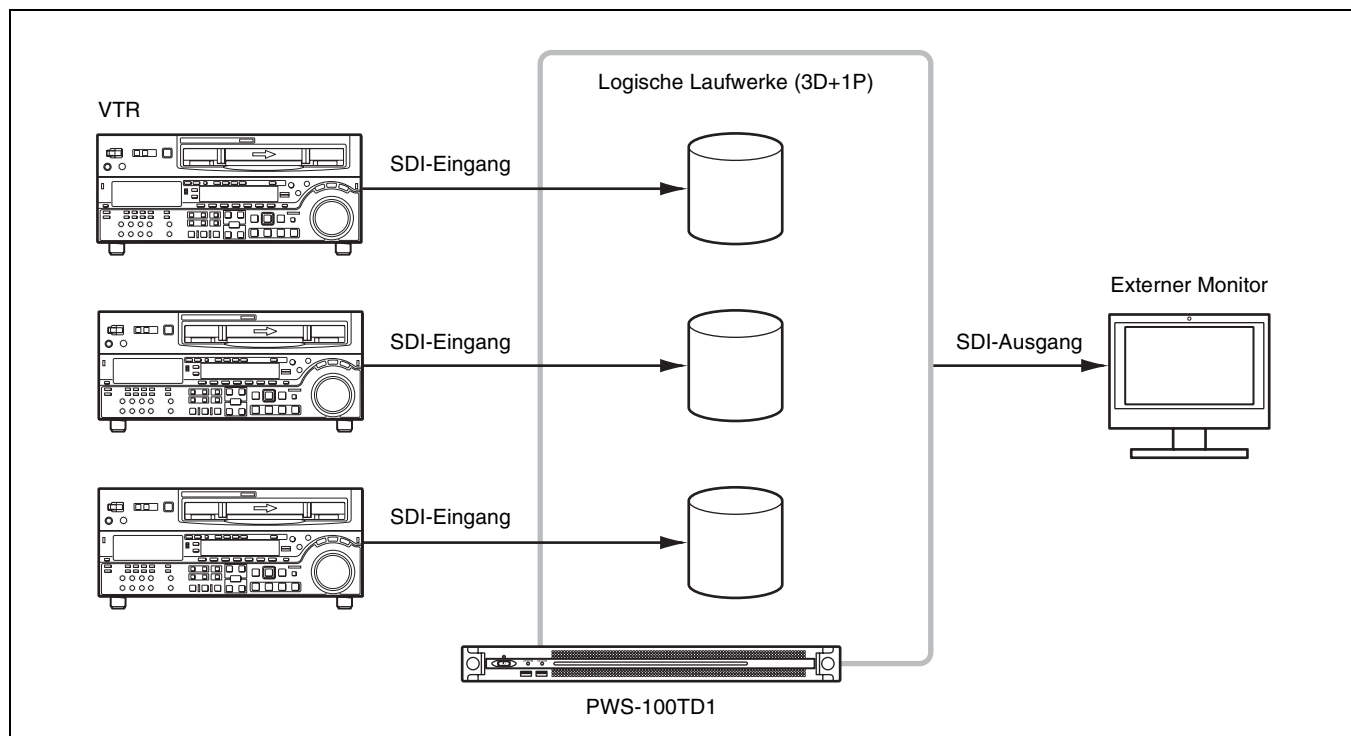
Der PWS-100TD1 unterstützt die folgenden RAID-Konfigurationen, wenn insgesamt 12 Festplatten installiert sind.

- 2D + 1P: Umfasst insgesamt vier logische Laufwerke, wobei jedes logische Laufwerk zwei Datenfestplatten und eine Paritätsfestplatte umfasst.
- 3D + 1P: Umfasst insgesamt drei logische Laufwerke, wobei jedes logische Laufwerk drei Datenfestplatten und eine Paritätsfestplatte umfasst.
- 5D + 1P: Umfasst insgesamt zwei logische Laufwerke, wobei jedes logische Laufwerk fünf Datenfestplatten und eine Paritätsfestplatte umfasst.

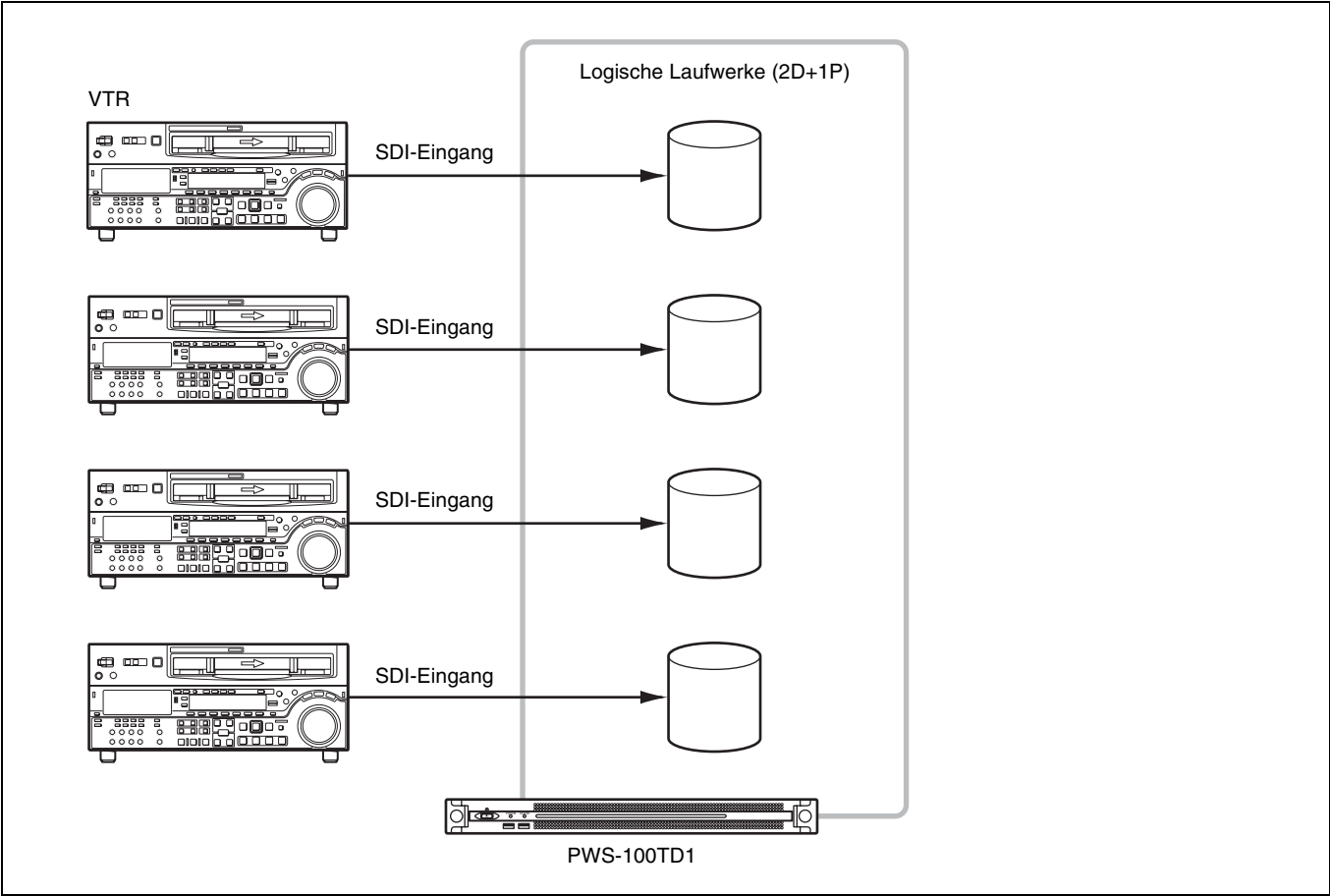
Für 2 Eingänge/2 Ausgänge



Für 3 Eingänge/1 Ausgang



Für 4 Eingänge



Unterstützte Geräte

Der Betrieb mit den folgenden Geräten wurde erfolgreich getestet.

Unterstützte MAZ

Der Betrieb mit den folgenden MAZ wurde erfolgreich getestet.

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

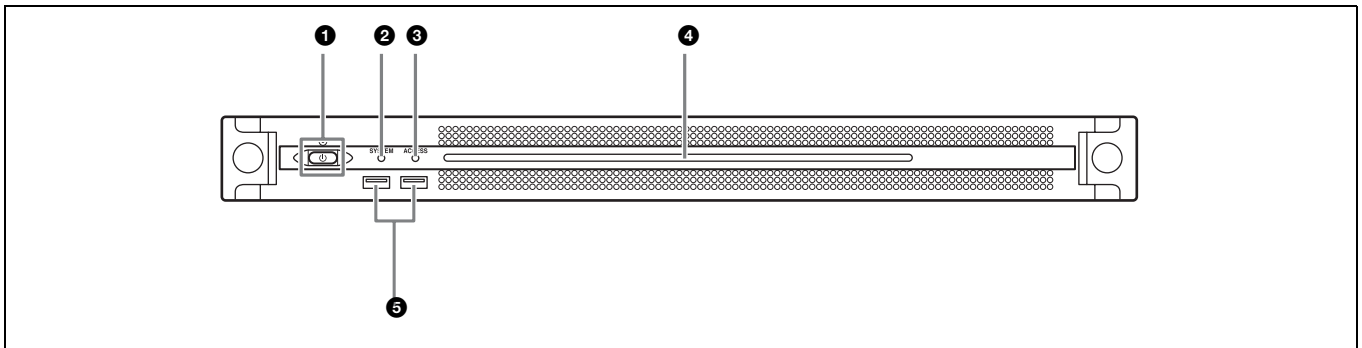
Unterstützte Archivlaufwerke für optische Speicher

Der Betrieb mit den folgenden Archivlaufwerken für optische Speicher wurde erfolgreich getestet.

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

Name und Funktion der Teile

Vorderansicht



1 Taste und LED Ein/Bereitschaft

Schaltet das Gerät ein- und aus (Bereitschaftsmodus). Wenn das Netzkabel angeschlossen wird, wird das Gerät in den Bereitschaftsmodus versetzt und die LED leuchtet rot. Wenn im Bereitschaftsmodus die Taste Ein/Bereitschaft gedrückt wird, wird das Gerät eingeschaltet und die LED leuchtet grün. Wenn die Taste Ein/Bereitschaft zwei Sekunden lang gedrückt wird, wird das Gerät in den Bereitschaftsmodus versetzt, und die LED leuchtet rot. Wenn die LED rot leuchtet und Sie das Gerät wieder einschalten möchten, halten Sie die Taste Ein/Bereitschaft drei Sekunden oder länger gedrückt. Die LED erlischt, wenn das Netzkabel vom Gerät getrennt wird.

2 SYSTEM-LED

Gibt den Status des Gerätes an.

Grün: Normaler Betrieb

Grünes Blinken (einmal pro Sekunde): System startet oder wechselt in den Bereitschaftsmodus.

Oranges Blinken (einmal pro Sekunde): Eine Warnmeldung wurde ausgegeben.

Schnelles rotes Blinken (viermal pro Sekunde): Ein Fehler ist aufgetreten.

3 ACCESS-LED

Gibt den Status des Zugriffs auf den Speicher an.

Aus: Kein Zugriff auf Speicher

Blau: Zugriff auf Speicher

4 LED auf der Frontblende

Leuchtet entsprechend den Einstellungen im Menü der Web-Anwendung. Die LED wird über [001: LINE LED] auf der Seite [Settings] des Wartungsbildschirms konfiguriert.

5 USB-Anschlüsse (Frontblende)

Zum Anschluss einer Tastatur und einer Maus für die Initialisierung des Gerätes.

USB-Geräte, die nicht in diesem Dokument beschrieben werden, werden nicht unterstützt.

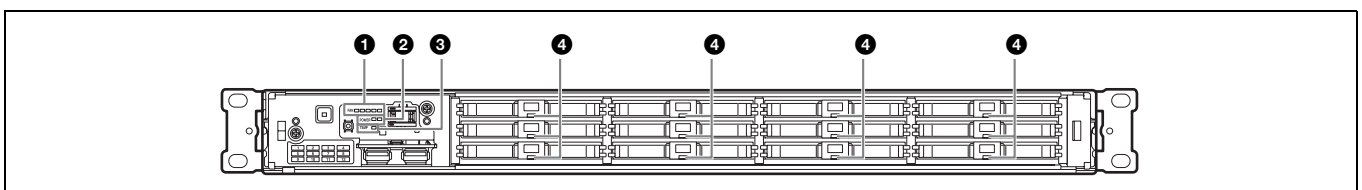
Hinweis

Beide USB-Anschlüsse an der Frontblende unterstützen die Stromversorgung (900 mA).

Vorderansicht (mit abgenommener Blende)

Wenn die SYSTEM-LED oder das Menü der Web-Anwendung einen Fehler anzeigt, können Sie die Frontblende abnehmen, um den Status der Hardwarekomponenten zu überprüfen.

Lösen Sie zum Entfernen der Frontblende die Schrauben auf der linken und rechten Seite und ziehen Sie die Blende nach vorne ab.



❶ FAN-LEDs

Bei einer Fehlfunktion eines Lüfters leuchtet die entsprechende LED rot.

❷ POWER-LEDs

Bei einer Fehlfunktion eines Netzteils leuchtet die entsprechende LED rot.

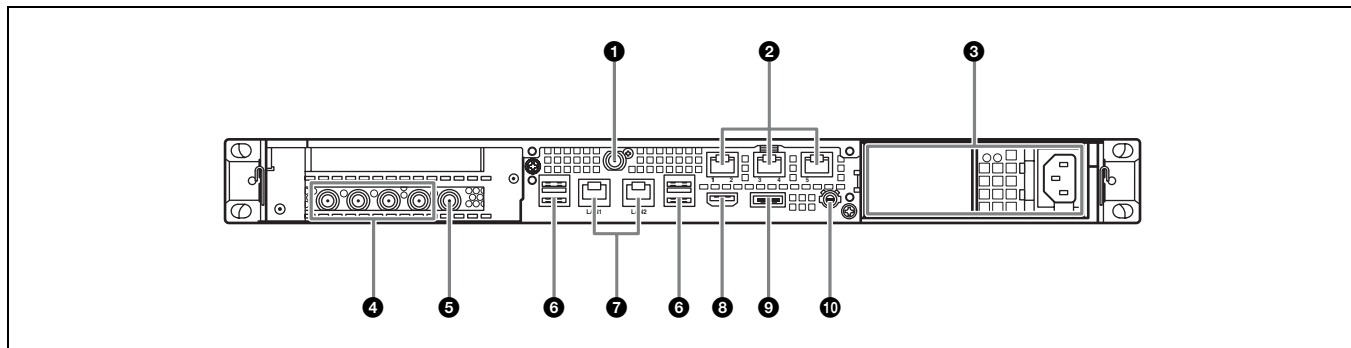
❸ TEMP-LED

Wenn im Gerät eine ungewöhnlich hohe Temperatur erkannt wird, leuchtet die Anzeige rot.

❹ Festplattenstatus-LEDs

Wenn eine Warnung für eine Festplatte ausgegeben wird, leuchtet die entsprechende LED rot. Die LED erlischt, wenn die entsprechende Festplatte ausfällt, sich im Ruhemodus befindet oder entfernt wurde.

Rückansicht



❶ SYSTEM TC-Anschluss

Von diesem System nicht verwendet.

❷ Remote-Anschlüsse (1/2, 3/4, 5)

Hier MAZ-Geräte zum ferngesteuerten Betrieb an die Remote-Anschlüsse 1/2 und 3/4 anschließen. Dazu sind das Konvertierungskabel von RJ-45 D-sub (im Lieferumfang enthalten) und handelsübliche 9-polige Remote-Kabel erforderlich. Mit einem Konvertierungskabel von RJ-45 D-sub und zwei 9-poligen Remote-Kabeln können zwei MAZ angeschlossen werden.

Der Remote-Anschluss 5 wird von diesem System nicht verwendet.

❸ Netzteile

Hier Stromkabel anschließen und mit Steckdosen verbinden.

Werkseitig ist nur ein Netzteil installiert.

Optional kann ein zweites Netzteil installiert werden, wenn eine redundante Stromversorgung gewünscht ist. Bei der Verwendung in Systemen, die eine hohe Zuverlässigkeit erfordern, kann das Gerät durch eine redundante Stromversorgung auch dann weiterbenutzt werden, wenn ein Netzteil ausgefallen ist.

Ausführliche Informationen zum Installieren oder Austauschen eines Netzteils erhalten Sie von Ihrem örtlichen Sony-Vertreter oder Kundendienst.

❹ SDI-Anschlüsse (1 bis 4)

Die Anschlüsse SDI1 bis SDI4 sind von links nach rechts nummeriert.

Mittels SDI-Kabel ein MAZ-Gerät oder einen externen Monitor verbinden, um SDI-Signale ein-/auszugeben.

❺ REF IN-Anschluss

Speisen Sie ein Synchronisierungsreferenzsignal ein.

❻ USB-Anschlüsse (Rückseite)

Mittels USB-Kabeln mit den Laufwerkseinheiten verbinden.

USB-Geräte, die nicht in diesem Dokument beschrieben werden, werden nicht unterstützt.

Hinweise

- Von den vier USB-Anschlüssen auf der Geräterückseite unterstützt nur der untere rechte Anschluss die Stromversorgung (900 mA). Die anderen drei Anschlüsse unterstützen keine Stromversorgung und sollten verwendet werden, um USB-Geräte anzuschließen, die keine vom USB-Anschluss gelieferte Stromversorgung benötigen.
- Verwenden Sie SuperSpeed-USB-Kabel.

❼ LAN-Anschlüsse

Mit einem Gigabit-Ethernet-Netzwerk verbinden.

8 HDMI-Anschluss

Mittels eines HDMI-Kabels mit einem Monitor verbinden. Verwenden Sie ein HDMI-Kabel, das dem folgenden Standard entspricht:

- High Speed HDMI-Kabel (Premium High Speed HDMI-Kabel)

9 DisplayPort-Anschluss

Mittels eines DisplayPort-DVI-Konvertierungskabels oder eines DisplayPort-HDMI-Konvertierungskabels mit einem Monitor verbinden.

Verwenden Sie aktive Konvertierungskabel.

Hinweis

Verwenden Sie ein DisplayPort-Kabel, das dem folgenden Standard entspricht:

- DP v1.2a (konform)

10 Masseanschluss

Mit der Masse verbinden.

Einrichtung

Ersteinstellungen

Konfigurieren Sie die Windows-Einstellungen des Geräts, bevor Sie es verwenden. Die nachfolgende Beschreibung verwendet die Standardeinstellungen in Windows 8.

Hinweis

Um das Gerät neu zu starten, schalten Sie es zuerst aus und schalten Sie dann die Taste Ein/Bereitschaft an der Frontblende wieder ein, ohne Windows neu zu starten.

- 1 Schließen Sie eine Tastatur und Maus an die USB-Anschlüsse an der Frontblende an, und schließen Sie einen Monitor an den DisplayPort- oder HDMI-Anschluss auf der Rückseite an.
- 2 Schalten Sie die Taste Ein/Bereitschaft ein.
- 3 Geben Sie am Windows-Anmeldebildschirm als Benutzernamen „tds“ und Passwort „tds“ ein, dann melden Sie sich an.

Einstellen der Sprache der Windows-Oberfläche

- 1 Halten Sie die Windows-Taste gedrückt, und drücken Sie die Taste X. Wählen Sie im anschließend angezeigten Menü [Control Panel].
- 2 Wählen Sie [Clock, Language, and Region] > [Language].
- 3 Wählen Sie [Add language], um eine Sprache hinzuzufügen.
- 4 Wählen Sie die hinzuzufügende Sprache, und klicken Sie auf [Add].
- 5 Wählen Sie die zu verwendende Sprache, und klicken Sie auf [Move up], bis die Sprache ganz oben angezeigt wird.
- 6 Melden Sie sich ab und wieder an.

Konfigurieren des Netzwerks

- 1 Verbinden Sie ein LAN-Kabel mit dem LAN-Anschluss auf der Rückseite des Geräts, und verbinden Sie das andere Ende des Kabels mit dem Netzwerk.

- 2** Klicken Sie in der Systemsteuerung auf [View network status and tasks] unter [Network and Internet].
- 3** Klicken Sie auf [Connections] > [LAN 1/2].
- 4** Klicken Sie auf [Properties].
- 5** Wählen Sie [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)], und klicken Sie anschließend auf [Properties].
- 6** Ändern Sie die IP-Adresse und die anderen Einstellungen nach Bedarf.
- 7** Klicken Sie auf [Advanced], um DNS, WINS und andere Einstellungen zu konfigurieren.
- 8** Wenn alle Einstellungen vorgenommen sind, klicken Sie auf [OK].

Einstellen von Datum und Uhrzeit

- 1** Wählen Sie in der Systemsteuerung [Set the time and date] unter [Date and Time] im Menü [Clock, Language, and Region].
- 2** Klicken Sie auf [Change time zone] auf der Registerkarte [Date and Time], und wählen Sie die Zeitzone.
- 3** Klicken Sie auf [Change date and time] auf der Registerkarte [Date and Time], und stellen Sie Datum und Uhrzeit ein.
- 4** Klicken Sie auf [Change settings] auf der Registerkarte [Internet Time].
- 5** Geben Sie einen NTP-Server an, und klicken Sie auf [Update Now].
- 6** Aktivieren Sie das Kontrollkästchen neben [Synchronize with an Internet time server], um die Uhr in regelmäßigen Abständen anhand des NTP-Servers zu korrigieren.

Einstellen von Benutzerpasswörtern

Innerhalb des Geräts ist für Windows der Standardbenutzer „tds“ konfiguriert. Stellen Sie ein Passwort für den Benutzer ein, um mehr Sicherheit zu erhalten.

- 1** Klicken Sie in der Systemsteuerung auf [User Accounts and Family Safety].

- 2** Klicken Sie auf [User Account] > [Change account type].
- 3** Wählen Sie den Benutzer „tds“.
- 4** Klicken Sie auf [Change the password].
- 5** Geben Sie ein neues Passwort und einen Passworthinweis ein, und klicken Sie dann auf [Change Password].

Einstellen des Servicepasswortes

Stellen Sie beim Einstellen/Ändern des „tds“-Benutzerpasswortes das Servicepasswort wie folgt ein.

- 1** Doppelklicken Sie in der Systemsteuerung [System and Security] unter [Administrative tools] auf [Services].
- 2** Rechtsklicken Sie in der Service-Liste auf „Apache Tomcat 7.0 Tomcat7“ und wählen Sie [Properties].
- 3** Öffnen Sie die Registerkarte [Log On].
- 4** Klicken Sie auf [This account], geben Sie „\tds“ ein und geben Sie dann für Benutzer „tds“ unter [Password] ein Passwort ein.
- 5** Klicken Sie auf die Taste [Apply], klicken Sie dann auf [OK], um den Dialog zu schließen.
- 6** Wählen Sie in der Service-Liste „Sony Ingest Service“ und wiederholen Sie die Schritte **2** bis **5**.

Hinzufügen von Benutzern

Sie können neue Windows-Benutzer hinzufügen.

- 1** Klicken Sie in der Systemsteuerung auf [User Accounts and Family Safety].
- 2** Klicken Sie auf [User Accounts] > [Change account type].
- 3** Klicken Sie auf [Add a new user in PC settings].
- 4** Klicken Sie auf [Add a user].
- 5** Geben Sie einen Benutzernamen, ein Passwort und einen Passworthinweis ein, und klicken Sie auf [Next].
- 6** Klicken Sie auf [Finish].
Ändern Sie als nächstes den Kontotyp.

- 7** Klicken Sie in der Systemsteuerung auf [Change account type] unter [User Accounts and Family Safety].
- 8** Wählen Sie den Benutzer aus, dessen Kontotyp Sie ändern möchten.
- 9** Klicken Sie auf [Change the account type].
- 10** Wählen Sie [Standard] oder [Administrator], und klicken Sie anschließend auf [Change account type].

Ändern des Computernamens

Die PWS-100TD1 verwendet den Namen des Computers als Teil der Authentifizierung für die HTTPS-Kommunikation.

Um den Computernamen zu ändern, gehen Sie entsprechend der folgenden Anleitung vor. Ein neues Zertifikat wird erzeugt.

Nachdem der Computernamen geändert wurde, importieren Sie das neue Zertifikat auf dem Client-PC.

- 1** Wählen Sie in [Control Panel] die Option [System and Security] > [System].
- 2** Klicken Sie auf [Computer name] > [Change Settings].
- 3** Klicken Sie im Dialogfeld [System Properties] auf der Registerkarte [Computer name] auf die Schaltfläche [Change].
- 4** Ändern Sie den Computernamen und klicken Sie dann auf [OK].
- 5** Starten Sie den Computer neu, wenn Sie dazu aufgefordert werden.
- 6** Melden Sie sich erneut an der PWS-100TD1-Einheit an.
- 7** Öffnen Sie die Eingabeaufforderung mit Administratorrechten und geben Sie die folgenden Befehle ein.


```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script
> keystore.bat
```
- 8** Starten Sie das System neu.
- 9** Importieren Sie das Zertifikat erneut entsprechend der Beschreibung im Abschnitt „*Installieren von Zertifikaten*“ (Seite 68).

Abmelden

Melden Sie sich von Windows ab, wenn Sie die Einstellungen beendet haben.

- 1** Bewegen Sie den Mauszeiger nach oben rechts, um die Charms anzuzeigen, und klicken Sie auf [Start].
- 2** Klicken Sie oben rechts auf den Kontonamen, und klicken Sie anschließend auf [Sign out].

Anzeigen der Web-Anwendung

Die Verbindung mit dem Gerät wird von einem Client-PC aus über das Netzwerk hergestellt. Anschließend kann die Web-Anwendung in einem Webbrowser auf dem Client-PC verwendet werden, um das Gerät zu steuern und zu konfigurieren.

Empfohlene Spezifikationen für den Client-PC

CPU: Core i5 3 GHz oder besser

Speicher: 4 GB oder mehr

BS: Windows 7 Pro 32-/64-Bit

Windows 8/8.1 Pro 32-/64-Bit

Mac OS X 10.8/10.9

Webbrowser: Google Chrome 40 oder höher (auf die neueste Version aktualisieren)

Bildschirmauflösung: 1366 × 768 Pixel oder höher

Schließen Sie einen Computer, der die obigen Anforderungen erfüllt, an den LAN-1- oder LAN-2-Anschluss auf der Rückseite des Geräts an. Geben Sie „https://(IP_Adresse):8443/tds oder https://pws-100-<Seriennummer>:8443/tds“ In die Adressleiste eines Webbrowsers auf dem Computer ein (wobei IP_Adresse die in „*Konfigurieren des Netzwerks*“ angegebene Adresse ist), um die Web-Anwendung anzuzeigen. Geben Sie am Anmeldebildschirm den Benutzernamen und das Passwort ein.

Standardmäßig sind folgender Benutzername und folgendes Kennwort konfiguriert.

Benutzername: admin

Passwort: tds

Systemeinstellungen

Konfigurieren Sie das System über den Einstellungen-Bildschirm der Web-Anwendung.

Melden Sie sich als Benutzer mit Administratorrechten bei der Web-Anwendung an.

Details zur Bedienung der Web-Anwendung finden Sie in der Hilfe der Anwendung.

Ändern der Sprache der Benutzeroberfläche

Sie können die Sprache der Benutzeroberfläche der Web-Anwendung ändern.

Wählen Sie dazu im Einstellungen-Bildschirm auf der Seite [Meine Einstellungen] die Option [Sprache].

Auswählen der Betriebsfrequenz

Wählen Sie die Betriebsfrequenz des Systems. Wählen Sie die Frequenz im Einstellungen-Bildschirm auf der Seite [Einspeisung] unter [Einstellung einspeisen].

Hinzufügen von Benutzern

Neue Benutzer (zusätzlich zum standardmäßigen Admin-Konto) werden im Einstellungen-Bildschirm auf der Seite [Benutzer] hinzugefügt.

Registrieren eines Übertragungszielorts

Wenn Sie eingespeiste Clips auf eine Kassette oder einen Netzwerkservers übertragen möchten, registrieren Sie den Übertragungszielort im Einstellungen-Bildschirm auf der Seite [Übertragen].

Installieren von Zertifikaten

Wenn Sie die Webanwendung über eine https-Verbindung in einem Webbrowser aufrufen, wird möglicherweise eine Fehlermeldung wie „Das Sicherheitszertifikat der Website ist nicht vertrauenswürdig!“ angezeigt. Um über eine https-Verbindung fehlerfrei zu kommunizieren, muss im Webbrowser ein Root CA-Zertifikat (Client-Zertifikat) installiert werden, das sich auf den Server (PWS-100-<Seriennummer>) bezieht.

Nachfolgend wird beschrieben, wie Sie unter Google Chrome ein Zertifikat installieren.

Vorgehensweise zum Installieren eines Root CA-Zertifikats

- 1 Rufen Sie in einem Webbrowser über https die Webanwendung auf.

Es wird eine Fehlermeldung wie „Das Sicherheitszertifikat der Website ist nicht vertrauenswürdig!“ angezeigt.

- 2 Klicken Sie auf das Schlosssymbol links neben der Adresszeile.

- 3 Klicken Sie im Popup-Fenster auf [Zertifikatinformationen].

Das Dialogfeld [Zertifikate] wird angezeigt. Notieren Sie den im Dialogfeld angezeigten Zertifikatsherausgeber „PWS-100-<Seriennummer>“.

- 4 Klicken Sie auf die Registerkarte [Details] und dann auf die Schaltfläche [In Datei kopieren...].

Der Zertifikatsexport-Assistent wird angezeigt.

- 5 Klicken Sie auf [Weiter].

- 6 Wählen Sie „DER-codiert-binär X.509 (.CER)“ aus und klicken Sie auf [Weiter].

- 7 Klicken Sie auf die Schaltfläche [Durchsuchen...] und geben Sie einen Ordner an, in dem das Zertifikat gespeichert werden soll. Klicken Sie dann auf [Weiter].

Der Export des Zertifikats beginnt.

- 8 Sobald das Fenster zum Fertigstellen des Zertifikatsexport-Assistenten angezeigt wird, klicken Sie auf [Fertigstellen].

- 9 Sobald das Meldungsfenster angezeigt wird, klicken Sie auf [OK].

- 10 Klicken Sie auf die Chrome-Menüschaltfläche und wählen Sie dann [Einstellungen] im Menü aus.

- 11 Klicken Sie auf dem Bildschirm Einstellungen auf [Erweiterte Einstellungen anzeigen] und dann unter [HTTP/SSL] auf die Schaltfläche [Zertifikate verwalten...].

Das Dialogfeld [Zertifikate] wird angezeigt.

- 12 Klicken Sie im Dialogfeld auf die Registerkarte [Vertrauenswürdige Stammzertifizierungsstellen] und dann auf die Schaltfläche [Importieren...].

Der Zertifikatsimport-Assistent wird angezeigt.

- 13 Klicken Sie auf [Weiter].

- 14 Klicken Sie auf die Schaltfläche [Durchsuchen...] und wählen Sie die heruntergeladene Datei aus. Klicken Sie dann auf [Weiter].

- 15** Stellen Sie sicher, dass [Alle Zertifikate in folgendem Speicher speichern] ausgewählt ist und dass „Vertrauenswürdige Stammzertifizierungsstellen“ unter [Zertifikatspeicher:] angezeigt wird. Klicken Sie dann auf [Weiter].

Der Import des Zertifikats beginnt.

- 16** Sobald das Fenster zum Fertigstellen des Zertifikatsimport-Assistenten angezeigt wird, klicken Sie auf [Fertigstellen].

Der Assistent wird beendet.

- 17** Sobald das Meldungsfenster angezeigt wird, klicken Sie auf [OK].

- 18** Klicken Sie auf die Chrome-Menüschaltfläche und wählen Sie dann [Beenden] im Menü aus. Starten Sie Chrome dann neu.

- 19** Konfigurieren Sie die Einstellungen zur Namensauflösung so, dass der zuvor notierte Aussteller „PWS-100-<Seriennummer>“ auf die unter „Konfigurieren des Netzwerks“ (Seite 65) festgelegte IP-Adresse auflöst. Rufen Sie dann <https://pws-100-<Seriennummer>:8443/tds> auf.

Bibliothekslizenzen

Weitere Informationen zu den Lizenzen für jeden von der PWS-100TD1 verwendeten Bibliothekstyp finden Sie im Menü [Hilfe] der Web-Anwendung.

Bedienung der Webanwendung „Maintenance“

Einzelheiten zur Bedienung der Maintenance Web Application für Systemadministratoren erhalten Sie, indem Sie sich am Gerät anmelden und auf das Shortcut-Symbol für die Bedienungsanleitung auf dem Desktop klicken.

Vorsichtsmaßnahmen

Sicherheitshinweise für Produkte mit eingebauter Festplatte

Dieses Gerät ist mit einer eingebauten Festplatte ausgestattet. Die Festplatte ist ein Präzisionsgerät. Wenn sie Stößen, Vibrationen, statischer Elektrizität, hohen Temperaturen oder hoher Luftfeuchtigkeit ausgesetzt wird, kann es zu Datenverlusten kommen. Beachten Sie beim Installieren und Verwenden des Geräts unbedingt folgende Sicherheitshinweise.

Schutz vor Stößen und Vibrationen

Wenn die Festplatte Stößen und Vibrationen ausgesetzt wird, kann sie beschädigt werden und Daten können verloren gehen.

- Verwenden Sie zum Transport des Geräts das angegebene Verpackungsmaterial. Beim Transport auf einem fahrbaren Rollwagen oder ähnlichem dürfen keine übermäßigen Vibrationen auftreten. Bei starken Stößen und Erschütterungen kann die Festplatte beschädigt werden.
- Stellen Sie das Gerät nie um, solange es eingeschaltet ist.
- Nehmen Sie keine Abdeckungen oder äußeren Teile vom Gerät ab.
- Wird das Gerät auf dem Boden oder einer anderen Oberfläche aufgestellt, muss diese Oberfläche eben und stabil sein.
- Stellen Sie das Gerät nicht in die Nähe anderer Geräte, die Vibrationen verursachen könnten.
- Die Stromversorgung immer abschalten, wenn das Gerät bewegt wird.

Warten Sie nach dem Ausschalten des Geräts 30 Sekunden lang

Nach dem Ausschalten des Geräts drehen sich die Platten im Festplattenlaufwerk eine kurze Weile weiter und die Köpfe befinden sich in einer instabilen Position. In dieser Zeit ist das Gerät bei Stößen und Vibrationen noch empfindlicher als im normalen Betrieb. Schützen Sie das Gerät nach dem Ausschalten mindestens 30 Sekunden lang selbst vor äußerst geringen Erschütterungen. Danach befindet sich die Festplatte vollständig im Ruhezustand und das Gerät kann transportiert werden.

Sicherheitshinweise hinsichtlich Temperatur und Luftfeuchtigkeit

Verwenden und lagern Sie das Gerät nur an Orten, an denen die angegebenen Temperatur- und Luftfeuchtigkeitswerte nicht über- oder unterschritten werden. (Ich folge den genauen Angaben dieses Gerätes und benutze es bitte.)

Bei defekter Festplatte

Beachten Sie bitte alle oben genannten Sicherheitshinweise, auch wenn die Festplatte bereits

Fehlfunktionen aufweist. Damit lassen sich weitere Schäden verhindern, bis das Problem festgestellt und behoben werden kann.

Ersetzen der Festplatte und anderer Verbrauchsmaterialien

Festplatte und Batterie des Geräts sind Verbrauchsmaterialien, die regelmäßig ersetzt werden müssen. Wenn das Gerät bei Raumtemperatur betrieben wird, sollten die Teile ca. alle 2 bis 5 Jahre ersetzt werden. Diese Ersatzfristen stellen jedoch nur eine allgemeine Richtlinie und keine Garantie der Lebensdauer dieser Teile dar. Weitere Informationen zum Austausch von Komponenten erhalten Sie bei Ihrem Händler. Details zum Ersatzzyklus erhalten Sie von Ihrem örtlichen Sony-Vertreter oder Kundendienst.

Vorsichtsmaßnahmen bezüglich der Stromversorgung

Falls das Gerät während des Betriebs plötzlich ausgeschaltet wird, könnte ein Datenverlust auftreten. Um die Datenintegrität aufrecht zu erhalten wird die Verwendung einer unterbrechungsfreien Stromversorgung (UPS) empfohlen.

Um das Netzkabel zu trennen oder den Ausschalter auszuschalten, drücken Sie stets die Taste Ein/Bereitschaft an dem Gerät, um das Gerät auszuschalten, bevor Sie fortfahren.

Vorsichtsmaßnahmen für die Nutzung von USB-Geräten

Wenn Sie das Gerät in Verbindung mit einem USB Gerät mit eigener Stromversorgung (zum Beispiel dem ODS-D77U) verwenden, kann das Gerät unter Umständen in Abhängigkeit vom Zeitpunkt des Einschaltens nicht erkannt werden. Schalten Sie in diesem Fall das USB-Gerät aus und wieder ein oder ziehen Sie das USB-Kabel ab und schließen Sie es wieder an.

Vorsichtsmaßnahmen beim Arbeiten mit Netzwerken

In Abhängigkeit von der Betriebsumgebung können unter Umständen nicht autorisierte Dritte im Netzwerk Zugriff auf das System erlangen.

Aus Sicherheitsgründen empfehlen wir dringend, alle Passwörter zu konfigurieren.

Konfigurieren Sie alle Passwörter entsprechend der Anleitung in *Seite 66*.

Vom Sicherheitsstandpunkt sollten Sie unbedingt über einen Webbrowser auf das Steuerfenster zugreifen und die werkseitig eingestellten Werte für die Zugriffseinschränkung ändern, wenn das Gerät mit dem Netzwerk verbunden ist (*Seite 67*).

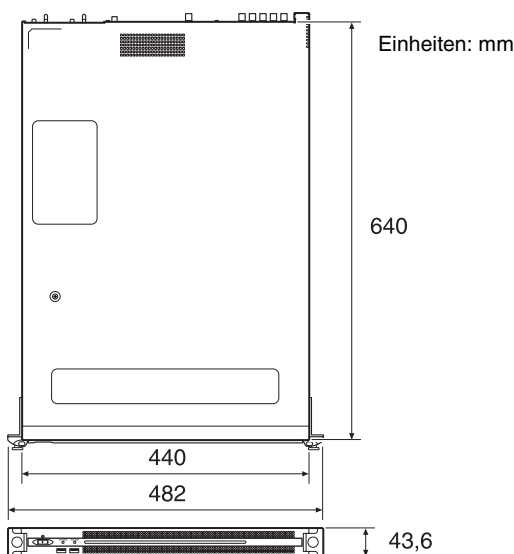
Es wird auch empfohlen, das Passwort regelmäßig zu ändern.

Rufen Sie keine andere Website im Webbrowser auf, während Sie Einstellungen vornehmen oder nachdem Sie Einstellungen vorgenommen haben. Da der Anmeldestatus beim Webbrowser gespeichert bleibt, schließen Sie den Webbrowser, wenn Sie die Einstellungen abgeschlossen haben, um zu verhindern, dass unautorisierte Dritte das Gerät nutzen oder schädliche Programme ausführen.

Spezifikationen

Allgemein

Stromversorgung	100 V bis 240 V AC 50/60 Hz
Leistungsaufnahme	235 W
Leistungsaufnahme im Bereitschaftsmodus	3 W oder niedriger
Betriebstemperatur	5 °C bis 35 °C
Lagertemperatur	-20 °C bis +60 °C
Luftfeuchtigkeit im Betrieb	20% bis 90% (Relative Luftfeuchtigkeit)
Luftfeuchtigkeit bei Lagerung	5% bis 80%
Masse	14 kg
Abmessungen	440 × 43,6 × 640 mm (Breite / Höhe / Tiefe)



CPU

Prozessor	Intel Core i7 6700TE (2,4 GHz)
Speicher	8 GB SO-DIMM (DDR4) (2)
Laufwerk (M.2)	120 GB
Festplatten (HDD)	2,5 Zoll, 500 GB (12)
Erweiterungsbuss	PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

Eingänge/Ausgänge

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB (Vorderseite/Rückseite)	Super Speed USB (USB 3.0) Typ A (6, 2 auf der Vorderseite und 4 auf der Rückseite) Vorderseite: Stromversorgung wird unterstützt (900 mA/Anschluss) Rückseite: Stromversorgung wird von unterem rechten Anschluss unterstützt, (900 mA), keine Unterstützung bei den anderen drei Anschlüssen
HDMI	Typ A (1) HDMI Ver. 1.4a, 1920 × 1200 max. Auflösung, 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort Ver. 1.1a, 2560 × 1600 max. Auflösung, 60 Hz
Remote	RJ-45 (3) kompatibel mit dem Sony MAZ-Protokoll (9-polig), erfordert Konvertierungskabel RJ-45 zu D-sub (im Lieferumfang enthalten)
REF IN	BNC (1) SMPTE ST 318-konform, dreistufige HD-Sync. (0,6 Vp-p, 75 Ω, positive/negative Synchronisation) oder SD-Black-Burst-/Composite-Sync. (NTSC: 0,286 Vp-p, 75 Ω, negative Synchronisation PAL: 0,3 Vp-p, 75 Ω, negative Synchronisation)
SDI 1 bis 4	BNC (4) HD: SMPTE ST 292-1-konform SD: SMPTE ST 259-konform

Unterstützte Formate

Codec	Betriebsfrequenz	Auflösung, Anzahl an Quantisierungsbits	Audiokanäle
IMX 30M, 40M, 50M	59,94i	720 × 576 422 8-Bit	8 Kan. (16-Bit) 4 Kan. (24-Bit)
UNCOMPRESS 220M	50i	720 × 480 422 8-Bit	8 Kan. (16-Bit) 4 Kan. (24-Bit)
MPEG HD 50M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 422 8-Bit	8 Kan. (24-Bit)

Codec	Betriebsfrequenz	Auflösung, Anzahl an Quantisierungsbits	Audiokanäle
MPEG HD 35M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 420 8-Bit	4 Kan. (16-Bit)
		1440 × 1080 420 8-Bit	
XAVC-I 100M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 422 10-Bit	8 Kan. (24-Bit)

Aufzeichnungsdauer für jede RAID-Konfiguration

Die bei den jeweiligen RAID-Konfigurationen und jeweiligen Video-Codern verfügbare Aufzeichnungsdauer ist nachfolgend aufgeführt.

RAID-Konfiguration			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
Anzahl logischer Laufwerke			4	3	2
Laufwerkskapazität ^{a)} (je logisches Laufwerk)			838 GB	1.230 GB	2.050 GB
SD	IMX 30 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 50 Stunden	ca. 75 Stunden	ca. 125 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 200 Stunden	ca. 225 Stunden	ca. 250 Stunden
	IMX 40 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 35 Stunden	ca. 55 Stunden	ca. 95 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 140 Stunden	ca. 165 Stunden	ca. 190 Stunden
	IMX 50 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 30 Stunden	ca. 45 Stunden	ca. 70 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 120 Stunden	ca. 135 Stunden	ca. 140 Stunden
	UNCOM-PRESS 220 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 7 Stunden	ca. 10 Stunden	ca. 18 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 28 Stunden	ca. 30 Stunden	ca. 36 Stunden
	MPEG 35 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 45 Stunden	ca. 70 Stunden	ca. 120 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 180 Stunden	ca. 210 Stunden	ca. 240 Stunden
HD	MPEG 50 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 30 Stunden	ca. 45 Stunden	ca. 75 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 120 Stunden	ca. 135 Stunden	ca. 150 Stunden
	XAVC 100 Mbit/s	Je Laufwerk	ca. 15 Stunden	ca. 25 Stunden	ca. 40 Stunden
		Insgesamt für alle Laufwerke	ca. 60 Stunden	ca. 75 Stunden	ca. 80 Stunden

a) In der Benutzeroberfläche angezeigte Kapazität.

Hinweis

Die erreichbare Aufzeichnungsdauer kann abhängig von Aufzeichnungsmedium und anderen Bedingungen von den oben genannten Werten abweichen.

Im Lieferumfang enthaltenes Zubehör

Konvertierungskabel RJ-45 zu D-sub
Teilenr. 1-848-424-12 (SONY) (2)

Optionales Zubehör

Optionale Stromversorgung PWSK-101

Design und Spezifikationen können ohne Vorankündigung geändert werden.

SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR SCHÄDEN JEDER ART DURCH UNTERLASSENE GEEIGNETE SICHERHEITSMASSNAHMEN AN ÜBERTRAGUNGSGERÄTEN, DURCH UNVERMEIDBARE DATENPREISGABE AUFGRUND DER ÜBERTRAGUNGSSPEZIFIKATIONEN ODER DURCH SICHERHEITSPROBLEME JEDLICHER ART ÜBERNEHMEN.

Hinweise

- Führen Sie immer eine Probeaufnahme aus, und bestätigen Sie, dass die Aufnahme erfolgreich war. SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR SCHÄDEN JEDER ART, EINSCHLIESSLICH ABER NICHT BEGRENZT AUF KOMPENSATION ODER ERSTATTUNG, AUFGRUND VON FEHLFUNKTION DIESES GERÄTS ODER SEINER DATENTRÄGER, EXTERNEN SPEICHERSYSTEMEN ODER JEDLICHEN ANDEREN DATENGRÄGERN ODER SPEICHERSYSTEMEN ZUR AUFNAHME VON INHALTEN JEDER ART ÜBERNEHMEN.
- Bestätigen Sie vor dem Gebrauch immer, dass das Gerät richtig arbeitet. SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR SCHÄDEN JEDER ART, EINSCHLIESSLICH ABER NICHT BEGRENZT AUF KOMPENSATION ODER ERSTATTUNG, AUFGRUND VON VERLUST VON AKTUELLEN ODER ERWARTETEN PROFITEN DURCH FEHLFUNKTION DIESES GERÄTS ODER AUS JEDLICHEM ANDEREN GRUND, ENTWEDER WÄHREND DER GARANTIEFRIST ODER NACH ABLAUF DER GARANTIEFRIST, ÜBERNEHMEN.
- SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR ANSPRÜCHE JEDER ART VON DEN BENUTZERN DIESES GERÄTS ODER VON DRITTER SEITE ÜBERNEHMEN.
- SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR VERLUST, RETTUNG ODER WIEDERHERSTELLUNG VON DATEN IM INTERNEN SPEICHERSYSTEM, AUF AUFZEICHNUNGSMEDIEN, EXTERNEN SPEICHERSYSTEMEN ODER ANDEREN MEDIEN BZW. SPEICHERSYSTEMEN ÜBERNEHMEN.
- SONY KANN KEINE HAFTUNG FÜR DIE BEENDIGUNG ODER EINSTELLUNG VON DIENSTLEISTUNGEN BEZÜGLICH DIESES GERÄTS GLEICH AUS WELCHEM GRUND ÜBERNEHMEN.

- Windows ist in den USA sowie weiteren Ländern ein eingetragenes Warenzeichen der Microsoft Corporation.
- Google Chrome ist ein Warenzeichen oder eingetragenes Warenzeichen von Google Inc.

Lesen Sie vor der Verwendung dieses Geräts die Endbenutzer-Lizenzvereinbarung im Installationshandbuch (separates Dokument). In den Textabschnitten werden die Symbole ® und ™ nicht verwendet.

Dieses Produkt verwendet den Quellcode von T-Kernel 2.0, basierend auf der T-License 2.0 des T-Engine Forums (www.t-engine.org).

Indice

Descrizione	75
Esempi di configurazione del sistema.....	76
Dispositivi supportati.....	81
VTR supportati.....	81
Unità ODS supportate	81
Denominazione e funzione dei componenti.....	82
Vista frontale	82
Vista frontale (pannello rimosso).....	82
Vista posteriore	83
Configurazione	84
Impostazioni iniziali.....	84
Visualizzazione dell'applicazione web	86
Impostazioni di sistema.....	86
Installazione dei certificati	87
Licenze della library.....	88
Utilizzo di Maintenance Web Application.....	88
Precauzioni per l'uso	88
Caratteristiche tecniche.....	89

Per sicurezza, leggere le precauzioni descritte nella Guida per l'uso dell'unità PWS-100 (fornita).

Descrizione

Il PWS-100TD1 è un sistema per la digitalizzazione di materiale VTR per creare clip e per l'archiviazione di clip su cartucce in un sistema di archiviazione di dischi ottici. Dispone delle seguenti funzioni.

Inserisci

L'unità crea video ad alta risoluzione e file video proxy da segnali SDI di ingresso provenienti da uno o più VTR e archivia le clip inserite in HDD interni. Può inoltre controllare da remoto i dispositivi VTR tramite una interfaccia RS-422.

Controllo di qualità video

È possibile controllare automaticamente la qualità video delle clip inserite. Il video può essere inoltre controllato visivamente da un operatore nello schermo dell'applicazione web o in un monitor esterno.

Archiviazione di clip

Le clip ad alta risoluzione possono essere trasferite e archiviate in cartucce o su un server di rete.

Flussi di lavoro

I flussi di lavoro consentono di eseguire in una singola operazione varie attività, dall'inserimento al trasferimento di clip. Un gestore può definire le attività di flusso di lavoro da eseguire e assegnarle ad un operatore in un ordine lavoro, in modo che vengano eseguite in base a tale ordine di lavoro.

Applicazione web

Il controllo e la configurazione dell'unità vengono eseguiti con l'interfaccia grafica visualizzata in un browser web su un PC client.

Integrazione con il software di gestione

La proprietà delle clip archiviate in cartucce e i file video proxy possono essere esportati e gestiti utilizzando un altro software.

Esempi di configurazione del sistema

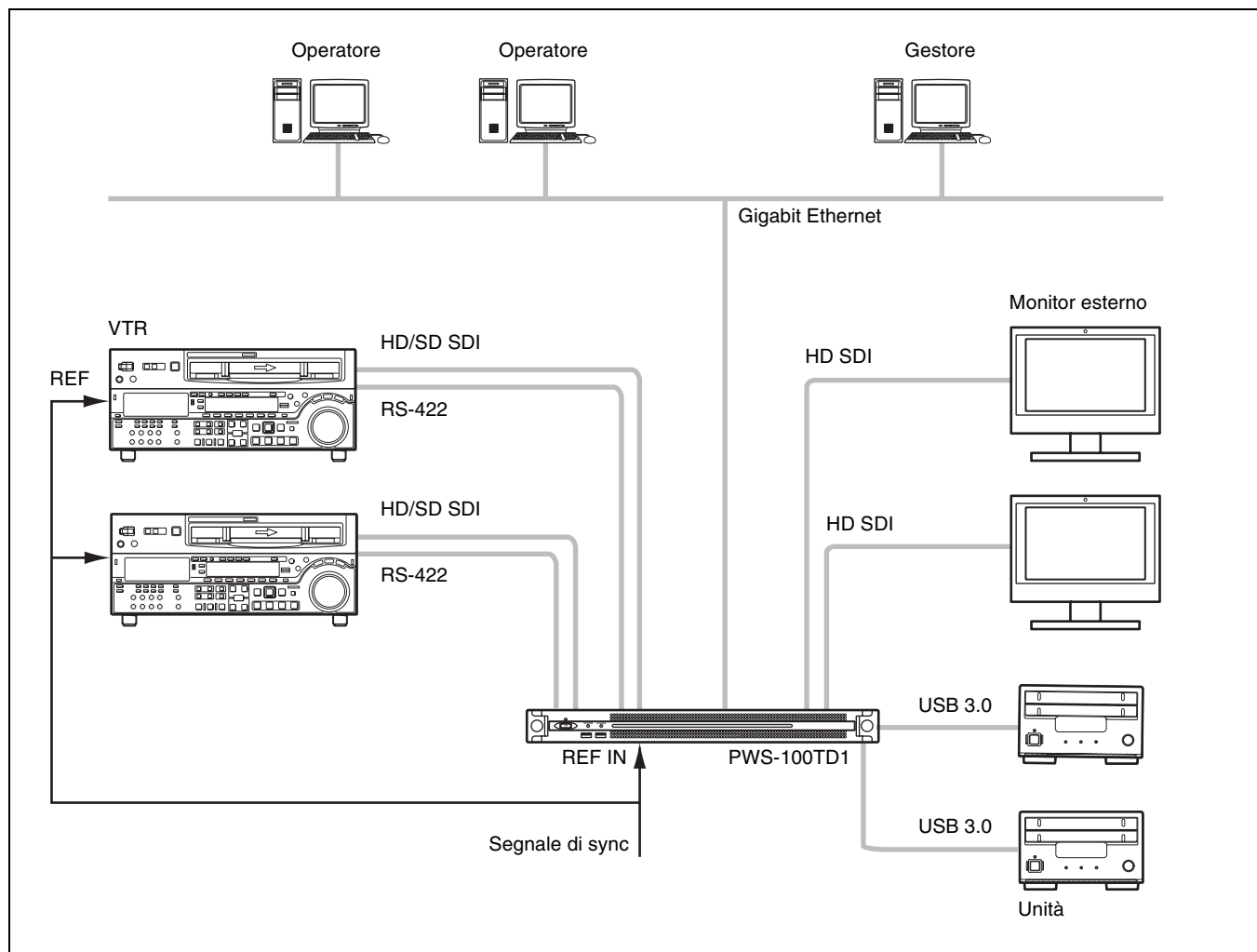
Collegare VTR e monitor esterni ai connettori SDI di questo apparecchio. Collegare le unità disco esterne ai connettori USB sul pannello posteriore. Scegliere la configurazione di ingressi e uscite del sistema impostando opportunamente le impostazioni SDI tramite l'applicazione Web. Sono disponibili le opzioni: 2 ingressi / 2 uscite, 3 ingressi / 1 uscita e 4 ingressi.

Note

- Se sono collegati vari VTR, assicurarsi che siano tutti sincronizzati ($\pm 1H$).
- Configurare l'impostazione EE/PB del VTR su PB.

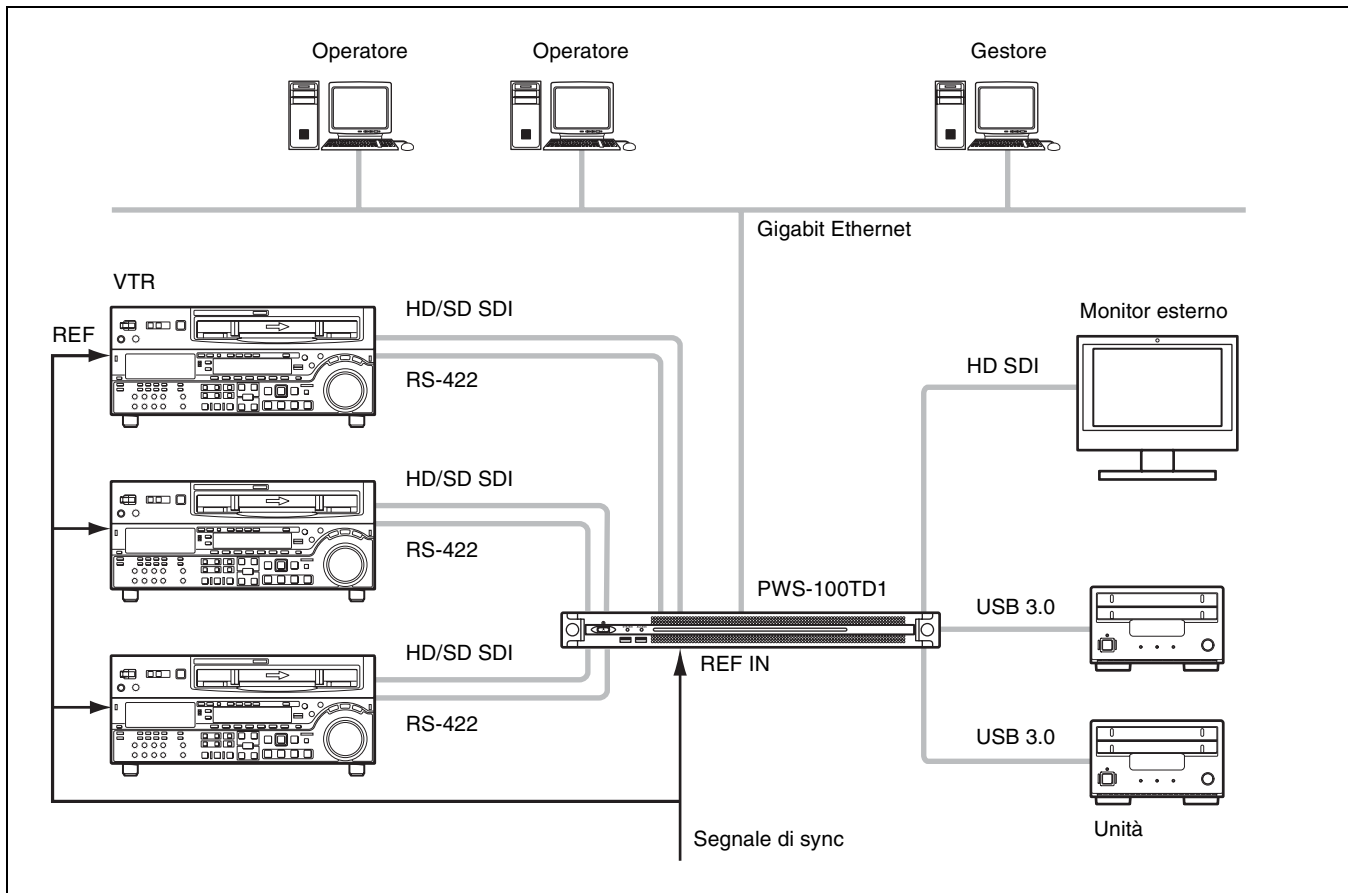
2 ingressi / 2 uscite

Collegare i VTR ai connettori SDI 1 e SDI 2 e i monitor esterni ai connettori SDI 3 e SDI 4. È possibile utilizzare questa configurazione per digitalizzare video da due VTR in parallelo.



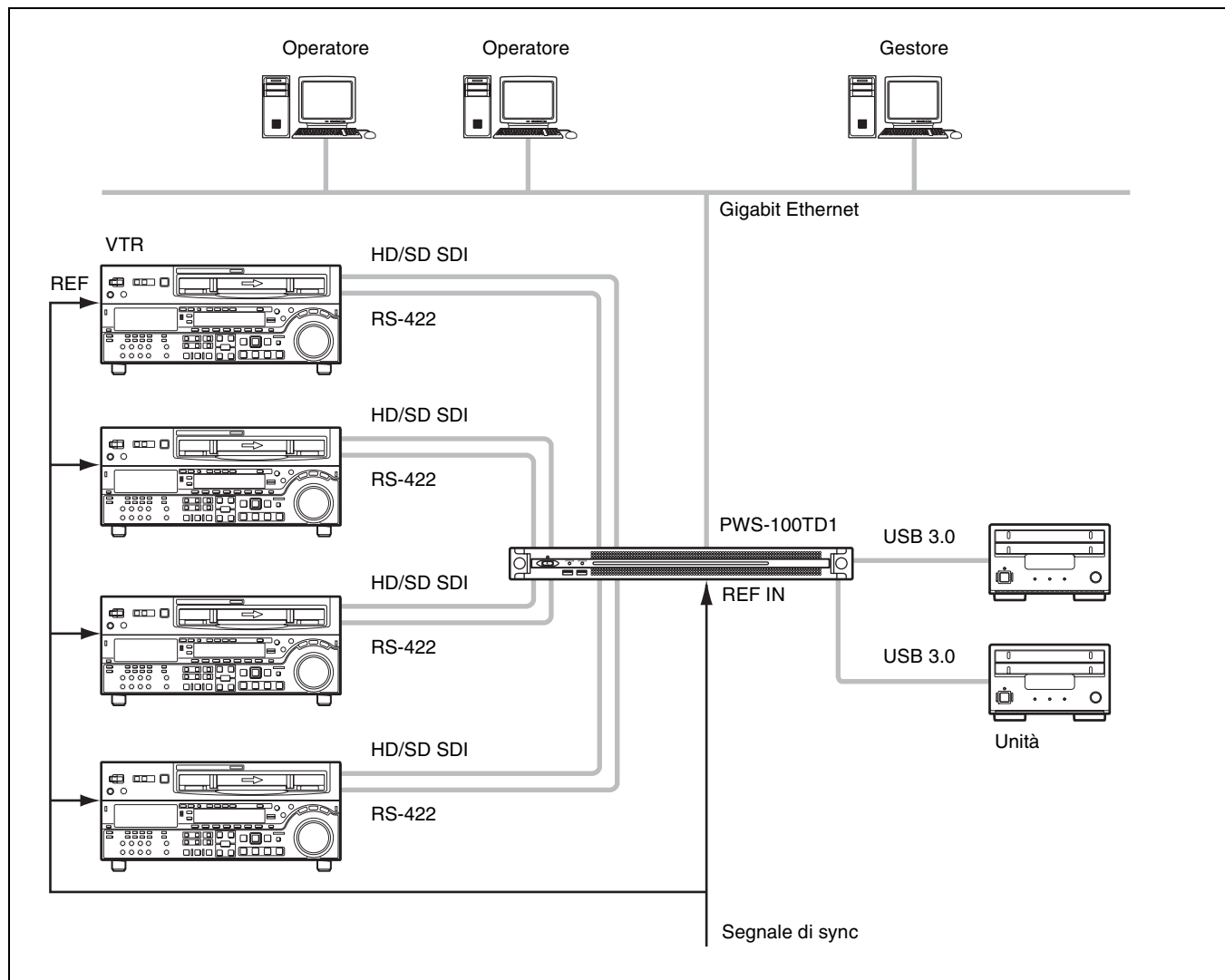
3 ingressi / 1 uscita

Collegare i VTR ai connettori SDI da 1 a 3 e un monitor esterno al connettore SDI 4. Il monitor esterno collegato al connettore SDI 4 viene utilizzato per monitorare le immagini ad alta risoluzione delle clip.



4 ingressi

Collegare i VTR ai connettori SDI da 1 a 4. Quando SDI4 non viene utilizzato per l'inserimento, è possibile monitorare le immagini ad alta risoluzione delle clip tramite la GUI.



Selezione della configurazione RAID

Dopo aver completato la configurazione del sistema, impostare la configurazione RAID in modo che abbia lo stesso numero di ingressi SDI e di unità logiche della configurazione di sistema selezionata.

La configurazione RAID viene impostata per mezzo dell'applicazione Web di manutenzione del sistema PWS-100. Impostare la configurazione RAID indicata di seguito sulla base della configurazione di sistema selezionata. Non sono supportate configurazioni diverse da quelle indicate di seguito.

Per informazioni dettagliate sulla configurazione, fare riferimento al manuale dell'applicazione Web di manutenzione del sistema PWS-100.

- Per 2 ingressi/2 uscite: $(5D + 1P) \times 2$
- Per 3 ingressi/1 uscita: $(3D + 1P) \times 3$
- Per 4 ingressi: $(2D + 1P) \times 4$

Nota

Se la configurazione RAID viene modificata, tutti i file a piena risoluzione, i file proxy, i file di report e gli ordini di lavoro scritti nella memoria interna verranno eliminati.

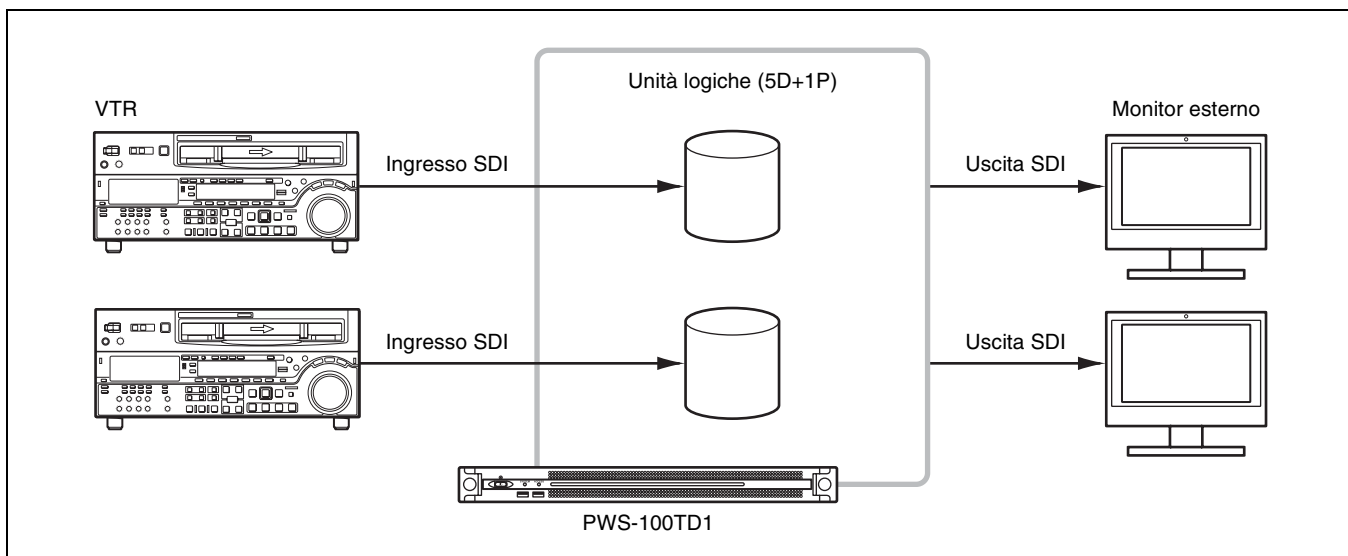
Per evitare la perdita dei dati, trasferire sempre o scaricare tutti i dati prima di procedere con la modifica della configurazione RAID.

Informazioni sulla configurazione RAID

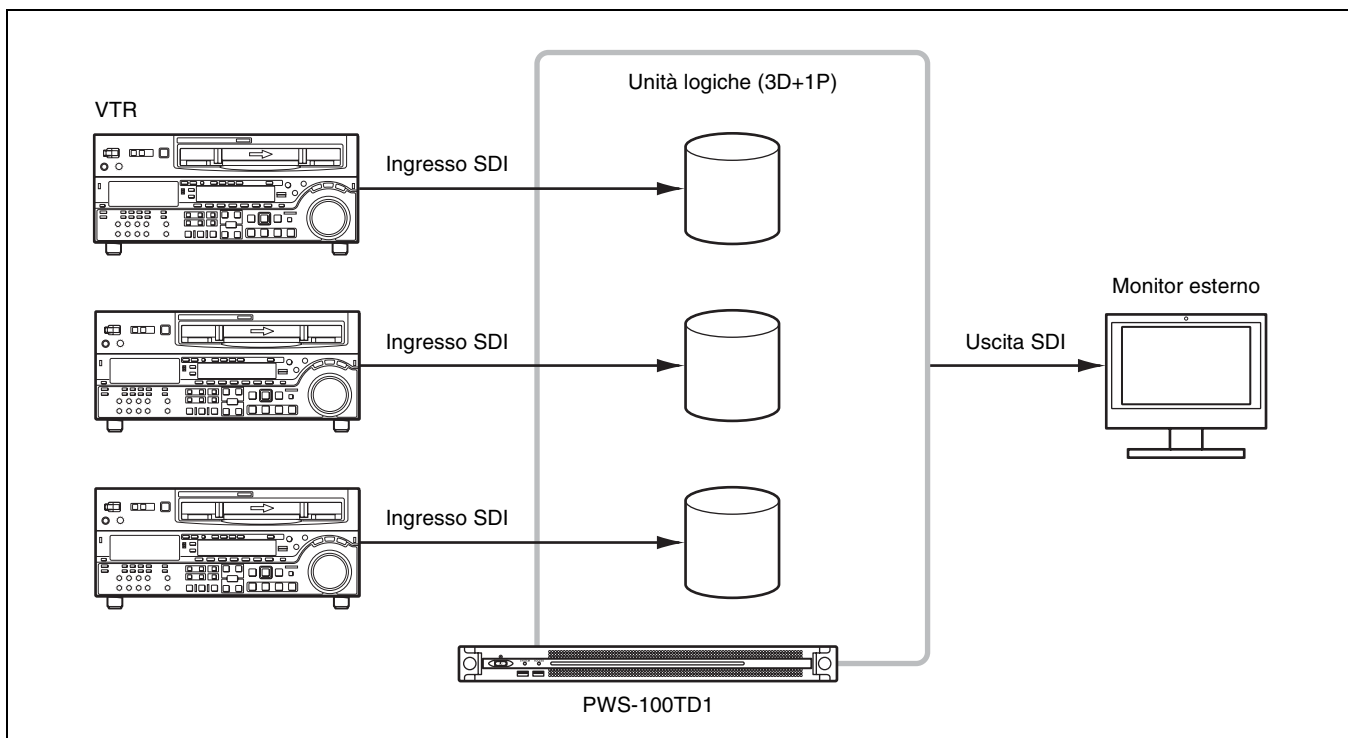
Il sistema PWS-100TD1 supporta le configurazioni RAID indicate di seguito quando è installato un totale di 12 unità disco HDD.

- 2D + 1P: Contiene un totale di quattro unità logiche, in cui ciascuna unità logica contiene due HDD di dati e un HDD di parità.
- 3D + 1P: Contiene un totale di tre unità logiche, in cui ciascuna unità logica contiene tre HDD di dati e un HDD di parità.
- 5D + 1P: Contiene un totale di due unità logiche, in cui ciascuna unità logica contiene cinque HDD di dati e un HDD di parità.

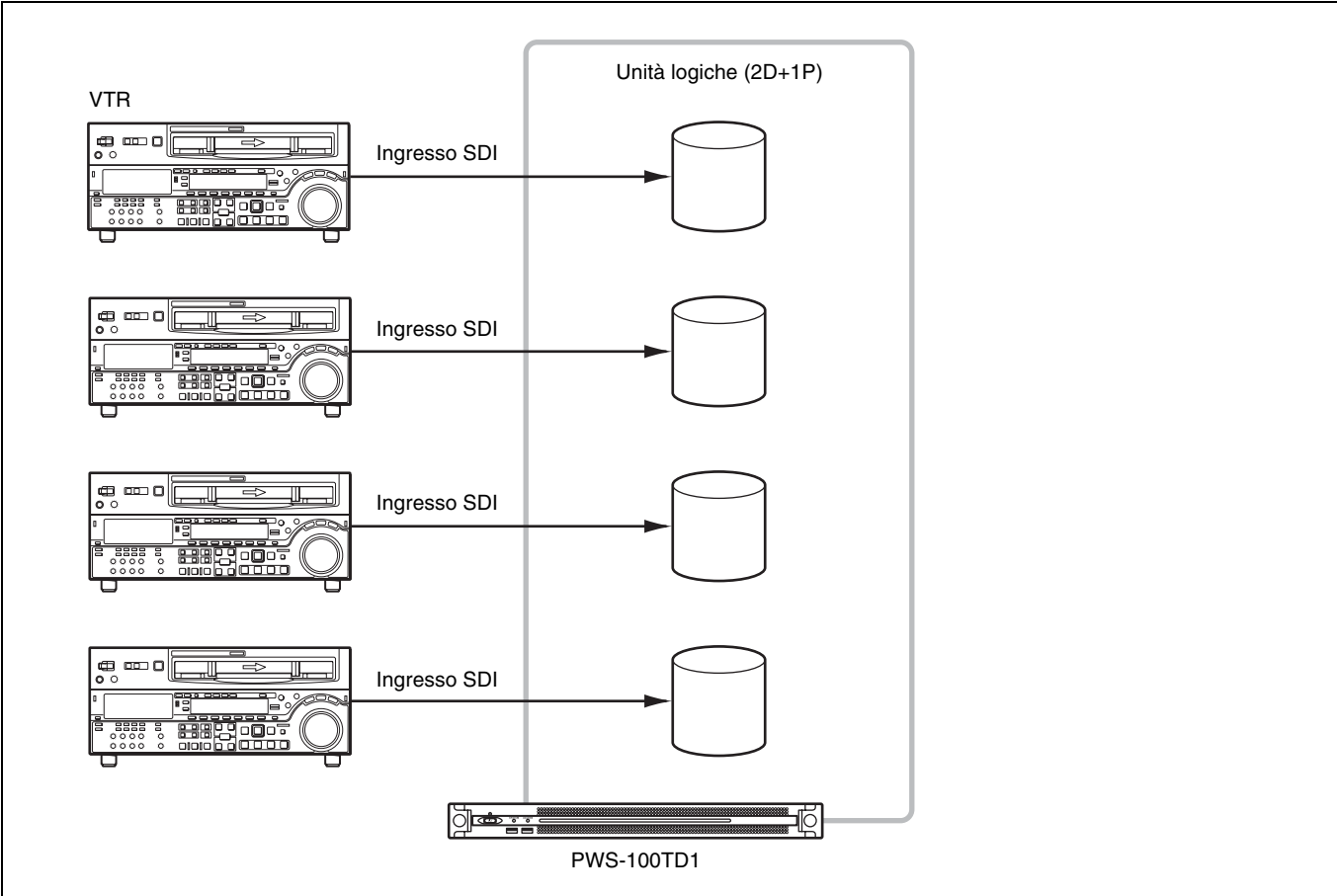
Per 2 ingressi/2 uscite



Per 3 ingressi/1 uscita



Per 4 ingressi



Dispositivi supportati

Il funzionamento con i seguenti dispositivi è stato certificato.

VTR supportati

Il funzionamento con i seguenti VTR è stato certificato.

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

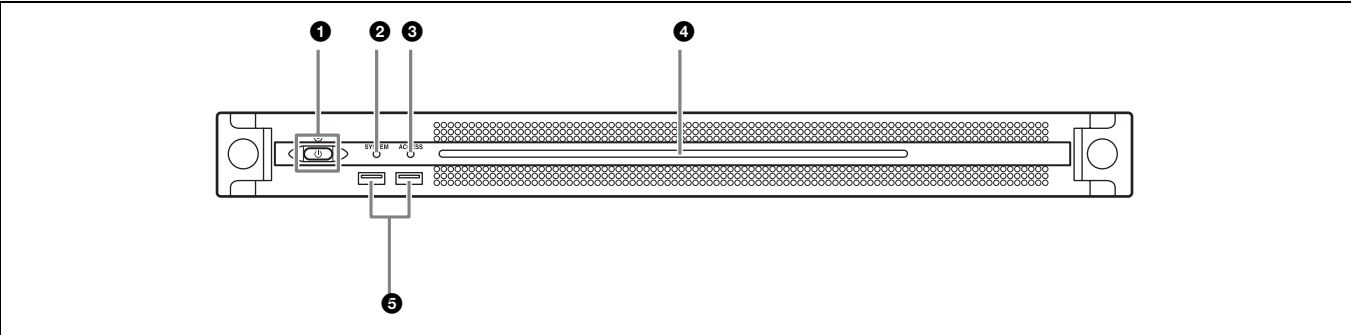
Unità ODS supportate

Il funzionamento con le seguenti unità ODS è stato certificato.

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

Denominazione e funzione dei componenti

Vista frontale



1 Indicatore e pulsante On/Standby

Consente di accendere/spegnere l'unità (stato di standby). Quando si collega il cavo di alimentazione, nell'unità si attiva lo stato di standby e l'indicatore si illumina di rosso. Se in stato di standby si preme il pulsante On/Standby, l'unità si accende e l'indicatore si illumina di verde. Tenere premuto il pulsante On/Standby per due secondi per portare l'unità in stato di standby e l'indicatore diventa rosso. Per accendere di nuovo l'unità dopo essere passati dallo stato di accensione a quello di standby, quando l'indicatore è rosso, tenere premuto il pulsante On/Standby per tre secondi o oltre. Se il cavo di alimentazione viene scollegato, l'indicatore si spegne.

2 Indicatore SYSTEM

Segnala lo stato dell'unità.

Verde: funzionamento normale

Verde lampeggiante (una volta al secondo): il sistema si sta avviando o sta passando allo stato di standby.

Arancione lampeggiante (una volta al secondo): è stato generato un avviso.

Rosso con lampeggiamento veloce (quattro volte al secondo): si è verificato un errore.

3 Indicatore ACCESS

Segnala lo stato di accesso alla memoria.

Spento: nessun accesso alla memoria in corso

Blu: accesso alla memoria in corso

4 LED pannello anteriore

Si accende in base alle impostazioni definite nell'applicazione web. Il LED viene configurato utilizzando [001: LINE LED] nella pagina [Settings] sulla schermata Manutenzione.

5 Connettori USB (pannello anteriore)

Consentono di collegare una tastiera e un mouse per inizializzare l'unità.

I dispositivi USB non descritti nel presente documento non sono supportati.

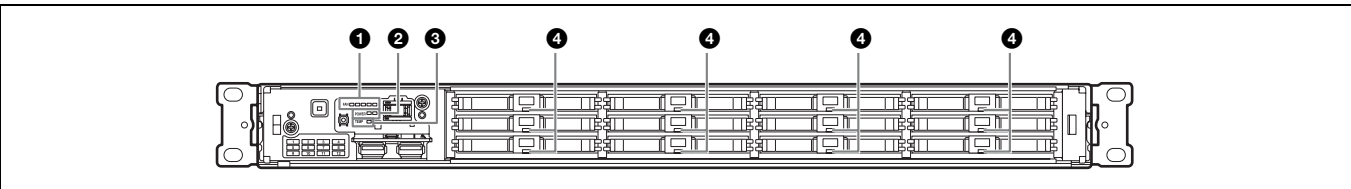
Nota

Entrambe le porte USB sul pannello anteriore supportano la potenza di flusso (900 mA).

Vista frontale (pannello rimosso)

Quando l'indicatore SYSTEM o l'applicazione web segnala un errore, è possibile rimuovere il pannello anteriore per controllare lo stato dei componenti hardware.

Per rimuovere il pannello anteriore, allentare le viti a sinistra e a destra e tirare il pannello verso se stessi.



❶ Indicatori FAN

In caso di guasto di una delle ventole, l'indicatore corrispondente si illumina di rosso.

❷ Indicatori POWER

In caso di guasto di uno degli alimentatori CA esterni, l'indicatore corrispondente si illumina di rosso.

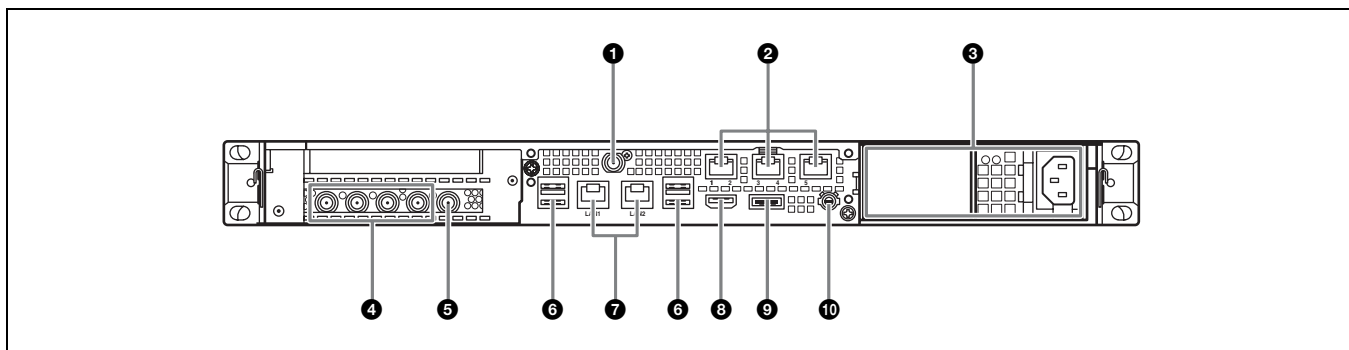
❸ Indicatore TEMP

Se all'interno dell'unità viene rilevata una temperatura insolitamente alta, l'indicatore corrispondente si illumina di rosso.

❹ Indicatori di stato HDD

Se viene generato un avviso per un HDD, il relativo indicatore diventa rosso. L'indicatore si spegne se il relativo HDD è guasto, è in stato di sospensione o è stato rimosso.

Vista posteriore



❶ Connettore SYSTEM TC

Non utilizzato da questo sistema.

❷ Connettori Remote (1/2, 3/4, 5)

Collegare i dispositivi VTR ai connettori Remote 1/2 e Remote 3/4, utilizzando il cavo di conversione RJ-45 D-sub (in dotazione) e i cavi remoti a 9 pin disponibili in commercio, per il funzionamento del telecomando del VTR. È possibile collegare due VTR utilizzando un singolo cavo di conversione RJ-45 D-sub e due cavi remoti a 9 pin.

Il connettore Remote 5 non viene utilizzato da questo sistema.

❸ Alimentatori CA

Inserire i cavi di alimentazione e collegarli alle prese di corrente.

In fabbrica viene installato un solo alimentatore CA. Per garantire la ridondanza dell'alimentazione, è possibile installare un secondo alimentatore opzionale. Nei sistemi che richiedono affidabilità, l'alimentazione ridondante consente all'unità di continuare a funzionare anche in caso di guasto di un alimentatore.

Per informazioni dettagliate sull'installazione o la sostituzione di un alimentatore, consultare il rivenditore o il centro di assistenza Sony locale.

❹ Connettori SDI (da 1 a 4)

I connettori da SDI1 a SDI4 sono numerati da sinistra a destra.

Collegare ad un dispositivo VTR o ad un monitor esterno, utilizzando un cavo SDI, per immettere/emettere segnali SDI.

❺ Connettore REF IN

Consente l'ingresso di un segnale di riferimento sync.

❻ Connettori USB (pannello posteriore)

Per il collegamento alle unità mediante cavi USB.

I dispositivi USB non descritti nel presente documento non sono supportati.

Note

- Dei quattro connettori USB sul pannello posteriore, solo la porta in basso a destra supporta la potenza di flusso (900 mA). Le altre tre porte non supportano la potenza di flusso e devono essere usate per collegare dispositivi USB che non richiedono alimentazione dal connettore USB.
- Usare cavi SuperSpeed USB.

❼ Connettori LAN

Per il collegamento a una rete Gigabit Ethernet.

8 Connettore HDMI

Per il collegamento a un monitor mediante un cavo HDMI. Utilizzare un cavo HDMI conforme al seguente standard:

- Cavo High Speed HDMI (Cavo High Speed HDMI premium)

9 Connettore DisplayPort

Consente il collegamento a un monitor mediante un cavo di conversione a DisplayPort-DVI o DisplayPort-HDMI. Utilizzare un cavo di conversione di tipo attivo.

Nota

Utilizzare un cavo DisplayPort conforme al seguente standard:

- DP v1.2a (conforme)

10 Terminale di terra

Collegare alla terra.

Configurazione

Impostazioni iniziali

Prima di utilizzare l'unità, configurare le impostazioni di Windows nell'unità. La descrizione di seguito indica le impostazioni standard in Windows 8.

Nota

Per riavviare l'unità, spegnerla e, successivamente, accendere nuovamente il pulsante On/Standby sul pannello anteriore, senza riavviare Windows.

- 1 Collegare una tastiera e un mouse ai connettori USB del pannello anteriore e collegare un monitor al connettore DisplayPort o HDMI del pannello posteriore.
- 2 Posizionare il pulsante On/Standby su On.
- 3 Quando viene visualizzata la schermata di login di Windows, immettere "tds" come nome utente, immettere "tds" come la password ed effettuare il login.

Impostazione della lingua dell'interfaccia di Windows

- 1 Tenere premuto il tasto Windows e premere il tasto X, quindi selezionare [Control Panel] dal menu visualizzato.
- 2 Selezionare [Clock, Language, and Region] > [Language].
- 3 Selezionare [Add language] per aggiungere una lingua.
- 4 Selezionare la lingua da aggiungere, quindi fare clic su [Add].
- 5 Selezionare la lingua da utilizzare e fare clic su [Move up] finché la lingua non viene visualizzata in alto.
- 6 Uscire e accedere di nuovo.

Configurazione della rete

- 1 Collegare un cavo LAN al connettore LAN sul pannello posteriore dell'unità, quindi collegare l'altra estremità alla rete.

- 2** Fare clic su [View network status and tasks] in [Network and Internet] nel pannello di controllo.
- 3** Fare clic su [Connections] > [LAN 1/2].
- 4** Fare clic sul pulsante [Properties].
- 5** Selezionare [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)], quindi fare clic sul pulsante [Properties].
- 6** Modificare l'indirizzo IP e altre impostazioni.
- 7** Fare clic sul pulsante [Advanced] per configurare DNS, WINS e altre impostazioni.
- 8** Al termine, fare clic sul pulsante [OK].

Impostazione di data e ora

- 1** Selezionare [Set the time and date] in [Date and Time] nel pannello di controllo [Clock, Language, and Region].
- 2** Fare clic su [Change time zone] nella scheda [Date and Time] e selezionare il fuso orario.
- 3** Fare clic su [Change date and time] nella scheda [Date and Time] e selezionare data e ora.
- 4** Fare clic sul pulsante [Change settings] nella scheda [Internet Time].
- 5** Specificare un server NTP, quindi fare clic sul pulsante [Update Now].
- 6** Aggiungere un segno di spunta in [Synchronize with an Internet time server] per correggere periodicamente l'orologio tramite il server NTP.

Impostazione delle password utente

L'utente predefinito "tds" viene configurato per Windows nell'unità. Impostare la password di protezione per l'utente.

- 1** Fare clic su [User Accounts and Family Safety] nel pannello di controllo.
- 2** Fare clic su [User Account] > [Change account type].
- 3** Selezionare l'utente "tds".
- 4** Fare clic su [Change the password].

- 5** Immettere una nuova password e una password consigliata, quindi fare clic sul pulsante [Change Password].

Impostazione della password di servizio

Quando si imposta o si modifica la password utente "tds", osservare la seguente procedura per impostare la password di servizio.

- 1** Fare doppio clic su [Services] in [Administrative tools] nel pannello di controllo [System and Security].
- 2** Fare clic con il tasto destro su "Apache Tomcat 7.0 Tomcat7" nell'elenco servizi e selezionare [Properties].
- 3** Aprire la scheda [Log On].
- 4** Fare clic su [This account], immettere ".\tds" e inserire quindi una password per l'utente "tds" in [Password].
- 5** Fare clic sul pulsante [Apply], quindi selezionare [OK] per chiudere la finestra di dialogo.
- 6** Selezionare "Sony Ingest Service" nell'elenco servizi, e ripetere i passi da **2** a **5**.

Aggiunta di un utente

È possibile aggiungere nuovi utenti su Windows.

- 1** Fare clic su [User Accounts and Family Safety] nel pannello di controllo.
- 2** Fare clic su [User Accounts] > [Change account type].
- 3** Fare clic su [Add a new user in PC settings].
- 4** Fare clic su [Add a user].
- 5** Immettere nome utente, password e password consigliata, quindi fare clic su [Next].
- 6** Fare clic su [Finish].
Successivamente, modificare il tipo di account.
- 7** Fare clic su [Change account type] in [User Accounts and Family Safety] nel pannello di controllo.
- 8** Selezionare l'utente di cui si desidera modificare il tipo di account.
- 9** Fare clic su [Change the account type].

- 10** Selezionare [Standard] o [Administrator], quindi fare clic sul pulsante [Change account type].

Modifica del nome del computer

Il PWS-100TD1 utilizza il nome del computer come parte dell'autenticazione delle comunicazioni https.

Per modificare il nome del computer, utilizzare la procedura descritta di seguito. Verrà generato un nuovo certificato.

Una volta modificato il nome del computer, reimportare il nuovo certificato sul PC client.

- 1** Selezionare [System and Security] > [System] in [Control Panel].
- 2** Fare clic su [Computer name] > [Change Settings].
- 3** Fare clic sul pulsante [Change] nella scheda [Computer name] della finestra di dialogo [System Properties].
- 4** Modificare il nome del computer, quindi fare clic su [OK].
- 5** Riavviare il computer quando viene richiesto.
- 6** Accedere nuovamente all'unità PWS-100TD1.
- 7** Aprire Prompt dei comandi come amministratore e immettere i seguenti comandi.

> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script
> keystore.bat
- 8** Riavviare il sistema.
- 9** Reimportare il certificato come descritto in *"Installazione dei certificati"* (pagina 87).

Disconnessione

Al termine, disconnettersi da Windows.

- 1** Spostare il cursore del mouse sull'angolo superiore destro dello schermo per visualizzare la Charms Bar, quindi fare clic su [Start].
- 2** Fare clic sul nome dell'account nella parte superiore destra dello schermo, quindi fare clic su [Sign out].

Visualizzazione dell'applicazione web

È possibile connettersi all'unità tramite la rete di un PC client e utilizzare l'applicazione web in un browser web sul PC client per controllare e configurare l'unità.

Ambiente PC client consigliato

CPU: Core i5 3 GHz o superiore

Memoria: 4 GB o superiore

Sistema operativo:

Windows 7 Pro 32/64 bit

Windows 8/8.1 Pro 32/64 bit

Mac OS X 10.8/10.9

Browser web: Google Chrome 40 o successivo (aggiornare alla versione più recente)

Risoluzione display: 1366 × 768 pixel o superiore

Collegare un computer che soddisfi le precedenti condizioni al connettore LAN 1 o LAN 2 del pannello posteriore dell'unità. Digitare "https://(indirizzo_IP):8443/tds o https://pws-100-<numero_di_serie>:8443/tds" nella barra degli indirizzi di un browser web del computer (in cui IP_address è l'indirizzo specificato in *"Configurazione della rete"*) per visualizzare l'applicazione web.

Immettere nome utente e password quando viene visualizzata la schermata di login.

I seguenti nome utente e password sono configurati per impostazione predefinita.

Nome utente: admin

Password: tds

Impostazioni di sistema

Configurare il sistema nella schermata Impostazioni dell'applicazione web.

Effettuare il login all'applicazione web come utente con privilegi di amministratore.

Per i dettagli sul funzionamento dell'applicazione web, fare riferimento alla Guida dell'applicazione.

Modifica della lingua dell'interfaccia

È possibile modificare la lingua dell'interfaccia dell'applicazione web.

Selezionare la lingua in [Lingua] nella pagina [Le mie impostazioni] della schermata Impostazioni.

Selezione della frequenza di operazione

Selezionare la frequenza di operazione del sistema. È possibile selezionare la frequenza in [Impostazione di inserimento] nella pagina [Inserisci] della schermata Impostazioni.

Aggiunta di utenti

Aggiungere nuovi account utente all'account admin predefinito nella pagina [Utente] della schermata Impostazioni.

Registrazione di una destinazione di riferimento

Per trasferire le clip inserite in una cartuccia o su un server di rete, registrare la destinazione di trasferimento nella pagina [Trasferisci] della schermata Impostazioni.

Installazione dei certificati

Se si visualizza l'applicazione Web su una connessione https con un browser Web, è possibile che venga visualizzato un messaggio di errore simile a "Il certificato di sicurezza del sito non è attendibile!" Per connettersi tramite https senza generare errori, è necessario installare sul browser Web un certificato radice CA (certificato client) che corrisponde al server (PWS-100-<numero_di_serie>).

I seguenti paragrafi descrivono la procedura per l'installazione di un certificato utilizzando Google Chrome.

Procedura di installazione del certificato radice CA

- 1** Accedere all'applicazione Web su una connessione https con un browser Web.

Viene visualizzato un messaggio di errore simile a "Il certificato di sicurezza del sito non è attendibile."
- 2** Fare clic sull'icona del lucchetto all'estremità sinistra della barra degli indirizzi.
- 3** Fare clic su [Informazioni sul certificato] nella finestra che appare.

Viene visualizzata la finestra di dialogo [Certificato]. Annotare l'autorità emittente del certificato "PWS-100-<numero_di_serie>" nella finestra di dialogo.
- 4** Fare clic sulla scheda [Dettagli] quindi fare clic sul pulsante [Copia su file].

Si avvia la procedura di esportazione guidata del certificato.
- 5** Fare clic su [Avanti].

- 6** Selezionare "Binario codificato DER (.CER)", quindi fare clic su [Avanti].
- 7** Fare clic sul pulsante [Sfoglia] e specificare la cartella nella quale salvare il certificato, quindi fare clic su [Avanti].

L'esportazione del certificato si avvia.
- 8** Quando appare la finestra di completamento dell'esportazione guidata, fare clic su [Fine].
- 9** Quando appare il messaggio, fare clic su [OK].
- 10** Fare clic sul pulsante di menu di Chrome e selezionare [Impostazioni] nel menu visualizzato.
- 11** Fare clic su [Mostra impostazioni avanzate] nella schermata delle impostazioni, quindi fare clic sul pulsante [Gestisci certificati] sotto [HTTP/SSL].

Appare la finestra di dialogo [Certificati].
- 12** Fare clic sulla scheda [Autorità di certificazione radice attendibili], quindi fare clic sul pulsante [Importa].

Viene visualizzata la finestra di importazione guidata certificati.
- 13** Fare clic su [Avanti].
- 14** Fare clic sul pulsante [Sfoglia], selezionare il file scaricato, quindi fare clic sul pulsante [Avanti].
- 15** Controllare che [Colloca tutti i certificati nel seguente archivio] sia selezionato e che il campo [Archivio certificati] indichi "Autorità di certificazione radici attendibili", quindi fare clic su [Avanti].

Si avvia l'importazione del certificato.
- 16** Quando appare la finestra di completamento dell'importazione guidata, fare clic su [Fine].

La procedura si chiude.
- 17** Quando appare il messaggio, fare clic su [OK].
- 18** Fare clic sul pulsante di menu di Chrome e selezionare [Esci] nel menu visualizzato. Quindi riavviare Chrome.
- 19** Configurare le impostazioni di risoluzione del nome in modo che l'emittente "PWS-100-<numero_di_serie>" annotata precedentemente si risolva con l'indirizzo IP impostato in "Configurazione della rete" (pagina 84), quindi connettersi a https://pws-100-<numero_di_serie>:8443/tds.

Licenze della library

Per le licenze di ciascun tipo di library utilizzata dal PWS-100TD1, fare riferimento al menu [Guida] nell'applicazione web.

Utilizzo di Maintenance Web Application

Per informazioni dettagliate sull'utilizzo di Maintenance Web Application per amministratori di sistema, eseguire il login sull'unità e fare clic sull'icona di collegamento sul desktop per fare riferimento al manuale per l'uso.

Precauzioni per l'uso

Precauzioni per i prodotti con HDD integrato

Il presente apparecchio dispone di un'unità disco fisso (HDD) integrata. Quest'ultima è costituita da un dispositivo di precisione. In caso di urti, vibrazioni, elettricità statica, temperatura o umidità elevata, è possibile che si verifichino perdite di dati. Per l'installazione e l'uso dell'apparecchio, osservare attentamente le seguenti precauzioni.

Proteggere l'apparecchio da urti e vibrazioni

Se viene sottoposto a urti o vibrazioni, l'HDD può risultare danneggiato e potrebbero verificarsi perdite di dati dall'HDD stesso.

- Per trasportare l'apparecchio, utilizzare il materiale di imballaggio specificato. In caso di trasporto su carrelli o simili, utilizzare un mezzo che non trasmetta vibrazioni eccessive. Diversamente, l'HDD potrebbe risultare danneggiato.
- Non spostare l'apparecchio mentre è acceso.
- Non rimuovere i pannelli o le parti esterne dell'apparecchio.
- Quando si colloca l'unità su un pavimento o su un'altra superficie, posizionarla su una superficie piana e stabile.
- Non collocare l'apparecchio in prossimità di altri dispositivi che potrebbero risultare fonte di vibrazioni.
- Spostare sempre l'unità per trasportarla.

Dopo lo spegnimento, attendere 30 secondi.

Per un breve periodo di tempo successivo allo spegnimento, i dischi presenti all'interno dell'HDD continuano a ruotare e le testine si trovano in posizione instabile. Durante tale periodo, l'apparecchio è più sensibile a urti e vibrazioni rispetto ai periodi di normale funzionamento. Per almeno 30 secondi dopo lo spegnimento, evitare di sottoporre l'apparecchio a qualsiasi tipo di urto. Dopo tale periodo, i dischi dell'HDD si saranno arrestati completamente e sarà quindi possibile utilizzare l'apparecchio.

Precauzioni relative a temperatura e umidità

Utilizzare e conservare l'apparecchio solo in luoghi in cui i valori limite di temperatura e umidità non vengono superati. (Io seguo le specificazioni di questa apparecchiatura da tutti i mezzi, e per favore l'uso.)

In caso di problemi all'HDD

Anche se sembrano verificarsi problemi di funzionamento dell'HDD, assicurarsi di osservare tutte le precauzioni di cui sopra. In tal modo, è possibile evitare che si verifichino ulteriori danni finché non è possibile diagnosticare e risolvere il problema.

Sostituzione del disco rigido e di altre parti di consumo

L'HDD e la batteria sono considerati componenti di consumo che dovranno essere sostituiti periodicamente. Se l'apparecchio viene utilizzato a temperatura ambiente, il ciclo normale di sostituzione va da circa 2 a 5 anni. Tuttavia, ciò ha un valore puramente indicativo e non implica alcuna garanzia sulla durata di vita prevista di questi componenti. Per ulteriori informazioni sulla sostituzione dei componenti, rivolgersi al proprio rivenditore.

Per i dettagli sul ciclo di sostituzione, consultare il rivenditore o il centro di assistenza Sony locale.

Precauzioni sull'alimentazione

Se l'unità si spegne improvvisamente durante il funzionamento, potrebbero verificarsi perdite di dati. Per mantenere l'integrità dei dati, si consiglia l'uso di un gruppo statico di continuità (UPS).

Per scollegare il cavo di alimentazione o spegnere l'interruttore, premere sempre il pulsante On/Standby sull'unità per arrestare l'unità prima di procedere.

Precauzioni per l'uso di dispositivi USB

Se si utilizza l'unità con un dispositivo USB con alimentazione propria (ad esempio un ODS-D77U), è possibile che il dispositivo non venga riconosciuto, a seconda dell'ordine di accensione. In tal caso, spegnere e riaccendere il dispositivo USB oppure scollegare e ricollegare il cavo USB.

Precauzioni per l'utilizzo della rete

A seconda dell'ambiente operativo, il sistema potrebbe risultare accessibile in rete a terzi non autorizzati. Per sicurezza e protezione, si raccomanda fortemente di configurare sempre tutte le password. Configurare tutte le password seguendo la procedura a *pagina 85*.

Per garantire la protezione, quando si utilizza l'unità collegata alla rete, si consiglia di accedere alla finestra di controllo tramite un browser Web e di modificare le impostazioni della limitazione di accesso rispetto ai valori predefiniti (*pagina 86*).

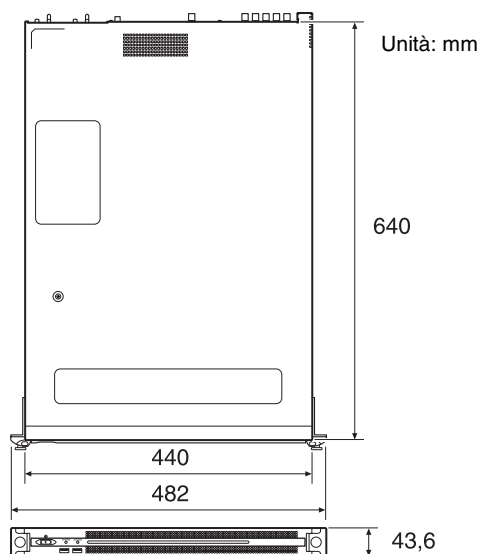
Si consiglia anche di modificare la password regolarmente.

Non accedere ad altri siti con il browser Web durante o dopo la determinazione delle impostazioni. Poiché lo stato di accesso rimane nel browser Web, chiudere il browser una volta completate le impostazioni per impedire che terze parti non autorizzate possano utilizzare l'unità o eseguire programmi pericolosi.

Caratteristiche tecniche

Generale

Alimentazione	Da 100 V a 240 V CA 50/60 Hz
Potenza assorbita	235 W
Potenza assorbita in standby	3 W o inferiore
Temperatura di funzionamento	Da 5 °C a 35 °C
Temperatura di immagazzinamento	Da -20 °C a +60 °C
Umidità operativa	Da 20% a 90% (umidità relativa)
Umidità ambientale	Da 5% a 80%
Peso	14 kg
Dimensioni	440 × 43,6 × 640 mm (larghezza / altezza / profondità)



CPU

Processore	Intel Core i7 6700TE (2,4 GHz)
Memoria	8 GByte SO-DIMM (DDR4) (2)
Unità (M.2)	120 GByte
Unità (HDD)	2,5 pollici, 500 GByte (12)
Bus espansione	PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

Ingressi/uscite

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
-----	---------------------------------------

USB (pannello anteriore/pannello posteriore)	Super Speed USB (USB 3.0) Tipo A (6, 2 sulla parte anteriore e 4 sulla parte posteriore)
	Anteriore: potenza di flusso supportata (900 mA per porta)
	Posteriore: potenza di flusso supportata sulla porta in basso a destra (900 mA), non supportata sulle altre tre porte
HDMI	Tipo A (1) HDMI Ver. 1.4a, risoluzione massima 1920 × 1200, 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort Ver. 1.1a, risoluzione massima 2560 × 1600, 60 Hz
Remote	RJ-45 (3) Compatibile Sony VTR Protocol (a 9 pin), richiede cavo di conversione da RJ-45 a D-sub (in dotazione)
REF IN	BNC (1) Conforme SMPTE ST 318, sincronizzazione a tre livelli HD (0,6 Vp-p, 75 Ω, sincronizzazione positiva/negativa) o sincronizzazione black burst o composita SD (NTSC: 0,286 Vp-p, 75 Ω, sincronizzazione negativa PAL: 0,3 Vp-p, 75 Ω, sincronizzazione negativa)
SDI 1 a 4	BNC (4) HD: conforme SMPTE ST 292-1 SD: conforme SMPTE ST 259

Formati supportati

Codec	Frequenza operazione	N. risoluzione di bit di quantizzazione	Canali audio
IMX 30M, 40M, 50M UNCOM-PRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8 bit	8 canali (16-bit) 4 canali (24-bit)
	50i	720 × 480 422 8 bit	8 canali (16-bit) 4 canali (24-bit)
MPEG HD 50M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 8 bit	8 canali (24-bit)
MPEG HD 35M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 420 8 bit	4 canali (16-bit)
		1440 × 1080 420 8 bit	
XAVC-I 100M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 10 bit	8 canali (24-bit)

Tempi di registrazione per ciascuna configurazione RAID

La seguente tabella indica il tempo di registrazione consentito da ciascuna configurazione RAID e codec video.

Configurazione RAID			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
Numero di unità logiche			4	3	2
Capacità dell'unità ^{a)} (per unità logica)			838 GB	1.230 GB	2.050 GB
SD	IMX 30 Mbps	Per ogni unità	Circa 50 ore	Circa 75 ore	Circa 125 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 200 ore	Circa 225 ore	Circa 250 ore
	IMX 40 Mbps	Per ogni unità	Circa 35 ore	Circa 55 ore	Circa 95 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 140 ore	Circa 165 ore	Circa 190 ore
	IMX 50 Mbps	Per ogni unità	Circa 30 ore	Circa 45 ore	Circa 70 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 120 ore	Circa 135 ore	Circa 140 ore
	UNCOM-PRESS 220 Mbps	Per ogni unità	Circa 7 ore	Circa 10 ore	Circa 18 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 28 ore	Circa 30 ore	Circa 36 ore

Configurazione RAID			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
HD	MPEG 35 Mbps	Per ogni unità	Circa 45 ore	Circa 70 ore	Circa 120 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 180 ore	Circa 210 ore	Circa 240 ore
	MPEG 50 Mbps	Per ogni unità	Circa 30 ore	Circa 45 ore	Circa 75 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 120 ore	Circa 135 ore	Circa 150 ore
	XAVC 100 Mbps	Per ogni unità	Circa 15 ore	Circa 25 ore	Circa 40 ore
		Totale per tutte le unità	Circa 60 ore	Circa 75 ore	Circa 80 ore

a) Capacità visualizzata nella GUI.

Nota

I tempi di registrazione effettivamente ottenibili potrebbero differire da quelli indicati sopra, a seconda del supporto di registrazione e altre condizioni.

Accessori in dotazione

Cavo di conversione da RJ-45 a D-sub

Codice articolo 1-848-424-12 (SONY)
(2)

Accessori opzionali

Alimentatore opzionale PWSK-101

Disegno e caratteristiche tecniche soggetti a cambiamenti senza preavviso.

SONY NON SARÀ RESPONSABILE DI DANNI DI QUALSIASI TIPO RISULTANTI DALLA MANCATA IMPLEMENTAZIONE DI MISURE DI PROTEZIONE ADEGUATE SUI DISPOSITIVI DI TRASMISSIONE, DA INEVITABILI DIFFUSIONI DI DATI RISULTANTI DALLE SPECIFICHE TECNICHE DELLA TRASMISSIONE O DA PROBLEMATICHE RELATIVE ALLA SICUREZZA DI QUALSIASI TIPO.

Note

- Eseguire sempre una registrazione di prova, e verificare che il contenuto sia stato registrato correttamente.
LA SONY NON SARÀ RESPONSABILE DI DANNI DI QUALSIASI TIPO, COMPRESI, MA SENZA LIMITAZIONE A, RISARCIMENTI O RIMBORSI A CAUSA DI GUASTI DI QUESTO APPARECCHIO O DEI SUOI SUPPORTI DI REGISTRAZIONE, SISTEMI DI MEMORIZZAZIONE ESTERNA O QUALSIASI ALTRO SUPPORTO O SISTEMA DI MEMORIZZAZIONE PER REGISTRARE CONTENUTI DI QUALSIASI TIPO.
- Verificare sempre che l'apparecchio stia funzionando correttamente prima di usarlo. LA SONY NON SARÀ RESPONSABILE DI DANNI DI QUALSIASI TIPO, COMPRESI, MA SENZA LIMITAZIONE A, RISARCIMENTI O RIMBORSI A CAUSA DELLA PERDITA DI PROFITTI ATTUALI O PREVISTI DOVUTA A GUASTI DI QUESTO APPARECCHIO, SIA DURANTE IL PERIODO DI VALIDITÀ DELLA GARANZIA SIA DOPO LA SCADENZA DELLA GARANZIA, O PER QUALUNQUE ALTRA RAGIONE.
- SONY NON SARÀ RESPONSABILE PER RICHIESTE O RICORSI DI NESSUN TIPO PRESENTATI DA UTENTI DI QUESTO APPARATO O DA TERZI.
- SONY NON SARÀ RESPONSABILE PER LA PERDITA, RIPARAZIONE O RIPRODUZIONE DEI DATI REGISTRATI SUL SISTEMA DI MEMORIZZAZIONE INTERNO, SU SUPPORTI DI REGISTRAZIONE, SU SISTEMI DI MEMORIZZAZIONE ESTERNI, O SU QUALSIASI ALTRO TIPO DI SUPPORTO O SISTEMA DI MEMORIZZAZIONE.
- SONY NON SARÀ RESPONSABILE PER LA CANCELLAZIONE O LA MANCATA CONTINUAZIONE PER QUALSIASI CAUSA O CIRCOSTANZA DI SERVIZI CORRELATI A QUESTO APPARATO.

- Windows è un marchio registrato di Microsoft Corporation negli Stati Uniti e in altri paesi.
- Google Chrome è un marchio o marchio registrato di Google Inc.

Prima di utilizzare Questo apparecchio, non tralasciare di leggere il Contratto di licenza con l'utente finale nel Manuale di installazione (documento separato). Inoltre nel presente documento non si utilizzano i simboli ® o ™.

Questo prodotto utilizza codice sorgente T-Kernel 2.0 basato su T-License 2.0 di T-Engine Forum (www.t-engine.org).

Contenido

Descripción general 93
Ejemplos de configuración del sistema..... 94

Dispositivos compatibles 99
VTR compatibles 99
Unidad ODS compatibles..... 99

Nombre y función de los componentes 100
Vista frontal..... 100
Vista frontal (con el panel extraído)..... 100
Vista posterior 101

Configuración 102
Ajustes iniciales 102
Visualizar la aplicación web 104
Ajustes del sistema..... 104
Instalación de certificados..... 105
Licencias de bibliotecas 106
Funcionamiento de la aplicación Maintenance Web 106

Precauciones de uso..... 106

Especificaciones 107

Por seguridad, lea las precauciones descritas en la Guía de instrucciones de PWS-100 (suministrada).

Descripción general

El PWS-100TD1 es un sistema para digitalizar material VTR con el objeto de crear clips y almacenar clips en cartuchos en un Sistema de Archivo en Disco Óptico. Dispone de las siguientes funciones.

Ingesta

La unidad crea vídeo de alta resolución y archivos proxy de vídeo a partir de señales de entrada SDI desde uno o varios VTR y guarda los clips ingestados en unidades de disco duro internas. También puede controlar dispositivos VTR de forma remota utilizando una interfaz RS-422.

Comprobación de calidad de vídeo

La calidad de vídeo de los clips ingestados puede comprobarse automáticamente. El vídeo también puede ser comprobado visualmente por un operador en la pantalla de la aplicación web o en un monitor externo.

Almacenamiento de clips

Los clips de alta resolución pueden transferirse y almacenarse en cartuchos o en un servidor de red.

Flujos de trabajo

Pueden ejecutarse diversas tareas, desde la ingesta hasta la transferencia de clips, en una sola operación utilizando flujos de trabajo. Un administrador puede definir las tareas de flujo de trabajo que deben ejecutarse y asignar un operador para ejecutar las tareas en un orden de trabajo, de modo que el operador ejecutará las tareas de acuerdo con ese orden de trabajo.

Aplicación web

El control y la configuración de la unidad se realiza utilizando una interfaz gráfica que se muestra en un explorador web de un PC cliente.

Integración con software de gestión

Las propiedades de los clips guardados en cartuchos y los archivos proxy de vídeo pueden exportarse y gestionarse utilizando otro software.

Ejemplos de configuración del sistema

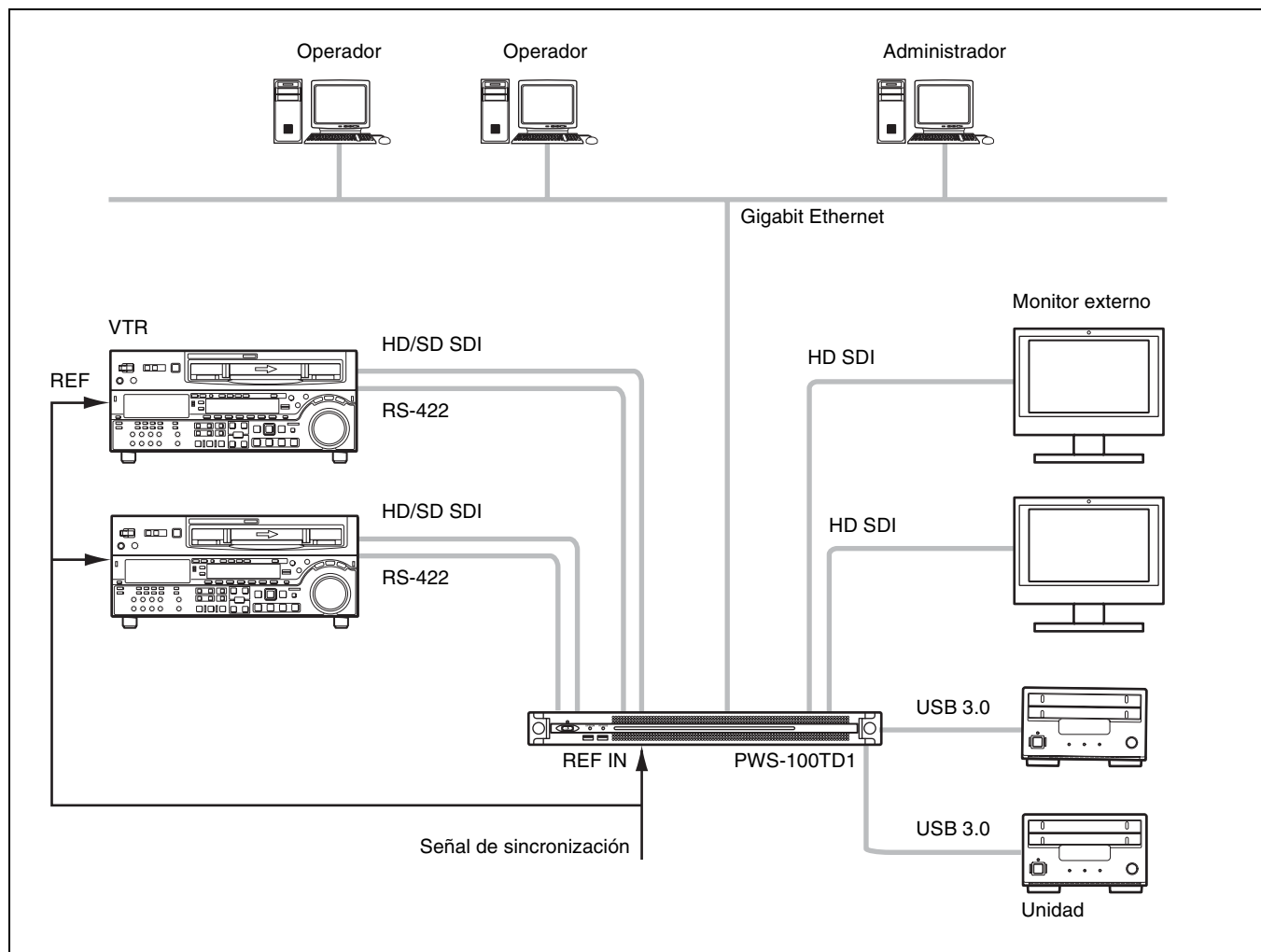
Conecte los VTR y los monitores externos a los conectores SDI de la unidad, y las unidades a los conectores USB del panel trasero. Puede seleccionar una configuración de sistema de 2 entradas/2 salidas, 3 entradas/1 salida o 4 entradas mediante la configuración de los ajustes de SDI en la aplicación web.

Notas

- Si se conectan varias VTR, asegúrese de que todas las VTR están sincronizadas ($\pm 1H$).
- Ajuste la configuración EE/PB del VTR al PB.

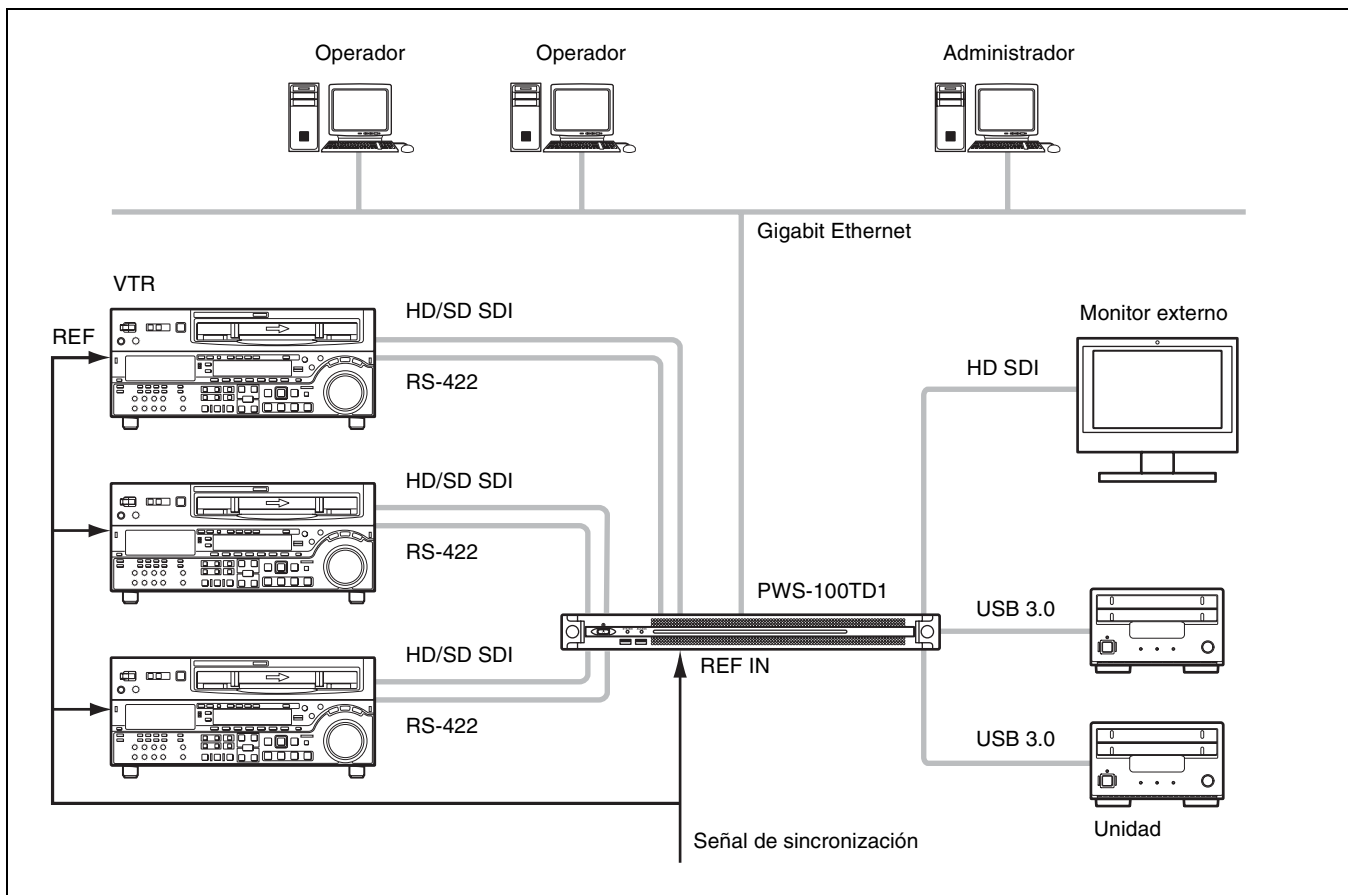
2 entradas/2 salidas

Conecte los VTR a los conectores SDI 1 y SDI 2, y los monitores externos a SDI 3 y SDI 4. Puede utilizar esta configuración para digitalizar vídeo desde dos VTR en paralelo.



3 entradas/1 salida

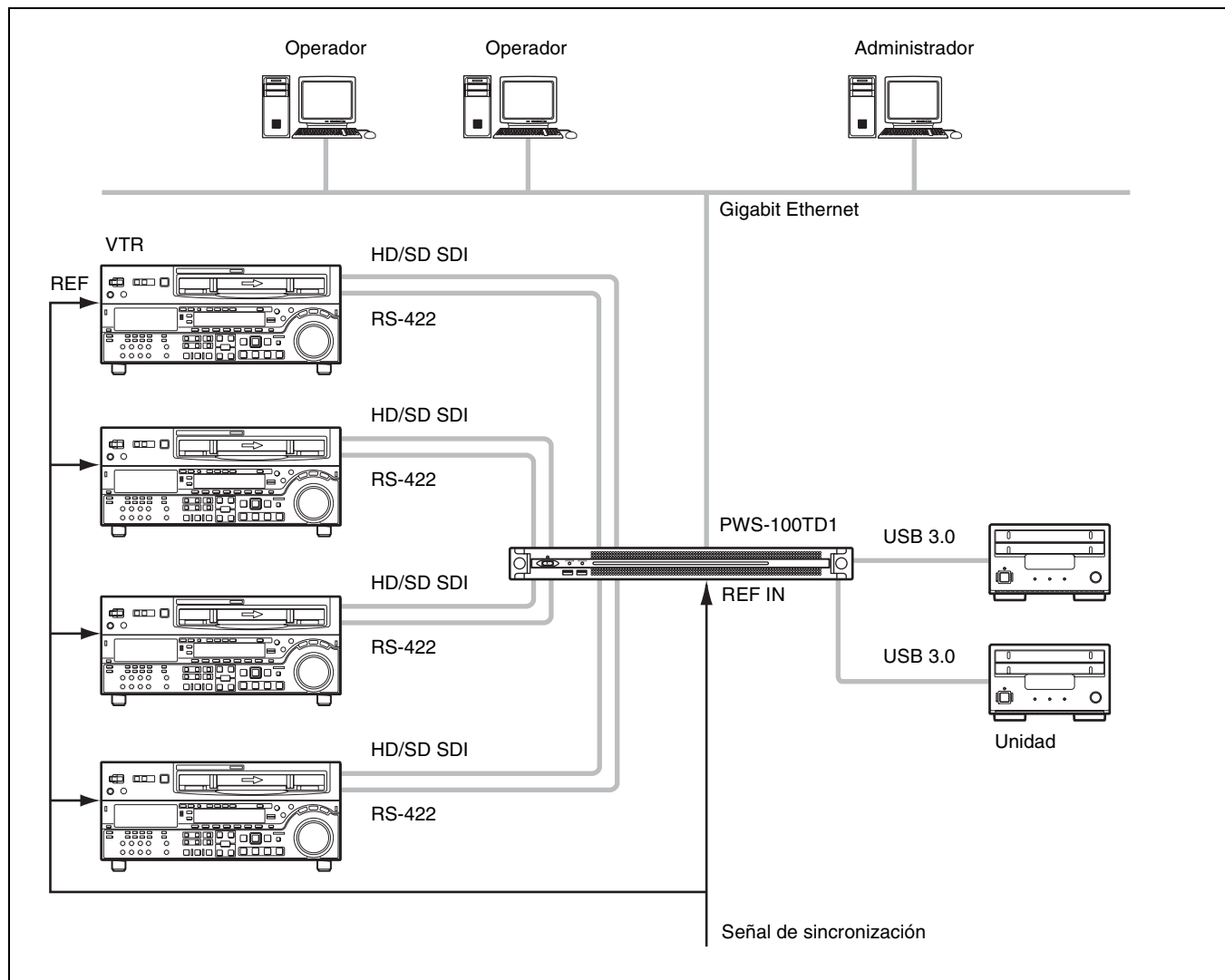
Conecte los VTR a los conectores del 1 al 3 de SDI y un monitor externo al conector 4 de SDI. El monitor externo conectado al conector 4 de SDI se usa para supervisar las imágenes de alta resolución de los clips.



4 entradas

Conecte los VTR a los conectores del 1 al 4 de SDI.

Cuando el conector SDI4 no se usar para la ingesta, puede supervisar las imágenes de alta resolución de los clips en la GUI.



Selección de la configuración de RAID

Una vez ajustada la configuración del sistema, ajuste la configuración de RAID para que tenga el mismo número de entradas SDI y unidades lógicas que la configuración del sistema seleccionada.

Ha ajustado la configuración de RAID con la aplicación web de mantenimiento de PWS-100. Ajuste la configuración de RAID que se indica a continuación, según la configuración del sistema seleccionada. No se admiten otras configuraciones que las siguientes.

Para obtener más información sobre la configuración, consulte el manual de instrucciones de la aplicación web de mantenimiento de PWS-100.

- Para 2 entradas/2 salidas: $(5D + 1P) \times 2$
- Para 3 entradas/1 salida: $(3D + 1P) \times 3$
- Para 4 entradas: $(2D + 1P) \times 4$

Nota

Si se modifica la configuración de RAID, se eliminarán todos los archivos de máxima resolución, archivos proxy, archivos de informe y órdenes de trabajo guardados en el almacenamiento interno.

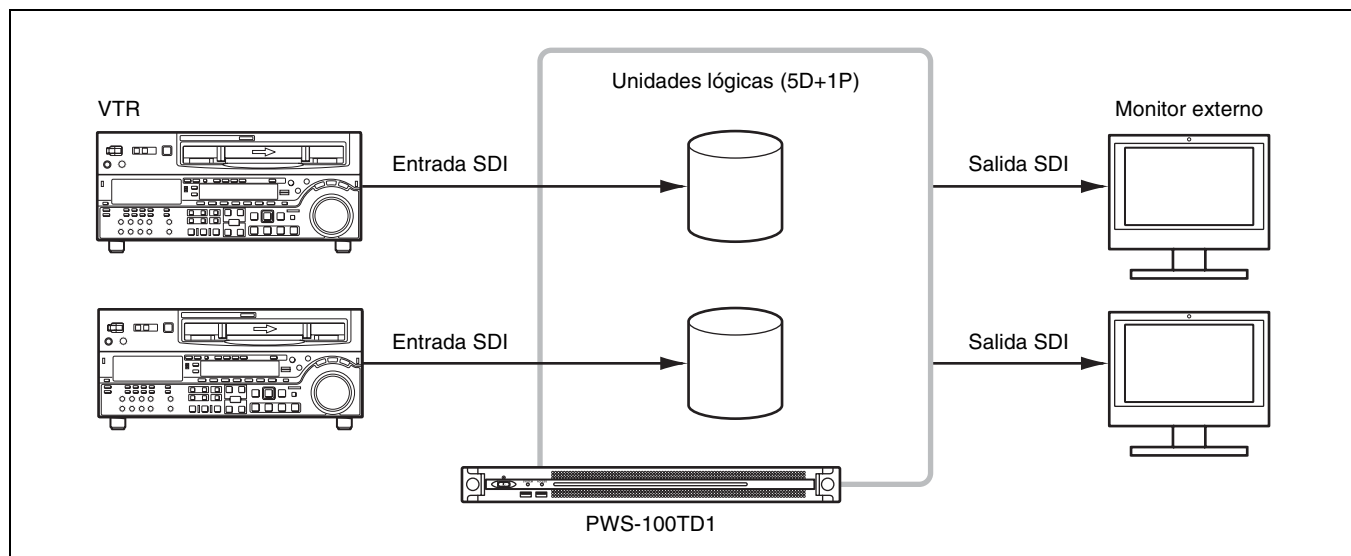
Antes de modificar la configuración de RAID, transfiera o descargue siempre todos los datos para que no se pierdan.

Acerca de la configuración de RAID

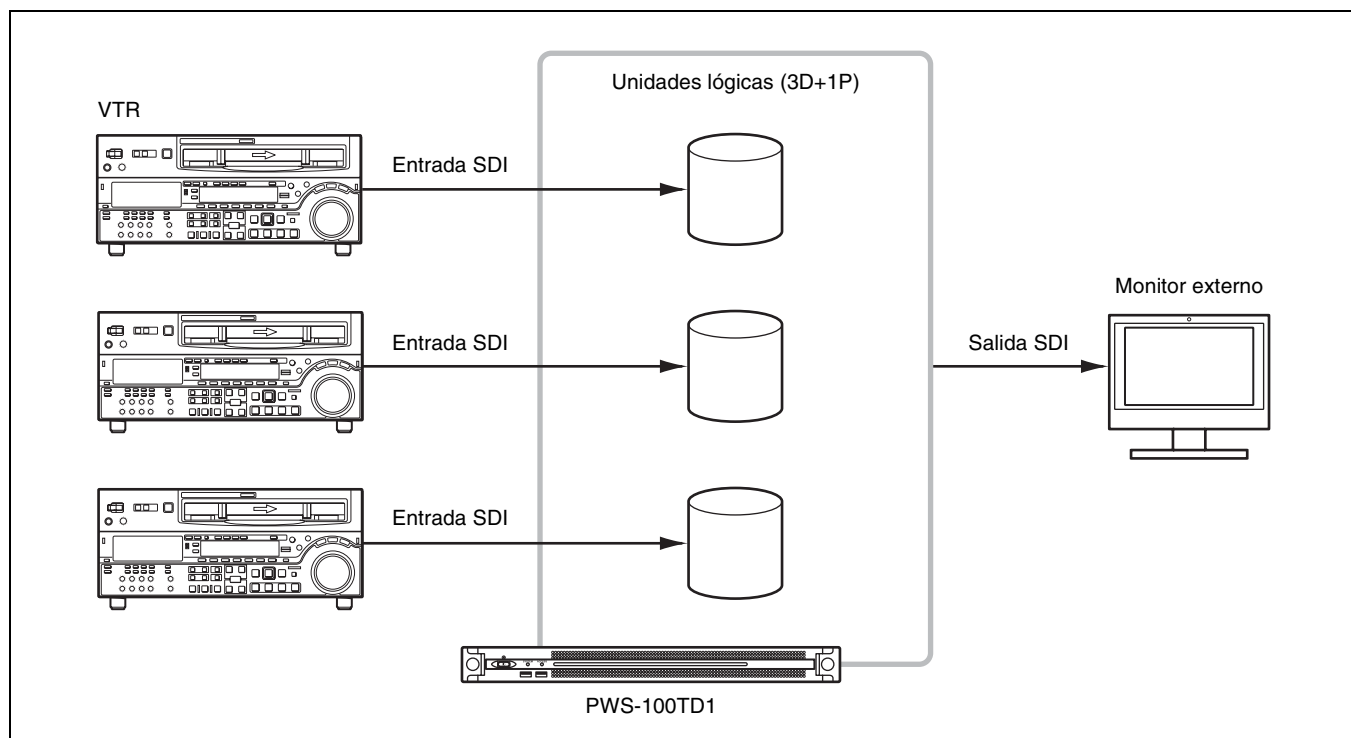
Cuando se instalan un total de 12 unidades de disco duro, la PWS-100TD1 admite las siguientes configuraciones de RAID.

- 2D + 1P: contiene un total de cuatro unidades lógicas, cada una de las cuales contiene a su vez dos unidades de disco duro de datos y una unidad de disco duro de paridad.
- 3D + 1P: contiene un total de tres unidades lógicas, cada una de las cuales contiene a su vez tres unidades de disco duro de datos y una unidad de disco duro de paridad.
- 5D + 1P: contiene un total de dos unidades lógicas, cada una de las cuales contiene a su vez cinco unidades de disco duro de datos y una unidad de disco duro de paridad.

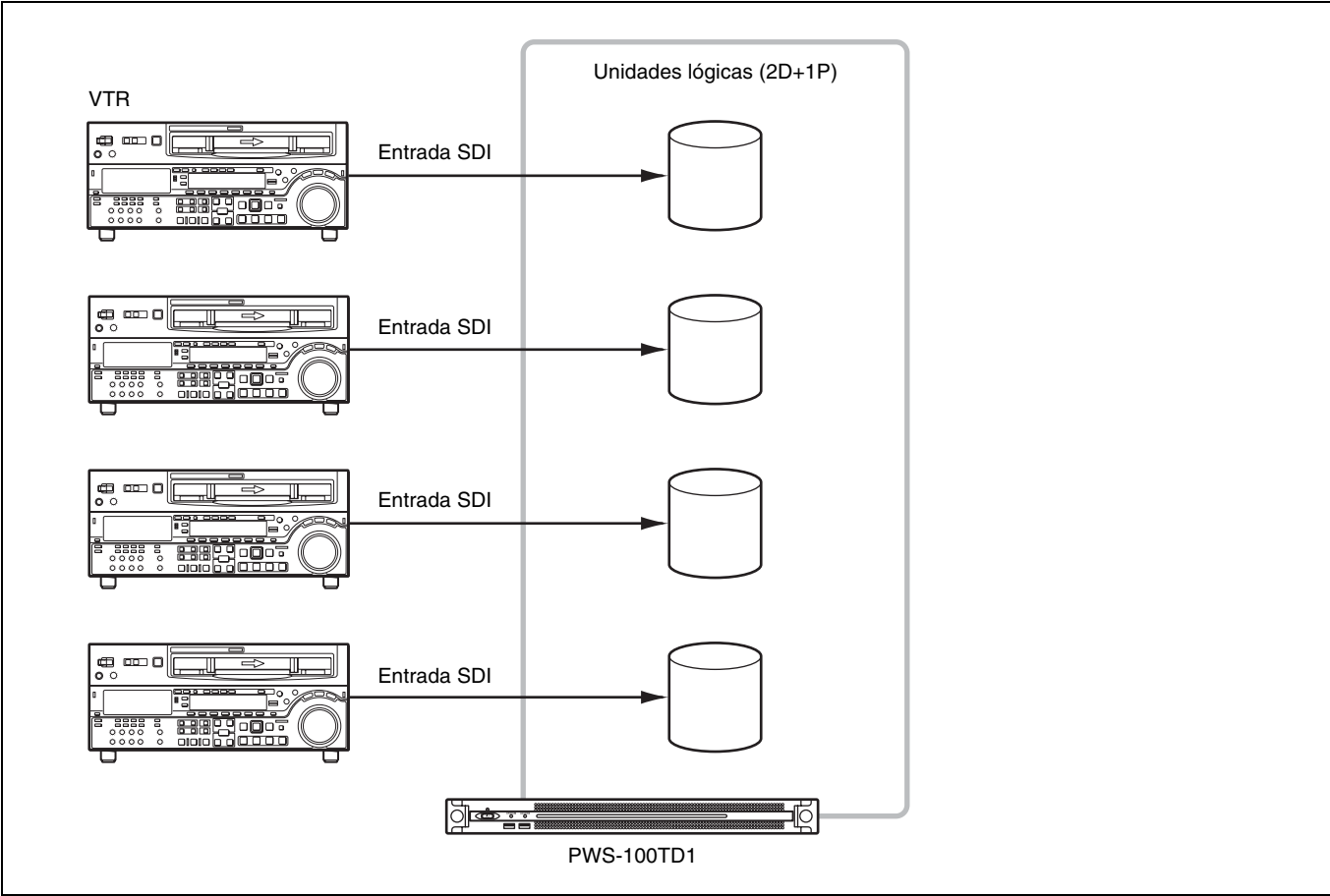
Para 2 entradas/2 salidas



Para 3 entradas/1 salida



Para 4 entradas



Dispositivos compatibles

Se ha certificado el funcionamiento con los siguientes dispositivos.

VTR compatibles

Se ha certificado el funcionamiento con los siguientes VTR.

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

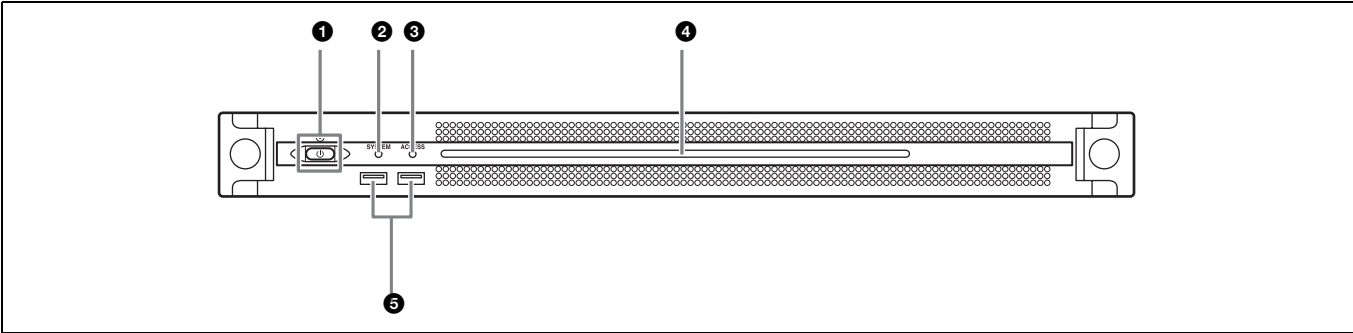
Unidad ODS compatibles

Se ha certificado el funcionamiento con las siguientes unidades ODS.

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

Nombre y función de los componentes

Vista frontal



1 Botón e indicador On/Standby

Enciende y apaga la unidad (estado de espera). Al conectar el cable de conexión la unidad entra en estado de espera y el indicador se ilumina en color rojo. Al pulsar el botón On/Standby durante el estado de espera, la unidad se enciende y el indicador se ilumina en color verde. Al mantener pulsado el botón On/Standby durante dos segundos la unidad cambia a estado de espera, y el indicador se ilumina en color rojo. Para volver a encender la unidad después de cambiar de encendido a estado en espera, cuando el indicador esté iluminado en rojo, mantenga pulsado el botón On/Standby durante 3 segundos o más. El indicador se apaga cuando se desconecta el cable de alimentación.

2 Indicador SYSTEM

Indica el estado de la unidad.

Verde: funciona con normalidad

Parpadea en verde (una vez por segundo): el sistema está arrancando o en transición a estado en espera.

Parpadea en naranja (una vez por segundo): se ha generado una advertencia.

Parpadea en rojo a alta velocidad (cuatro veces por segundo): se ha producido un error.

3 Indicador ACCESS

Indica el estado de acceso al almacenamiento.

Apagado: no está accediendo al almacenamiento.

Azul: está accediendo al almacenamiento.

4 Panel LED frontal

Se enciende de acuerdo con los ajustes en la aplicación web. El LED se configura utilizando [001: LINE LED] en la página [Settings] de la pantalla de mantenimiento.

5 Conectores USB (panel frontal)

Se conecta a un teclado y a un ratón para inicializar la unidad.

Los dispositivos USB que no están descritos en este documento no son compatibles.

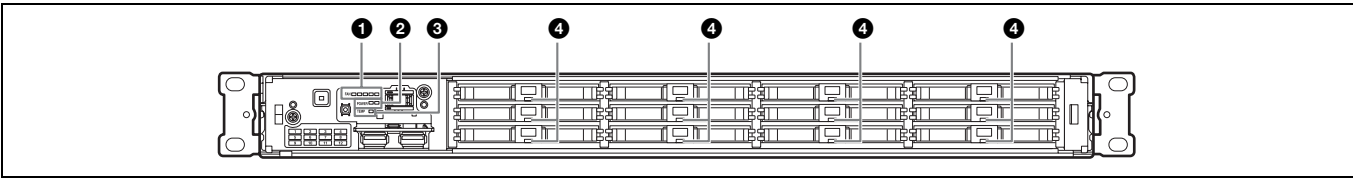
Nota

Ambos puertos USB del panel frontal admiten suministro de alimentación (900 mA).

Vista frontal (con el panel extraído)

Cuando el indicador SYSTEM o la aplicación web indica un error, podrá extraer el panel frontal para comprobar el estado de los componentes del hardware.

Para extraer el panel frontal, afloje los tornillos de los lados derecho e izquierdo y tire del panel hacia usted.



❶ Indicadores FAN

Si cualquiera de los ventiladores falla, el indicador del ventilador correspondiente se ilumina en rojo.

❷ Indicadores POWER

Si cualquiera de las unidades de suministro de alimentación de CA falla, el indicador correspondiente se ilumina en rojo.

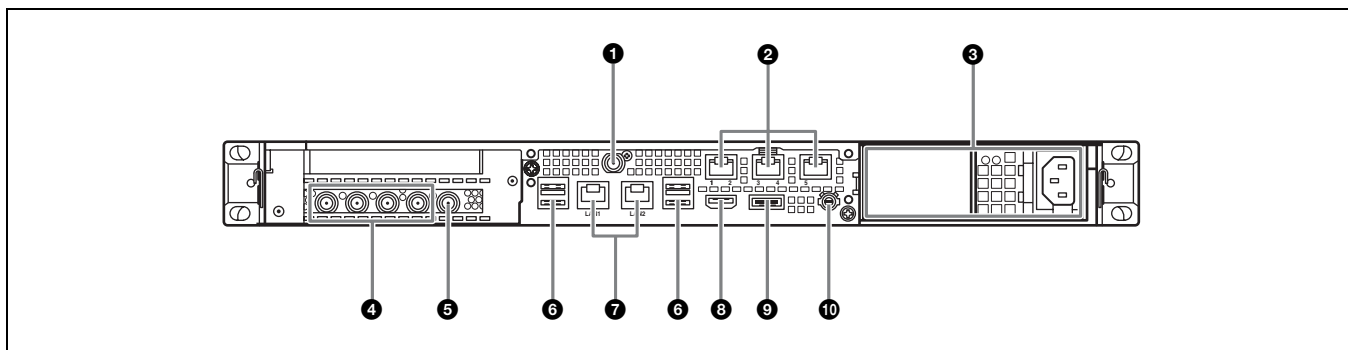
❸ Indicador TEMP

Si se detecta una temperatura alta anormal en la unidad, el indicador se ilumina en rojo.

❹ Indicadores de estado de la unidad de disco duro (HDD)

Si se genera una advertencia para una HDD, el indicador correspondiente se ilumina en rojo. El indicador se apaga si la HDD correspondiente falla, está en estado de suspensión o se ha extraído.

Vista posterior



❶ Conector SYSTEM TC

No se utiliza en este sistema.

❷ Conectores Remote (1/2, 3/4, 5)

Conecte los dispositivos VTR a los conectores Remote 1/2 y 3/4 utilizando el cable de conversión RJ-45 a D-sub (suministrado) y cables remotos de 9 pines disponibles en el mercado para la operación de control remoto de los VTR. Puede conectar dos VTR utilizando un solo cable de conversión RJ-45 a D-sub y dos cables remotos de 9 pines. El conector Remote 5 no se utiliza en este sistema.

❸ Unidad de suministro de alimentación de CA

Introduzca los cables de alimentación y conéctelos a la toma de corriente.

Solo se instala una unidad de alimentación de CA en la fábrica.

Puede instalarse una segunda unidad de suministro de alimentación opcional para proporcionar redundancia de suministro de alimentación. Al utilizarla en sistemas que requieren fiabilidad, una redundancia de suministro de alimentación permite que la unidad continúe funcionando incluso si una unidad falla.

Para obtener más información acerca de la instalación o sustitución de unidades de suministro de alimentación, póngase en contacto con un representante de servicio o ventas de Sony.

❹ Conectores SDI (1 a 4)

Los conectores SDI1 a SDI4 están numerados de izquierda a derecha.

Conecte a un dispositivo VTR o monitor externo, utilizando un cable SDI, para recibir/emitar señales SDI.

❺ Conector REF IN

Introduzca una señal de referencia de sincronización.

❻ Conectores USB (panel posterior)

Conecte las unidades mediante cables USB.

Los dispositivos USB que no están descritos en este documento no son compatibles.

Notas

- De los cuatro conectores de USB de la parte posterior, solo el puerto de la parte inferior derecha admite suministro de alimentación (900 mA). Los tres puertos restantes no admiten suministro de alimentación y deben usarse para conectar dispositivos USB que no requieran alimentación del conector USB.
- Utilice cables USB SuperSpeed.

❼ Conectores LAN

Conéctese a una red Gigabit Ethernet.

8 Conector HDMI

Conéctese a una pantalla a través de un cable HDMI. Utilice un cable HDMI que cumpla con el siguiente estándar.

- Cable High Speed HDMI (Cable High Speed HDMI Premium)

9 Conector DisplayPort

Se conecta a una pantalla mediante un cable de conversión de DisplayPort-DVI o de DisplayPort-HDMI. Utilice un cable de conversión de tipo activo.

Nota

Utilice un cable DisplayPort que cumpla con el siguiente estándar.

- DP v1.2a (compatible)

10 Terminal de conexión a tierra

Efectúe la conexión a tierra.

Configuración

Ajustes iniciales

Antes de utilizar la unidad, configure los ajustes de Windows en la unidad. A continuación se describen los ajustes estándar en Windows 8.

Nota

Para reiniciar la unidad, en primer lugar apague la unidad y, a continuación, vuelva a encender el botón On/Standby del panel frontal sin reiniciar Windows.

- 1 Conecte un teclado y un ratón a los conectores USB del panel frontal, y conecte un monitor al conector DisplayPort o conector HDMI del panel posterior.
- 2 Ajuste el botón On/Standby a la posición On.
- 3 Cuando aparezca la pantalla de inicio de sesión de Windows, introduzca “tds” como nombre de usuario, introduzca “tds” como contraseña e inicie sesión.

Ajustar el idioma de la interfaz de Windows

- 1 Mantenga pulsada la tecla Windows y pulse la tecla X. A continuación, seleccione [Control Panel] en el menú que se muestra.
- 2 Seleccione [Clock, Language, and Region] > [Language].
- 3 Seleccione [Add language] para añadir un idioma.
- 4 Seleccione el idioma que desee añadir y haga clic en [Add].
- 5 Seleccione el idioma que desee utilizar y haga clic en [Move up] hasta que el idioma se muestre en la parte superior.
- 6 Cierre sesión y vuelva a abrir sesión.

Configurar la red

- 1 Conecte un extremo del cable LAN al conector LAN del panel posterior de la unidad, y conecte el otro extremo a la red.
- 2 Haga clic en [View network status and tasks] dentro de [Network and Internet] en el panel de control.

- 3** Haga clic en [Connections] > [LAN 1/2].
- 4** Haga clic en el botón [Properties].
- 5** Seleccione [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)] y, a continuación, haga clic en el botón [Properties].
- 6** Cambie la dirección IP y otros ajustes.
- 7** Haga clic en el botón [Advanced] para configurar DNS, WINS y otros ajustes.
- 8** Cuando finalice, haga clic en el botón [OK].

Ajustar la fecha y la hora

- 1** Seleccione [Set the time and date] dentro de [Date and Time] en el panel de control [Clock, Language, and Region].
- 2** Haga clic en [Change time zone] en la pestaña [Date and Time] y seleccione la zona horaria.
- 3** Haga clic en [Change data and time] en la pestaña [Date and Time] y ajuste la fecha y la hora.
- 4** Haga clic en el botón [Change settings] en la pestaña [Internet Time].
- 5** Especifique un servidor NTP y, a continuación, haga clic en el botón [Update Now].
- 6** Active la casilla [Synchronize with an Internet time server] para corregir periódicamente el reloj utilizando el servidor NTP.

Ajustar las contraseñas de usuario

El usuario predeterminado “tds” está configurado para Windows dentro de la unidad. Ajuste la contraseña de usuario para proporcionar seguridad.

- 1** Haga clic en [User Accounts and Family Safety] en el panel de control.
- 2** Haga clic en [User Account] > [Change account type].
- 3** Seleccione el usuario “tds”.
- 4** Haga clic en [Change the password].
- 5** Introduzca una nueva contraseña y una pista de contraseña y, a continuación, haga clic en el botón [Change Password].

Ajustar la contraseña del servicio

Al ajustar/modificar la contraseña de usuario “tds”, configure la contraseña del servicio como se muestra a continuación:

- 1** Haga doble clic en [Services], dentro de [Administrative tools] en el panel de control [System and Security].
- 2** Haga clic con el botón derecho sobre “Apache Tomcat 7.0 Tomcat7” en la lista de servicios y seleccione [Properties].
- 3** Abra la pestaña [Log On].
- 4** Haga clic en [This account], introduzca “.\tds” y, a continuación, introduzca una contraseña para el usuario “tds” en [Password].
- 5** Haga clic en el botón [Apply] y, a continuación, haga clic en [OK] para cerrar el cuadro de diálogo.
- 6** Seleccione “Sony Ingest Service” en la lista de servicios y repita los pasos del **2** al **5**.

Añadir un usuario

Puede añadir nuevos usuarios a Windows.

- 1** Haga clic en [User Accounts and Family Safety] en el panel de control.
- 2** Haga clic en [User Accounts] > [Change account type].
- 3** Haga clic en [Add a new user in PC settings].
- 4** Haga clic en [Add a user].
- 5** Introduzca un nombre de usuario, una contraseña y una pista de contraseña y, a continuación, haga clic en [Next].
- 6** Haga clic en [Finish].
A continuación, cambie el tipo de cuenta.
- 7** Haga clic en [Change account type] dentro de [User Accounts and Family Safety] en el panel de control.
- 8** Seleccione el usuario cuyo tipo de cuenta desee cambiar.
- 9** Haga clic en [Change the account type].

- 10 Seleccione [Standard] o [Administrator] y, a continuación, haga clic en el botón [Change account type].

Cambio del nombre del equipo

El PWS-100TD1 utiliza el nombre del equipo como parte de la autenticación de las comunicaciones https. Para cambiar el nombre del equipo, utilice el siguiente procedimiento. Se generará un nuevo certificado. Después de cambiar el nombre del equipo, vuelva a importar el nuevo certificado en el PC cliente.

- 1 Seleccione [System and Security] > [System] en [Control Panel].
- 2 Haga clic en [Computer name] > [Change Settings].
- 3 Haga clic en el botón [Change] en la ficha [Computer name] del cuadro de diálogo [System Properties].
- 4 Cambie el nombre del equipo y, a continuación, haga clic en [OK].
- 5 Reinicie el equipo cuando se le solicite.
- 6 Vuelva a iniciar sesión en la unidad PWS-100TD1.
- 7 Abra Símbolo del sistema como administrador e introduzca los siguientes comandos.


```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script  
> keystore.bat
```
- 8 Reinicie el sistema.
- 9 Vuelva a importar el certificado siguiendo las instrucciones de “*Instalación de certificados*” (página 105).

Cerrar sesión

Cuando finalice, cierre sesión en Windows.

- 1 Desplace el cursor hasta la esquina superior derecha de la pantalla para ver la barra de Charms y, a continuación, haga clic en [Start].
- 2 Haga clic en el nombre de cuenta en la parte superior derecha de la pantalla y, a continuación, haga clic en [Sign out].

Visualizar la aplicación web

Conéctese a la unidad a través de la red de un PC cliente y utilice la aplicación web en un explorador web en el PC cliente para controlar y configurar la unidad.

Entorno de PC cliente recomendado

CPU: Core i5 3 GHz o superior

Memoria: 4 GB o superior

S.O.: Windows 7 Pro 32/64 bits

Windows 8/8.1 Pro 32/64 bits

Mac OS X 10.8/10.9

Explorador web: Google Chrome 40 o superior (actualice a la última versión)

Resolución de pantalla: 1366 × 768 píxeles o superior

Conecte un ordenador que cumpla las condiciones anteriores al conector LAN 1 o LAN 2 del panel posterior de la unidad. Introduzca “https://(dirección_IP):8443/tds o https://pws-100-<número_de_serie>:8443/tds” en la barra de direcciones de un explorador web en el ordenador (donde dirección_IP es la dirección especificada en “*Configurar la red*”) para visualizar la aplicación web. Introduzca el nombre de usuario y la contraseña cuando aparezca la pantalla de inicio de sesión. El nombre de usuario y la contraseña predeterminados son los siguientes.

Nombre de usuario: admin

Contraseña: tds

Ajustes del sistema

Configure el sistema en la pantalla de ajustes en la aplicación web.

Inicie sesión como usuario con privilegios de administrador cuando entre a la aplicación web.

Para más información sobre el funcionamiento de la aplicación web, consulte la ayuda de la aplicación.

Cambiar el idioma de la interfaz

Puede cambiar el idioma de la interfaz de la aplicación web.

Seleccione el idioma en [Idioma] en la página [Mis ajustes] de la pantalla de ajustes.

Seleccionar la frecuencia de operación

Seleccione la frecuencia de operación del sistema.

Seleccione la frecuencia en [Ajuste de ingesta] en la página [Ingesta] de la pantalla de ajustes.

Añadir usuarios

Para añadir cuentas de usuario además de la cuenta de administrador por defecto, añada nuevos usuarios en la página [Usuario] de la pantalla de ajustes.

Registrar un destino de la transferencia

Para transferir clips ingestados a un cartucho o servidor de red, registre el destino de transferencia en la página [Transferir] de la pantalla de ajustes.

Instalación de certificados

Es posible que la visualización de la aplicación web mediante una conexión https desde un navegador web muestre un mensaje de error como, por ejemplo, “El certificado de seguridad del sitio no es de confianza”. Para conectarse correctamente y sin errores a través de https, debe instalar un certificado de CA raíz (certificado de cliente) en el navegador web que se corresponda con el servidor (PWS-100-<número_de_serie>).

A continuación se describe el procedimiento para instalar un certificado con Google Chrome.

Procedimiento de instalación de un certificado de CA raíz

- 1 Acceda a la aplicación web mediante https en un navegador web.

Aparece un mensaje de error como, por ejemplo, “El certificado de seguridad del sitio no es de confianza”.

- 2 Haga clic en el icono de bloqueo en el extremo izquierdo de la barra de direcciones.

- 3 Haga clic en [Información del certificado] en la ventana emergente.

Aparece el cuadro de diálogo [Certificado]. Anote el emisor de certificado “PWS-100-<número_de_serie>” que aparece en el cuadro de diálogo.

- 4 Haga clic en la ficha [Detalles] y, a continuación, haga clic en el botón [Copiar a archivo].

Aparece el Asistente para exportación de certificados.

- 5 Haga clic en [Siguiente].

- 6 Seleccione “DER binario codificado X.509 (.CER)” y, a continuación, haga clic en [Siguiente].

- 7 Haga clic en el botón [Examinar] y especifique la carpeta en la que desea almacenar el certificado y, a continuación, haga clic en [Siguiente].

Comenzará la exportación del certificado.

- 8 Cuando aparezca la ventana de finalización de exportación del asistente, haga clic en [Finalizar].

- 9 Cuando aparezca la ventana de mensajes, haga clic en [Aceptar].

- 10 Haga clic en el botón de menú de Chrome y, a continuación, seleccione [Configuración].

- 11 En la pantalla de Configuración, haga clic en [Mostrar opciones avanzadas] y, a continuación, haga clic en el botón [Administrar certificados] en [HTTP/SSL].

Aparece el cuadro de diálogo [Certificado].

- 12 Haga clic en la ficha [Entidades de certificación raíz de confianza] del diálogo y, a continuación, haga clic en el botón [Importar].

Aparece el Asistente para importación de certificados.

- 13 Haga clic en [Siguiente].

- 14 Haga clic en el botón [Examinar], seleccione el archivo descargado y, a continuación, haga clic en [Siguiente].

- 15 Compruebe que [Colocar todos los certificados en el siguiente almacén] está seleccionado y que “Entidades de certificación raíz de confianza” se muestra en [Almacén de certificados:] y, a continuación, haga clic en [Siguiente].

Comenzará la importación del certificado.

- 16 Cuando aparezca la ventana de finalización de la importación del asistente, haga clic en [Finalizar].

El asistente se cierra.

- 17 Cuando aparezca la ventana de mensajes, haga clic en [Aceptar].

- 18 Haga clic en el botón de menú de Chrome y seleccione [Salir]. A continuación, reinicie Chrome.

- 19 Configure los ajustes de resolución de nombres para que el emisor “PWS-100-<número_de_serie>” que anotó antes resuelva a la dirección IP establecida en “Configurar la red” (página 102) y, a continuación, conecte con https://pws-100-<número_de_serie>:8443/tds.

Licencias de bibliotecas

Consulte el menú [Ayuda] en la aplicación web para ver las licencias de cada tipo de biblioteca utilizada por el PWS-100TD1.

Funcionamiento de la aplicación Maintenance Web

Para obtener información acerca del funcionamiento de la aplicación Maintenance Web para administradores del sistema, inicie sesión en la unidad y haga clic en el icono de acceso directo en el escritorio para consultar el Manual de operaciones.

Precauciones de uso

Precauciones para productos con discos duros incorporados

Esta unidad tiene un disco duro incorporado (HDD). El disco duro es un dispositivo de precisión. Si somete la unidad a golpes, vibraciones, electricidad estática o temperaturas y humedad elevadas, podría perder datos. Tenga en cuenta las siguientes precauciones cuando instale o utilice la unidad.

Protección frente a golpes y vibraciones

Si somete la unidad a golpes o vibraciones, el disco duro podría resultar dañado y ocasionar la pérdida de datos.

- Utilice el material de embalaje especificado cuando transporte la unidad. Cuando la transporte en una carretilla o similar, utilice una que no transmita excesivas vibraciones. Un exceso de golpes o vibraciones puede dañar el disco duro.
- No mueva nunca la unidad mientras esté conectada.
- No extraiga los paneles o las partes exteriores de la unidad.
- Cuando desee colocar la unidad sobre el suelo u otra superficie, hágalo sobre una superficie nivelada y estable.
- No coloque la unidad cerca de otros dispositivos que puedan convertirse en fuente de vibraciones.
- Cuando mueva la unidad, apague siempre la alimentación.

Espere 30 segundos después de apagar la alimentación

Durante un breve intervalo después de apagar la alimentación, los platos dentro del disco duro seguirán girando y los cabezales se encontrarán en una posición poco segura. Durante este intervalo, la unidad es más susceptible a golpes y vibraciones que durante el funcionamiento normal. Durante un período de al menos 30 segundos después de apagar la unidad, evite someterla incluso al mínimo golpe. Después de este período, el disco duro se detendrá completamente y podrá manipularse la unidad.

Precauciones relativas a la temperatura y a la humedad

Utilice y guarde la unidad solamente en lugares donde no se excedan los rangos especificados de temperatura y humedad. (Siga las especificaciones de este dispositivo y por favor lo uso.)

Si el disco duro parece defectuoso

Incluso si el disco duro muestra signos de mal funcionamiento, asegúrese de tener en cuenta todas las precauciones anteriores. Esto evitará que se produzcan más daños hasta que se pueda diagnosticar el problema y corregirlo.

Sustitución del disco duro y de otros consumibles

El disco duro (HDD) y la batería son consumibles que deben sustituirse periódicamente. Si utiliza la unidad a temperatura ambiente, el ciclo de sustitución normal será de 2 a 5 años. Sin embargo, esto representa solo una directriz general y no constituye ninguna garantía de su vida útil. Para obtener más información acerca de la sustitución de componentes, póngase en contacto con el distribuidor.

Para más información sobre el ciclo de sustitución, póngase en contacto con su representante de ventas o servicio de Sony.

Precauciones sobre el suministro de alimentación

Si la unidad se apaga de repente, podrían perderse datos. Para mantener la integridad de los datos es recomendable utilizar un sistema de alimentación ininterrumpida (SAI). Pulse siempre el botón On/Standby de la unidad para detenerla antes de proceder a desconectar el cable de conexión o apagar el disyuntor.

Precauciones acerca del uso de dispositivos USB

Al utilizar una unidad conectada a un dispositivo USB autoalimentado (como el ODS-D77U), es posible que el dispositivo no se reconozca según el momento en el que el dispositivo se encendió. Si esto ocurre, apague el dispositivo USB y vuelva a encenderlo, o desconecte y vuelva a conectar el cable USB.

Precauciones de red

Según el tipo de entorno operativo, es posible que terceras partes no autorizadas puedan acceder al sistema a través de la red.

Se recomienda encarecidamente que configure todas las contraseñas por motivos de seguridad.

Configure todas las contraseñas mediante el procedimiento descrito en *página 103*.

Desde el punto de vista de la seguridad, al utilizar la unidad conectada a la red, se recomienda encarecidamente acceder a la ventana de control a través de un navegador web y modificar la limitación de acceso de los valores predeterminados de fábrica (*página 104*).

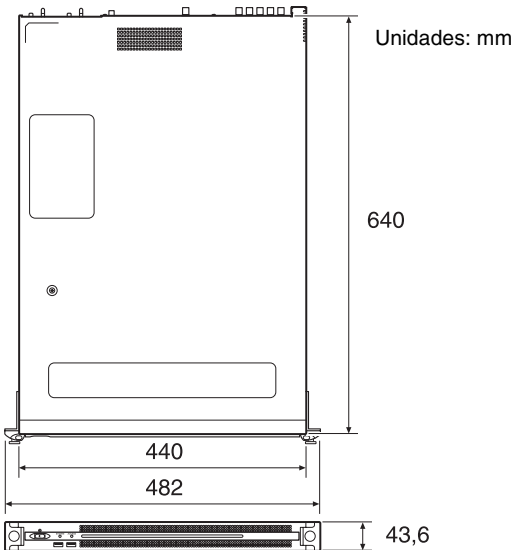
Asimismo, se recomienda cambiar la contraseña periódicamente.

No visite otros sitios web con el navegador web mientras ajuste la configuración o justo después. El navegador web recuerda los ajustes de inicio de sesión, por lo que debe cerrarlo al completar la configuración para evitar que terceros no autorizados utilicen la unidad o evitar la instalación de programas maliciosos.

Especificaciones

General

Requisitos de alimentación	CA de 100 V a 240 V 50/60 Hz
Consumo de energía	235 W
Consumo de energía en modo de espera	3 W o inferior
Temperatura de funcionamiento	De 5 °C a 35 °C
Temperatura de almacenamiento	De -20 °C a +60 °C
Humedad de funcionamiento	De 20% al 90% (humedad relativa)
Humedad de almacenamiento	De 5% al 80%
Peso	14 kg
Dimensiones	440 × 43,6 × 640 mm (An. / Alt. / Prof.)



CPU

Procesador	Intel Core i7 6700TE (a 2,4 GHz)
Memoria	8 GB SO-DIMM (DDR4) (2)
Unidad (M.2)	120 GB
Unidades de disco duro	2,5 pulg., 500 GB (12)
Expansión del bus	PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

Entradas/salidas

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB (panel frontal/panel posterior)	Super Speed USB (USB 3.0) Tipo A (6, 2 en la parte frontal y 4 en la parte posterior) Panel frontal: admite suministro de alimentación (900 mA/puerto) Panel posterior: el puerto de la parte inferior derecha admite suministro de alimentación (900 mA), los tres puertos restantes no
HDMI	Tipo A (1) HDMI versión 1.4a, resolución máxima 1920 × 1200, 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort versión 1.1a, resolución máxima 2560 × 1600, 60 Hz
Remote	RJ-45 (3) Compatible con el protocolo VTR de Sony (9 pines), requiere cable de conversión RJ-45 a D-sub (suministrado)
REF IN	BNC (1) Conformidad con SMPTE ST 318, sincronización de tres niveles HD (0,6 Vp-p, 75 Ω, sincronización positiva/negativa) o sincronización compuesta/black burst SD (NTSC: 0,286 Vp-p, 75 Ω, sincronización negativa PAL: 0,3 Vp-p, 75 Ω, sincronización negativa)
SDI 1 a 4	BNC (4) HD: Conformidad con SMPTE ST 292-1 SD: Conformidad con SMPTE ST 259

Formatos compatibles

Códec	Frecuencia de operación	Resolución N.º de bits de cuantificación	Canales de audio
IMX 30M, 40M, 50M UNCOM-PRESS 220M	59,94i	720 × 576 422 8 bits	8 canales (16-bits) 4 canales (24-bits)
	50i	720 × 480 422 8 bits	8 canales (16-bits) 4 canales (24-bits)
MPEG HD 50M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 422 8 bits	8 canales (24-bits)

Códec	Frecuencia de operación	Resolución N.º de bits de cuantificación	Canales de audio
MPEG HD 35M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 420 8 bits	4 canales (16-bits)
		1440 × 1080 420 8 bits	
XAVC-I 100M	59,94i, 50i, 29,97P, 25P, 23,98P	1920 × 1080 422 10 bits	8 canales (24-bits)

Tiempo de grabación con cada configuración de RAID

Abajo se indica el tiempo de grabación disponible para cada configuración de RAID y códec de vídeo.

Configuración de RAID			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
Número de unidades lógicas			4	3	2
Capacidad de unidad ^{a)} (por unidad lógica)			838 GB	1.230 GB	2.050 GB
SD	IMX 30 Mbps	Por unidad	Aprox. 50 horas	Aprox. 75 horas	Aprox. 125 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 200 horas	Aprox. 225 horas	Aprox. 250 horas
	IMX 40 Mbps	Por unidad	Aprox. 35 horas	Aprox. 55 horas	Aprox. 95 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 140 horas	Aprox. 165 horas	Aprox. 190 horas
	IMX 50 Mbps	Por unidad	Aprox. 30 horas	Aprox. 45 horas	Aprox. 70 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 120 horas	Aprox. 135 horas	Aprox. 140 horas
	UNCOM-PRESS 220 Mbps	Por unidad	Aprox. 7 horas	Aprox. 10 horas	Aprox. 18 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 28 horas	Aprox. 30 horas	Aprox. 36 horas
	MPEG 35 Mbps	Por unidad	Aprox. 45 horas	Aprox. 70 horas	Aprox. 120 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 180 horas	Aprox. 210 horas	Aprox. 240 horas
HD	MPEG 50 Mbps	Por unidad	Aprox. 30 horas	Aprox. 45 horas	Aprox. 75 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 120 horas	Aprox. 135 horas	Aprox. 150 horas
	XAVC 100 Mbps	Por unidad	Aprox. 15 horas	Aprox. 25 horas	Aprox. 40 horas
		Total de todas las unidades	Aprox. 60 horas	Aprox. 75 horas	Aprox. 80 horas

a) Capacidad indicada en la interfaz gráfica de usuario (GUI).

Nota

El tiempo de grabación que se puede obtener podría variar de los valores anteriores; dependerá de los soportes de grabación y otras condiciones.

Accesorios suministrados

Cable de conversión RJ-45 a D-sub

Pieza N.º 1-848-424-12 (SONY) (2)

Accesorios opcionales

Alimentación opcional PWSK-101

El diseño y las especificaciones están sujetos a cambios sin previo aviso.

SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR DAÑOS DE NINGÚN TIPO DEBIDOS A LA OMISIÓN DE LAS MEDIDAS DE SEGURIDAD ADECUADAS EN DISPOSITIVOS DE TRANSMISIÓN, FUGAS DE DATOS INEVITABLES DERIVADAS DE LAS ESPECIFICACIONES DE TRANSMISIÓN O PROBLEMAS DE SEGURIDAD DE CUALQUIER TIPO.

Notas

- Haga siempre un ensayo de grabación y verifique que se grabó bien.
SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR DAÑOS DE NINGÚN TIPO, INCLUYENDO PERO NO LIMITADO A LA COMPENSACIÓN O PAGO POR FALLO EN HACER CUALQUIER TIPO DE CONTENIDO DE GRABACIÓN POR MEDIO DE ESTA UNIDAD O SU SOPORTE DE GRABACIÓN, SISTEMAS DE MEMORIA EXTERNA O CUALQUIER OTRO SOPORTE O SISTEMAS DE MEMORIA.
- Verifique siempre que esta unidad funciona correctamente antes de utilizarla. SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR DAÑOS DE NINGÚN TIPO, INCLUYENDO PERO NO LIMITADO A LA COMPENSACIÓN O PAGO POR LA PÉRDIDA DE GANANCIAS PRESENTES O FUTURAS DEBIDO AL FALLO DE ESTA UNIDAD, YA SEA DURANTE LA VIGENCIA DE LA GARANTÍA O DESPUÉS DEL VENCIMIENTO DE LA GARANTÍA NI POR CUALQUIER OTRA RAZÓN.
- SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR RECLAMACIONES DE NINGÚN TIPO REALIZADAS POR USUARIOS DE ESTA UNIDAD O POR TERCEROS.
- SONY NO SE HACE RESPONSABLE POR LA PERDIDA, REPARACIÓN O REPRODUCCIÓN DE CUALQUIER DATO GRABADO EN EL SISTEMA DE ALMACENAMIENTO INTERNO, SOPORTES DE GRABACIÓN, SISTEMAS DE ALMACENAMIENTO EXTERNO O CUALQUIER OTRO SISTEMA DE ALMACENAMIENTO.
- SONY NO SE HACE RESPONSABLE DE LA FINALIZACIÓN NI DE LA INTERRUPCIÓN, POR LA CIRCUNSTANCIA QUE FUERA, DE CUALQUIER SERVICIO RELACIONADO CON ESTA UNIDAD.

- Windows es una marca comercial registrada de Microsoft Corporation en Estados Unidos y en otros países.
- Google Chrome es una marca comercial o marca comercial registrada de Google Inc.

Antes de utilizar esta unidad, asegúrese de leer el Contrato de licencia de usuario final en el Manual de instalación (documento independiente). Además, los símbolos ® o ™ no se utilizan en el texto.

Este producto utiliza el código fuente T-Kernel 2.0 que se basa en la T-License 2.0 del T-Engine Forum (www.t-engine.org).

机型名称：数字化工作站

使用产品前请仔细阅读本书，并请妥善保管。

目录

概述	112
系统配置示例	113
支持的设备	118
支持的 VTR	118
支持的 ODS 设备	118
部件的名称和功能	119
正面	119
正面（面板被移除）	119
背面	120
设置	121
初始设置	121
显示 Web 应用程序	122
系统设置	123
安装证书	123
库许可证	124
维护 Web 应用程序操作	124
使用注意事项	124
规格说明	125

CS

为了安全，请仔细阅读 PWS-100 操作指南（随附）中提及的注意事项。

概述

PWS-100TD1 系统用于对 VTR 材料进行数字化处理，可创建短片并且可将短片存储在光盘归档系统中的光盘上。此系统具有以下功能。

摄取

本机可根据一个或多个 VTR 发送的 SDI 输入信号创建高分辨率视频文件和代理视频文件，然后将摄取的短片存储在内置硬盘驱动器上。它还可以通过 RS-422 接口远程控制 VTR 设备。

视频质量检查

本机可自动检查所摄取短片的视频质量。操作员也可以在 Web 应用程序屏幕或外置监视器上直观地检查视频。

短片存储

高分辨率的短片可传输到光盘或网络服务器上存储。

工作流

从短片摄取到传输等一系列任务均可使用工作流在一个操作中执行。管理员可定义要执行的工作流任务并分配操作员执行工作指令中的任务，然后操作员将根据工作指令执行任务。

Web 应用程序

使用客户端 PC 上 Web 浏览器中显示的图形界面对本机进行控制和配置。

与管理软件集成

可使用其他软件导出代理视频文件和光盘上存储的短片的属性。

系统配置示例

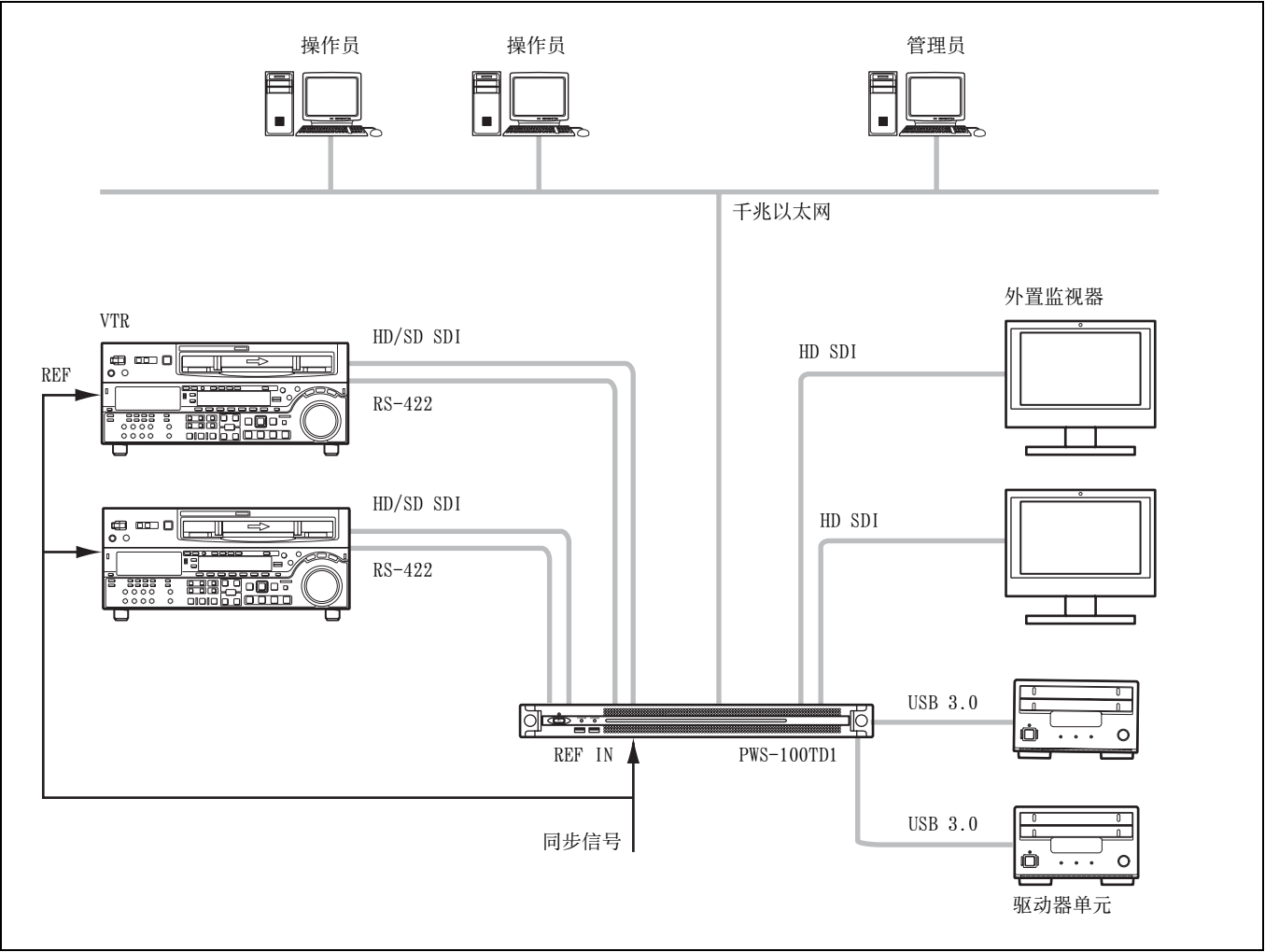
将 VTR 和外部监视器连接到设备的 SDI 接口，并将驱动器单元连接到后面板上的 USB 接口。可通过在 Web 应用程序中配置 SDI 设置来选择 2 输入 /2 输出、3 输入 /1 输出或 4 输入系统配置。

注意

- 如果连接了多个 VTR，请确保同步所有 VTR（±1H）。
- 将 VTR 的 EE/PB 设置为 PB。

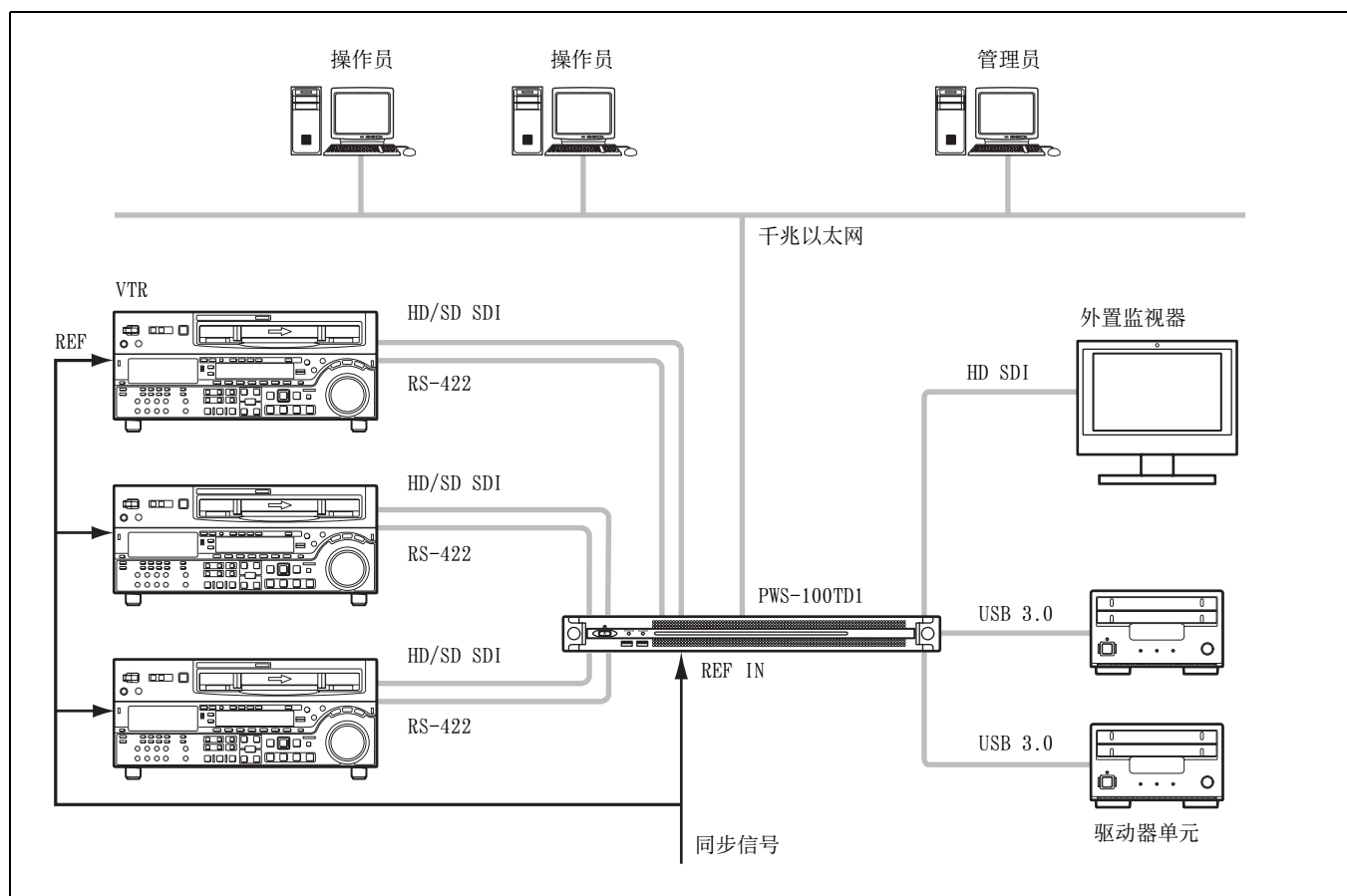
2 输入 /2 输出

将 VTR 连接至 SDI 1 和 SDI 2 接口，并且将外置监视器连接至 SDI 3 和 SDI 4 接口。您可以使用该配置对两个 VTR 的视频并行进行数字化处理。



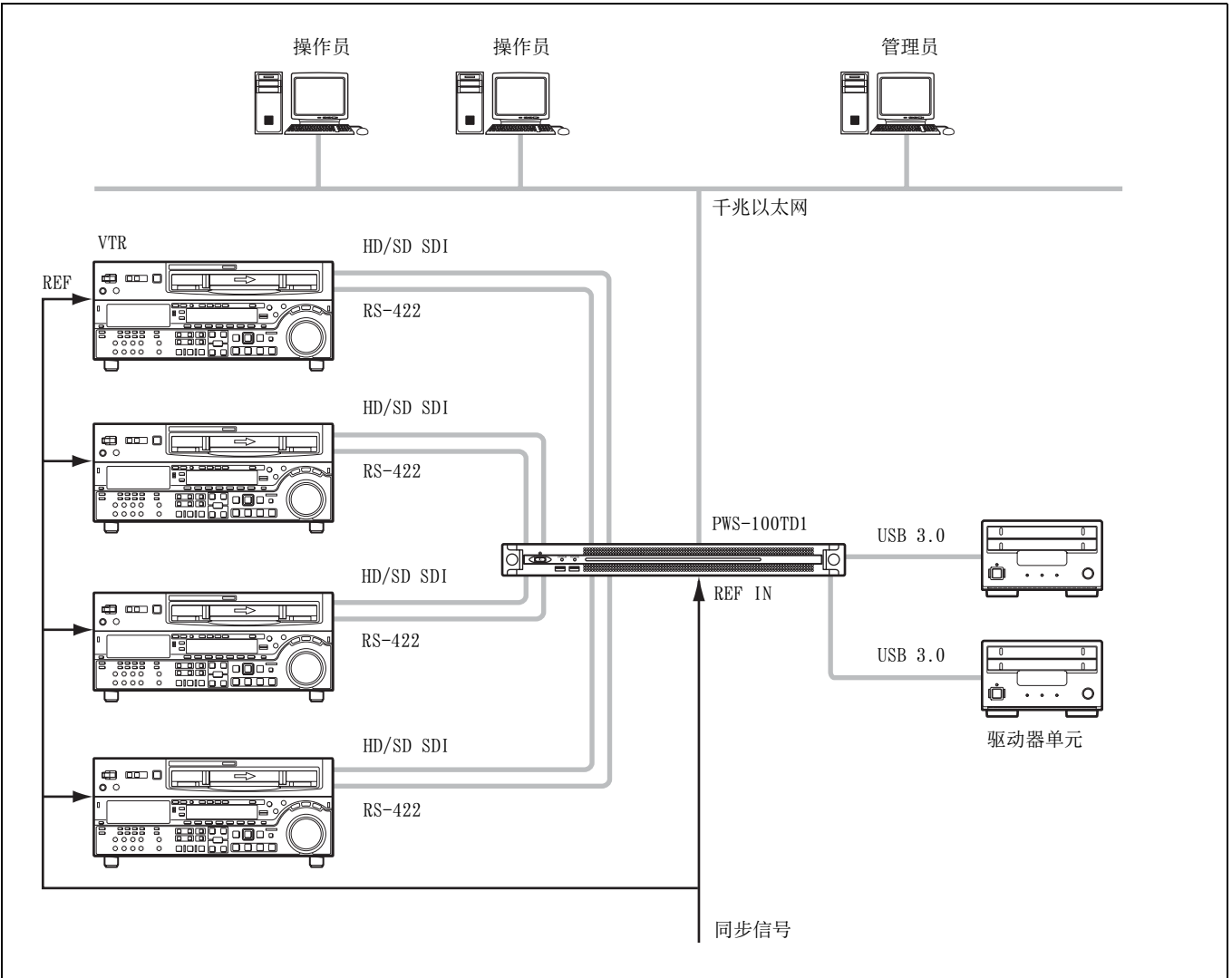
3 输入 /1 输出

将 VTR 连接到 SDI 1 至 SDI 3 接口，将外部监视器连接到 SDI 4 接口。连接到 SDI 4 接口的外部监视器用于监视短片的高分辨率图像。



4 输入

将 VTR 连接到 SDI 1 至 SDI 4 接口。如果 SDI 4 接口不用于摄取，则可在 GUI 中监控短片的高分辨率图像。



RAID 配置选择

设置系统配置后，请设置 RAID 配置，使其与所选系统配置具有相同数量的 SDI 输入和逻辑驱动器。您可以使用 PWS-100 维护 Web 应用程序来设置 RAID 配置。根据所选系统配置，按如下所示设置 RAID 配置。不支持以下配置以外的配置。

有关配置的详细信息，请参考 PWS-100 维护 Web 应用程序操作手册。

- 对于 2 输入 / 2 输出： $(5D + 1P) \times 2$
- 对于 3 输入 / 1 输出： $(3D + 1P) \times 3$
- 对于 4 输入： $(2D + 1P) \times 4$

注意

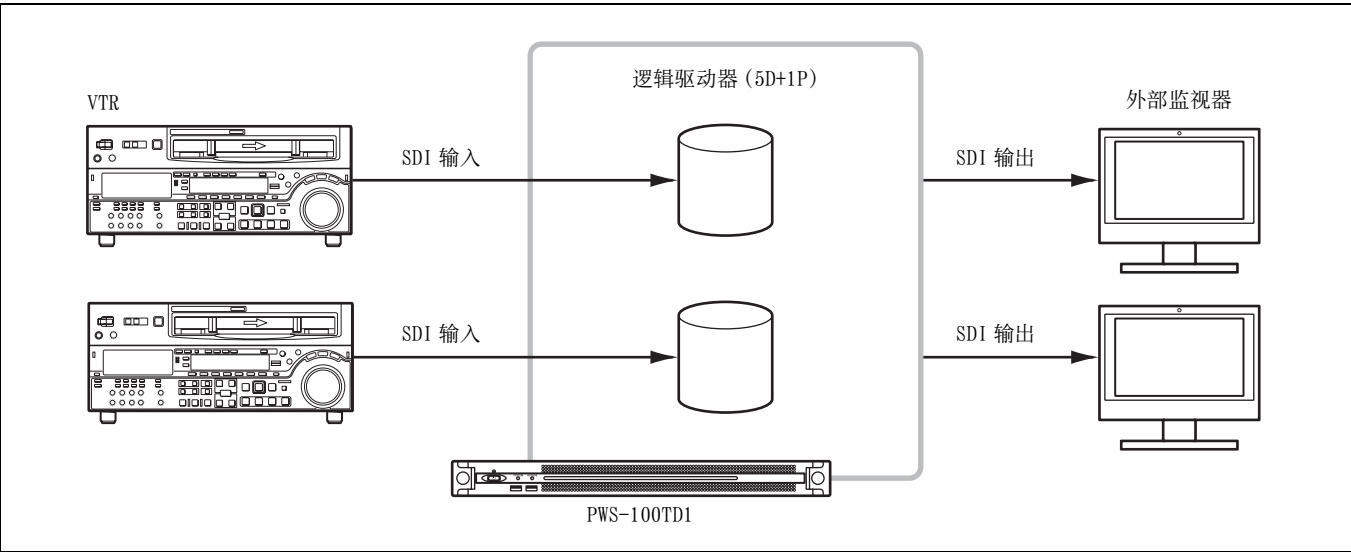
如果更改了 RAID 配置，内部存储器中写入的所有高分辨率文件、代理服务文件、报告文件和工作指令都将删除。更改 RAID 配置前，请务必转移或下载所有数据，以防数据丢失。

关于 RAID 配置

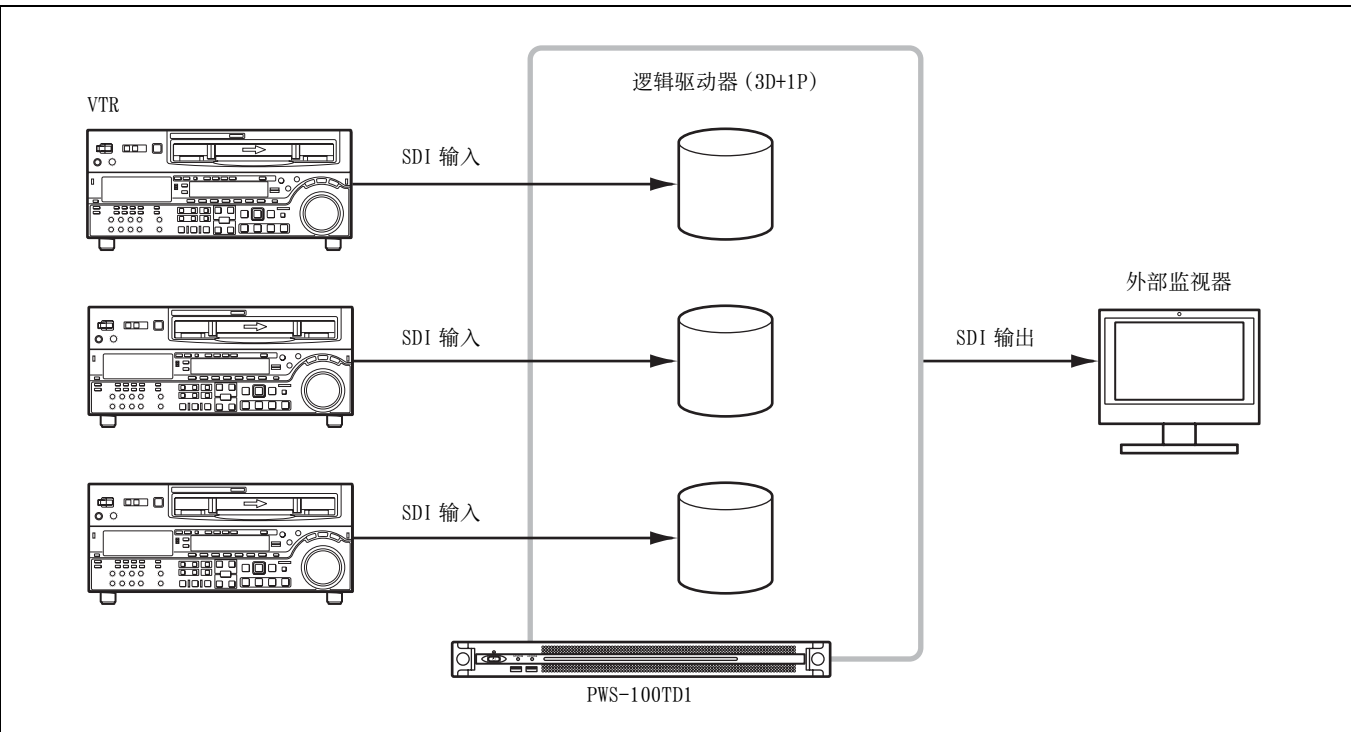
安装了总共 12 个硬盘驱动器时，PWS-100TD1 支持以下 RAID 配置。

- 2D + 1P：包含总共四个逻辑驱动器，其中每个逻辑驱动器包含两个数据硬盘驱动器和一个奇偶校验硬盘驱动器。
- 3D + 1P：包含总共三个逻辑驱动器，其中每个逻辑驱动器包含三个数据硬盘驱动器和一个奇偶校验硬盘驱动器。
- 5D + 1P：包含总共两个逻辑驱动器，其中每个逻辑驱动器包含五个数据硬盘驱动器和一个奇偶校验硬盘驱动器。

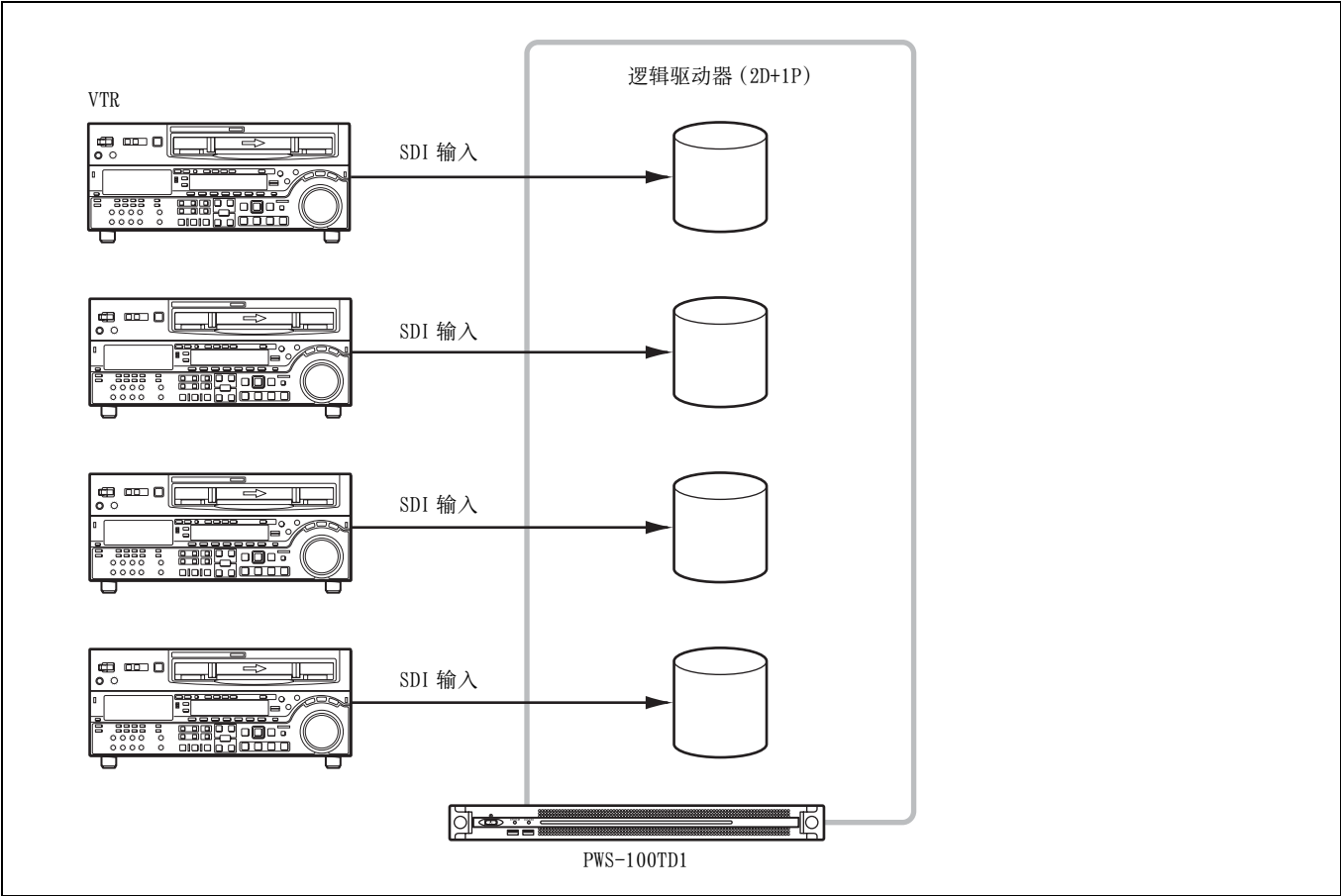
对于 2 输入 /2 输出



对于 3 输入 /1 输出



对于 4 输入



支持的设备

使用以下设备的操作已经过验证。

支持的 VTR

使用以下 VTR 的操作已经过验证。

Betacam SP	BVW-75 BVW-75P
Digital Betacam	DVW-A500 DVW-A500P
Betacam SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

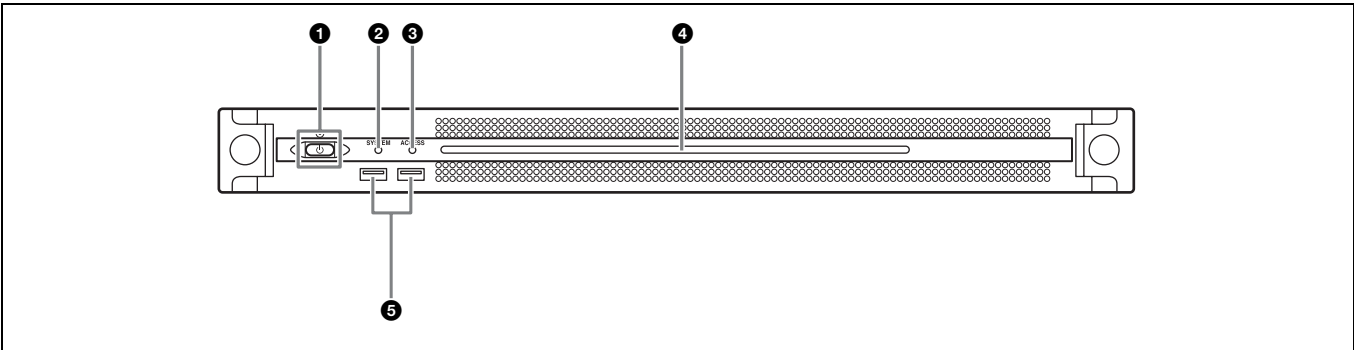
支持的 ODS 设备

使用以下 ODS 驱动器的操作已经过验证。

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

部件的名称和功能

正面



❶ 开机 / 待机键和指示灯

在开机和关机（待机状态）之间切换。连接电源线后，本机将处于待机状态，此指示灯会亮起红色。在待机状态下按开机 / 待机键可启动本机，此指示灯会亮起绿色。长按开机 / 待机按钮两秒可将本机切换至待机状态，此时此指示灯将变为红色。要在将本机从开机状态切换至待机状态后重新开启本机，请在此指示灯为红色时长按开机 / 待机按钮三秒或更长时间。断开电源线后，此指示灯会熄灭。

❷ SYSTEM 指示灯

指示本机的状态。

绿色：工作正常

闪烁绿色（每秒闪烁一次）：系统正在启动或正在转换为待机状态。

闪烁橙色（每秒闪烁一次）：生成了警告。

快速闪烁红色（每秒闪烁四次）：发生了错误。

❸ ACCESS 指示灯

指示存储器的访问状态。

熄灭：未访问存储器

蓝色：正在访问存储器

❹ 前面板 LED

根据 Web 应用程序中的设置打开。使用“维护”屏幕上 [Settings] 页面中的 [001: LINE LED] 配置该 LED。

❺ USB 接口（前面板）

连接到键盘和鼠标用于初始化本机。

不支持本文档中未列出的 USB 设备。

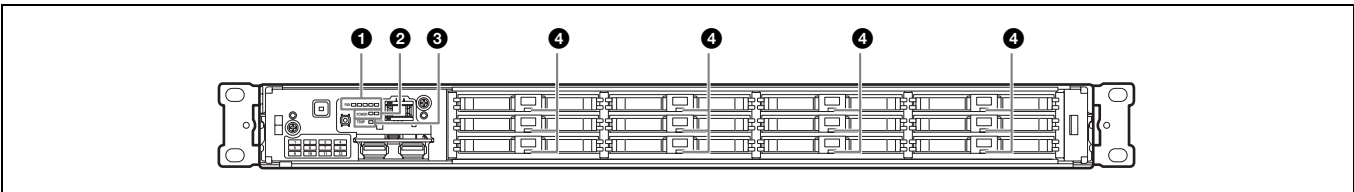
注意

前面板上的两个 USB 端口都支持功率输出 (900 mA)。

正面（面板被移除）

当 SYSTEM 指示灯或 Web 应用程序指示发生错误时，可移除前面板检查硬件组件的状态。

要移除前面板，请拧松左右两侧的螺丝，然后向朝自己的一侧拉面板。



❶ FAN 指示灯

如果有任何风扇发生故障，相应的风扇指示灯会变为红色。

❷ POWER 指示灯

如果任一 AC 电源装置发生故障，相应指示灯会变为红色。

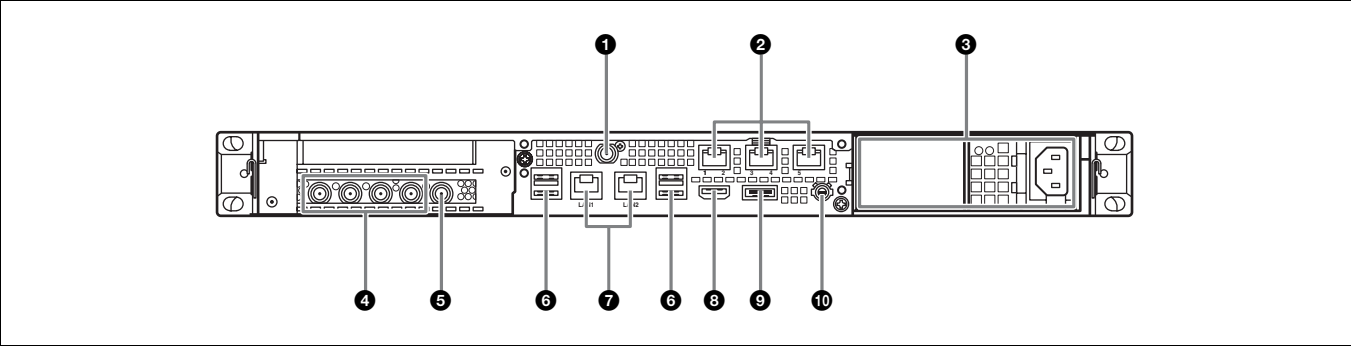
③ TEMP 指示灯

如果检测到本机内部异常高温，此指示灯会变为红色。

④ HDD 状态指示灯

如果针对某 HDD 生成警告，相应的指示灯将亮起红色。如果 HDD 出现故障、处于睡眠状态或已被移除，相应的指示灯将熄灭。

背面



① SYSTEM TC 接口

本系统未使用。

② Remote 接口（1/2、3/4、5）

使用 RJ-45 D-sub 转换电缆（随附）和市售的 9 针远程电缆将 VTR 设备连接至 Remote 1/2 接口和 Remote 3/4 接口，便可对 VTR 进行远程控制操作。您可以使用一条 RJ-45 D-sub 转换电缆和两条 9 针远程电缆连接两个 VTR。

本系统不使用 Remote 5 接口。

③ AC 电源装置

插入电源线并连接到电源插座。
出厂时只安装了一个 AC 电源装置。
可安装第二个可选电源装置来提供冗余电源。在要求高可靠性的系统中使用时，冗余电源可让本机在发生电力故障时继续运行。

有关安装或更换电源装置的详细信息，请联系 Sony 销售代表或服务代表。

④ SDI（1 到 4）接口

SDI1 到 SDI4 接口从左到右进行编号。
使用 SDI 电缆连接至 VTR 设备或外置监视器，便可输入 / 输出 SDI 信号。

⑤ REF IN 接口

输入同步参考信号。

⑥ USB 接口（后面板）

使用 USB 电缆连接至驱动器单元。
不支持本文中未列出的 USB 设备。

注意

- 在后面的四个 USB 接口中，只有右下方的端口支持功率输出（900 mA）。另外三个端口则不支持功率输出，应用于连接不需要从 USB 接口提供电源的 USB 设备。
- 使用 SuperSpeed USB 电缆。

⑦ LAN 接口

连接至千兆位以太网网络。

⑧ HDMI 端口

使用 HDMI 电缆连接至监视器。
使用符合以下标准的 HDMI 电缆。
• 高速 HDMI 电缆（优质高速 HDMI 电缆）

⑨ DisplayPort 端口

使用 DisplayPort-DVI 转换电缆或 DisplayPort-HDMI 转换电缆连接至监视器。
请使用有源转换电缆。

注意

- 使用符合以下标准的 DisplayPort 电缆。
- DP v1.2a（兼容）

⑩ 接地端子

接地。

设置

初始设置

使用本机前，请在本机内配置 Windows 设置。以下描述将介绍 Windows 8 中的标准设置。

注意

要重启本设备，请先关闭设备，然后再次打开前面板上的开机 / 待机键，无需重启 Windows。

- 1 将键盘和鼠标连接至前面板上的 USB 接口，然后将监视器连接至后面板上的 DisplayPort 接口或 HDMI 接口。
- 2 将开机 / 待机按钮设为“开机”位置。
- 3 出现 Windows 登录屏幕后，输入“tds”作为用户名，输入“tds”作为密码，然后登录。

设置 Windows 界面语言

- 1 按住 Windows 键的同时按下 X 键，然后从所显示的菜单中选择 [Control Panel]。
- 2 选择 [Clock, Language, and Region] > [Language]。
- 3 选择 [Add language] 以添加语言。
- 4 选择要添加的语言，然后单击 [Add]。
- 5 选择要使用的语言并单击 [Move up]，直到所需的语言显示在顶部。
- 6 注销然后重新登录。

配置网络

- 1 将 LAN 电缆连接至本机后面板上的 LAN 接口，并将电缆的另一端连接至网络。
- 2 在控制面板中，单击 [Network and Internet] 下的 [View network status and tasks]。
- 3 单击 [Connections] > [LAN 1/2]。
- 4 单击 [Properties] 按钮。
- 5 选择 [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)]，然后单击 [Properties] 按钮。

- 6 更改 IP 地址和其他设置。

- 7 单击 [Advanced] 按钮以配置 DNS、WINS 和其他设置。

- 8 完成后，单击 [OK] 按钮。

设置日期和时间

- 1 在 [Clock, Language, and Region] 控制面板中，选择 [Date and Time] 下的 [Set the time and date]。
- 2 单击 [Date and Time] 选项卡上的 [Change time zone]，然后选择时区。
- 3 单击 [Date and Time] 选项卡上的 [Change date and time]，然后设置日期和时间。
- 4 单击 [Internet Time] 选项卡上的 [Change settings] 按钮。
- 5 指定 NTP 服务器，然后单击 [Update Now] 按钮。
- 6 选中 [Synchronize with an Internet time server]，使用 NTP 服务器定期纠正时钟。

设置用户密码

本机为 Windows 配置的默认用户为“tds”。设置用户密码是为了提高安全性。

- 1 单击控制面板中的 [User Accounts and Family Safety]。
- 2 单击 [User Account] > [Change account type]。
- 3 选择“tds”用户。
- 4 单击 [Change the password]。
- 5 输入新密码和密码提示，然后单击 [Change Password] 按钮。

设置服务密码

设置 / 修改用户“tds”密码时，请如下设置服务密码。

- 1 在 [System and Security] 控制面板中的 [Administrative tools] 下双击 [Services]。
- 2 然后在服务列表中右键单击“Apache Tomcat 7.0 Tomcat7”并选择 [Properties]。
- 3 打开 [Log On] 选项卡。

- 4 单击 [This account], 输入 “. \tds”, 然后在 [Password] 中为用户 “tds” 输入密码。
- 5 单击 [Apply] 键, 然后单击 [OK] 关闭对话框。
- 6 在服务列表中选择 “Sony Ingest Service”, 然后重复步骤 2 到步骤 5。

添加用户

您可以向 Windows 添加新用户。

- 1 单击控制面板中的 [User Accounts and Family Safety]。
- 2 单击 [User Accounts] > [Change account type]。
- 3 单击 [Add a new user in PC settings]。
- 4 单击 [Add a user]。
- 5 输入用户名、密码和密码提示, 然后单击 [Next]。
- 6 单击 [Finish]。
下一步, 更改帐户类型。
- 7 在控制面板中, 单击 [User Accounts and Family Safety] 下的 [Change account type]。
- 8 选择您希望更改其帐户类型的用户。
- 9 单击 [Change the account type]。
- 10 选择 [Standard] 或 [Administrator], 然后单击 [Change account type] 按钮。

更改计算机名称

PWS-100TD1 使用计算机名称作为 https 通信验证的一部分。
要更改计算机名称, 请使用下列步骤。此操作将生成一个新的证书。
更改计算机名称后, 将新证书重新导入客户端 PC。

- 1 在 [Control Panel] 中选择 [System and Security] > [System]。
- 2 单击 [Computer name] > [Change Settings]。
- 3 在 [System Properties] 对话框的 [Computer name] 选项卡中单击 [Change] 按钮。
- 4 更改计算机名称, 然后单击 [OK]。

- 5 在系统提示时重启计算机。
- 6 再次登录 PWS-100TD1 单元。
- 7 以管理员身份打开 Command Prompt, 输入下列命令。

```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script  
> keystore.bat
```
- 8 重新启动系统。
- 9 按照 “*安装证书*” (第 123 页) 中的说明重新导入证书。

注销

完成后, 从 Windows 注销。

- 1 将鼠标光标移至屏幕右上角, 显示超级按钮栏, 然后单击 [Start]。
- 2 单击屏幕右上角的帐户名称, 然后单击 [Sign out]。

显示 Web 应用程序

您从客户端 PC 通过网络连接至本机, 并使用客户端 PC 上 Web 浏览器中的 Web 应用程序来控制 and 配置本机。

推荐的客户端 PC 环境

CPU: Core i5 3 GHz 或以上

内存: 4 GB 或以上

操作系统:

Windows 7 Pro 32/64 位

Windows 8/8.1 Pro 32/64 位

Mac OS X 10.8/10.9

Web 浏览器: Google Chrome 40 或更高版本 (更新至最新版本)

显示器分辨率: 1366 × 768 像素或以上

将满足以上条件的计算机连接至本机后面板上的 LAN 1 或 LAN 2 接口。在计算机 Web 浏览器的地址栏中输入 “https://(IP 地址):8443/tds 或 https://pws-100- < 序列号 >:8443/tds” (其中 IP_address 是在 “配置网络” 中指定的地址), 以显示 Web 应用程序。

登录屏幕出现后, 输入用户名和密码。

用户名和密码的默认配置如下。

用户名: admin

密码: tds

系统设置

在 Web 应用程序中的“设置”屏幕上配置系统。
登录 Web 应用程序后，作为具有管理员权限的用户登录。
有关操作 Web 应用程序的详细信息，请参阅应用程序的“帮助”。

更改界面语言

您可以更改 Web 应用程序的界面语言。
在“设置”屏幕中，从 [我的设置] 页面上的 [语言] 中选择语言。

选择工作频率

选择系统的工作频率。在“设置”屏幕的 [摄取] 页面上，在 [摄取设置] 下选择频率。

添加用户

要添加除默认管理员帐户以外的用户帐户，请在“设置”屏幕的 [用户] 页面上添加新用户。

注册传输目的地

要将所摄取的短片传输至光盘或网络服务器，请在“设置”屏幕的 [传输] 页面上注册传输目的地。

安装证书

使用来自 Web 浏览器的 https 连接显示 Web 应用程序可能会显示错误信息，例如“该站点的安全证书不可信！”。要在不出错的情况下通过 https 成功连接，必须在 Web 浏览器上安装和服务器 (PWS-100- <序列号>) 对应的根 CA 证书（客户端证书）。下面说明了使用 Google Chrome 安装证书的步骤。

根 CA 证书安装步骤

- 1 在 Web 浏览器中使用 https 访问 Web 应用程序。
显示错误信息，例如“该站点的安全证书不可信！”。
- 2 单击地址栏左端的锁定图标。
- 3 单击弹出窗口中的 [证书信息]。
出现 [证书] 对话框。记录下对话框中的证书签发者“PWS-100- <序列号>”。
- 4 单击 [详细信息] 选项卡，然后单击 [复制到文件] 按钮。
出现“证书导出向导”。

- 5 单击 [下一步]。
- 6 选择“DER 编码的 X.509 (.CER)”，然后单击 [下一步]。
- 7 单击 [浏览] 按钮，指定要在其中存放证书的文件夹，然后单击 [下一步]。
开始导出证书。
- 8 在导出向导完成窗口出现时，单击 [完成]。
- 9 在信息窗口出现时，单击 [确定]。
- 10 单击 Chrome 菜单按钮，然后选择菜单中的 [设置]。
- 11 单击“设置”屏幕上的 [显示高级设置]，然后单击 [HTTP/SSL] 下的 [管理证书]。
出现 [证书] 对话框。
- 12 单击对话框的 [受信任的根证书颁发机构] 选项卡，然后单击 [导入] 按钮。
出现“证书导入向导”。
- 13 单击 [下一步]。
- 14 单击 [浏览] 按钮并选择下载的文件，然后单击 [下一步]。
- 15 检查是否选中了 [将所有的证书放入下列存储]，并且在 [证书存储:] 中显示“受信任的根证书颁发机构”，然后单击 [下一步]。
开始导入证书。
- 16 在导入向导完成窗口出现时，单击 [完成]。
退出向导。
- 17 在信息窗口出现时，单击 [确定]。
- 18 单击 Chrome 菜单按钮，选择菜单中的 [退出]。然后重新启动 Chrome。
- 19 配置名称解析设置，从而之前记下的签发者“PWS-100- <序列号>”解析为在“配置网络” (第 121 页) 中设置的 IP 地址，然后连接至 https://pws-100- <序列号>:8443/tds。

库许可证

请参阅 Web 应用程序中的 [帮助] 菜单，了解 PWS-100TD1 使用的每种库的许可证。

维护 Web 应用程序操作

有关适用于系统管理员的“维护 Web 应用程序”操作的详细信息，请登录设备并单击桌面上的快捷方式图标，参阅操作手册。

使用注意事项

内置 HDD 的产品的注意事项

本机配备有内置硬盘驱动器（HDD）。HDD 属于精密装置。如果遇到震荡、振动、静电、高温或高湿等情况，数据可能会丢失。本机安装使用时，请务必注意下列事项。

防止震动和摇晃

受到震动和摇晃时，HDD 可能受损，并且 HDD 上的数据可能丢失。

- 在运输本机时，请使用指定的包装材料。使用推车或类似车辆运输时，请选择不会造成过度摇晃的车型。过度震动和摇晃可能会损坏 HDD。
- 切勿在电源打开时移动本机。
- 切勿取下本机的面板或外部部件。
- 如果要将本机放到地板或其他表面，请确保放到稳定的水平表面。
- 切勿将本机放在可能产生摇晃的其他设备附近。
- 移动本机时，请务必关闭电源。

关闭电源后需等待 30 秒

刚关闭电源时，HDD 中的磁盘片仍保持旋转状态且磁头处于不安全位置。在这段时间里，本机比正常操作期间更容易受震动和摇晃的影响。因此在关闭电源后至少 30 秒内，应避免本机受到哪怕非常轻的震动。这段间隔过后，硬盘即完全停止，便可以进行其他操作。

温度和湿度相关注意事项

请在不超过指定温度和湿度范围的场所使用和存放本机。（务必使用完全符合本机规范的部件。）

HDD 出现故障时

即使 HDD 显示有故障迹象，也务必遵守以上所有注意事项。以防止在诊断和纠正问题之前发生进一步的损坏。

更换 HDD 和其他消耗性部件

HDD 和电池是需要定期更换的消耗性部件。如果在室温环境下操作，正常的更换周期约为 2 到 5 年。但是，这一更换周期仅代表一般原则，不表示这些部件的寿命保证可以达到预期寿命长度。关于部件更换的详细信息，请联系经销商。

有关更换周期的详细信息，请联系 Sony 销售代表或服务代表。

电源注意事项

如果本机在操作期间突然关闭，可能会发生数据丢失。为了保证数据的完整性，建议使用不间断电源（UPS）。

要断开电源线或关闭断路器，请务必先按下本机上的开机 / 待机键以停止本机，然后再操作。

USB 设备注意事项

如果在本机连接到自供电的 USB 设备（如 ODS-D77U）时使用本机，则可能无法识别设备，具体视设备打开的时间而定。如果发生这种情况，请关闭 USB 设备并再次打开，或者断开 USB 电缆并重新连接。

网络防范措施

视操作环境而定，网络中未经授权的第三方可能可以访问系统。
为了安全，我们强烈建议您配置所有密码。
按照第 121 页中的步骤配置所有密码。

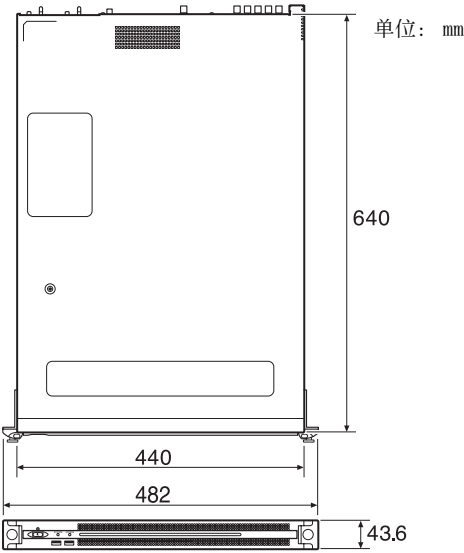
出于安全性考虑，使用本装置连接到网络时，强烈建议通过网络浏览器来访问控制窗口并更改访问限制设定的出厂默认值（第 122 页）。
同时建议定期更改密码。

进行设定时或完成设定后，请勿在网络浏览器中浏览任何其他网站。由于登录状态保留在网络浏览器中，完成设定时请关闭网络浏览器，以防未经授权的第三方使用本装置或运行恶意程序。

规格说明

一般规格

电源要求	100 V 至 240 V 交流 50/60 Hz
功耗	235 W
待机电源消耗	3 W 或更低
工作温度	5 °C 至 35 °C
存储温度	-20 °C 至 +60 °C
工作湿度	20% 至 90%（相对湿度）
存储湿度	5% 至 80%
重量	14 kg
尺寸	440 × 43.6 × 640 mm （宽 / 高 / 深）



CPU

处理器	Intel Core i7 6700TE (2.4 GHz)
内存	8 GB SO-DIMM (DDR4) (2)
驱动器 (M.2)	120 GB
驱动器 (HDD)	2.5 英寸, 500 GB (12)
扩展总线	PCIe Gen2 8Lane (30 W) (2)

输入 / 输出

LAN	RJ-45 (2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB（前面板 / 后面板）	Super Speed USB (USB 3.0), A 型 (6 个, 前面板 2 个, 后面板 4 个) 正面: 支持功率输出 (900 mA/ 端口) 背面: 右下方端口支持功率输出 (900 mA), 其他端口则不支持

HDMI	A 型 (1) HDMI 版本 1.4a, 最大分辨率为 1920 × 1200, 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort (1) DisplayPort 版本 1.1a, 最大分辨率为 2560 × 1600, 60 Hz
Remote	RJ-45 (3) 兼容 Sony VTR 协议 (9 针), 需要 RJ-45 至 D-sub 转换电缆 (随附)
REF IN	BNC (1) 兼容 SMPTE ST 318, HD 三电平同步 (0.6 Vp-p, 75 Ω, 同步取正 / 取负) 或 SD 黑场 / 复合同步 (NTSC: 0.286 Vp-p, 75 Ω, 同步取负 PAL: 0.3 Vp-p, 75 Ω, 同步取负)
SDI 1 至 4	BNC (4) HD: 兼容 SMPTE ST 292-1 SD: 兼容 SMPTE ST 259

支持的格式

编解码器	工作频率	分辨率量化比特数	音频通道
IMX 30M、40M、 50M UNCOMPRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8 比特	8 通道 (16- 比特) 4 通道 (24- 比特)
	50i	720 × 480 422 8 比特	8 通道 (16- 比特) 4 通道 (24- 比特)
MPEG HD 50M	59.94i、 50i、 29.97P、 25P、 23.98P	1920 × 1080 422 8 比特	8 通道 (24- 比特)
MPEG HD 35M	59.94i、 50i、 29.97P、 25P、 23.98P	1920 × 1080 420 8 比特	4 通道 (16- 比特)
		1440 × 1080 420 8 比特	
XAVC-I 100M	59.94i、 50i、 29.97P、 25P、 23.98P	1920 × 1080 422 10 比特	8 通道 (24- 比特)

每个 RAID 配置的记录时间

每个 RAID 配置和视频编解码器的可用记录时间如下。

RAID 配置			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
逻辑驱动器数量			4	3	2
驱动器容量 ^{a)} (每个逻辑驱动器)			838 GB	1230 GB	2050 GB
SD	IMX 30 Mbps	每个驱动器	约 50 小时	约 75 小时	约 125 小时
		所有驱动器总计	约 200 小时	约 225 小时	约 250 小时
	IMX 40 Mbps	每个驱动器	约 35 小时	约 55 小时	约 95 小时
		所有驱动器总计	约 140 小时	约 165 小时	约 190 小时
	IMX 50 Mbps	每个驱动器	约 30 小时	约 45 小时	约 70 小时
		所有驱动器总计	约 120 小时	约 135 小时	约 140 小时
	UNCOM-PRESS 220 Mbps	每个驱动器	约 7 小时	约 10 小时	约 18 小时
		所有驱动器总计	约 28 小时	约 30 小时	约 36 小时
	HD	MPEG 35 Mbps	每个驱动器	约 45 小时	约 70 小时
			所有驱动器总计	约 180 小时	约 210 小时
		MPEG 50 Mbps	每个驱动器	约 30 小时	约 45 小时
			所有驱动器总计	约 120 小时	约 135 小时
		XAVC 100 Mbps	每个驱动器	约 15 小时	约 25 小时
			所有驱动器总计	约 60 小时	约 75 小时

a) GUI 中显示的容量。

注意

根据记录介质和其他条件，可实现的记录时间可能与以上值不同。

随附配件

RJ-45 至 D-sub 转换电缆
部件编号 1-848-424-12 (SONY)
(2)
电源线 (仅限 CN 模式) (1)

可选配件

PWSK-101 开关电源

设计与技术规格如有变更，恕不另行通知。

SONY 不对任何因传输设备安全措施操作不当、传输规格导致不可避免的数据泄露或任何种类的安全问题造成的损坏负责。

注意

- 在记录前，请始终进行记录测试，并确认记录是否成功。
SONY 对任何损坏概不负责。由于本机故障或由记录介质、外部存储系统或者任何其他介质或储存系统记录的任何形式的记录内容的损害不作（包括但不限于）退货或赔偿。
- 在使用前请始终确认本机运行正常。
无论保修期内外或基于任何理由，SONY 对任何损坏概不负责。由于本机故障造成的利润损失等，无论是在保修期以内或者以外，Sony 均不作任何赔偿。
- SONY 对本产品用户或第三方的任何索赔概不负责。
- SONY 对内部存储系统、记录介质、外部存储系统或任何其他介质或存储系统上记录的任何数据的丢失、修复和还原概不负责。
- SONY 对因任何情况导致终止或停止使用本机相关服务概不负责。

- Windows 是 Microsoft Corporation 在美国和其他国家 / 地区的注册商标。
- Google Chrome 是 Google Inc 的商标或注册商标。
使用本设备前，请务必先阅读安装手册（独立文档）中的“最终用户许可协议”。而且，本文未使用 ® 或 ™ 符号。

本产品使用基于 T 引擎论坛 (www.t-engine.org) 的 T-License 2.0 的 T-Kernel 2.0 源代码。

목차

- 개요 129**
 - 시스템 구성 예 130
- 지원 장치 135**
 - 지원되는 VTR 135
 - 지원되는 ODS 드라이브 135
- 부품의 명칭과 기능 136**
 - 앞면 136
 - 앞면 (패널 제거됨) 136
 - 뒷면 137
- 설정 138**
 - 초기 설정 138
 - 웹 응용 프로그램 표시 140
 - 시스템 설정 140
 - 인증서 설치 141
 - 라이브러리 라이선스 142
 - Maintenance Web Application 작동 142
- 사용 주의 사항 142**
- 사양 143**

안전을 위해 PWS-100 사용 설명서 (기본 제공) 에 나와 있는 주의 사항을 읽어보시기 바랍니다 .

개요

PWS-100TD1은 VTR 자료를 디지털화하여 클립을 만들고 클립을 Optical Disc Archive System의 카트리지에 저장하기 위한 시스템입니다. 이 시스템의 기능은 다음과 같습니다.

인제스트

이 장치는 한 대 이상의 VTR에서 입력되는 SDI 신호에서 고해상도 비디오 및 프록시 비디오 파일을 만들어 내장 HDD에 인제스트 클립을 저장합니다. 또한 RS-422 인터페이스를 사용하여 VTR 장치를 원격으로 제어할 수도 있습니다.

비디오 품질 검사

인제스트 클립의 비디오 품질을 자동으로 검사할 수 있습니다. 또한 웹 응용 프로그램 화면이나 외부 모니터에서 조작자가 시각적으로 비디오를 확인할 수도 있습니다.

클립 저장

고해상도 클립을 카트리지 또는 네트워크 서버에 전송하여 저장할 수 있습니다.

워크플로

워크플로를 사용하여 인제스트부터 클립 전송까지 일련의 작업을 단일 조작으로 실행할 수 있습니다. 관리자가 실행할 워크플로 작업을 정의하여 작업 순서대로 작업을 실행할 조작자에게 할당하면, 조작자가 작업 순서에 따라 작업을 실행합니다.

웹 응용 프로그램

장치의 제어 및 구성은 클라이언트 PC의 웹 브라우저에 표시된 그래픽 인터페이스를 사용하여 수행됩니다.

관리 소프트웨어와 통합

카트리지와 프록시 비디오 파일에 저장된 클립의 속성을 다른 소프트웨어를 사용하여 내보내고 관리할 수 있습니다.

시스템 구성 예

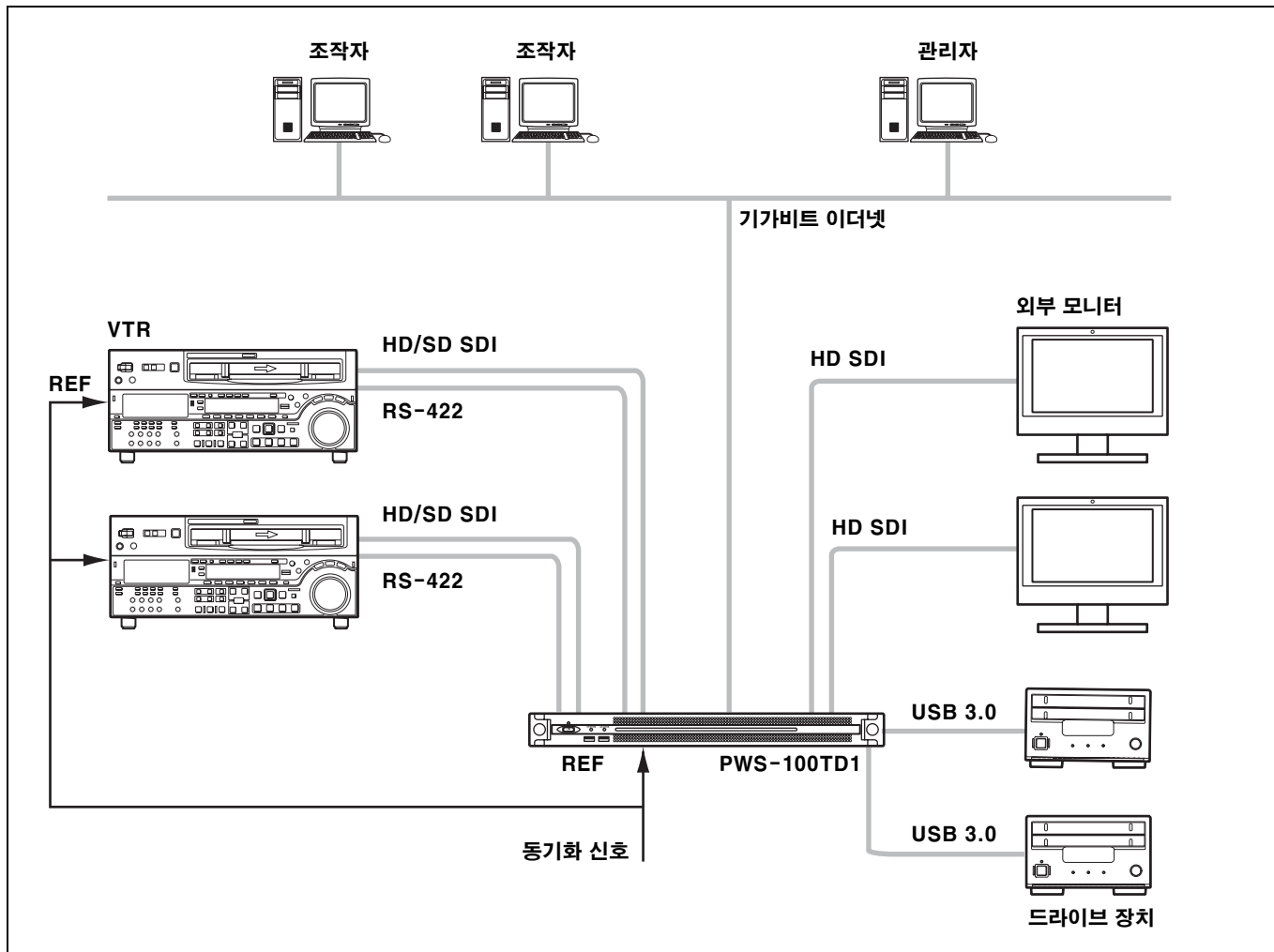
VTR 및 외부 모니터를 장치의 SDI 커넥터에 연결하고 드라이브 장치를 뒤쪽 패널의 USB 커넥터에 연결하십시오. 웹 응용 프로그램에서 SDI 설정을 구성하여 2-입력/2-출력, 3-입력/1-출력 또는 4-입력 시스템 구성을 선택할 수 있습니다.

참고

- VTR을 여러 대 연결한 경우, 모든 VTR이 동기화되어 있는지 확인합니다 ($\pm 1H$).
- VTR의 EE/PB 설정을 PB로 설정합니다.

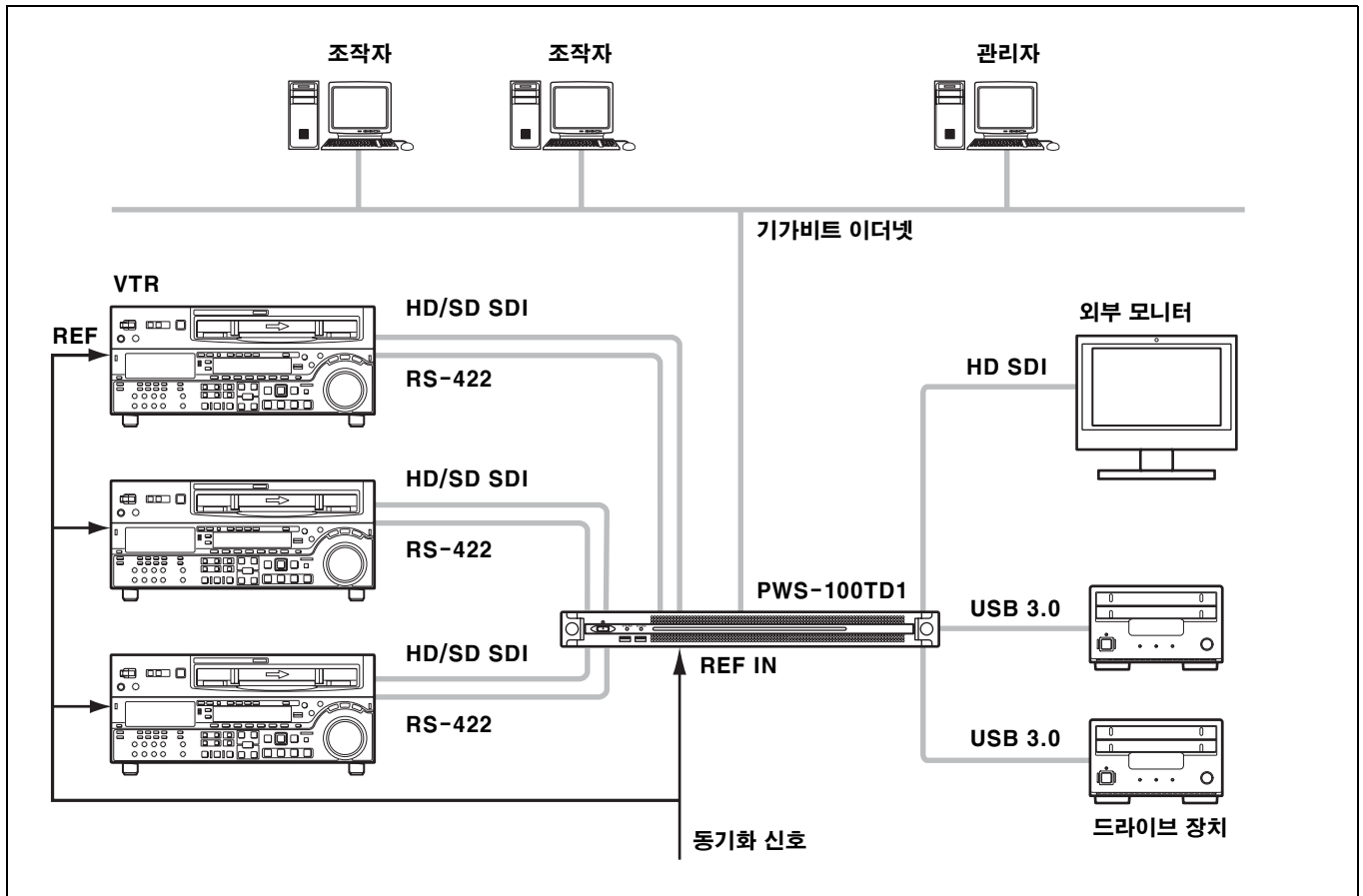
2 입력/2 출력

VTR을 SDI 1 및 SDI 2 커넥터에 연결하고 외부 모니터는 SDI 3 및 SDI 4 커넥터에 연결하십시오. 이 구성을 사용하면 동시에 두 VTR에서 비디오를 디지털화할 수 있습니다.



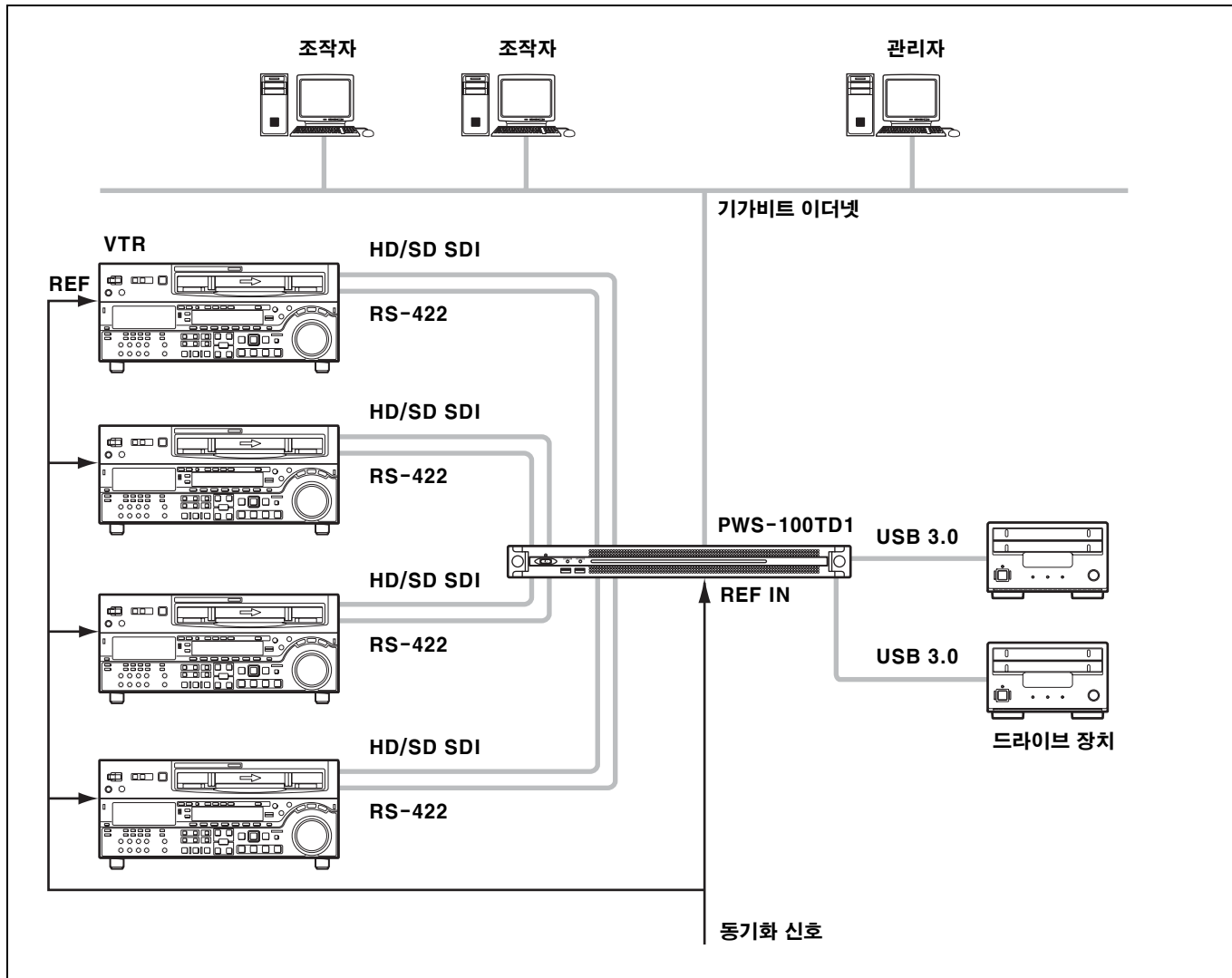
3 입력 / 1 출력

VTR 을 SDI 1 ~ 3 커넥터에 연결하고 외부 모니터는 SDI 4 커넥터에 연결하십시오. SDI 4 커넥터에 연결된 외부 모니터는 클립의 고해상도 이미지를 모니터링하는 데 사용됩니다.



4 입력

VTR 을 SDI 1 ~ 4 커넥터에 연결하십시오 . SDI4 를 인제스트에 사용하지 않는 경우 , GUI 에서 클립 의 고해상도 이미지를 모니터링할 수 있습니다 .



RAID 구성 선택

시스템 구성을 설정한 후 선택한 시스템 구성과 SDI 입력 및 논리적 드라이브 수가 동일하도록 RAID 구성을 설정합니다 .

PWS-100 유지보수 웹 애플리케이션을 사용하여 RAID 구성을 설정합니다 . 선택한 시스템 구성에 따라 아래 표시된 RAID 구성을 설정합니다 . 다음 이외의 구성은 지원되지 않습니다 .

구성에 대한 자세한 내용은 PWS-100 유지보수 웹 애플리케이션의 사용 설명서를 참조하십시오 .

- 2 입력 /2 출력 : $(5D + 1P) \times 2$
- 3 입력 /1 출력 : $(3D + 1P) \times 3$
- 4 입력 : $(2D + 1P) \times 4$

참고

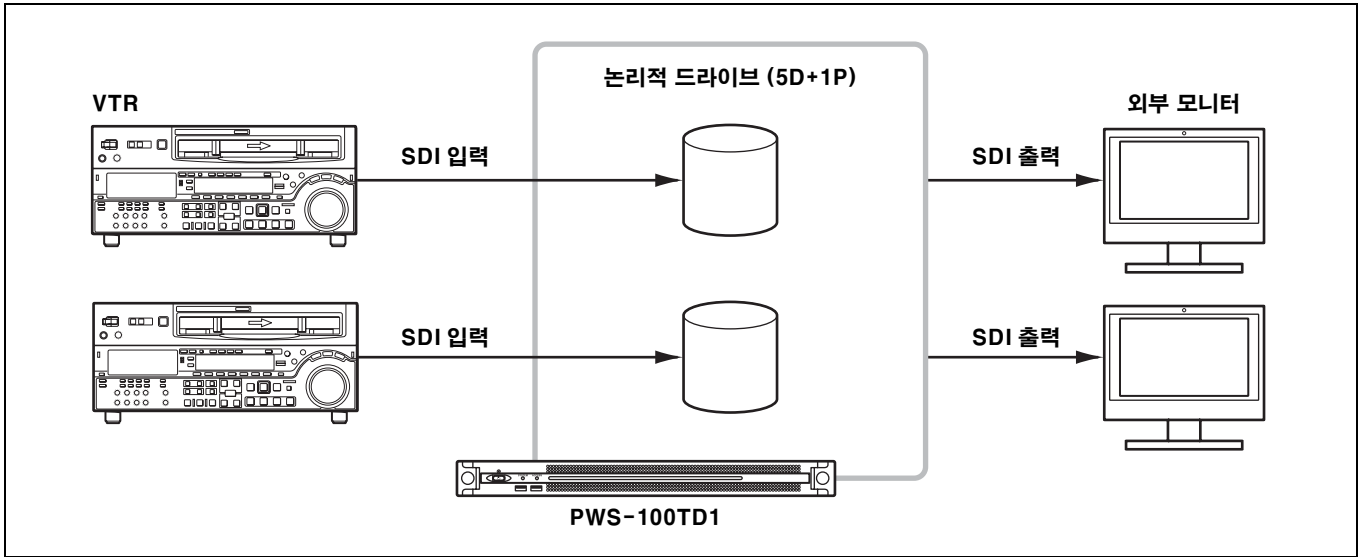
RAID 구성이 변경되면 내부 스토리지에 기록된 모든 전체 해상도 파일 , 프록시 파일 , 보고서 파일 및 작업 순서가 삭제됩니다 . RAID 구성을 변경하기 전에 항상 모든 데이터를 전송 또는 다운로드하여 데이터 손실을 방지하십시오 .

RAID 구성 정보

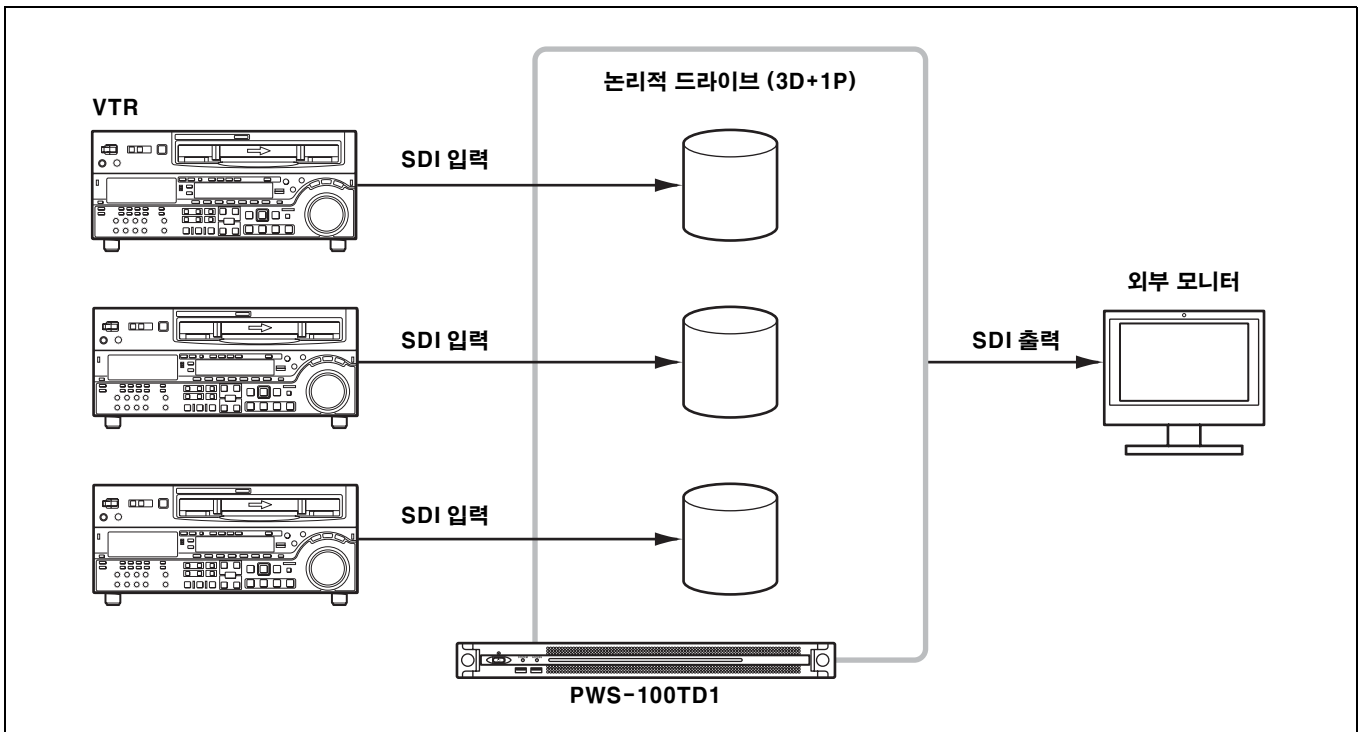
PWS-100TD1 은 총 12 개의 HDD 가 설치되어 있을 때 다음 RAID 구성을 지원합니다 .

- 2D + 1P: 총 4개의 논리적 드라이브가 포함되며, 각 논리적 드라이브에는 데이터 HDD 2개와 패리티 HDD 1 개가 포함됩니다 .
- 3D + 1P: 총 3개의 논리적 드라이브가 포함되며, 각 논리적 드라이브에는 데이터 HDD 3개와 패리티 HDD 1 개가 포함됩니다 .
- 5D + 1P: 총 2개의 논리적 드라이브가 포함되며, 각 논리적 드라이브에는 데이터 HDD 5개와 패리티 HDD 1 개가 포함됩니다 .

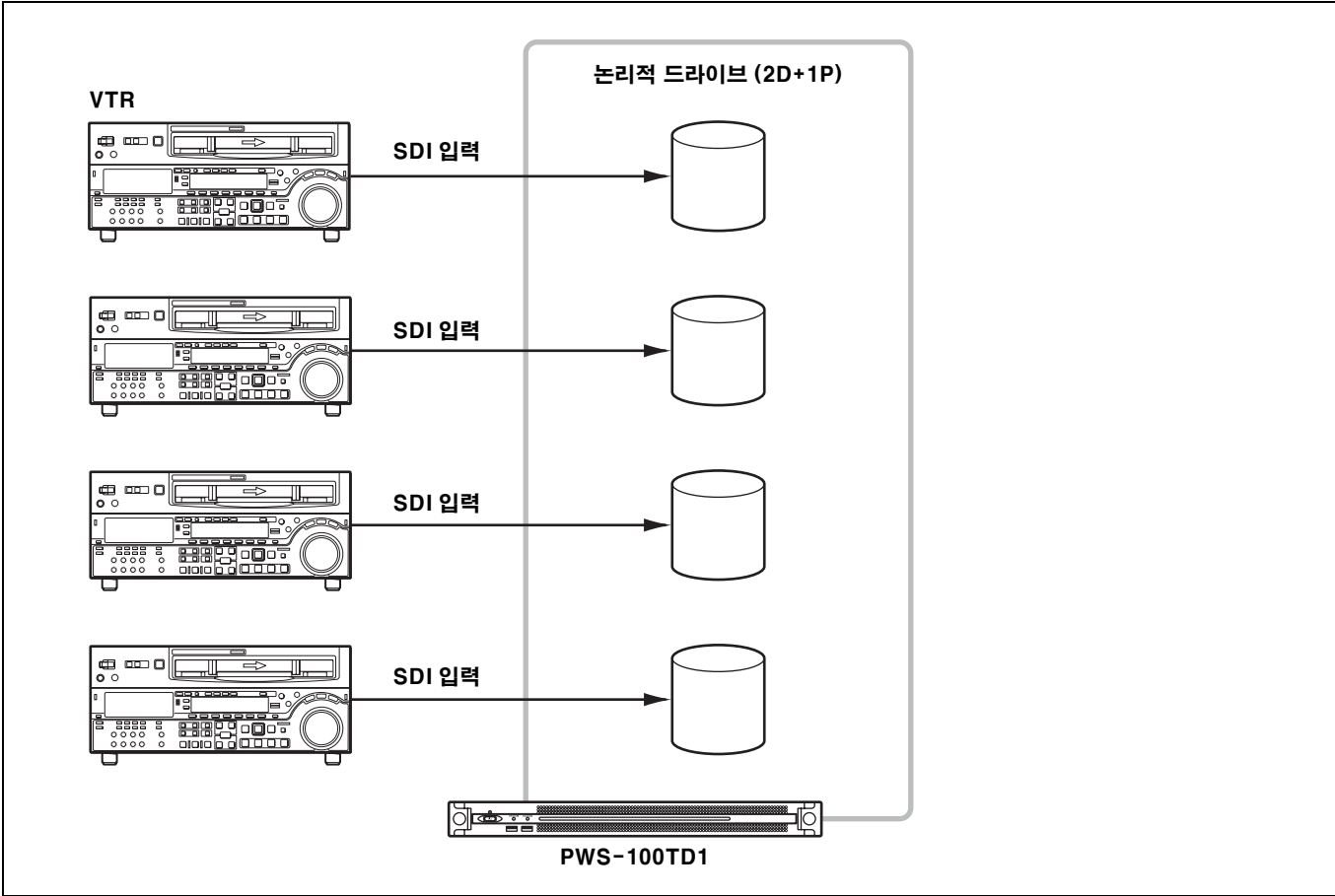
2 입력 /2 출력



3 입력 /1 출력



4 입력



지원 장치

다음과 같은 장치와의 작동이 인증되었습니다 .

지원되는 VTR

다음과 같은 VTR 과의 작동이 인증되었습니다 .

베타캠 SP	BVW-75 BVW-75P
디지털 베타캠	DVW-A500 DVW-A500P
베타캠 SX	DNW-A75 DNW-A75P
IMX	MSW-M2000 MSW-M2000P
DVCAM	DSR-2000 DSR-2000P
HDCAM	HDW-M2000 HDW-M2000P

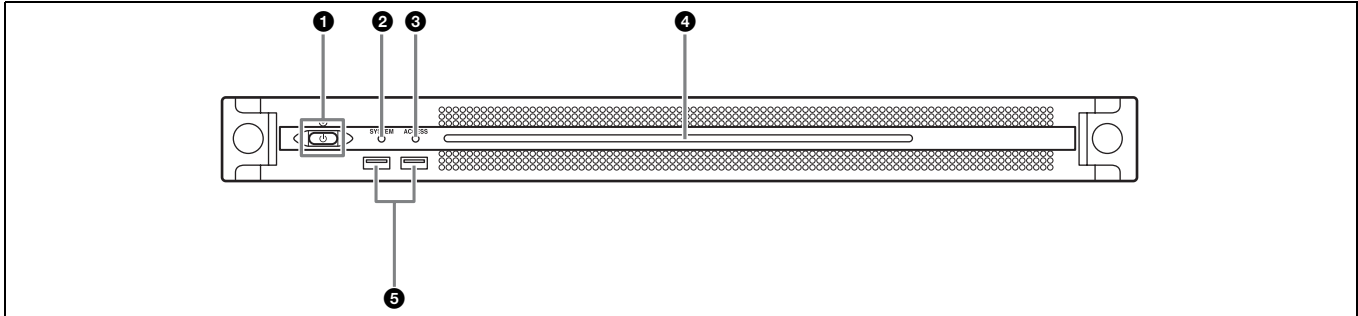
지원되는 ODS 드라이브

다음과 같은 ODS 드라이브와의 작동이 인증되었습니다 .

- ODS-D55U
- ODS-D77U
- ODS-D280U

부품의 명칭과 기능

앞면



① On/Standby 버튼 및 표시등

장치를 켜고 끕니다 (대기 상태). 전원 코드를 연결하면 장치가 대기 상태가 되며 표시등이 빨간색으로 켜집니다. 대기 상태에서 On/Standby 버튼을 누르면 장치가 켜지고 표시등이 녹색으로 켜집니다. On/Standby 버튼을 2 초 동안 누르고 있으면 장치가 대기 상태로 전환되고 표시등이 빨간색으로 켜집니다. 장치가 켜진 상태에서 대기 상태로 전환되어 표시등이 빨간색으로 켜진 후 장치를 다시 켜려면 On/Standby 버튼을 3 초 이상 누르고 있습니다. 전원 코드가 분리되면 표시등은 꺼집니다.

② SYSTEM 표시등

장치의 상태를 나타냅니다.

녹색: 정상 작동 중입니다.

녹색으로 깜박임 (1 초에 한 번): 시스템이 부팅 중이거나 대기 상태로 전환 중입니다.

주황색으로 깜박임 (1 초에 한 번): 경고가 발생했습니다.

빠른 속도로 적색이 깜박임 (1 초에 4 번): 오류가 발생했습니다.

③ ACCESS 표시등

스토리지에 대한 액세스 상태를 나타냅니다.

꺼짐: 스토리지에 액세스하지 않음

파란색: 스토리지에 액세스함

④ 앞쪽 패널 LED

웹 응용 프로그램의 설정에 따라 켜집니다. LED 는 Maintenance 화면의 [Settings] 페이지에서 [001: LINE LED] 를 통해 구성됩니다.

⑤ USB 커넥터 (앞쪽 패널)

키보드와 마우스에 연결하여 장치를 초기화합니다. 이 문서에 설명되지 않은 USB 장치는 지원되지 않습니다.

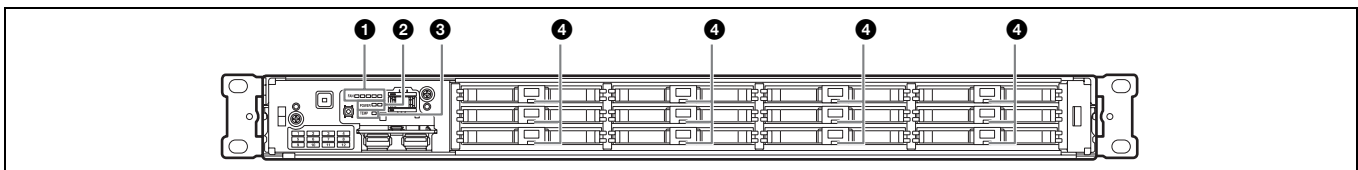
참고

앞쪽 패널의 양쪽 USB 포트는 모두 전원 공급 (900 mA) 을 지원합니다.

앞면 (패널 제거됨)

SYSTEM 표시등 또는 웹 응용 프로그램에서 오류가 표시되면 앞면 패널을 제거하여 하드웨어 구성요소의 상태를 확인할 수 있습니다.

앞쪽 패널을 제거하려면 왼쪽과 오른쪽에 있는 나사를 풀 다음 앞쪽으로 패널을 당기십시오.



① FAN 표시등

팬에 문제가 발생하면 해당하는 팬 표시등이 빨간색으로 켜집니다.

② POWER 표시등

AC 전원 공급 장치에 문제가 발생하면 해당하는 표시등이 빨간색으로 켜집니다.

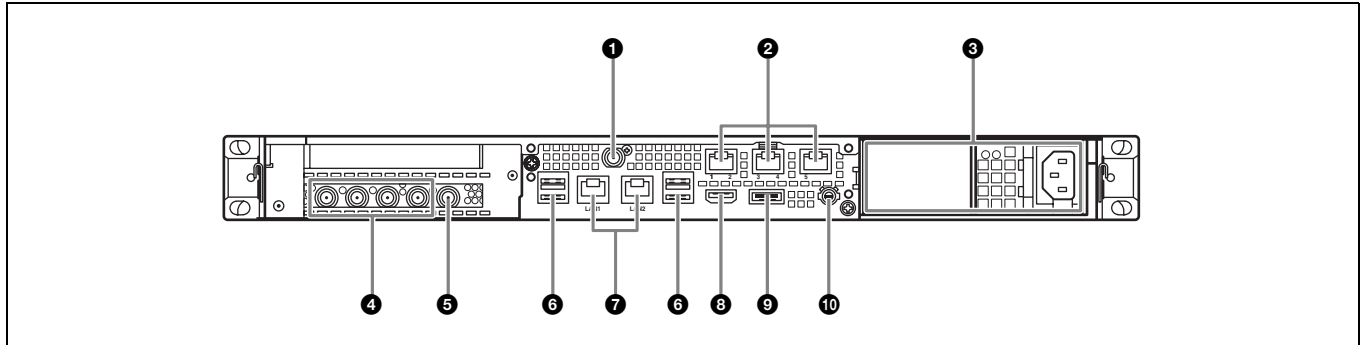
③ TEMP 표시등

장치 내에 비정상적인 고온이 감지되면 표시등이 빨간색으로 켜집니다.

④ HDD 상태 표시등

HDD에 대한 경고가 발생하면 해당 표시등이 빨간색으로 켜집니다. 해당 HDD에 문제가 발생하거나 절전 모드에 있거나 제거된 경우 표시등이 꺼집니다.

뒷면



① SYSTEM TC 커넥터

이 시스템에서는 사용되지 않습니다.

② 원격 커넥터 (1/2, 3/4, 5)

VTR 원격 제어 조작을 위해 RJ-45 D-sub 변환 케이블 (기본 제공) 및 시판되는 9 핀 원격 케이블을 사용하여 VTR 장치를 원격 1/2 및 원격 3/4 커넥터에 연결합니다. 단일 RJ-45 D-sub 변환 케이블과 두 개의 9 핀 원격 케이블을 사용하여 두 대의 VTR을 연결할 수 있습니다.
원격 5 커넥터는 이 시스템에서 사용되지 않습니다.

③ AC 전원 공급 장치

전원 코드를 꽂고 전원 콘센트에 연결합니다.
출하 시에는 AC 전원 공급 장치만 설치되어 있습니다.
선택사양인 두 번째 전원 공급 장치는 더 많은 전원 공급을 위해 설치할 수 있습니다. 안정성이 요구되는 시스템에 사용될 경우 이러한 추가 전원 공급을 통해 전원 공급 장치에 문제가 발생했을 때에도 장치가 작동할 수 있습니다.

전원 공급 장치의 설치 또는 교체에 대한 자세한 내용은 Sony 영업 담당자나 서비스 담당자에게 문의하십시오.

④ SDI(1 ~ 4) 커넥터

SDI1 ~ SDI4 커넥터는 왼쪽에서 오른쪽 방향으로 번호가 매겨집니다.
SDI 신호를 입력 / 출력하려면 SDI 케이블을 사용하여 VTR 장치 또는 외부 모니터에 연결합니다.

⑤ REF IN 커넥터

동기화 기준 신호를 입력합니다.

⑥ USB 커넥터 (뒤쪽 패널)

USB 케이블을 사용하여 드라이브 장치에 연결합니다.
이 문서에 설명되지 않은 USB 장치는 지원되지 않습니다.

참고

- 뒤쪽 패널의 4개 USB 커넥터 중에 오른쪽 아래 포트만 전원 공급 (900 mA) 을 지원합니다. 다른 3개 포트는 전원 공급을 지원하지 않으며 USB 커넥터에서 전원 공급이 필요하지 않은 USB 장치를 연결하는 데 사용해야 합니다.
- SuperSpeed USB 케이블을 사용하십시오.

⑦ LAN 커넥터

기가비트 이더넷 네트워크에 연결합니다.

⑧ HDMI 커넥터

HDMI 케이블을 사용해 모니터에 연결합니다.
다음 표준을 준수하는 HDMI 케이블을 사용하십시오.
• High Speed HDMI 케이블 (Premium High Speed HDMI 케이블)

⑨ DisplayPort 커넥터

DisplayPort-DVI 컨버터 케이블 또는 DisplayPort-HDMI 컨버터 케이블을 사용하여 모니터에 연결합니다.
활성형 컨버터 케이블을 사용합니다.

참고

다음 표준을 준수하는 DisplayPort 케이블을 사용하십시오.
• DP v1.2a (호환)

⑩ 접지 단자

접지에 연결합니다.

설정

초기 설정

장치를 사용하기 전에, 장치 내 Windows 설정을 구성하십시오. 아래 설명은 Windows 8의 표준 설정을 설명한 것입니다.

참고

장치를 재부팅하려면, 먼저 장치를 종료한 다음 Windows를 재부팅할 필요 없이 앞쪽 패널에 있는 On/Standby 버튼을 다시 누르십시오.

- 1 키보드와 마우스를 앞쪽 패널에 있는 USB 커넥터에 연결하고, 모니터를 DisplayPort 커넥터 또는 뒤쪽 패널에 있는 HDMI 커넥터에 연결합니다.
- 2 On/Standby 버튼을 On 위치로 설정합니다.
- 3 Windows 로그인 화면이 나타나면, 사용자 이름에 "tds"를 입력하고 암호에 "tds"를 입력하고 로그인합니다.

Windows 인터페이스 언어 설정

- 1 Windows 키를 누른 상태로 X 키를 누른 다음, 표시되는 메뉴에서 [Control Panel]을 선택합니다.
- 2 [Clock, Language, and Region] > [Language]를 선택합니다.
- 3 언어를 추가하려면 [Add language]를 선택합니다.
- 4 추가할 언어를 선택한 후 [Add]를 클릭합니다.
- 5 사용할 언어를 선택하고 해당 언어가 맨 위에 표시될 때까지 [Move up]을 클릭합니다.
- 6 로그아웃한 후 다시 로그인합니다.

네트워크 구성

- 1 LAN 케이블을 장치의 뒤쪽 패널에 있는 LAN 커넥터에 연결하고 다른 쪽 끝을 네트워크에 연결합니다.
- 2 제어판의 [Network and Internet]에서 [View network status and tasks]를 클릭합니다.

- 3 [Connections] > [LAN 1/2] 를 클릭합니다 .
- 4 [Properties] 버튼을 클릭합니다 .
- 5 [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)] 를 선택한 다음 [Properties] 버튼을 클릭합니다 .
- 6 IP 주소와 기타 설정을 변경합니다 .
- 7 [Advanced] 버튼을 클릭하여 DNS, WINS 및 기타 설정을 구성합니다 .
- 8 완료되면 [OK] 버튼을 클릭합니다 .

날짜 및 시간 설정

- 1 [Clock, Language, and Region] 제어판의 [Date and Time] 에서 [Set the time and date] 을 선택합니다 .
- 2 [Date and Time] 탭에서 [Change time zone] 을 클릭하여 시간대를 선택합니다 .
- 3 [Date and Time] 탭에서 [Change date and time] 을 클릭하여 날짜와 시간을 설정합니다 .
- 4 [Internet Time] 탭에서 [Change settings] 버튼을 클릭합니다 .
- 5 NTP 서버를 지정한 다음 [Update Now] 버튼을 클릭합니다 .
- 6 NTP 서버를 사용하여 시간을 정기적으로 수정하려면 [Synchronize with an Internet time server] 에 확인 표시합니다 .

사용자 암호 설정

장치 내 Windows 에는 기본 사용자 "tds" 가 구성되어 있습니다. 사용자에게 대한 암호를 설정하여 보안 조치를 취합니다 .

- 1 제어판에서 [User Accounts and Family Safety] 를 클릭합니다 .
- 2 [User Account] > [Change account type] 을 클릭합니다 .
- 3 "tds" 사용자를 선택합니다 .
- 4 [Change the password] 을 클릭합니다 .
- 5 새 암호와 암호 힌트를 입력한 다음 , [Change Password] 버튼을 클릭합니다 .

서비스 암호 설정

"tds" 사용자 암호를 설정 / 수정하는 경우 다음과 같이 서비스 암호를 설정하십시오 .

- 1 [System and Security] 제어판의 [Administrative tools] 에서 [Services] 를 두 번 클릭합니다 .
- 2 서비스 목록에서 "Apache Tomcat 7.0 Tomcat7" 을 마우스 오른쪽 버튼으로 클릭하고 [Properties] 을 선택합니다 .
- 3 [Log On] 탭을 엽니다 .
- 4 [This account] 을 클릭하고 ".\tds" 를 입력한 다음 [Password] 에 사용자 "tds" 의 암호를 입력합니다 .
- 5 [Apply] 버튼을 클릭한 후 [OK] 을 클릭하여 대화 상자를 닫습니다 .
- 6 서비스 목록에서 "Sony Ingest Service" 를 선택하고 2 ~ 5 단계를 반복합니다 .

사용자 추가

Windows 에 새 사용자를 추가할 수 있습니다 .

- 1 제어판에서 [User Accounts and Family Safety] 를 클릭합니다 .
- 2 [User Accounts] > [Change account type] 을 클릭합니다 .
- 3 [Add a new user in PC settings] 를 클릭합니다 .
- 4 [Add a user] 를 클릭합니다 .
- 5 사용자 이름 , 암호 및 암호 힌트를 입력한 다음 , [Next] 을 클릭합니다 .
- 6 [Finish] 을 클릭합니다 .
그 다음으로 , 계정 유형을 변경합니다 .
- 7 제어판의 [User Accounts and Family Safety] 에서 [Change account type] 을 클릭합니다 .
- 8 계정 유형을 변경할 사용자를 선택합니다 .
- 9 [Change the account type] 을 클릭합니다 .

- 10 [Standard] 또는 [Administrator]를 선택한 후 [Change account type] 버튼을 클릭합니다.

컴퓨터 이름 변경

PWS-100TD1은 https 통신 인증의 일환으로 컴퓨터 이름을 사용합니다.
컴퓨터 이름을 변경하려면 다음 절차를 따르십시오.
새 인증서가 생성됩니다.
컴퓨터 이름을 변경한 후 새 인증서를 클라이언트 PC에 다시 가져옵니다.

- 1 [Control Panel]에서 [System and Security] > [System]을 선택합니다.
- 2 [Computer name] > [Change Settings]를 클릭합니다.
- 3 [System Properties] 대화 상자의 [Computer name] 탭에서 [Change]를 클릭합니다.
- 4 컴퓨터 이름을 바꾸고 [OK]를 클릭합니다.
- 5 다시 시작하라는 프롬프트 메시지가 나타나면 컴퓨터를 다시 시작합니다.
- 6 PWS-100TD1 장치에 다시 로그인합니다.
- 7 관리자 권한으로 명령 프롬프트를 열고 다음 명령을 입력합니다.

```
> cd C:\Program Files\Sony\TapeDigitize\DIG\script  
> keystore.bat
```
- 8 시스템을 다시 시작합니다.
- 9 "인증서 설치"(141 페이지)에 설명된 대로 인증서를 다시 가져옵니다.

로그아웃

완료되면 Windows에서 로그아웃합니다.

- 1 마우스 커서를 화면 오른쪽 상단 구석으로 이동시켜 Charms 바를 표시한 다음 [Start]를 클릭합니다.
- 2 화면의 오른쪽 상단에 있는 계정 이름을 클릭한 다음 [Sign out]을 클릭합니다.

웹 응용 프로그램 표시

클라이언트 PC에서 네트워크를 통해 장치에 연결하고, 클라이언트 PC의 웹 브라우저에서 웹 응용 프로그램을 사용하여 장치를 제어하고 구성할 수 있습니다.

권장 클라이언트 PC 환경

CPU: Core i5 3 GHz 이상

메모리: 4 GB 이상

OS: Windows 7 Pro 32/64 비트

Windows 8/8.1 Pro 32/64 비트

Mac OS X 10.8/10.9

웹 브라우저: Google Chrome 40 이상 (최신 버전으로 업데이트하십시오)

표시 해상도: 1366 × 768 픽셀 이상

위의 조건을 충족하는 컴퓨터를 장치 뒤쪽 패널의 LAN 1 또는 LAN 2 커넥터에 연결합니다. 컴퓨터에서 웹 브라우저의 주소 표시줄에 "https://(IP_address):8443/tds 또는 https://pws-100- < 일련 번호 >:8443/tds"를 입력하여 웹 응용 프로그램을 표시하십시오 (여기서 IP_address는 "네트워크 구성"에서 지정한 주소입니다).
로그인 화면이 나타나면 사용자 이름과 암호를 입력합니다.
기본적으로 다음 사용자 이름이 암호가 구성되어 있습니다.

사용자 이름: admin

암호: tds

시스템 설정

웹 응용 프로그램의 Setting 화면에서 시스템을 구성합니다.
웹 응용 프로그램에 로그인할 때는 관리자 권한이 있는 사용자로 로그인하십시오.
웹 응용 프로그램 작동에 대한 자세한 내용은 해당 응용 프로그램의 도움말을 참조하십시오.

인터페이스 언어 변경

웹 응용 프로그램의 인터페이스 언어를 변경할 수 있습니다.

Setting 화면에 있는 [My Settings] 페이지의 [Language]에서 언어를 선택합니다.

작동 주파수 선택

시스템의 작동 주파수를 선택합니다. Setting 화면에 있는 [Ingest] 페이지의 [Ingest Settings]에서 주파수를 선택합니다.

사용자 추가

기본 관리자 계정 외에 사용자 계정을 추가하려면 Setting 화면의 [Users] 페이지에서 새로운 사용자를 추가합니다.

전송 대상 등록

인제스트된 클립을 카트리지 또는 네트워크 서버에 전송하려면 Setting 화면의 [Transfer] 페이지에 전송 대상을 등록합니다.

인증서 설치

웹 브라우저에서 https 연결을 사용하여 웹 응용 프로그램을 표시하면 "이 사이트의 보안 인증서를 신뢰할 수 없습니다!"와 같은 오류 메시지가 표시될 수 있습니다. 오류 없이 https를 통해 성공적으로 연결하려면 웹 브라우저에서 서버 (PWS-100-〈일련 번호〉)에 해당하는 루트 CA 인증서 (클라이언트 인증서)가 설치되어야 합니다. 아래에 Google Chrome을 사용하여 인증서를 설치하는 절차가 나와 있습니다.

루트 CA 인증서 설치 절차

- 1 웹 브라우저에서 https를 사용하여 웹 응용 프로그램에 액세스합니다.
"이 사이트의 보안 인증서를 신뢰할 수 없습니다!"와 같은 오류 메시지가 표시됩니다.
- 2 주소 표시줄 왼쪽 맨 끝에 있는 잠금 아이콘을 클릭합니다.
- 3 팝업 창에서 [인증서 정보]를 클릭합니다.
[인증서] 대화 상자가 나타납니다. 대화 상자에 있는 인증서 발급자 "PWS-100-〈일련 번호〉"를 기입해 주십시오.
- 4 [자세히] 탭을 클릭한 후 [파일에 복사] 버튼을 클릭합니다.
인증서 내보내기 마법사가 나타납니다.
- 5 [다음]을 클릭합니다.
- 6 "DER로 인코딩된 X.590 바이너리 (.CER)"를 선택한 후 [다음]을 클릭합니다.
- 7 [찾아보기] 버튼을 클릭하고 인증서를 저장할 폴더를 지정한 후 [다음]을 클릭합니다.
인증서 내보내기를 시작합니다.

- 8 내보내기 마법사 완료 창이 나타나면 [마침]을 클릭합니다.
- 9 메시지 창이 나타나면 [확인]을 클릭합니다.
- 10 Chrome 메뉴 버튼을 클릭한 후 메뉴에서 [설정]을 선택합니다.
- 11 설정 화면에서 [고급 설정 표시]를 클릭하고 [HTTP/SSL]에서 [인증서 관리] 버튼을 클릭합니다.
[인증서] 대화 상자가 나타납니다.
- 12 대화 상자의 [신뢰할 수 있는 루트 인증 기관] 탭을 클릭한 후 [가져오기] 버튼을 클릭합니다.
인증서 가져오기 마법사가 나타납니다.
- 13 [다음]을 클릭합니다.
- 14 [찾아보기] 버튼을 클릭하고 다운로드된 파일을 선택한 후 [다음]을 클릭합니다.
- 15 [모든 인증서를 다음 저장소에 저장]이 선택되어 있고 [인증서 저장소:]에 "신뢰할 수 있는 루트 인증 기관"이 표시되어 있는지 확인한 다음, [다음]을 클릭합니다.
인증서 가져오기를 시작합니다.
- 16 가져오기 마법사 완료 창이 나타나면 [마침]을 클릭합니다.
마법사가 종료됩니다.
- 17 메시지 창이 나타나면 [확인]을 클릭합니다.
- 18 Chrome 메뉴 버튼을 클릭하고 메뉴에서 [종료]를 선택합니다. 그런 다음, Chrome을 다시 실행합니다.
- 19 이전에 기입해둔 발급자 "PWS-100-〈일련 번호〉"가 "네트워크 구성"(138 페이지)에 설정된 IP 주소로 바뀔 수 있도록 이름 처리 설정을 구성하고, https://pws-100-〈일련 번호〉:8443/tds에 연결합니다.

라이브러리 라이선스

PWS-100TD1 에서 사용하는 각 라이브러리 유형의 라이선스에 대해서는 웹 응용 프로그램에서 [Help] 메뉴를 참조하십시오 .

Maintenance Web Application 작동

시스템 관리자용 Maintenance Web Application 의 작동에 대한 자세한 내용은 장치에 로그인한 후 바탕 화면의 바로 가기 아이콘을 클릭하여 사용 설명서를 참조하십시오 .

사용 주의 사항

내장 HDD 가 있는 제품에 대한 주의 사항

이 장치에는 내장 하드 디스크 드라이브 (HDD) 가 있습니다 . HDD 는 정밀 장치이므로 충격 , 진동 , 정전기가 발생하거나 고온 또는 높은 습도에서 사용하는 경우 데이터가 손실될 수 있습니다 . 장치를 설치하여 사용하기 전에 다음 주의 사항을 잘 따르십시오 .

충격이나 진동으로부터 보호

충격이나 진동이 발생하면 HDD 가 손상되어 HDD 내의 데이터가 손실될 수 있습니다 .

- 이 장치를 운반할 때는 지정된 포장재를 사용하십시오 . 달리 (dolly) 또는 이와 유사한 이동 장비에 싣고 운반하는 경우 , 과도한 진동이 발생하지 않는 유형을 사용하십시오 . 과도한 충격과 진동이 발생하면 HDD 가 손상될 수 있습니다 .
- 전원이 켜진 상태에서는 장치를 이동하지 마십시오 .
- 장치의 패널 또는 외부 부품을 빼지 마십시오 .
- 장치를 바닥 또는 기타 표면에 놓을 때는 평평하고 안정된 표면에 놓으십시오 .
- 진동을 발생시킬 수 있는 다른 기기 근처에 장치를 놓지 마십시오 .
- 장치를 옮길 때는 항상 전원을 끄십시오 .

전원을 끈 후 30 초 동안 대기

전원을 끈 후 잠시 동안은 HDD 내부의 플래터가 계속 회전하면서 HDD 의 헤드가 안전한 위치로 이동합니다 . 이 기간 동안 장치는 정상 작동 중일 때보다 충격과 진동에 훨씬 민감합니다 . 전원을 끈 후 최소 30 초 동안은 장치에 아주 약한 충격도 가하지 않도록 하십시오 . 이 기간이 지나면 하드 디스크가 완전히 정지하므로 장치를 원하는 대로 조작할 수 있습니다 .

온도 및 습도 관련 주의 사항

온도와 습도가 지정된 범위에 속하는 장소에서만 장치를 사용하고 보관하십시오 . (이 장치의 사양을 완전하게 준수하도록 장치를 사용하십시오 .)

HDD 에 오류가 있는 경우

HDD 가 오작동하는 경우에도 위의 모든 주의 사항을 따르십시오 . 문제를 진단하고 해결할 때까지 추가적인 피해가 발생하는 것을 막을 수 있습니다 .

HDD 및 기타 소모품 교체

HDD 와 배터리는 정기적으로 교체해야 하는 소모품입니다.

실내 온도에서 작동 시 정상 교체 주기는 2 년 ~ 5 년입니다.

하지만 이 교체 주기는 일반 지침을 나타내며 해당 부품의 기대 수명을 보장하지는 않습니다. 부품 교체에 대한 자세한 내용은 대리점에 문의하십시오.

교체 주기에 대한 자세한 내용은 Sony 영업 담당자나 서비스 담당자에게 문의하십시오.

전원 공급 주의 사항

본 기기가 작동하는 도중에 갑자기 끄면 데이터 손실이 발생할 수 있습니다. 데이터 무결성을 유지하려면 무정전 전원 공급 장치 (UPS) 를 사용하는 것이 좋습니다.

언제나 전원 코드를 분리하거나 차단기를 끄기에 앞서 기기의 On/Standby 버튼을 눌러 기기를 멈추십시오.

USB 장치 주의 사항

자체 전원 공급 USB 장치 (ODS-D77U 등) 에 연결되었을 때 장치를 사용하는 경우, 장치가 켜진 타이밍에 따라 해당 장치가 인식되지 않을 수 있습니다. 이런 경우 USB 장치를 켜다가 다시 켜거나, USB 케이블을 분리했다가 다시 연결하십시오.

네트워크 관련 주의 사항

운영 환경에 따라 승인되지 않은 제 3 자가 네트워크를 통해 시스템에 액세스할 수 있습니다.

보안을 확보하기 위해 모든 암호를 구성할 것을 적극 권합니다.

페이지 139 페이지의 절차에 따라 모든 암호를 구성하십시오.

안전을 위해, 네트워크 연결 장치를 사용할 때는 웹 브라우저를 통해 Control 창에 액세스하고 출하 시 사전 설정된 액세스 제한 설정 값을 변경하시기 바랍니다 (140 페이지).

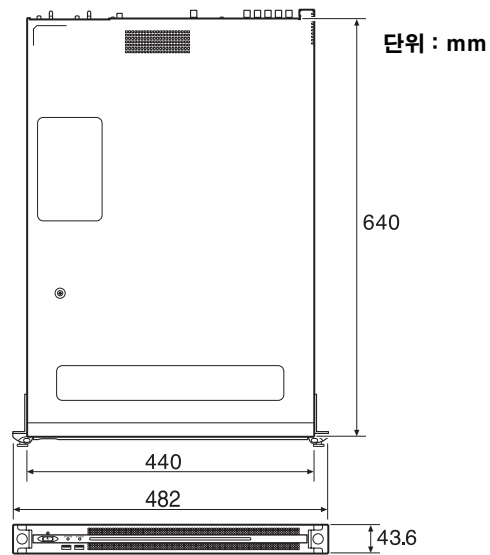
또 암호는 주기적으로 변경하는 것이 좋습니다.

설정 중이나 후에 해당 웹 브라우저에서 다른 웹 사이트를 탐색하지 마십시오. 웹 브라우저에서 로그인 상태가 유지되므로, 제 3 자의 장치 무단 사용이나 유해 프로그램 실행을 방지할 수 있게 설정을 완료하면 웹 브라우저를 닫으십시오.

사양

일반

사용 전원	100 V ~ 240 V AC 50/60 Hz
소비 전력	235 W
대기 소비 전력	3 W 이하
작동 온도	5 °C ~ 35 °C
보관 온도	-20 °C ~ +60 °C
작동 습도	20% ~ 90%(상대 습도)
보관 습도	5% ~ 80%
중량	14 kg
크기	440 × 43.6 × 640 mm (너비 / 높이 / 깊이)



CPU

프로세서	Intel Core i7 6700TE(2.4 GHz)
메모리	8 GB SO-DIMM(DDR4) (2)
드라이브 (M.2)	120 GB
드라이브 (HDD)	2.5 인치 , 500 GB(12)
확장 버스	PCIe Gen2 8Lane(30 W) (2)

입력 / 출력

LAN	RJ-45(2) 1000BASE-T 100BASE-TX
USB(앞쪽 패널 / 뒤쪽 패널)	Super Speed USB(USB 3.0) 타입 A(앞쪽 6, 2, 뒤쪽 4) 앞쪽 : 전원 공급 지원 (900 mA/ 포트) 뒤쪽 : 오른쪽 아래 포트는 전원 공급 지원 (900 mA), 나머지 3 포트는 지원 안 함
HDMI	타입 A(1) HDMI 버전 . 1.4a, 1920 × 1200 최대 해상도 , 60 Hz
DisplayPort	DisplayPort(1) DisplayPort 버전 . 1.1a, 2560 × 1600 최대 해상도 , 60 Hz
원격	RJ-45(3) Sony VTR Protocol(9 핀) 호환 , RJ-45 - D-sub 변환 케이블 (기본 제공) 필요
REF IN	BNC(1) SMPTE ST 318 호환 , HD 3 레벨 동기 (0.6 Vp-p, 75 Ω, 동기형 포 지티브 / 네거티브) 또는 SD 블랙 버스트 / 합성 동기 (NTSC: 0.286 Vp-p, 75 Ω, 동기 형 네거티브 PAL: 0.3 Vp-p, 75 Ω, 동기형 네 거티브)
SDI 1 ~ 4	BNC(4) HD: SMPTE ST 292-1 호환 SD: SMPTE ST 259 호환

지원되는 형식

코덱	작동 주파수	양자화 비트의 해상도	오디오 채널
IMX 30M, 40M, 50M UNCOMPRESS 220M	59.94i	720 × 576 422 8 비트	8ch (16- 비트) 4ch (24- 비트)
	50i	720 × 480 422 8 비트	8ch (16- 비트) 4ch (24- 비트)
MPEG HD 50M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 8 비트	8ch (24- 비트)
MPEG HD 35M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 420 8 비트 1440 × 1080 420 8 비트	4ch (16- 비트)

코덱	작동 주파수	양자화 비트의 해상도	오디오 채널
XAVC-I 100M	59.94i, 50i, 29.97P, 25P, 23.98P	1920 × 1080 422 10 비트	8ch (24- 비트)

각 RAID 구성의 레코딩 시간

각 RAID 구성 및 비디오 코덱에서 사용 가능한 레코딩 시간은 아래와 같습니다 .

RAID 구성			2D + 1P	3D + 1P	5D + 1P
로컬 드라이브 수			4	3	2
드라이브 용량 a) (로컬 드라이브당)			838 GB	1,230 GB	2,050 GB
SD	IMX 30 Mbps	드라이브 당	약 50 시간	약 75 시간	약 125 시 간
		모든 드 라이브의 총합	약 200 시 간	약 225 시 간	약 250 시 간
	IMX 40 Mbps	드라이브 당	약 35 시간	약 55 시간	약 95 시간
		모든 드 라이브의 총합	약 140 시 간	약 165 시 간	약 190 시 간
	IMX 50 Mbps	드라이브 당	약 30 시간	약 45 시간	약 70 시간
		모든 드 라이브의 총합	약 120 시 간	약 135 시 간	약 140 시 간
	UNCOMPRESS 220 Mbps	드라이브 당	약 7 시간	약 10 시간	약 18 시간
		모든 드 라이브의 총합	약 28 시간	약 30 시간	약 36 시간
	MPEG 35 Mbps	드라이브 당	약 45 시간	약 70 시간	약 120 시 간
		모든 드 라이브의 총합	약 180 시 간	약 210 시 간	약 240 시 간
	MPEG 50 Mbps	드라이브 당	약 30 시간	약 45 시간	약 75 시간
		모든 드 라이브의 총합	약 120 시 간	약 135 시 간	약 150 시 간
HD	XAVC 100 Mbps	드라이브 당	약 15 시간	약 25 시간	약 40 시간
		모든 드 라이브의 총합	약 60 시간	약 75 시간	약 80 시간

a) GUI 에 표시되는 용량 .

참고

달성 가능한 레코딩 시간은 레코딩 미디어 및 기타 조건에 따라 위의 값과 다를 수 있습니다 .

기본 제공 액세서리

RJ-45 - D-sub 변환 케이블
부품 번호 1-848-424-12
(SONY) (2)

옵션 액세서리

PWSK-101 옵션 전원 공급 장치

디자인과 사양은 사전 통지 없이 변경될 수 있습니다.

SONY는 전송 장치에 대한 적절한 안전 대책 구축 실패로 인해 발생하는 어떤 종류의 피해, 전송 사양에 따른 불가피한 데이터 누출 또는 어떠한 종류의 보안 문제에 대해서도 책임을 지지 않습니다.

주의

- 사용 전에는 항상 테스트 기록을 실시하여 정상적으로 기록되는지 확인하십시오.
SONY는 본체, 기록 매체, 외부 기억장치 시스템, 어떤 형식의 내용을 기록하는 기타 매체 또는 기타 기억장치 시스템의 오류로 인한 손해에 대해서 배상이나 변상에 대한 일체의 책임을 지지 않습니다.
- 사용 전에는 항상 정상적으로 작동하는지 확인하십시오.
SONY는 본체의 오류로 인한 현재 또는 장래 이익의 손실에 대한 손해에 대해서 보증기간 중이거나 보증기간 경과 후 또는 어떠한 이유에도 배상 또는 변상하지 않습니다.
- SONY는 이 장치에 의해 발생했거나 제3자가 제기한 어떠한 종류의 보상 청구에 대해서도 책임을 지지 않습니다.
- SONY는 내부 기억장치 시스템, 기록 매체, 외부 기억장치 시스템 또는 기타 매체나 기억장치 시스템에 기록된 데이터의 손실, 복원 또는 복제에 대해 책임을 지지 않습니다.
- SONY는 어떤 상황이든 상관 없이 이 장치와 관련하여 발생할 수 있는 서비스의 해지 또는 중단에 대해 책임을 지지 않습니다.

- Windows는 미국 및 다른 국가에서 Microsoft Corporation의 등록 상표입니다.
 - Google Chrome은 Google Inc.의 상표 또는 등록 상표입니다.
- 이 문서에 인용한 기타 제품 이름 또는 시스템 이름은 각 소유자의 등록 상표 또는 상표입니다. 또한, ® 또는 ™ 기호는 텍스트에 사용되지 않습니다.

본 제품은 T-Engine Forum (www.t-engine.org)의 T-License 2.0를 기반으로 한 T-Kernel 2.0 소스 코드를 사용합니다.

このマニュアルに記載されている事柄の著作権は当社にあり、説明内容は機器購入者の使用を目的としています。従って、当社の許可なしに無断で複写したり、説明内容（操作、保守等）と異なる目的で本マニュアルを使用することを禁止します。

The material contained in this manual consists of information that is the property of Sony Corporation and is intended solely for use by the purchasers of the equipment described in this manual.

Sony Corporation expressly prohibits the duplication of any portion of this manual or the use thereof for any purpose other than the operation or maintenance of the equipment described in this manual without the express written permission of Sony Corporation.

Les donnees contenues dans ce manuel sont des informations dont Sony Corporation est proprietaire et qui sont destinees exclusivement a l'usage par les acquereurs de l'equipement decrit dans ce manuel.

Sony Corporation interdit formellement la copie de quelque partie que ce soit de ce manuel ou son emploi pour tout autre but que des operations ou entretiens de l'equipement a moins d'une permission ecrite de Sony Corporation.

Das in dieser Anleitung enthaltene Material besteht aus Informationen, die Eigentum der Sony Corporation sind, und ausschliesslich zum Gebrauch durch den Käufer der in dieser Anleitung beschriebenen Ausrüstung bestimmt sind.

Die Sony Corporation untersagt ausdrücklich die Vervielfältigung jeglicher Teile dieser Anleitung oder den Gebrauch derselben für irgendeinen anderen Zweck als die Bedienung oder Wartung der in dieser Anleitung beschriebenen Ausrüstung ohne ausdrückliche schriftliche Erlaubnis der Sony Corporation.

Le informazioni contenute nel presente manuale sono di proprietà di Sony Corporation e il relativo uso è destinato solamente agli acquirenti dell'apparecchio descritto in questo documento.

Sony Corporation vieta espressamente la duplicazione in parte o per intero di questo manuale e il suo utilizzo per scopi differenti dal funzionamento o manutenzione dell'apparecchio ivi descritto, senza previo permesso scritto di Sony Corporation.

El material de este manual contiene informacion que es propiedad de Sony Corporation y se destina al uso por parte de los compradores del equipo descrito en este manual.

Sony Corporation prohíbe expresamente la duplicación de cualquier parte de este manual o el uso del mismo para cualquier proposito diferente al funcionamiento o el mantenimiento del equipo descrito en este manual sin la autorización expresa por escrito de Sony Corporation.

本手册中包含的信息属于 Sony Corporation 公司所有，只有购买本手册中所述设备的消费者才可使用。

在未获得 Sony Corporation 明确书面许可的条件下，Sony Corporation 禁止任何人对本手册中的任何部分进行复制，或者出于任何目的使用本手册中的任何内容，但为操作或者维护此手册中所述的设备除外。

이 설명서에 포함된 자료는 Sony Corporation 의 재산인 정보로 구성되어 있으며, 이 설명서에 설명된 장비의 구입자만 사용하도록 되어 있습니다 .

Sony Corporation 은 Sony Corporation 의 명시적인 서면 승인 없이 본 설명서 부분의 복제 또는 본 설명서에 설명 된 장비의 작동이나 유지보수 이외의 목적을 위한 사용을 금지합니다 .

出版日期：2017年12月

PWS-100TD1(SYL/CNC)
4-535-613-06(1)

Sony Corporation
<http://www.sony.net/>

Printed in Japan
2017.12 32
© 2014